

2024年度
学修ガイド

商学部

Faculty
of
Commerce



福岡大学

2024年度新入生(24台)の皆さんへ

この学修ガイドは、卒業まで
使用します。大切に保管してください。

※学修ガイドの内容は、FU ポータルでも閲覧できます。

この学修ガイドには、履修登録、授業、試験など、学修をすすめるうえでの重要事項や情報を掲載しています。よく読み、理解するようにしてください。

なお、掲載内容に変更が発生した場合は、FU ポータル等でお知らせします。

<注意>

入学後の各種ガイダンスでこの学修ガイドを使用しますので、必ず持参して参加してください。

2024年度
学修ガイド

商学部

Faculty
of
Commerce



福岡大学

目次

I 学部教育の理念と目標

- 003 学部教育の理念と目標
- 005 教育上のポリシー等

II 学年ごよみ・事務窓口

- 015 2024年度学年ごよみ
- 017 2024年度年間カレンダー
- 019 事務窓口案内
 - ◎教務関係事務部署について
 - ◎各種証明書の発行・諸届・諸願の事務窓口
 - ◎窓口事務時間
 - ◎事務休業日

III 授業・試験

- 023 大学からの連絡
- 025 単位と授業時間
- 026 休講および補講
- 026 振替授業日および休日授業日
- 027 出席の確認
- 027 欠席届
- 028 教室の表示等
- 028 テキスト（教科書）の購入
- 029 試験
- 032 成績・進級
- 034 在学の年限
- 034 卒業
- 034 交通機関の乱れや台風・積雪等による授業の休講等
- 035 前期・後期 試験時間割

IV 履修の手引

- 041 諸規程と履修登録
- 042 シラバス
- 043 FU プラスアップ授業
- 044 履修登録上の注意事項
- 052 履修登録等の日程
- 054 全学部共通留意事項
- 081 商学部留意事項
- 097 会計専門職プログラム
- 105 クリエイティブ・マネジメント・プログラム
- 110 高校商業・情報科教員育成プログラム
- 120 令和6年度入学生（24台）卒業要件単位・年次別授業科目表
- 126 各種課程の履修について
- 128 外国語科目クラス別担当者一覧

V その他

- 141 大学院受験（飛び級制度）
 - 141 特待生制度
 - 142 国際交流・海外留学支援
-

VI 諸規程

- 149 福岡大学学則〔新入生（令和6年度入学生）適用〕
 - 169 授業科目及び単位・時間数（学則第31条（表））〔新入生（令和6年度入学生）適用〕
 - 172 福岡大学学科履修規程（含む年次別授業科目表）
 - 268 福岡大学成績考査規程
 - 271 その他諸規程
-

VII オフィス・アワー

- 289 オフィス・アワー
-

VIII 学籍について

- 321 学籍について
 - ◎学籍とは
 - ◎休学
 - ◎復学
 - ◎退学
 - ◎除籍
 - ◎再入学
 - ◎転部・転科
 - ◎氏名・性別・国籍等の学籍情報変更
 - ◎住所変更・保証人変更
-

巻末 | 履修登録の手引

CONTENTS

I

学部教育の理念と目標

- 学部教育の理念と目標
- 教育上のポリシー等

学部教育の理念と目標

商学部長 ● 長 東 航

福岡大学におけるもっとも重要な規則の1つに「福岡大学学則」があります。商学部生の皆さんは、この「学則」の定めにしたがって学修を行い、一定の条件を満たせば「学士（商学）」の学位を授与され、「福岡大学商学部を卒業した」ということとなります。

「学則」第1条では、福岡大学商学部の教育理念および人材養成の目的について、次のように定めています。

商学部は、大きく変化する社会的・経済的環境のもとで、商学研究を深化させ、研究成果を社会に還元することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、商学の知識及び理論を身に付け、これらを活用して問題の発見・解決に当たる能力を持ち、他者と協働して企業、地域等の発展を担う人材を養成することを目的とする。

福岡大学の源流は、90年前の1934年（昭和9年）に創設された福岡高等商業学校（旧制福岡高商）に遡ります。福岡高商は、古くから商業都市として発展してきた福岡において、地域社会のニーズに応じて誕生したわけですが、その源流からの流れを直接的に受け継いでいるのが福岡大学商学部です。上記の教育理念および人材養成の目的は、地域社会の求める人材を約1世紀にもわたり輩出し続け、今後さらに地域への貢献・影響力を高めていこうとする福岡大学商学部の強い決意を表現したものです。この定めによれば、商学部生の皆さんは、卒業までに次の3つのことを達成する必要があることとなります。

目標① 商学の知識および理論を身につけること。

目標② 商学の知識および理論を活用して、企業や地域などの問題を発見し、解決する能力を身につけること。

目標③ 他者と協働するためのコミュニケーション能力を高めること。

これらのうち目標①については、主として各学科に設置されている専門科目のなかの講義形式の科目を履修することにより達成することができます。講義形式の科目は、1年次配当の入門的な位置づけの科目からスタートして、2年次以上配当の応用的な位置づけの科目に進んでいけるようになっています。1年次には、まず入門的な科目をできるだけ多く履修して、各自が大学においてどのような専門分野の学修を中心的に行っていきたいかを見定めてください。そのうえで、2年次以降は各自が選択した専門分野の応用的な科目を集中的に履修することにより、体系的な知識と理論を身につけましょう。身につけた知識と理論は、体系的であればあるほど活用がしやすくなるので、目標②を達成できる可能性も高まります。

続いて目標②と目標③については、主として福岡大学商学部が伝統的にもっとも重要な教育手法として位置づけているゼミナールを履修することにより、達成できるはずです。ゼミナールは、少人数のゼミナリストが1人の教員のもとに集って議論を行う形式の授業科目であり、問題の発見・解決の能力はもとより、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させる効果が期待できます。特に商学部では、2年次後期から卒業まで2年半にわたって1人の教員のもとで学ぶ専門ゼミナール・論文ゼミナールが設置されており、大学における「学び」の中核を形成しています。ぜひゼミナールを履修して、大学においてしか経験できない学修に取り組みましょう。なお、各教員の専門ゼミナール・論文ゼミナールで学べる人数には上限が設定されており、2年次前期に実施されるゼミ選考によって各ゼミナールのメンバーとなる学生が決まります（15～20人程度）。学びたい分野の教員のゼミナールに確実に入れるよう、1年次から高い問題意識をもって学修に取り組むことをおすすめします。

また、福岡大学商学部には、以上にくわえて、会計専門職プログラム、クリエイティブ・マネジメント・プログラム、高校商業・情報科教員育成プログラム、海外交流ゼミナールなどの特定分野の能力を強化するための教育プログラムも多数用意されています。これらは商学部オリジナルの革新的プログラムであり、商学部の魅力をより一層高めています。こうした充実した学修環境を有効活用するかどうかは皆さん次第

I. 学部教育の理念と目標

です。積極的なチャレンジを期待しています。

福岡大学商学部における「学び」の情報が、この学修ガイドには詰まっています。まずは、じっくりと目を通してください。そして、商学部で存分に学び自分を磨くための設計図と工程表を描き、有意義な4年間を過ごされることを心から願っております。

教育上のポリシー等

商学部 DP・CP・履修系統図の紹介

DP（ディプロマ・ポリシー）とは？

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるものをディプロマ・ポリシー（学位授与方針）という。

商学部ディプロマ・ポリシー

商学部および商学部第二部の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の知識、能力および資質を備えた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与します。

1. 商学に関する専門知識を身につけている。
2. 修得した知識およびコミュニケーション能力を活用して問題発見・解決に当たることができる。
3. 他者と協働して企業、地域等の発展に貢献することができる。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。

共通教育に関する DP をもって学部 DP を構成する。

商学科ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

- A-1 流通、金融、経営、会計をはじめとする商学の基本的な知識を身につけている。
- A-2 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が置かれている経済社会状況（内外の環境与件）を説明することができる。
- A-3 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が取り組むべき課題が何であるかについて説明することができる。
- A-4 商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を用いて、企業、産業、地域が発展する方向について説明することができる。

【技能】

- B-1 先入観にとらわれずに、企業、産業、地域が取り組むべき課題を発見することができる。
- B-2 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を応用したプロジェクトを企画、立案することができる。
- B-3 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、他者と連携したチーム活動においてリーダーシップを発揮することができる。
- B-4 企業、産業、地域が取り組むべき課題を解決するために、情報技術等を用いて国内外の事例を収集し、課題解決に必要な知見を抽出することができる。

【態度・志向性】

- C-1 社会の一員として、地域や社会の発展に商学的な見地から貢献する姿勢をもっている。
- C-2 社会の一員として、地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、商学的な知識や多種多様な知識、見識を学び続けることができる。
- C-3 地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。

共通教育に関する DP をもって学位（教育）プログラム DP を構成する。

経営学科ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

A-1 経営学および会計学をはじめとする商学の専門的知識を身につけている。

A-2 経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の現状を説明することができる。

A-3 経営学および会計学の専門的知識を用いて企業の経営管理、資金の調達および運用ならびに財務業績の課題を説明することができる。

【技能】

B-1 経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題を発見することができる。

B-2 経営学および会計学の専門的知識および理論を用いて組織の問題に対する解決策を提案することができる。

B-3 組織において、協働して問題解決に当たるために必要なコミュニケーション能力を活用することができる。

B-4 問題解決への取り組みの成果を発信するために必要なプレゼンテーション能力を活用することができる。

【態度・志向性】

C-1 問題解決の成果を発信することにより、社会や組織の発展に貢献する姿勢をもっている。

C-2 常に知識を更新しようとする主体的な学修の姿勢をもっている。

C-3 組織の内外において、協働して問題解決に当たる姿勢をもっている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。

共通教育に関する DP をもって学位（教育）プログラム DP を構成する。

貿易学科ディプロマ・ポリシー

【知識・理解】

A-1 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の基本的な知識を身につけている。

A-2 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の現状を理解し、説明することができる。

A-3 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、国際貿易や国際経済の課題を理解し、説明することができる。

【技能】

B-1 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題を自ら発見することができる。

B-2 貿易理論、貿易実務、各国経済をはじめとする商学の知識や理論を用いて、新しい国際貿易や国際経済の課題の解決策を自ら提案することができる。

B-3 国際貿易や国際経済の課題を解決するための組織やグループ活動において、必要な役割を發揮するためのコミュニケーション能力やリーダーシップを身につけている。

B-4 異なる文化的背景を持つ人々と商取引や課題解決のために協働できるコミュニケーション能力を身につけている。

【態度・志向性】

C-1 国際貿易や国際経済の課題解決のために、積極的に貢献しようとする態度を身につけている。

C-2 国際貿易や国際経済の課題解決のために、常に新しい知識や理論を学ぼうとする態度を身につけている。

- C-3 国際貿易や国際経済の課題解決のために、立場の異なる意見を理解し協調的に行動しようとする態度を身につけている。
- C-4 国際貿易や国際経済の課題解決のために、異なる文化的背景を持つ人々と積極的に協働しようとする態度を身につけている。

【共通教育】

共通教育のDPに関しては別に定める。

共通教育に関するDPをもって学位（教育）プログラムDPを構成する。

CP（カリキュラム・ポリシー）とは？

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針をカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）という。

商学部カリキュラム・ポリシー

商学部および商学部第二部では、ディプロマ・ポリシーで掲げた知識、能力および資質を養うことができるように、講義科目および演習科目を体系的かつ段階的に編成します。

1年次には、各学科の基礎知識を学ぶために入門科目を配置します。また、大学における学び方を身につけるために少人数クラスの基礎ゼミナールを配置し、各人に適した指導を行います。さらに、実学である商学に必要な多種多様な知識、見識を修得するために、経済学、法学等の関連教育科目を1年次から配置します。

2年次以降は、学生が専門領域ごとに体系的に学びを深められるように、年次進行に従って段階的に高度化する専門教育科目および関連教育科目を配置します。併せて、修得した知識およびコミュニケーション能力を活用して主体的かつ協働して問題発見・解決に当たる力を高めるために少人数クラスによる専門演習科目を配置します。3年次および4年次には、この専門演習科目を中心として専門教育科目および関連教育科目の履修計画を立てます。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。

共通教育に関するCPをもって学部CPを構成する。

商学科カリキュラム・ポリシー

本プログラムでは、ディプロマ・ポリシーで掲げた「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を修得することができるように、講義科目および演習科目を体系的かつ段階的に編成します。

1年次には、商学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を学ぶ基礎的専門教育科目として、「流通・マーケティング」「情報」「交通」「金融・保険」「歴史」の領域の入門科目を配置します。また、少人数クラスで、グループワークやプロジェクト型思考を高める商学基礎ゼミナールを配置します。さらに、実学である商学に必要な多種多様な知識、見識を修得するために、法学、経済学等の関連教育科目を1年次から配置します。

2年次以降は、「流通・マーケティング」「情報」「交通」「金融・保険」「歴史」の領域に関して、学生が専門領域ごとに体系的に学びを深められるように、年次進行に従って段階的に高度化する専門教育科目および関連教育科目を配置します。併せて、2年次後期から、社会および地域に貢献できる人材に必要な「時代の変化を多面的な視点から考察する力」や「実務に対応できる基礎力」を修得するために、少人数

I. 学部教育の理念と目標

クラスによる専門演習科目を配置します。この専門演習科目を履修すれば、同じ担当教員のもと、同じ専門領域に関して4年次まで2年半継続して履修することになります。それによって、1つの専門領域を深く学修することが可能となります。3年次以降の履修計画は、この専門演習科目を中心に組み立てていきます。

3年次には、専門演習科目を中心に、一般講義よりも深く専門領域を学ぶと同時に、それに関連する領域の専門科目を履修します。それによって、より体系的な学修が可能となります。最終学年である4年次には、専門演習科目において、大学4年間の学修の集大成として卒業論文を作成することが可能です。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。

共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

経営学科カリキュラム・ポリシー

本プログラムでは、ディプロマ・ポリシーで掲げた「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を修得することができるように、講義科目および演習科目を体系的かつ段階的に編成します。なお、経営学科の講義科目および演習科目は、経営学関連の科目および会計学関連の科目に大別することができます。

1年次には、経営学および会計学に関する理論的・歴史的・実践的な知識を学ぶ基礎的専門教育科目として、経営学関連の「理論・歴史」「経営」「企業」の領域および会計学関連の「財務会計」「管理会計」の領域の入門科目を配置します。また、少人数クラスで、グループワークやコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を高める経営基礎ゼミナールを配置します。さらに、実学である経営学と会計学に必要な多種多様な知識、見識を修得するために、法学、経済学等の関連教育科目を1年次から配置します。

2年次以降は、経営学関連の「理論・歴史」「経営」「企業」「数学・統計」「地域」の領域および会計学関連の「財務会計」「管理会計」の領域に関して、学生が専門領域ごとに体系的に学びを深められるように、年次進行に従って段階的に高度化する専門教育科目および関連教育科目を配置します。併せて、2年次後期から、企業や組織に貢献できる人材に必要な「企業や組織の問題を発見し解決する力」、「協働して問題解決にあたることができるコミュニケーション能力」、「社会や組織の発展に貢献するためのプレゼンテーション能力」を一層高めるために、少人数クラスによる専門演習科目を配置します。この専門演習科目を履修すれば、同じ担当教員のもと、同じ専門領域に関して4年次まで2年半継続して履修することになります。それによって、1つの専門領域を深く学修することが可能となります。3年次以降の履修計画は、この専門演習科目を中心に組み立てていきます。

3年次には、専門演習科目を中心に、一般講義よりも深く専門領域を学ぶと同時に、それに関連する領域の専門科目を履修します。それによって、より体系的な学修が可能となります。最終学年である4年次には、専門演習科目において、大学4年間の学修の集大成として卒業論文を作成することが可能です。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。

共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

貿易学科カリキュラム・ポリシー

本プログラムでは、ディプロマ・ポリシーで掲げた「知識・理解」「技能」「態度・志向性」を修得することができるように、講義科目および演習科目を体系的かつ段階的に編成します。

1年次には、国際貿易に関する理論的・歴史的・実践的な知識を学ぶ基礎科目として、「貿易実務・ビジネス英語」「国際ビジネス」「理論・政策」「各国経済・地域」の領域の入門科目を配置します。また、少人数クラスでアカデミックスキルやリテラシーを高める貿易基礎ゼミナールおよびグループワークなどによるPBL（課題解決型学習）タイプの学習を行ないプレゼンテーション能力を高めるステップアップゼミナールを配置します。さらに、国際貿易に関する知識の土台として、法学、経済学等の関連教育科目を1年次から配置します。

2年次以降は、「貿易実務・ビジネス英語」「国際ビジネス」「理論・政策」「各国経済・地域」の領域に関して学生が専門領域ごとに体系的に学びを深められるように、年次進行に従って段階的に高度化する専門教育科目および関連教育科目を配置します。併せて、2年次後期から異なる文化や社会があることを意識し、自ら進んで地域社会と世界に向かって行動できる理解力と論理的考察力をもつ人材を育成する場として、少人数クラスによる専門演習科目を配置します。この専門演習科目を履修すれば、同じ担当教員のもと、同じ専門領域に関して4年次まで2年半継続して履修することになります。それによって、1つの専門領域を深く学修することが可能となります。3年次以降の履修計画は、この専門演習科目を中心に組み立てていきます。

3年次には、専門演習科目を中心に、一般講義よりも深く専門領域を学ぶと同時に、それに関連する領域の専門科目を履修します。それによって、より体系的な学修が可能となります。最終学年である4年次には、専門演習科目において、大学4年間の学修の集大成として卒業論文を作成することが可能です。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。

共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。

履修系統図（カリキュラム・マップ、ツリー）とは？

カリキュラム・マップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表であり、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するのかわを示す。

また、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の対応関係や履修・学修における道筋を示したものをカリキュラム・ツリーという。

2024年度入学生のカリキュラム・マップ

2024年度入学生および在学生のカリキュラム・マップはFUポータルから確認できます。
FUポータル ▶ 授業関連 ▶ 履修系統図（カリキュラム・ツリーおよびカリキュラム・マップ）

2024年度入学生のカリキュラム・ツリー

商学科（CC）はp.10、経営学科（CB）はp.11、貿易学科（CF）はp.12に掲載。

23台以前の学生のカリキュラム・ツリーはFUポータルから確認できます。
FUポータル ▶ 授業関連 ▶ 履修系統図（カリキュラム・ツリーおよびカリキュラム・マップ）

共通教育科目のDP、CP、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについて

共通教育科目のDP、CP、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについてはFUポータルから確認できます。

FUポータル ▶ 授業関連 ▶ 履修系統図（カリキュラム・ツリーおよびカリキュラム・マップ） ▶ 履修系統図（令和6年度入学生） ▶ 共通教育

商学科 (CC)
学位 (教育) プログラム【商学】カリキュラム・ツリー (令和6年度入学生適用)

1 年次に修得すべき科目		2 年次にできる限り 修得すべき科目	3・4 年次に専門演習科目に関連づけて修得すべき科目	
演習形式 少人数クラス	演習	商学基礎ゼミナール 商学科教員が担当	2 年専門ゼミナール 商学科教員が担当	3 年専門ゼミナール I 3 年専門ゼミナール II 商学科教員が担当 論文ゼミナール 商学科教員が担当
	流通・マーケティング	流通・マーケティング入門 (斜体・太字は選択必修)	流通システム論 マーケティング戦略論 消費者行動論 商学科教員が担当	マーケティング論 マーケティングデータ解析 地域商業論 サービスマネジメント 流通政策 サービスマーケティング 広告コミュニケーション
講義形式 商学科教員による	情報	情報表現技術 情報倫理	情報処理入門 情報処理基礎 情報産業論	情報社会論 情報システム論 市場分析論 マルチメディア概論
	交通	交通経済入門	交通経済論	海運と航空 交通政策 サブライチエーションマネジメント
講義形式・演習形式 他学部・他学科の 教員による	金融・保険	金融入門 保険論入門	金融論 銀行論 証券と金融 保険論	金融政策論 金融システム論 国際金融論 I
	歴史	商業史入門	商業史概論	生活保障論 リスクマネジメント論 近現代日本商業史 近代西洋商業史
講義形式・演習形式 他学部・他学科の 教員による	商学に関連する科目	商学のための数学 商学のための統計学 経営入門 経営学総論 簿記原理 会社簿記 原価計算論 キャリアデザイン 特別講義 A・B 特別ゼミナール A	外書講読 I A・I B 海外交流ゼミナール 商学特別講義 A・B・C 特別講義 C・D 特別ゼミナール B 会計学総論	外書講読 II A・II B 外書講読上級 A・B 特別講義 E・F 経営分析論
		興味・関心に応じて自由に選択 興味・関心に応じて自由に選択	財務会計論	財務会計論
関連教育科目				

※共通教育科目については、共通教育科目のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

経営学科 (CB)
 学位 (教育) プログラム 【経営学】 カリキュラム・ツリー (令和6年度入学生適用)

3 ・ 4 年 次	<p>理論・歴史 / 数学・統計 / 地域・領域</p> <p>国際経営論 地域経営論 プロジェクト・マネジメント論 オペレーションズリサーチ</p> <p>経営史 ヒューマンリソースマネジメント サービスマネジメント マーケティングリサーチ</p>	<p>演習</p> <p>論文ゼミナール 3年専門ゼミナールII 3年専門ゼミナールI</p>	<p>管理会計</p> <p>意思決定会計論 管理会計論</p>	<p>財務会計</p> <p>国際会計論 税務会計論</p>	
2 年 次	<p>企 業</p> <p>中小企業論 社会的企業論 企業論</p>	<p>経 営</p> <p>マーケティング戦略論 クリエイティブ・マネジメント論 経営労務論 経営財務論 生産管理論 経営管理論</p>	<p>経営分析論</p>	<p>会計情報システム論 税と生活 監査論 財務会計論</p>	
1 年 次	<p>経営学基礎</p> <p>経営戦略論 経営組織論 経営心理学</p>	<p>経営基礎ゼミナールII 経営基礎ゼミナールI</p>	<p>原価計算論 会計学総論</p>	<p>会計学基礎 会計学総論 会社簿記</p>	
経営学・会計学入門		経営学総論	商学のための数学	商学のための統計学	簿記原理

※共通教育科目については、共通教育科目のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

貿易学科 (CF) 貿易学プログラム【国際貿易】カリキュラム・ツリー (令和6年度入学生適用)

専門領域 年次	ゼミナール	貿易実務・ビジネス英語	国際ビジネス	貿易論、国際金融	各国・地域経済	国際貿易に関連する科目 (貿易学科・他学科科目を含む)
3・4年次に 専門演習科目に 関連づけて 修得すべき科目	論文ゼミナール	ビジネス英会話上級Ⅰ・Ⅱ	貿易特別講義A・B・C・D			特別講義E・F サービスマーケティング マルチメディア概論 情報システム論 外書講読上級A・B 外書講読ⅡA・ⅡB
	3年専門ゼミナールⅠ・Ⅱ	海上保険論A・B ビジネスコミュニケーション 実務上級Ⅰ・Ⅱ	国際マーケティング論A・B 市場分析論 国際会計論 財務会計論	開発経済論A・B 国際協力論A・B 貿易史	アジア経済論A・B アメリカ経済論Ⅰ・Ⅱ ヨーロッパ経済論Ⅰ・Ⅱ	
2年次にできる 限り修得すべき 科目	2年専門ゼミナール	ビジネス英会話中級Ⅰ・Ⅱ ビジネスコミュニケーション 実務初級Ⅰ・Ⅱ	会計学総論	貿易政策 国際政治経済学 世界経済論		海外交流ゼミナール 特別ゼミナールB 特別講義C・D 外書講読ⅠA・ⅠB 交通経済に関する科目
	1年次に修得 すべき科目	ステップアップ・ゼミナール 貿易基礎ゼミナール	グローバル企業論 海外直接投資論 原価計算論、会社簿記 経営入門、経営学総論 流通・マーケティング入門 △簿記原理	国際金融論Ⅰ・Ⅱ 国際貿易論Ⅰ・Ⅱ 金融入門	日本経済論A・B	国際関係論、保険論 情報処理基礎・入門 特別ゼミナールA 特別講義A・B キャリアデザイン 商学のための数学 商学のための統計学 情報倫理 情報表現技術

△貿易入門A・B

△は選択必修科目。

※共通教育科目については、共通教育科目のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

II

学年ごよみ・事務窓口

- 2024年度 学年ごよみ
- 2024年度 年間カレンダー
- 事務窓口案内

2024年度 学年ごよみ

前 期		後 期	
期 日	事 項	期 日	事 項
6. 3. 21 (木)	在学生履修登録開始	6. 9. 2 (月)	後期集中講義開始
3. 29 (金)	在学生履修登録終了	9. 4 (水)	後期履修登録変更開始 (12時)
		9. 6 (金)	後期履修登録変更終了 (16時)
		〃	後期集中講義終了
4. 1 (月)	学年開始・前期開始	9. 9 (月)	FU プラスアップ視聴開始
〃	入学式	9. 13 (金)	FU プラスアップ視聴終了
4. 2 (火)	新入生ガイダンス	9. 14 (土)	後期開始
	FU プラスアップ視聴開始	9. 16 (月)	後期授業開始
4. 3 (水)	新入生履修登録開始	〃	「敬老の日」(授業日)
4. 5 (金)	新入生履修登録終了	11. 5 (火)	学園祭に伴う休講日
4. 10 (水)	FU プラスアップ視聴終了	12. 26 (木)	月曜日の振替授業日
4. 11 (木)	前期授業開始	12. 27 (金)	冬季休業開始
4. 29 (月)	「昭和の日」(授業日)		
5. 21 (火)	創立記念日	7. 1. 4 (土)	冬季休業終了
7. 18 (木)	月曜日の振替授業日	1. 6 (月)	後期授業再開
7. 23 (火)	前期授業終了 (全体補講日)	1. 14 (火)	後期授業終了 (全体補講日)
7. 24 (水)	前期試験開始	1. 15 (水)	後期試験開始
8. 2 (金)	前期試験終了 (予備日含む)	1. 28 (火)	後期試験終了 (予備日含む)
8. 4 (日)	夏季休業開始	2. 13 (木)	4 年次生等成績発表開始
8. 5 (月)	前期集中講義開始	〃	医学部医学科第 1 学年成績発表予定
8. 9 (金)	前期集中講義終了	2. 21 (金)	追・再試験開始
8. 28 (水)	前期追試験開始	2. 28 (金)	追・再試験終了
9. 1 (日)	前期追試験終了 (予備日含む)	3. 14 (金)	1～3 年次生成績発表開始
9. 2 (月)	前期成績発表開始	3. 19 (水)	卒業式
9. 4 (水)	前期成績 (追試含む) 発表開始	3. 21 (金)	在学生履修登録開始
9. 13 (金)	夏季休業終了	3. 28 (金)	在学生履修登録終了
9. 28 (土)	前期卒業式	3. 31 (月)	学年終了

【試 験】 前期試験期間中の土曜日は、試験を実施する。

【補 講 日】

	指定する土曜日 (1～5 時限)	指定する(補講可能な)週 (6 時限のみ) ※ 1	前・後期試験前の 指定する日 ※ 2	その他指定する日 (1～5 時限)
前期	5 月 25 日 (土) 6 月 22 日 (土) 7 月 13 日 (土)	5 月 20 日 (月)～24 日 (金) 6 月 17 日 (月)～21 日 (金) 7 月 8 日 (月)～12 日 (金)	7 月 23 日 (火)	
後期	11 月 9 日 (土) 12 月 21 日 (土)	10 月 21 日 (月)～25 日 (金) 11 月 11 日 (月)～15 日 (金) 12 月 16 日 (月)～20 日 (金)	1 月 10 日 (金) 1 月 14 日 (火)	12 月 25 日 (水) 1 月 7 日 (火) 1 月 8 日 (水) 1 月 9 日 (木)

※ 1 商学部第二部は、指定する週の 6 時限目の補講は実施しない。

※ 2 昼間部は 1～5 時限、商学部第二部は夜 1, 2 時限に補講を実施する。

【振替授業日】 振替前と同じ時限・教室で実施

前期	月曜日の振替授業日 7 月 18 日 (木)
後期	月曜日の振替授業日 12 月 26 日 (木)

【休日授業日】 通常の曜日の授業を実施

前期	4 月 29 日 (月)「昭和の日」
後期	9 月 16 日 (月)「敬老の日」

※医学部医学科 (第 2 学年以上) については、学年暦が異なる場合がある。

2024年度 年間カレンダー

日	曜	4月	日	曜	5月	日	曜	6月	日	曜	7月	日	曜	8月	日	曜	9月	日	曜	10月	日	曜	11月	日	曜	12月	日	曜	1月	日	曜	2月	日	曜	3月		
1	月	学年開始・前期開始 入学式	1	水	③	1	土		1	月	⑪	1	木	定期試験	1	日	①	1	火	③	1	金	⑦	1	日	1	水	元日	1	土		1	土				
2	火	新入生 ガイダンス	2	木	④	2	日		2	火	⑫	2	金	定期試験	2	月	後期集中講義開始 前期成績発表開始 (追試験分9/4~)	2	水	③	2	土		2	月	⑨	2	木		2	日	2	日				
3	水	新入生 履修登録開始	3	金	憲法記念日	3	月	⑦	3	水	⑫	3	土		3	火		3	木	③	3	日	文化の日	3	火	⑪	3	金		3	月	3	月				
4	木		4	土	みどりの日	4	火	⑧	4	木	⑬	4	日	夏季休業開始	4	水	後期履修登録変更開始 (12時~)	4	金	③	4	月	振替休日	4	水	⑫	4	土	冬季休業終了	4	火	4	火				
5	金	新入生 履修登録終了	5	日	こどもの日	5	水	⑧	5	金	⑫	5	月	前期集中講義開始	5	木		5	土		5	火	学園祭に伴う 休講日	5	木	⑫	5	日	5	水	5	水					
6	土		6	月	振替休日	6	木	⑨	6	土		6	火		6	金	後期集中講義終了 後期履修登録変更終了 (~16時)	6	日		6	水	⑧	6	金	⑫	6	月	⑭	6	木	6	木				
7	日		7	火	④	7	金	⑧	7	日		7	水		7	土		7	月	③	7	木	⑧	7	土		7	火	全体補講日 (1~5限)	7	金	7	金				
8	月		8	水	④	8	土		8	月	⑫	8	木	補講 週 6時限目	8	日		8	火	④	8	金	⑧	8	日		8	水	全体補講日 (1~5限)	8	土	8	土				
9	火		9	木	⑤	9	日		9	火	⑬	9	金	前期集中講義終了	9	月		9	水	④	9	土	全体補講日 (1~5限)	9	月	⑩	9	木	全体補講日 (1~5限)	9	日	9	日				
10	水	教室割公開	10	金	④	10	月	⑧	10	水	⑬	10	土		10	火		10	木	④	10	日		10	火	⑫	10	金	全体補講日	10	月	10	月				
11	木	前期授業開始	11	土		11	火	⑨	11	木	⑭	11	水	山の日	11	金		11	土	④	11	月	⑥	11	水	⑬	11	土		11	火	建国記念の日	11	火			
12	金	①	12	日		12	水	⑨	12	金	⑬	12	木	振替休日	12	土		12	日		12	火	⑧	12	日		12	水		12	日	12	水	12	水		
13	土		13	月	④	13	木	⑩	13	土		13	火	全体補講日 (1~5限)	13	金	夏季休業終了 教室割公開	13	日		13	水	⑨	13	月	⑬	13	木	成人の日	13	木	成績発表開始 (4年次生他)	13	木	13	木	
14	日		14	火	⑤	14	金	⑨	14	日		14	水		14	土	後期開始	14	月	スポーツの日	14	木	⑨	14	土		14	火	全体補講日	14	金		14	金	成績発表開始 (在学生)		
15	月	①	15	水	⑤	15	土		15	月	「海の日」	15	木		15	日		15	火	⑤	15	金	⑨	15	日		15	水	定期試験	15	土	15	土				
16	火	①	16	木	⑥	16	日		16	火	⑭	16	金		16	月	①	16	水	⑤	16	土		16	月	⑪	16	木		16	日	16	日				
17	水	①	17	金	⑤	17	月	⑨	17	水	⑭	17	土		17	火	①	17	木	⑤	17	日		17	火	⑬	17	金		17	月	17	月				
18	木	②	18	土		18	火	⑩	18	木		18	日	月曜日の振替授業日 (月⑬)	18	水	①	18	金	⑤	18	月	⑦	18	水	⑭	18	土		18	火	18	火				
19	金	②	19	日		19	水	⑩	19	金	⑭	19	月		19	土	①	19	日		19	火	⑨	19	木	⑭	19	日	19	水	19	水	卒業式				
20	土		20	月	⑤	20	木	⑪	20	土		20	火		20	金	①	20	日		20	水	⑩	20	金	⑭	20	月		20	木	20	木	春分の日			
21	日		21	火	⑥	21	金	⑩	21	日		21	水		21	土		21	月	④	21	土	⑩	21	土	全体補講日 (1~5限)	21	火		21	金	⑩	21	金	在学生 履修登録開始		
22	月	②	22	水	⑥	22	土		22	月	⑭	22	木		22	日	秋分の日	22	火	⑥	22	日		22	日		22	水		22	土	22	土				
23	火	②	23	木	⑦	23	日		23	火		23	金	全体補講日 前期授業終了	23	土		23	月	⑥	23	土	勤労感謝の日	23	月	⑫	23	木		23	日	天皇誕生日	23	日			
24	水	②	24	金	⑥	24	月	⑩	24	水		24	土		24	火	②	24	木	⑥	24	日		24	火	⑭	24	金		24	月	振替休日	24	月			
25	木	③	25	土		25	火	⑪	25	木		25	日		25	水	②	25	金	⑥	25	月	⑧	25	水	全体補講日 (1~5限)	25	土		25	火		25	火			
26	金	③	26	日		26	水	⑪	26	金		26	月		26	木	②	26	土		26	日		26	木	月曜日の振替授業日 (月⑬)	26	金		26	水		26	水			
27	土		27	月	⑥	27	木	⑫	27	土		27	火		27	金	②	27	日		27	火	⑪	27	金	冬季休業開始	27	月		27	木		27	木			
28	日		28	火	⑦	28	金	⑪	28	日		28	水		28	土	前期卒業式	28	月	⑤	28	水	⑪	28	土		28	火		28	金		28	金	在学生 履修登録終了		
29	月	③	29	水	⑦	29	土		29	月		29	木		29	日		29	火	⑦	29	金	⑪	29	日		29	水		29	土		29	土			
30	火	③	30	木	⑧	30	日		30	火		30	金		30	月	②	30	水	⑦	30	土		30	日		30	月		30	木		30	日			
			31	金	⑦				31	水		31	土		31	火		31	木	⑦				31	火		31	金		31	月	学年終了					

(注1) ①~⑨は講義回数

(注2) この期間は新入生が履修登録から第1週目の授業までに視聴する期間を示しています(2年生以上は3月のシラバス公開時から視聴可能)。FU プラスアップ授業は、履修登録時の科目選びの参考、登録科目の初回授業部分の視聴のほか、年間を通した予習・復習での利用など、様々な活用が可能です。詳細はp.43をご覧ください。

事務窓口案内

1 教務関係事務部署について

所属する学部学科	事務部署	業務内容
	教務一課	休学、退学、転部・転科、再入学、科目等履修生、研究生に関すること
人文学部 法学部 経済学部 商学部	教務二課	履修登録、授業、試験、成績、授業の欠席などの学部事務に関すること
商学部第二部	商学部第二部事務課	
理学部 工学部 薬学部 スポーツ科学部	教務三課	
医学部医学科	医学部事務課	
医学部看護学科	医学部看護学科事務室	

2 各種証明書の発行・諸届・諸願の事務窓口

	こんな時は	事務窓口
各種証明書等の発行	在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書等が必要なとき	教務二・三課 医学部事務課 医学部看護学科事務室
	学生証を紛失・破損したとき	学 生 課
	通学定期券を購入したいとき	
	学割を利用して帰省や旅行をしたいとき	
	健康診断証明書が必要なとき	保健センター事務室
諸届・諸願	学費の納入などについて	会 計 課
	氏名などが変わったとき (p. 324参照)	教 務 一 課
	休学、復学、退学、再入学をしたいとき (p. 321~324参照)	教務一・二・三課 医学部事務課 医学部看護学科事務室
	1週間以上欠席するとき (p. 27参照)	教務二・三課 医学部事務課 医学部看護学科事務室
	再試験を受験したいとき (p. 31参照)	
追試験を受験したいとき (p. 30参照)	学 生 課	

※商学部第二部関係の事務は商学部第二部事務課（2号館）で対応します。

※各種証明書は、次ページの場所に設置した証明書自動発行機より出力できます。

II. 学年ごよみ・事務窓口

設置場所		稼働時間
文系センター棟	1階 高層棟ロビー「プラザ50」	8:50~22:00
学生部事務室棟	1階 学生課ロビー	下記窓口事務時間参照
2号館	1階 エントランス	
9号館	1階	
11号館	1階 ロビー	
医学部研究棟本館	1階 医学部事務課内	
16号館	1階 ロビー	
第二記念会堂	3階	

※証明書自動発行機は、各種証明書等発行申込書および証紙の発行も取り扱います。

※下記の事務休業日は、証明書自動発行機の利用はできません。

3 窓口事務時間

平日 8:50~16:50

(商学部第二部事務課は13:20~21:20)

※休暇期間中は一部時間を変更することがあります。

4 事務休業日

- ・土曜日 (定期試験実施日等を除く)
- ・日曜日
- ・国民の祝日に関する法律に規定する日 (休日授業日等を除く)
- ・盆休業 8月13日(火)~21日(水)
- ・年末年始休業 12月28日(土)~1月4日(土)

※日程は変更になることがありますので、FUポータル等で確認をしてください。

III

授業・試験

- 大学からの連絡
- 単位と授業時間
- 休講および補講
- 振替授業日および休日授業日
- 出席の確認
- 欠 席 届
- 教室の表示等
- テキスト(教科書)の購入
- 試 験
- 成績・進級
- 在学の年限
- 卒 業
- 交通機関の乱れや台風・積雪等による授業の休講等
- 前期・後期 試験時間割

大学からの連絡

大学からの連絡事項は、「FU ポータル」「大学が付与するメールアドレス」「掲示板」を通じてお知らせします。

これらの告示、通知、呼び出し等を見なかったために生じる不利益は、学生本人の責任となります。
常に最新の情報を確認する習慣を身につけ、責任を持って行動してください。

(1) FU ポータル

FU ポータルとは、Web 上で提供される福岡大学の様々なサービスの入口となるページです。学生一人ひとりが持つ自分専用のポータルページで、必要な情報やシステムにアクセスすることができます。

◆FU ポータル画面



(例)
 学生の皆さん
 成績発表に関するスケジュールを
 公開します。
 不明な点は窓口にお尋ねください。



○ FU ポータル

◆FU ポータルで確認できること

内 容	参照メニュー
最新のお知らせを見たい	お知らせ
シラバスを閲覧したい	授業関連 ➤ WEB シラバス
履修登録をしたい	授業関連 ➤ Web 履修登録 ➤ 履修申請
教室を確認したい	授業関連 ➤ Web 履修登録 ➤ 時間割表(教室割)照会
休講・補講情報を見たい	授業関連 ➤ 休講・補講
成績を見たい	授業関連 ➤ 教務 ➤ 成績発表
履修科目の担当教員からの連絡を見たい	授業関連 ➤ 授業支援 ➤ 授業管理 (学生)
FU_box を使いたい	共 通 ➤ 福岡大学公認クラウドストレージサービス
メールを確認したい	共 通 ➤ Web メール

※主な機能を示しています。これら以外にも各種機能があります。

(2) 大学が付与するメールアドレス (@cis メール)

入学の際、学生の皆さんへ次のようなメールアドレスを付与します。大学からの様々な連絡が届きますので、毎日確認してください。

学籍番号@cis.fukuoka-u.ac.jp (例: ee123456@cis.fukuoka-u.ac.jp)

◆FU ポータル画面



Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンにインストールし、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインせずに確認することができます。



○教育用メール (@cis)

(3) 掲示板

大学から学生へお知らせするにあたり、紙による掲示を併用する場合があります。掲示板は、全学部共通の中央掲示板 (A棟前) のほか、理系の各学部を設置しています。

FU ポータルとメールは必ず 1 日 1 回確認すること！

●無線 LAN (Wi-Fi) の利用



学内各所に無線 LAN (Wi-Fi) を設置しています。
ノート PC・タブレット端末・スマートフォンなどを接続して
検索や学習に活用しましょう。



○Wi-Fi 接続について

●授業、試験、成績等の問い合わせ先

対象窓口	メールアドレス	対象窓口	メールアドレス
教務二課(人文学部)	jinbun@adm.fukuoka-u.ac.jp	医学部事務課	ijimu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課(法学部)	hogaku@adm.fukuoka-u.ac.jp	医学部事務課看護学科事務室	nurse@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課(経済学部)	keizai@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務三課(薬学部)	yaku@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課(商学部)	sho@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務三課(スポーツ科学部)	sport@adm.fukuoka-u.ac.jp
商学部第二部事務課	sho2@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課(教務担当)	kyomu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務三課(理学部)	rigaku2@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課(共通教育担当)	kyotu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務三課(工学部)	kogaku@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課(教職担当)	kyosyoku@adm.fukuoka-u.ac.jp

単位と授業時間

1 単位制

〔単位制〕

単位制とは、授業科目にそれぞれ定められた単位があり、その授業科目を履修して、合格の評価を得ることによって、卒業に必要な単位数を修得する制度です。

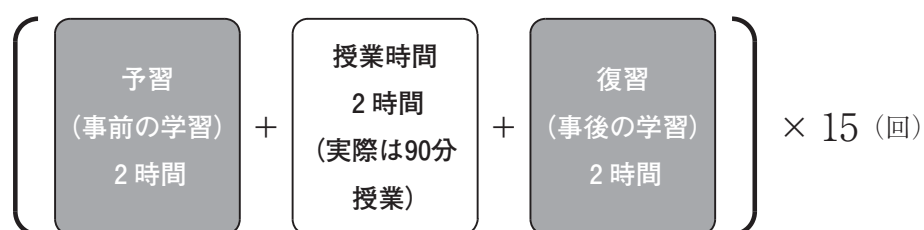
〔単位について〕

単位とは、授業科目を修得するために必要な学修の量を数値で表すものであり、1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています。この45時間には、教室で行う授業時間だけでなく、予習復習等の自主学習も含まれます。

〈例〉

半期2単位の講義科目の場合

(1単位45時間のため、単位修得には90時間が必要)



※実際の授業時間は90分間です。単位計算上は1つの授業90分を2時間として計算します。

※半期2単位の講義科目の場合、本学では毎週1回の90分授業を15回実施し、それに自主学習として行う各2時間相当の予習・復習の時間を加えて単位を認めています。授業を受講するだけでなく、自主学習として、予習・復習等を行うことが重要となるため、必ず各授業科目のシラバスを確認してください。

2 授業形態

授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行われます。

また、各学部が教育上有益と認めるときは、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修することのできる授業が実施される場合があります。(学則第32条の2および第32条の2第2項参照)

3 授業時間

●全学部（商学部第二部を除く）

1 時 限	9 : 00	～	10 : 30
2 時 限	10 : 40	～	12 : 10
3 時 限	13 : 00	～	14 : 30
4 時 限	14 : 40	～	16 : 10
5 時 限	16 : 20	～	17 : 50
6 時 限	18 : 00	～	19 : 30

●商学部第二部

1 時 限	18 : 00	～	19 : 30
2 時 限	19 : 40	～	21 : 10

休講および補講

授業が休講となる場合、FU ポータルでお知らせします。なお、休講の掲示が出ていないにもかかわらず授業が始まらない場合は、所属学部の事務部署の窓口まで申し出てください。

また、休講に伴い補講を実施する場合は、原則として、補講日の一週間前にFU ポータルで日時・教室等をお知らせします。詳細は本書巻末の「履修登録の手引」付録④を参照してください。

※補講は、指定する土曜日、試験前の指定する日および指定する週の6時限目に実施します。

補講日については、「Ⅱ 学年ごよみ・事務窓口」の2024年度学年ごよみを参照してください。

※交通機関の大きな乱れや台風・積雪等による授業の休講や授業時間の変更等がある場合は、福岡大学公式 Web サイト、FU ポータルでお知らせします。

振替授業日および休日授業日

各曜日の授業回数を確保するため、振替授業日および休日授業日を設定しています。

[2024年度振替授業日] 振替前と同じ時限・教室で実施

前期	月曜日の振替授業日 7月18日(木)
後期	月曜日の振替授業日 12月26日(木)

[2024年度休日授業日] 通常（暦上）の曜日の授業を実施

前期	4月29日(月)「昭和の日」
後期	9月16日(月)「敬老の日」

※医学部医学科（第2学年以上）については、学年暦が異なる場合がある。

出席の確認

学生証を使い、センサーを設置した教室等で授業の出席状況を記録します。

この出席管理システムは、学生の皆さんが自ら生活管理を行い、着実に修学を進めていくためのものです。必ずしも成績評価に利用することを目的としたものではありませんが、担当教員によってはこの情報を成績評価に利用することもあります。また、皆さんの修学や生活指導のデータとしても活用します。本学開催の父母懇談会などでの相談の際にも、皆さんの大学での生活状況の一端としてご父母にお知らせします。

出席確認は受講時に、教室内のセンサーに学生証をかざすだけです。

【注意点】

- ・ 授業開始時刻の10分前～授業開始時刻まで ⇨ 「出席」と記録されます。
（1時限目および3時限目は授業開始の20分前～授業開始時刻まで）
- ・ 授業開始時刻以降 ⇨ 5分刻みで、開始時刻からの経過時間が記録されます。

欠席届

欠席に関する取扱いについては、担当教員の判断となります。授業を欠席する（した）場合は、各自で担当教員に速やかに報告して指示に従ってください。

なお、本学に公欠の制度はなく、欠席できる日数について特段の定めはありませんが、1週間以上欠席する場合は、福岡大学学生規程に基づき、次のような手続きをしてください。

- ① FUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「欠席届ダウンロード」から出力した「欠席届」に必要事項を記入のうえ捺印します。
- ② 記入・捺印した「欠席届」および欠席を証明する書類を添え、各自で各担当教員に報告した後、所属学部の事務部署に提出します。

証明する書類の例……診断書、医証（病気・怪我の場合）等

※詳細は、FUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「授業等の欠席の取扱いについて」を確認してください。

▶医学部の学生については、前記諸届・諸願に関する相談・取次ぎを医学部事務課または看護学科事務室で行います。

教室の表示等

●教室は、A棟・2号館から18号館までと、文系センター低層棟、医学部看護学科棟、人文学部教育・臨床心理学科棟にあります。

〔A棟・2～18号館の教室表示〕

例	A 7 13 (教室番号)	8 2 3 (教室番号)	2 3 A (教室番号)
	⋮	⋮	⋮
	A 7 番号	8 2 番号	2 3 記号
	棟 階 号	号 階 号	号 階 号
		館	館

○例外的な教室表示

A棟地下1階……〔A B 01、A B 02〕 2号館地下1階…〔2 B 1〕

〔情報処理教育の教室（文系センター低層棟3階）〕

文系センター棟PC教室A～D

※授業の教室割は、開講日までにFUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「Web履修登録」の「時間割表(教室割)照会」でお知らせします。

※理系学部の教室変更・未定分については学部の掲示板に掲示します。

※教室等の配置については、FUポータルに掲載します。

テキスト(教科書)の購入

授業で使用するテキスト(教科書)は、学修ガイド、シラバス(医学部医学科の専門科目は「学修要項」)等を参照し、履修する科目のテキスト名を確認した上で、購入してください。

なお、科目によってはテキスト不要の場合や、後期完結科目で後期開講前に販売される場合もあります。

※購入したテキスト(教科書)は、購入時に破損、欠損しているもの以外は返品はできません。

※4月11日の前期授業開始日前後は大変混み合いますので、ネット注文を利用されるか早めに購入するようにしてください。

1 販売日時及び販売場所

販売期間：2024年4月2日(火)～4月19日(金) 【土曜日、日曜日を除く】

販売時間：9：00～19：00(4月8日～4月12日)

9：00～18：00(4月2日～4月5日、4月15日～4月19日)

販売場所：福岡大学 ゆうほう有朋会館2階ラウンジ

※4月22日(月)以降は、第一売店で販売します。(休日授業日以外の土曜日・日曜日・祝日を除く。)

※4月20日(土)・21日(日)は販売しません。

※後期の共通教育科目(英語・ドイツ語)で使用するテキストは、9月開講時に販売します。

※医学部の専門教育科目については、神陵文庫(医学部研究棟別館地階)にて販売します。期間と時間については書店に確認してください。

2 インターネット注文について

インターネットを利用して注文することで、宅配サービスを利用することが可能です。

〔福岡大学教科書販売サイト <https://fukudai-text.net>〕

〔インターネット注文における注意点〕

- ・『宅配サービス』の受付期間は、4月2日(火)から4月11日(木)までとなっています。なお、宅配サービスは前期のみのサービスです。
- ・宅配サービスの送料及び代引き手数料は別途必要となりますので、詳細については上記の福岡大学教科書販売サイトで確認してください。
- ・申込みから配達まで約3～4日かかります。特に開講日前日は申込みが集中し、配達日が遅くなることもありますので、開講日までに揃うように早めに申し込んでください。

試 験

履修登録した授業科目については、試験に合格（60点以上）しなければ「単位」として認定されません。試験は定期試験・追試験（定期試験を受けられなかった場合の試験）・再試験（定期試験が不合格となった場合の試験）の三種類があります。

※定期試験を実施しない授業科目があります。シラバスを必ず確認し、評価方法をよく理解したうえで履修登録を行ってください。なお、上記の授業科目について、履修の手引（p. 79～80、p. 81～82）を参照してください。

1 定期試験

本学では、学期を前期（4月1日～9月13日）と後期（9月14日～3月31日）に分けており、前期・後期それぞれ試験を実施します。

通年の授業科目は、前期・後期共に受験する必要があるため、一方だけ受験しても「単位」は与えられません。また、前期または後期完結の授業科目は、授業が開講された学期だけ受験すればよいことになります。

なお、授業科目の試験時間が重複していると受験できません。履修登録の際は、試験時間割表（p. 35～38）で試験が重複しないように注意して、授業時間割を作成してください。詳しくは、履修の手引「試験の重複」（p. 46）を参照してください。

- 前期試験（7月24日～8月2日〔予備日を含む〕）
- 後期試験（1月15日～1月28日〔予備日を含む〕）
- 交通機関の大きな乱れや台風・積雪等による試験の取扱い

試験日あるいは試験時間の変更等がある場合は、福岡大学公式 Web サイト、FU ポータル等でお知らせします。

2 定期試験についての心得

- ・試験についての注意事項、教室割、試験時限などは、試験前に掲示や FU ポータルでお知らせしますので、事前に確認してください。
- ・試験では、各人の座席をすべて指定します。試験は必ず自分の学籍番号の座席で受験してください。座席表は、教室入口近くの掲示板に掲示します。座席がない場合は試験事務室（A棟地下1階）に行ってください。
- ・成績考査規程を十分心得ておいてください。
- ・学生証は常に携帯し、受験中は必ず写真面を上にして机の座席番号側の見やすいところに置いてください。学生証を所持していない場合は受験することができません。忘れた場合は直ちに証明書自動発行機より仮学生証を出力してください。
- ・試験開始後20分を経過した遅刻者は受験をすることができません。試験開始後20分経過時に合図のチャイムが鳴りますが、チャイムが鳴り始めると一切入室できません。
- ・試験開始後30分を経過しなければ退室を許可しません。
- ・試験中、学生相互の物品の貸借は禁止します。
- ・監督者の指示があるまで次の時限の受験者は教室に入ることはできません。
- ・不正行為者については成績考査規程第5条により、当該期間（前期又は後期）に完結する全授業科目及び通年で実施する全授業科目の評価を「放棄」とします。
- ・答案はいかなる理由でも持ち出してはなりません。答案を持ち出した者に対しては、成績考査規程第5条の2により、その受験科目の評価を「放棄」とします。
- ・その他、試験場では監督者の指示に従わなければなりません。

3 定期試験時間表

●全学部（商学部第二部を除く）

1 時 限	9 : 30	～	10 : 30
2 時 限	10 : 50	～	11 : 50
3 時 限	12 : 30	～	13 : 30
4 時 限	13 : 50	～	14 : 50
5 時 限	15 : 10	～	16 : 10
6 時 限	16 : 30	～	17 : 30

●商学部第二部

1 時 限	18 : 20	～	19 : 20
2 時 限	19 : 50	～	20 : 50

▶医学部医学科については、別に示されます。

4 追試験（定期試験を受けられなかった場合の試験）

追試験は、定期試験を、病気その他やむを得ない事情によって受験できなかった者に所定の手続と審議を経て許可される試験です。これには、

- ・事前の願い出を原則とします。
- ・受験料を必要とします。（1科目2,000円）
- ・願い出た者全員が許可されるとは限りません。
- ・欠試の理由によって、得点が制限されます。

以上の制約があり、皆さんにとって不利益ともなります。したがって、万難を排して定期試験を受けるようにしてください。

手続及び不明な点の問い合わせは学生課（医学部医学科専門教育科目は医学部事務課、看護学科専門基礎科目・専門教育科目は看護学科事務室）で取り扱っています。手続の際は必ず欠試の理由を証明する書類（例：病気の場合は医師の診断書）、および印鑑を持参してください。

追試験の申込期間・実施日等の日程については、定期試験前にFUポータル等でお知らせしますので、見落とさないように注意してください。

また追試験については、成績考査規程第6・7・8・11条を参照してください。

- 前期追試験（8月28日～9月1日に実施予定〔予備日を含む〕）
- 後期追試験（2月21日～2月28日に実施予定）
- 定期試験を実施しない授業科目は、追試験を実施しません。

5 再試験（定期試験が不合格となった場合の試験）

定期試験で不合格となった者については、願い出により再試験を行うことがあります。しかし、次のような制限があります。

- ・人文・法・経済・商・商二・工・スポーツ科の各学部は4年次生以上に対して実施します。
- ・理学部は2・4年次生に対して実施します。
- ・医学部医学科は全学年の学生に対して実施します。
- ・医学部看護学科は1年次生および2年次生については、試験の結果、不合格の成績評価を得た者で、再試験により進級の見込みのある者、3年次生については、前期に開講する専門基礎科目及び専門教育科目（ただし2020年以前の入学者については前期に開講する選択必修科目の外国語科目、専門基礎科目及び専門教育科目）について不合格の成績評価を得た者で、再試験により3年次後期に開講する看護学実習科目の履修見込みのある者および4年次生に対して実施します。
- ・薬学部は1年次生から5年次生に対して試験の結果、不合格の成績評価を得た者で、再試験により進級の見込みのある者および6年次生に対して実施します。ただし、3年次生に対しては共通教育科目の再試験は実施しません。

なお、専門教育科目については、再試験の結果、上位年次に進級できない者は、その再試験を無効とします。

- ・医学部医学科以外の学生は後期の追試験の結果、不合格となった者を除きます。
- ・受験資格や受験することができる単位数は成績考査規程第12条、第13条を参照してください。
- ・前期に履修した授業科目が不合格となり、後期登録変更を行うことで同一科目を後期に再履修した場合の再試験の取り扱いは次のとおりです。
 - (1) 前期および後期の成績がともに欠点による不合格の場合、後期に履修した授業科目のみを再試験受験の対象科目とする。
 - (2) 前期の成績が欠点による不合格で、後期の成績が放棄による不合格の場合、後期に履修した授業科目のみが再試験の対象となるが、当該授業科目を放棄しているため再試験の受験資格を与えない。
- ・合格した場合の評点は60点となります。
- ・受験料（1単位1,000円）を必要とします。
- ・医学部医学科の時間制の専門教育科目は1科目4,000円を必要とします。

2月中旬に上記の学生を対象に成績発表を行い、その結果願い出た者について再試験を実施します。必ず成績発表の日にFUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「教務」の「成績発表」で自分の成績を確認してください。手続は成績考査規程第13条を参照してください。

- 再試験（2月21日～2月28日に実施予定）
 - 医学部看護学科の3年次の再試験は前期開講科目について実施するため、手続や期間が異なります。
 - 卒業要件と課程修了要件を満たすために必要な科目が重複した場合、その再試験科目を申請する際には、再試験の科目として申請できない場合がありますので注意してください。
- ※詳細については、教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程を履修する場合は教職課程教育センター、日本語教員課程を履修する場合は教務二課（人文学部）に確認してください。
- 定期試験を実施しない授業科目は、再試験は実施しません。

成績・進級

前・後期それぞれの定期試験の成績発表日以降、FU ポータルのカテゴリ「授業関連」にある教務（学生メニュー）の「成績発表」より各自で「成績通知書」を確認することができます。

1 成績評価

- ・成績は100点法によって評価され、60点以上が合格となり所定の単位が与えられます。
 - ・成績通知書には科目ごとに点数が表示されます。
 - ・不合格者（59点以下）の場合は、点数の末尾に「F」が表示されます。
 - ・放棄の場合は、「H」が表示されます。
- ※放棄「H」とは、「試験放棄又は成績評価不能」を示しています。（福岡大学成績考査規程第4条第2項第6抜粋）
- ※「試験放棄」とは、定期試験・追試験および再試験を受験しなかった場合であり、「成績評価不能」とは、試験によらず成績を評価する科目について、学生の課題等の提出状況、受講状況その他の成績評価の前提条件を満たしておらず、点数を付けることができないと担当教員が認めた場合となります。

素点範囲	成績評語
100～90	秀
89～80	優
79～70	良
69～60	可
59点以下	不可
試験放棄又は成績評価不能	放棄

2 成績・進級

学年末には「成績通知書」を確認の上、次年度の履修登録を行うこととなります。誤った履修登録を行うと、修業年限（4年間。医学部医学科および薬学部は6年間。）内で卒業できない事態を招きかねません。自分の修得科目や単位数を十分に把握し、学則や学科履修規程を熟読して慎重に履修登録をするよう心がけてください。

また、修得単位数が少ない場合、理系学部では規定により登録できる科目が制限されたり、進級できずに「留年」となる場合があります。不断の努力を重ね、修業年限内での卒業をめざしてください。

3 GPA 制度

成績通知書に、成績評価指標としての GPA を付記します。

GPA (Grade Point Average) は、次に示した算出基準・計算式で計算される履修科目の評点に単位数を加味した加重平均値です。大学での学修が、単に卒業単位を取得するのみではなく、より真剣に学ぶことにより大学教育を実質化し、大学の教育の質を保証するためのシステムの一環でもあります。途中で受講をやめたり、試験を放棄したりすると GPA が低下します。したがって、学生の皆さんには履修責任が求められることになります。

●GPA の算出基準

履修した科目の成績評価は100点満点で行います。点数に応じて科目毎に GP 評点を算出します（下表参照）。

素点範囲	成績評語	GP 評点
100～90	秀	4.0
89～80	優	3.0
79～70	良	2.0
69～60	可	1.0
59点以下	不可	0.0
試験放棄又は成績評価不能	放棄	0.0

●GPA の計算式と対象

$$\text{GPA} = \frac{\text{【秀の修得単位数} \times 4 \text{】} + \text{【優の修得単位数} \times 3 \text{】} + \dots + \text{【不可・放棄の単位数の和} \times 0 \text{】}}{\text{秀} + \text{優} + \text{良} + \text{可} + \text{不可} + \text{放棄の総履修単位数}}$$

- ・ GPA は「卒業要件に関わる履修科目」および「課程科目を含む全履修科目」について、それぞれ「当該セメスターに履修した科目」および「当該セメスターまでに履修した全科目」の括りで算出します。
- ・ 不合格となった科目を後に再履修して合格となった場合、セメスター毎の GPA は元の成績で算出しますが、通算の GPA は合格した際の成績のみを対象として算出します。
- ・ 他大学等で履修した科目の単位で、本学の履修科目として修得が認められた単位（認定単位）については GPA の対象とはなりません。

●GPA の利用

学部・学科により、特待生の選考やゼミの選考などに利用されます。なお、成績証明書には記載されません。

4 成績評価に関する問合せ制度について

成績評価は厳格かつ正確に行われるよう留意していますが、万一成績評価に疑問がある場合には、所属学部の事務部署に申し出れば、皆さんに代わって授業担当者に問合せを行います。受付期間は、成績発表開始日から3日間としています。詳細については、FU ポータル等により皆さんにお知らせします。

なお、この制度は成績評価の厳格さと正確さを担保するためのものです。授業担当者との評点の交渉や、成績不振者に対する救済の機会を提供するものではありません。

在学の年限

学生は、8年を超えて在学することができません。

なお、医学部医学科および薬学部の学生については、12年を超えて在学することができず、同一学年・年次に在学できる年数は2年が限度です。

上記在学期間が満了した場合は除籍になりますので、十分留意の上勉学に励んでください。

卒業

1 卒業の認定

修業年限および「福岡大学学科履修規程」に定められた各学部の卒業に必要な科目・単位数を満たした者には3月に卒業の認定を行います。

2 前期卒業

修業年限を満たし、前期完結科目の合格によって前期で卒業要件科目および単位を修得した場合、本人の希望により前期終了日付で卒業の認定を受けることができます。

※前期卒業については、本人による事前の手続が必要です。2月に実施する4年次生以上の成績発表後に成績を確認した上で、必ず3月の履修登録前に所属学部の事務部署の窓口で相談してください。

交通機関の乱れや台風・積雪等による授業の休講等

交通機関の大きな乱れや台風・積雪等により、授業や試験の予定に変更が生じる場合は、福岡大学公式Webサイト、FUポータル等でお知らせします。

福岡大学公式 Web サイト：<https://www.fukuoka-u.ac.jp/>

2024年度 前期・後期 試験時間割(商学部)

- ※ 教…総合教養科目、教職…教職課程科目
- ※ 通年科目は、前期・後期とも受験しなければ単位は認定されません。
- ※ 試験時間割に記載されていない授業科目は、平常の授業時に試験が行われることがあります。
- ※ 集中講義科目の試験は、講義期間中に実施しますので掲示に注意してください。(学修ガイド p. 82参照)
- ※ 「定期試験を実施しない科目」は、「学修ガイド」および「掲示」等に注意してください。(学修ガイド p. 79～82参照)
- ※ 試験時間割を変更する場合は、FU ポータル及び2号館掲示板に掲示するので特に注意してください。
- ※ 授業時間割・試験時間割をよく確認して、授業においても試験においても重複しないように注意して登録してください。
- ※ 4年次生以上で試験を放棄すると、その科目の再試験は受けられないので注意してください。
- ※ 前期開講フレッシュマン・イングリッシュⅡ、フレッシュマン・イングリッシュⅣ、インターメディアイト・イングリッシュⅡ、インターメディアイト・イングリッシュⅣの再履修クラスは、第二部1限に試験が実施されるので注意してください。

時 限 および 試験時間	期 別	7月24日(水)		7月25日(木)		7月26日(金)		7月27日(土)	
		1月15日(水)		1月16日(木)		1月20日(月)		1月21日(火)	
1 限 9:30 ~ 10:30	前期	教 数学入門 教 基礎数学 教 地球科学入門 CC 証券市場論 (田中義) CF 開発経済論B (アケミク) C 税法ⅡA (芳賀)	教 地理学A 教 芸術A CC 銀行論 (新田町) CB 国際経営論 (横井) CF 国際政治経済学 (ポーブ)	教 統計入門 教 物理科学入門 CB 経営戦略論 (CB24台除く) (合力) CF 国際政治経済学 (ポーブ)	CC 日本商業史 (本村) CB 経営組織論 (CB24台除く) (真木) CF ヨーロッパ経済論Ⅰ (豊) CF 概説政治学 (東原)				
	後期	教 数学入門 教 基礎数学 教 新しい地球観 CC 証券と金融 (田中義) CF アジア経済論B (アケミク) C 税法ⅡB (芳賀)	教 地理学B 教 芸術B CC 金融システム論 (新田町) CB 会計学特論 (池田・渡辺) C 会社法Ⅱ (前越)	教 統計入門 教 物理の世界 教 地誌学 CB 企業戦略論 (合力) CF 貿易特別講義B (世界秩序と国際政治経済学) (ポーブ) C 政治思想史 (鎌田) C ベンチャー起業と法 (平澤)	CC 近代日本商業史 (本村) CB 企業論 (真木) CB 企業行動論 (20台以前) (真木) CF ヨーロッパ経済論Ⅱ (豊)				
	通年	C 税法Ⅱ (芳賀)	C 会社法 (前越)						
2 限 10:50 ~ 11:50	前期	CC 交通経済入門 (陶) CB・CF 交通経済入門 (鈴木)	インターメディアイト・イングリッシュⅠ (再履修クラス含む)	CB 経営心理学 (CB24台除く) (門田)	フレッシュマン・イングリッシュⅠ (再履修クラス含む)				
	後期	CC 交通経済論 (鈴木) CF 国際協力論B (林)	インターメディアイト・イングリッシュⅡ (再履修クラス含む)	CB 経営心理学 (大上) CF 貿易特別講義A (韓国経済の理解) (李錦)	フレッシュマン・イングリッシュⅡ (再履修クラス含む)				
	通年	第2外国語ⅡA		第2外国語ⅠA					
3 限 12:30 ~ 13:30	前期	教 法学A C 会社簿記 (23台以前) (土井) CF 国際貿易論Ⅰ (松永) C 政治学原論 (廣澤) C 経済法 (大橋)	CC マーケティング戦略論 (村上) CB・CF マーケティング戦略論 (村上) CC・CF 国際金融論Ⅰ (伊豆) C 企業金融法 (牧)	C 情報倫理 (24台) (津曲) CF 開発経済論A (木幡) CF 概説社会学 (森康) C ミクロ経済学 (姜)	CC・CB サービスマーケティング (田村) CB 税と生活 (高橋) CF 貿易入門A (松永) CF 海外直接投資論 (大石)				
	後期	教 法学B 教 福岡大学で考える現代社会 (山本) 教 地球環境 CF 概説法律学 (畑中) C 会社簿記 (飯塚) C 会社簿記 (24台既修者) (金田) CF 国際貿易論Ⅱ (松永) CC・CB 国際経済学 (井手) C 東洋経済史 (瀬戸林)	CC マーケティング論 (村上) CF 国際金融論Ⅱ (伊豆) C 地方自治法 (田中孝) C 公共経済学 (玉田)	CC 情報倫理 (23台以前) (津曲) CB・CF 情報倫理 (23台以前) (野崎) CC 商業史入門 (藤田) CC 商業史概論 (本村) CB 管理会計論 (篠原) CF アジア経済論A (木幡) C 社会保障法 (山下慎) C ミクロ経済学 (中村・近郷・佐藤・藤本・恩田)	CC・CB サービスマネジメント (田村) CB 税務会計論 (高橋) CF 貿易入門B (豊) CF グローバル企業論 (大石) C 行政法Ⅰ (田中孝)				
	通年								
4 限 13:50 ~ 14:50	前期		教 社会学A 教 教育論A CC 金融入門 (中塚) CB・CF 金融入門 (田中義)	C 特別講義C (表現する力をきたえるプログラム) (田村他)	教 日本文学A 教 アジアの文学A 教 西洋文学A				
	後期	CC・CF 市場分析論 (福澤)	教 社会学B 教 教育論B CC 流通システム論 (明神)	C 特別講義D (表現する力をきたえるプログラム) (田村他) CB クリエイティブ社会論 (篠原他) C 刑法Ⅰ (石川)	教 日本文学B 教 アジアの文学B 教 西洋文学B CF 概説外国史 (森丈・山根)				
	通年								
5 限 15:10 ~ 16:10	前期	CC 流通・マーケティング入門 (杉本) CB・CF 流通・マーケティング入門 (田村) C 民法入門 (生田)	CC・CB 情報産業論 (弘津) CC 金融論 (中塚) CF ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ (田代) C 労働経済学 (恩田) CC 経済学史A (山崎)	CB 会計情報システム論 (平川) CF 世界経済論 (山本) C 憲法Ⅰ (春名) C 財政学 (山下耕) CC・CB 産業組織論A (渡邊)	C 原価計算論 (23台以前) (丸田) CF 国際マーケティング論A (山口) C 企業法総論 (前越) 教職 総合的な学習の時間と特別活動の指導法 (和田・土本)				
	後期	CC・CB 情報社会論 (福澤) CB 経営入門(再) (中川) C 民法総則 (生田)	CC 金融政策論 (中塚) CF ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ (岡) CC 経済学史B (山崎)	CC 生活保障論 (伊藤豪) CB 会計情報システム論 (平川) CF 貿易政策 (山本) CF 貿易政策Ⅱ (17台以前) (山本) C 憲法Ⅱ (春名) CC・CB 産業組織論B (渡邊)	C 原価計算論 (田坂) CF 国際マーケティング論B (山口) 教職 総合的な学習の時間と特別活動の指導法 (入江・土本)				
	通年								
6 限 16:30 ~ 17:30	前期	CB 経営財務論 (河瀬) CB 経営財務論A (20台～15台) (河瀬) CF 貿易史 (大石) C アジア法 (李黎) 教職 教職概論 (伊藤・高妻・佐藤・藤田) 教職 生涯学習概論A (植上・添田・丹田)	C 特別講義C (キャリア形成実践Ⅰ) (門田) C 特別講義E (ソーシャル・イノベーションⅠ) (田村他) C 基礎防災学 (重松他) 教職 社会科教育法(地理歴史分野)Ⅰ (池田)	教 日本国憲法 C マルチメディア概論 (永島)	C 情報処理入門 (弘津・井田・諸原) 教職 教育行政学 (高妻)				
	後期	教職 生涯学習概論B (植上・添田・丹田)	C 特別講義C (データサイエンス) (太幸) C 特別講義E (観光経済事情) (天羽他)	教 日本国憲法	C 情報処理入門 (諸原) C 情報処理基礎 (弘津・井田・諸原) C 企業取引法 (前越) 教職 社会科教育法(公民分野)Ⅱ (池田) 教職 教育法規 (原北)				
	通年								
二部1限 18:20 ~ 19:20	前期		インターメディアイト・イングリッシュⅡ (前期開講再履修クラスのみ)		フレッシュマン・イングリッシュⅡ (前期開講再履修クラスのみ)				

時 限 および 試験時間	期 別	7月29日 (月)		7月30日 (火)		7月31日 (水)		8月1日 (木)	
		1月22日 (水)		1月23日 (木)		1月24日 (金)		1月27日 (月)	
1 限 9:30 ~ 10:30	前 期	教 教 教 教	論理学A 倫理学A 心理学A 哲学A	C C CF C C CC・CB	会計学総論 (中村) 財務会計論 (飯塚) 日本経済論A (深川) 行政学 (佐々木) 物権法I (柳) 経済統計論 (田中昌)	教 教	ミクロの生物科学 自然界と物質の化学	CC・CB	貿易商務論A (田代)
	後 期	教 教 教 教	論理学B 倫理学B 心理学B 哲学B	C CF C	財務会計論 (渡辺) 日本経済論B (深川) 物権法II (畑中)	教 教 CF	マクロの生物科学 生活と環境の化学 概説哲学 (広川)	CC・CB	貿易商務論B (田代)
	通 年			C	物権法 (前:柳・後:畑中)				
2 限 10:50 ~ 11:50	前 期	CC・CF CB CB CF C C	経営入門 (中川) 経営入門 (24台) (森田泰) 監査論 (長束) 国際物流論A (朴) 債権法I (生田) マクロ経済学 (藤本・秋本・高瀬・西田)		フレッシュマン・イングリッシュIII (再履修クラス含む)				インターミディエイト・イングリッシュIII (再履修クラス含む)
	後 期	CC・CF CB CF C C	経営学総論 (猿田) 経営学総論 (再) (中川) 国際物流論B (朴) 債権法II (生田) マクロ経済学 (宮本)		フレッシュマン・イングリッシュIV (再履修クラス含む)	C C	特別講義D (キャリア形成実践II) (門田) 特別講義F (ソーシャル・イノベーションII) (田村他)		インターミディエイト・イングリッシュIV (再履修クラス含む)
	通 年	C	債権各論 (生田)					第2外国語I B	
3 限 12:30 ~ 13:30	前 期	教 CB C	自然科学入門 中小企業論 (樋口) 国際私法 (北坂)	CB CF C C	経営労務論 (中川) 海上保険論A (五十部) 債権法III (畑中) 経済政策 (森田薫)	C CC C CB CF	簿記原理 (24台既習者) (金田) 簿記原理 (24台) (池田) 簿記原理 (再) (池田) 簿記原理 (24台) (高橋・渡辺) 簿記原理 (24台) (山内)	教 教	経済学A 政治学A
	後 期	教 教 CC・CF	自然科学と人間 自然地理学 中小企業論 (遠藤)	C CB CF C C	会計学総論 (長束) ヒューマンリソースマネジメント (中川) 海上保険論B (五十部) 保険法 (前越) 海商法 (岡田)	C CB C	簿記原理 (再) (山内) オペレーションズリサーチ (福山) 国際関係論 (松山)	教 教	経済学B 政治学B
	通 年								
4 限 13:50 ~ 14:50	前 期	CC CF 教職 教職	海運と航空 (陶) アメリカ経済論I (掛下) 教育心理学 (中島・松永・本山・紺田) 特別支援教育論 (徳永・松原)	教 教 教 教 CF	日本史A 東洋史A 西洋史A 宗教学A 概説日本史 (久保)	CC CB・CF CB・CF CC・CB C	保険論 (伊藤泰) 保険論 (植村) 保険論入門 (植村) 経営分析論 (飛田) 企業取引決済法 (牧)	C C	商学のための数学 (福山) 商学のための数学・統計学I (20台以前) (福山) 消費者行動論 (太宰) 国際法総論 (萩原)
	後 期	CC CB CF 教職 教職 教職	交通政策 (陶) 経営管理論 (藤野) アメリカ経済論II (掛下) 教育心理学 (本山・紺田) 特別支援教育論 (徳永・長谷川雅・松原) 人権教育 (野口)	教 教 教 教	日本史B 東洋史B 西洋史B 宗教学B	CC CB	保険論入門 (伊藤泰) 意思決定会計論 (飛田)	C C	商学のための統計学 (福山) 商学のための数学・統計学II (20台以前) (福山) マーケティングデータ解析 (太宰) 経営組織論 (森田泰) 金融商品取引法 (砂田)
	通 年								
5 限 15:10 ~ 16:10	前 期	CB CB CB CF C	経営学総論 (24台) (猿田) 経営史 (今野) 経営史概論 (20台以前) (今野) 貿易商務論A (岡) 労働法 (所)	C CC CB CB CF C C	情報システム論 (福永) 流通政策 (笹川) 地域経営論 (木藤) 九州の経済・経営A (20台以前) (木藤) ビジネスコミュニケーション実務初級I (岡) 税法I A (芳賀) 英米法 (萩原)	教職	地理歴史科教育法 (藤村)	CC 教職	西洋商業史 (藤田) 生徒指導論 (進路指導を含む。) (田村・友清)
	後 期	教 教 教 教 教 CC CF	福岡大学で考える現代社会 (鈴木孝) (辻部) (三島) (渡邊) 国際化と日本 福岡大学で考える現代社会 (重松) 現代を生きる 福岡大学で考える現代社会 (飛田・山崎) リスクマネジメント論 (植村) 貿易商務論B (岡)	C CC CF C	情報システム論 (福永) 地域商業論 (笹川) ビジネスコミュニケーション実務初級II (岡) 税法I B (芳賀)	CC・CB CB C 教職	マーケティングリサーチ (杉本) 経営戦略論 (合力) 中小企業と法 (砂田) 地理歴史科教育法 (福嶋)	CC CF 教職	近代西洋商業史 (藤田) 国際協力論A (林) 生徒指導論 (進路指導を含む。) (田村・村久保)
	通 年		第2外国語II B	C	税法I (芳賀)				
6 限 16:30 ~ 17:30	前 期	教職 教職	教育方法とICTの活用 (原北・和田) 道徳教育論 (入江・土本・菊池)	C C 教職 教職	特別講義A (キャリア形成入門) (森脇) 特別講義A (教員育成入門) (田中靖) 教育相談 (満身・松永・友清) 職業指導 (野上)	教職 教職 C	公民科教育法 (池田) 教育福祉論 (村上) 知的財産法 (平澤)	教 教 教職	西洋教育史 文化人類学A 教育制度論 (小田・鄭)
	後 期	CC 教職 教職	サプライチェーンマネジメント (陶) 教育方法とICTの活用 (佐藤・伊藤) 道徳教育論 (野口・菊池)	C 教職	特別講義B (キャリア形成を考える) (森脇) 教育相談 (中島・松永)	教 教 教職	教育の原理・課程論 教育原論 教育福祉論 (長江)	教 教 教職	日本教育史 文化人類学B 教育制度論 (高妻・小田・鄭)
	通 年								
二部1限 18:20 ~ 19:20	前 期				フレッシュマン・イングリッシュIV (前期開講再履修クラスのみ)				インターミディエイト・イングリッシュIV (前期開講再履修クラスのみ)

IV

履修の手引


- 諸規程と履修登録
- シラバス
- FU プラスアップ授業
- 履修登録上の注意事項
- 履修登録等の日程
- 全学部共通留意事項
- 各学部留意事項
- 会計専門職プログラム
- クリエイティブ・マネジメント・プログラム
- 高校商業・情報科教員育成プログラム
- 令和6年度入学生（24台）卒業要件単位・年次別授業科目表
- 各種課程の履修について
- 外国語科目クラス別担当者一覧

諸規程と履修登録

大学において単位を修得し卒業するためには、学則・学科履修規程ならびにそれらに準じて取り扱われる規程に従って学習を進めていかなければなりません。


履修方法を誤ったり、多くの授業科目で不合格になると、進級できなかつたり、4年間（医学部医学科および薬学部は6年間）で卒業できないようなことになりかねません。

授業内容を考慮することはもちろん、規程をよく理解したうえで、履修する授業科目を選択し、学習計画を立てるようにしてください。

 分からないことがあれば、所属学部の事務部署へ気軽に尋ねてください。規程の内容を確認したり、学習計画を立てるうえでの相談やアドバイスを受けたりすることができます。

1 諸規程の適用

学則・学科履修規程など履修に関する諸規程は、在学中に改正される場合もありますが、卒業のための要件は原則として入学時の規程が適用されます。

 「学則」をはじめとする諸規程の中には、入学時に配付する印刷物にしか掲載していないものがあります。入学した年度の「学修ガイド」を卒業するまで大切に保管してください。

2 諸規程の改正

入学から卒業までの間に改正された学則・学科履修規程などが在学生に適用されることがあります。

この場合は、改正された内容が毎年度配付する『学修ガイド』に掲載されますので、入学時の規程と対比してどのように改正されたかを把握し、間違った履修をしないようにしてください。

3 履修登録とは

履修登録とは、各自が年間の履修計画を立て、その計画に基づき授業科目を申請する手続きのことです。

そのために、『学修ガイド』あるいは学部から配付される履修登録に関する資料などをよく読み、「授業時間割」「試験時間割」「シラバス」をもとに自分の履修計画に沿って、FUポータルより履修登録を行ってください。

履修登録を正しく行わなかった場合、その授業科目の受講・受験は認められず、単位も修得できません。履修登録は、各自の責任において行うことを自覚してください。

シラバス

1 シラバスとは何か

シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。シラバスには、科目名だけではわからない詳細な情報が記載されています。次のように活用してください。

●履修計画を立てる時の参考とする。

大学の学修は、自分で必要な科目を選択します。関心をもった科目は、まずシラバスをよく読んで履修するかどうかが決めましょう。

シラバスには、各授業科目の概要や到達目標、成績評価基準および方法等が掲載されていますので、どのような授業を受けたいのか、また授業を通してどのような知識・理解を深めたいのかを考える時の参考にしてください。

●日々の授業の予習・復習に役立てる。

シラバスには、各授業科目の授業計画やテキスト等が掲載されていますので、予習・復習等に役立ててください。

2 シラバスの項目

主な項目	内 容
科目名	履修申請をする際に表示される科目名が記載されています。
授業形態	授業が以下のどの形態で行われるかが記載されています。 【①講義、②講義（外国語による）、③演習、④実験、⑤実習、⑥実技、⑦講義及び演習、⑧講義及び実習】
担当教員	担当教員名が記載されています。
実務経験	「有り」と表記されている場合は、担当教員が授業科目に関連する実務経験を有しており、その経験を活かした授業を行います。また、どのような実務経験を有し、どのような授業を行うのか、「概要」欄に記載されます。
科目水準	科目が以下のどの水準であるかが記載されています。 【①入門、②初級、③中級、④上級】
授業の種類	科目が「対面授業科目」であるか「遠隔授業科目」であるかが記載されています。
概要	授業内容に加えて、本科目の位置づけ、科目のねらい、授業概要等が記載されています。
授業の進行・方法	授業の具体的な進め方、学習の方法などわかりやすく記載されています。
アクティブ・ラーニング	1回でもとりいれている授業の場合は、「あり/Yes」と記載されています。
到達目標	授業を全て受けることで、みなさんが到達することのできる目標が記載されています。授業終了後には、各到達目標をどの程度達成できたかを「授業アンケート（FURIKA）」にて振り返ります。
授業時間外の学習（予習・復習）	授業の事前・事後に行う自主学習について記載されています。 ☞本書「授業・試験」→「単位と授業時間」参照（p.25）
成績評価基準および方法	「到達目標」に対するみなさんの達成度をどういった基準で評価するのか、また、どのような方法（定期試験、平常点（小テスト、課題等）、レポート等）で評価するのかが記載されています。
テキスト、参考書	授業で使用するテキストが記載されています。テキストは授業開始日までに購入しておくようにしましょう。 ☞本書「授業・試験」→「テキストの購入」参照（p.28）
履修上の留意点	履修するにあたっての留意点や前提となる知識・能力などが記載されています。
授業計画	15回の授業計画がわかりやすく記載されています。

※項目名は、授業科目により異なる場合があります。

※アクティブ・ラーニングとは、次のような要素を取り入れた授業方法を指します。

・PBL（課題解決型学習） ・反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
・ディスカッション、ディベート ・グループワーク ・プレゼンテーション ・学習、フィールドワーク

出典：令和元年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ1-4 アクティブ・ラーニング）

3 シラバスの閲覧

● 閲覧方法

シラバスは、FU ポータルから閲覧することが可能です。FU ポータルにログインし、「授業関連」タブ ⇒ 「WEB シラバス」 ⇒ 「シラバス閲覧 (学部)」にアクセスしてください。教員名、科目名、学部・学科等から検索し、閲覧することができます。詳細は本書巻末の「履修登録の手引」付録③を参照してください。

☞ FU ポータルとは？

福岡大学生のためのポータルサイトで、Web 上で提供される様々なサービスの入口となります。詳細は、本書「授業・試験」→「大学からの連絡 ((1)「FU ポータル」)」を参照してください。

(p. 23)

● 公開日

履修登録に先立ち、3月上旬に公開します。

FU プラスアップ授業

本学の授業は、原則として半期に15回で構成されています。前期・後期ともに15回の授業のうち、授業週として14週を設定し、残り1回分は動画配信による遠隔授業で実施します。この遠隔授業のことを「FU プラスアップ授業」と称します。

「FU プラスアップ授業」は、実施時期、内容により、「スタートアップ授業」と「中間フォローアップ授業」に二分され、どちらの授業で実施されるかは科目によって異なります。自身の履修する科目がどちらの授業で実施されるかについては、各科目のシラバス内の「授業計画」で確認してください。

スタートアップ授業を行う科目では、第1回目の授業はスタートアップ授業で行われます。前期・後期ともに、第1週の授業(第2回授業)開始前までに自身が受講する科目のスタートアップ授業を必ず視聴するようにしてください(前期は3月上旬～第1週の授業まで、後期は8月下旬～第1週の授業までに受講してください)。

※「FU プラスアップ授業」は、学期開始前に、自分がどの科目を履修するかを決めるための情報源として活用したり、自分が所属する学部以外のさまざまな学部の授業動画を見て関心を広げたりできるなど、活用の仕方はさまざまです。

〈例：新入生の場合〉

視聴目的	期 間
履修登録前に参考として視聴する場合	令和6年4月2日～令和6年4月5日
第1回目の授業として視聴する場合	令和6年4月2日～第1回授業日まで
復習や自身の関心を広げるために視聴する場合	令和6年4月2日～令和7年3月31日

※在学生はシラバス公開時から、翌年3月末日まで視聴可能です。自身の目的に合わせて視聴してください。

●スタートアップ授業

<概要>

第1回目に行われるシラバスの丁寧な説明を含んだ授業です。

本学の学生はすべてスタートアップ授業を3月上旬から1年間、いつでも閲覧することができるため、履修登録前に視聴することで、より主体的な履修選択ができます。

また、科目の狙いや到達目標、成績評価の基準などを学期期間中にいつでも参照できることで、より計画的、自律的な学習や授業期間中の振り返りを促すことを目的としています。

<視聴方法>

シラバス内の「スタートアップ授業」に記載されたURLから授業動画を確認できます。

※第1週目の授業に係る内容が含まれている場合があるため、必ず第1週目の授業開始までに視聴してください。

<スタートアップ授業の主な流れ>

- ①履修登録開始前、履修する科目選びの参考にするため視聴します。
(関心を持った科目のスタートアップ授業の「イントロダクション部分」を視聴してください。)
- ②履修登録後、第1回授業の内容を学ぶため、第1週の授業(第2回授業)前までに視聴します。
(履修登録した科目の「授業内容紹介」を視聴してください。なお、課題が課される場合もあります。)

●中間フォローアップ授業

<概要>

第6回目から第9回目を目安に行われる中間振り返り授業です。

学期の中間地点で学修を振り返り、自身の到達度を確認することで、学習内容の定着を図ることを目的としています。

※中間フォローアップ授業では、その時点までにおいて自身がその授業の到達目標にどの程度到達したか、確認するための課題が課されます。

<視聴方法>

シラバスからは視聴できません。各科目担当教員の指示に従ってください。

<中間フォローアップ授業の主な流れ>

- ①主に6～9回目、中間フォローアップ授業を視聴し、課された課題に取り組みます。
 - ②課題提出後、自身の到達状況を確認し、授業後半の学習計画を見直します。
- ※通年授業や半期30回授業等で、学期中に中間フォローアップ授業を2回行う場合があります。
担当教員から、中間フォローアップ授業の回数や時期を聞いて確認してください。

※FU プラスアップ授業の詳細については、『「FU プラスアップ授業」学生用マニュアル』を参照ください。

履修登録上の注意事項

1 履修登録の方法

FU ポータルで履修科目の登録手続きを行います。

インターネット環境があれば、自宅など学外から登録手続きを行えます。

2 準備するもの

履修登録を行うにあたり、次の書類・資料を準備してください。

- ・学修ガイド（特に「履修の手引」「試験時間割」「諸規程」「履修登録の手引」）
 - ・授業時間割
 - ・「学科基本クラス分け一覧表」（新入生のみ配付。在學生は学修ガイド（p. 49～51）に記載）
 - ・その他、各学部が作成した履修登録に関する資料
- ※シラバスは、FU ポータルから参照できます。（シラバスについては、学修ガイド p. 42参照）

3 授業時間割の見方

- ① 曜日・時限別に区分された枠内に、そこで開講される授業の科目名・担当者・開講期別・クラスなどが表示されています。
時間割上で学部・学科あるいはクラスが指定されている授業科目は、それにしたがって履修登録してください。
 - ② 学部記号が○で囲まれている授業科目は、その学部の全学科の学生が登録できることを示しています。
〔例〕①（法学部）……JJ（法律学科）、JB（経営法学科）とも登録可能。
②（スポーツ科学部）……GS（スポーツ科学科）、GH（健康運動科学科）とも登録可能。
 - ③ 学部や学科が指定されている授業科目は、指定の学部や学科の学生のみ登録することができます。
〔例〕③・CC……経済学部全学科および商学部商学科のみ登録可能
 - ④ 前期または後期で完結する4単位の授業科目については、週2回の授業が行われます。
 - ⑤ 履修登録では、自分が登録することができる授業科目のみ表示されます。
- ※授業時間割表は、FU ポータルから参照できます。

4 クラス表示

授業時間のクラス表示については、下表に従い履修登録してください。

対象者	英 語	英語以外の科目	備 考
1年次生(24台) 2024年度入学生	FEとIE(注1)は事前に登録していますので、p. 71 4 外国語科目「1 外国語科目の履修登録について」の「●英語の履修登録について」を参照の上クラスを確認してください。 (再履修者は除く)	「学科基本クラス分け一覧表」で該当する学科基本クラスをもとに登録してください。	「学科基本クラス分け一覧表」は履修登録関係書類として配布します。
2年次生(23台) 2023年度入学生		「学科基本クラス分け一覧」(p. 49～51参照)で該当する学科基本クラスをもとに登録してください。	—
3年次生(22台) 2022年度入学生			
4年次生(21台以前) 2021年度入学生	—		

(注1) FE……フレッシュマン・イングリッシュ
IE……インターミディエイト・イングリッシュ

※東アジア地域言語学科のFEⅢ・ⅣとIEⅢ・Ⅳについては事前登録されていないので、履修する場合は各自で履修登録してください。

☺ 「フレッシュマン・イングリッシュ」「インターミディエイト・イングリッシュ」の再履修については、4 外国語科目「2 英語の履修について」の「●再履修について (FE・IE)」(p.73～)を参照してください。

〔クラス表示の例〕

	ク ラ ス 名 称		
英 語 ク ラ ス	<u>J</u> (学部)	<u>ESP—1</u> (クラス)	「英語」の登録用クラス
学 科 基 本 ク ラ ス	<u>J J</u> (学部・学科)	<u>5</u> (クラス)	「英語」以外の履修登録用クラス ※学科基本クラス分け一覧表参照

5 授業の重複

開講する期別・曜日・時限が同じ授業科目については、ひとつの授業科目しか登録することができません。通年で開講する授業科目と前期または後期のみ開講する授業科目についても、曜日・時限が同一であれば、どちらかの授業科目しか登録できません。

6 試験の重複

履修登録しようとする授業科目が定期試験の同じ期日・時限で重複しないよう、試験時間割 (p.35～38)をよく見て登録してください。授業科目の開講曜日・時限が異なっても試験が重複している科目はいずれか1つしか登録できません。

7 履修登録上の注意

- ① 履修登録を行う日程は学部・学科・学籍年台により異なります。詳しくは巻末の「履修登録の手引き」p.2を参照してください。
- ② 履修登録の日時や期限は厳守してください。後述する「後期開講科目の登録変更」および「履修登録の撤回」の場合を除き、期限経過後は変更できません。
- ③ 履修登録の方法については、学修ガイド「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。
- ④ 登録が正しく行われていない場合、卒業や進級ができなくなる場合も考えられます。必ず「**授業科目確認表**」を印刷して、登録した内容に間違いがないか確認してください。
- ⑤ 集中講義で開講される科目や商学部第二部で受講する教職課程科目等も履修登録が必要です。
- ⑥ 教職課程科目・博物館学芸員課程科目・社会教育主事課程科目を登録する場合は、学部の授業科目と重複しないよう授業時間割および定期試験時間割上で確認してください。

☺ 『履修登録の手引』の中にある「履修登録用紙 (下書き用)」および「Web プロフィール (下書き用)」について必ず事前に記入して履修登録を行ってください。シラバスを事前に参照することも可能です。

8 履修登録の流れ

年度始めに皆さんが行う履修登録作業は概ね次のとおりです。学部によっては、この他にも必要なことがありますので、学修ガイドや配付物、掲示物等を確認してください。

☞ 事前に確認すること

<p>1. 1年間に登録できる単位数の上限 ○学部、学科、年次などにより、1年間に登録できる単位数が異なります。 ○ただし、教職課程等の課程科目を登録するときの単位数は、上限の単位数に含みません。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「学科履修規程」 (p. 220～267参照)</p>
<p>2. 卒業（進級）要件単位数 ○学部、学科、年次などにより、卒業に必要な単位数が異なります。また、理系学部では上位年次への進級に必要な単位数が決められている場合があります。 ○卒業（進級）要件単位数を考慮して履修計画を立ててください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「学科履修規程」 (p. 172～219参照)</p>
<p>3. クラス ○クラス指定がある授業科目は、自分のクラスで登録を行う必要があります。あらかじめ自分のクラスを確認してください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「学科基本クラス分け一覧」 (p. 49～51参照)</p>



☞ 登録科目の選択

<p>4. 登録することができる科目 ○「年次別授業科目表」を開き、自分が登録することができる科目を把握してください。2年次生以上の場合、既に単位を修得した科目は登録できません。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「学科履修規程（年次別授業科目表）」 (p. 172～219参照)</p>
<p>5. 上位年次に開講される授業科目は登録できない ○例えば、1年次生は1年次設置科目のみ、2年次生は1・2年次に開講される科目が登録できます。</p>	
<p>6. 必修科目、選択必修科目を優先して登録 ○総合教養科目はできるだけ下位年次で履修するようにしてください。</p>	
<p>7. シラバスを参考に ○シラバスには、各授業科目の概要や評価基準および方法、授業計画等が掲載されています。また、スタートアップ授業を実施する科目については、授業動画を視聴することもできます。よく読んで、登録する科目を決めてください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「シラバス」 (p. 42参照)</p>
<p>8. 定期試験の時間割が重複していないか ○受講が可能であっても、試験日時が重複していれば登録できません。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「試験時間割」 (p. 35～38参照)</p>
<p>9. 登録制限科目を登録する場合 ○科目によっては登録人数を制限するものがあります。「履修の手引」などの指示に従って事前に登録手続きを行ってください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「履修の手引」 (p. 55～62、p. 84～90)</p>
<p>10. 授業時間割への記入 ○登録しようとする授業科目にマーカーなどで印を付けてください。</p>	



<p>11. 下書き用紙への記入 ○学修ガイド「履修登録の手引」に入っている「履修登録用紙（下書き用）」に登録する授業科目を記入してください。 ○また、同じく「Webプロフィール（下書き用）」に必要事項を記入してください。（履修登録の際、同時に入力します。） ※履修登録を効率的に行うために、必ず下書きした用紙を履修登録当日に参照しながら履修登録を行ってください。</p>	<p>☞ 学修ガイド 「履修登録の手引」</p>
--	---------------------------------------



履修登録

<p>12. 履修登録</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修登録の操作方法等は学修ガイド「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。 ○登録作業が済んだら、必ず「授業科目確認表」を印刷して、登録した内容に間違いがないか確認してください。 	<p>学修ガイド 「履修登録の手引」</p>
<p>13. 履修登録の日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ○履修登録を行う日程等は学部・学科・学籍年台により異なります。 ○履修登録の日時や期限は厳守してください。「後期開講科目の登録変更」および「履修登録の撤回」の場合を除き、期限経過後は変更できません。 	<p>学修ガイド 「履修登録の手引」 「履修登録等の日程」 (p. 52～53参照)</p>



前期授業の開始

<p>14. 授業教室割の通知</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開講日までにFUポータル「時間割表(教室割)照会」で、授業教室をお知らせしますので、あらかじめ確認して登学してください。 ○理・工・医・薬・スポーツ科学部で開講する科目については、掲示等で教室をお知らせする場合があります。
<p>15. FUプラスアップ授業の視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各科目のシラバス内の「授業計画」で「FUプラスアップ授業」の種類を確認してください。 ○「スタートアップ授業」の場合、第1週の授業までにシラバス内の「スタートアップ授業」に記載されたURLから授業動画を視聴してください。 ※後期開講科目については、8月下旬～後期第1回授業までに授業動画を視聴してください。 ○「中間フォローアップ授業」の場合、授業期間中に教員の指示に従い、授業動画を視聴してください。

9 前期成績発表と後期開講科目の登録変更

1年間に履修する科目については、あらかじめ前期授業開始前に通年、前・後期完結科目を全て登録しますが、後期の科目については、前期の成績を確認して、既に登録している履修科目を変更(削除・追加)することができます。前期成績発表および後期開講科目の登録変更日程については、p. 52～53「履修登録等の日程」を参照してください。

●注意

通年開講科目については登録を変更することができません。また、必修科目や登録制限科目など各学部の教授会等が指定した科目および共通教育科目の一部については、登録変更をすることができない場合があります。

なお、変更にあたっては、1年間あるいは前期・後期に履修することができる単位数(登録上限単位)の範囲内であることが必要です。

10 履修登録の撤回

「履修登録した授業の内容が想定したものと違っていた」「このまま履修を続けるより他の科目に集中して取り組みたい」などと判断した場合、その学期の開講から3週間以内に申し出れば、前後期それぞれ2科目以内かつ8単位以内に限り履修登録を撤回(削除)できます。撤回した科目の単位数は当該年度の履修登録単位数から除外されます。ただし、撤回した科目の代わりに他の科目を追加登録することはできません。

むやみに撤回すると卒業や進級に必要な単位数が不足する可能性もあるため、慎重な対応が必要です。

なお、必修科目や登録制限科目など各学部の教授会等が指定した科目および共通教育科目の一部については、撤回することができない場合があります。また、後期については、通年開講科目を撤回することはできません。さらに後期開講の集中講義科目のうち、夏季休業中に開講されるものは、前期の撤回期間中のみ撤回することができます。(夏季休業中に開講される後期集中講義科目は、講義開始後に撤回することはできません。)

履修登録撤回の手続き・日程等については p. 52～53「履修登録等の日程」を参照してください。

11 学科基本クラス分け一覧

2023年度入学生 (23台)

学部学科	クラス	学籍番号
L C	1	L C 230001～L C 230050
	2	L C 230051～L C 230100
L H	1	L H 230301～L H 230335
	2	L H 230336～L H 230370
L J	1	L J 230501～L J 230536
	2	L J 230537～L J 230571
L P	1	L P 231501～L P 231562
	2	L P 231563～L P 231623
L E	1	L E 230701～L E 230746
	2	L E 230747～L E 230791
L G	1	L G 全員
L F	1	L F 全員
L A	1	L A 231301～L A 231332
	2	L A 231333～L A 231364
J J	1	J J 230001～J J 230044
	2	J J 230045～J J 230088
	3	J J 230089～J J 230132
	4	J J 230133～J J 230175
	5	J J 230176～J J 230218
	6	J J 230219～J J 230261
	7	J J 230262～J J 230304
	8	J J 230305～J J 230347
	9	J J 230348～J J 230390
	10	J J 230391～J J 230433
J B	1	J B 232001～J B 232044
	2	J B 232045～J B 232088
	3	J B 232089～J B 232132
	4	J B 232133～J B 232175
	5	J B 232176～J B 232218
E E	1	E E 230001～E E 230040
	2	E E 230041～E E 230080
	3	E E 230081～E E 230120
	4	E E 230121～E E 230160
	5	E E 230161～E E 230200
	6	E E 230201～E E 230240
	7	E E 230241～E E 230280
	8	E E 230281～E E 230320
	9	E E 230321～E E 230360
	10	E E 230361～E E 230400
	11	E E 230401～E E 230440
	12	E E 230441～E E 230479
E I	1	E I 232001～E I 232052
	2	E I 232053～E I 232104
	3	E I 232105～E I 232156
	4	E I 232157～E I 232207
C C	1	C C 230001～C C 230044
	2	C C 230045～C C 230087
	3	C C 230088～C C 230130
	4	C C 230131～C C 230173
	5	C C 230174～C C 230216
	6	C C 230217～C C 230259

※2024年度入学生 (24台) については履修登録関係書類として配付します。

学部学科	クラス	学籍番号
C B	1	C B 231001～C B 231041
	2	C B 231042～C B 231082
	3	C B 231083～C B 231123
	4	C B 231124～C B 231164
	5	C B 231165～C B 231205
	6	C B 231206～C B 231245
C F	1	C F 232001～C F 232045
	2	C F 232046～C F 232090
	3	C F 232091～C F 232135
	4	C F 232136～C F 232179
B B	1	B B 230001～B B 230027
	2	B B 230028～B B 230053
	3	B B 230054～B B 230079
	4	B B 230080～B B 230105
	5	B B 230106～B B 230131
	6	B B 230132～B B 230157
S M	1	S M 230001～S M 230033
	2	S M 230034～S M 230047 S M 231001～S M 231019
S P	1	S P 230201～S P 230226
	2	S P 230227～S P 230247 S P 231201～S P 231205
S C	1	S C 230401～S C 230433
	2	S C 230434～S C 230458
		S C 231401～S C 231407
S E	1	S E 230601～S E 230637
	2	S E 230638～S E 230674
T M	1	T M 230001～T M 230056
	2	T M 230057～T M 230112
T E	1	T E 230301～T E 230359
	2	T E 230360～T E 230417
T L	1	T L 231201～T L 231238
	2	T L 231239～T L 231275
	3	T L 231276～T L 231312
	4	T L 231313～T L 231349
T K	1	T K 231501～T K 231550
	2	T K 231551～T K 231599
T C	1	T C 230601～T C 230657
	2	T C 230658～T C 230714
T A	1	T A 230901～T A 230955
	2	T A 230956～T A 231009
M M	1	M M 230001～M M 230055
	2	M M 230056～M M 230110
M N	1	M N 232001～M N 232055
	2	M N 232056～M N 232110
P P	1	P P 230001～P P 230041
	2	P P 230042～P P 230082
	3	P P 230083～P P 230123
	4	P P 230124～P P 230164
	5	P P 230165～P P 230205
	6	P P 230206～P P 230245
G S	1	G S 230001～G S 230039
	2	G S 230040～G S 230078
	3	G S 230079～G S 230117
	4	G S 230118～G S 230156
	5	G S 230157～G S 230194
	6	G S 230195～G S 230232
G H	1	G H 230301～G H 230338
	2	G H 230339～G H 230375

2022年度入学生 (22台)

学部学科	クラス	学籍番号
L C	1	L C 220001～L C 220050
	2	L C 220051～L C 220103
L H	1	L H 220301～L H 220335
	2	L H 220336～L H 220371
L J	1	L J 220501～L J 220536
	2	L J 220537～L J 220572
L P	1	L P 221501～L P 221555
	2	L P 221556～L P 221610
L E	1	L E 220701～L E 220746
	2	L E 220747～L E 220791
L G	1	L G 220901～L G 220951
L F	1	L F 221101～L F 221148
L A	1	L A 221301～L A 221335
	2	L A 221336～L A 221370
J J	1	J J 220001～J J 220043
	2	J J 220044～J J 220086
	3	J J 220087～J J 220129
	4	J J 220130～J J 220172
	5	J J 220173～J J 220215
	6	J J 220216～J J 220258
	7	J J 220259～J J 220301
	8	J J 220302～J J 220344
	9	J J 220345～J J 220387
	10	J J 220388～J J 220429
J B	1	J B 222001～J B 222041
	2	J B 222042～J B 222081
	3	J B 222082～J B 222121
	4	J B 222122～J B 222161
	5	J B 222162～J B 222201
E E	1	E E 220001～E E 220039
	2	E E 220040～E E 220078
	3	E E 220079～E E 220117
	4	E E 220118～E E 220155
	5	E E 220156～E E 220193
	6	E E 220194～E E 220231
	7	E E 220232～E E 220269
	8	E E 220270～E E 220307
	9	E E 220308～E E 220345
	10	E E 220346～E E 220383
	11	E E 220384～E E 220421
	12	E E 220422～E E 220460
E I	1	E I 222001～E I 222051
	2	E I 222052～E I 222102
	3	E I 222103～E I 222153
	4	E I 222154～E I 222207
C C	1	C C 220001～C C 220042
	2	C C 220043～C C 220084
	3	C C 220085～C C 220126
	4	C C 220127～C C 220168
	5	C C 220169～C C 220209
	6	C C 220210～C C 220252

学部学科	クラス	学籍番号
C B	1	C B 221001～C B 221042
	2	C B 221043～C B 221084
	3	C B 221085～C B 221126
	4	C B 221127～C B 221168
	5	C B 221169～C B 221210
	6	C B 221211～C B 221254
C F	1	C F 222001～C F 222047
	2	C F 222048～C F 222093
	3	C F 222094～C F 222139
	4	C F 222140～C F 222186
B B	1	B B 220001～B B 220028
	2	B B 220029～B B 220055
	3	B B 220056～B B 220082
	4	B B 220083～B B 220109
	5	B B 220110～B B 220136
	6	B B 220137～B B 220165
S M	1	S M 220001～S M 220033
	2	S M 220034～S M 220048 S M 221001～S M 221020
S P	1	S P 220201～S P 220228
	2	S P 220229～S P 220247 S P 221201～S P 221209
S C	1	S C 220401～S C 220433
	2	S C 220434～S C 220455 S C 221401～S C 221410
S E	1	S E 220601～S E 220631
	2	S E 220632～S E 220661
T M	1	T M 220001～T M 220055
	2	T M 220056～T M 220111
T E	1	T E 220301～T E 220353
	2	T E 220354～T E 220406
T L	1	T L 221201～T L 221238
	2	T L 221239～T L 221276
	3	T L 221277～T L 221314
	4	T L 221315～T L 221353
T K	1	T K 221501～T K 221552
	2	T K 221553～T K 221604
T C	1	T C 220601～T C 220649
	2	T C 220650～T C 220698
T A	1	T A 220901～T A 220959
	2	T A 220960～T A 221020
M M	1	M M 220001～M M 220055
	2	M M 220056～M M 220110
M N	1	M N 222001～M N 222053
	2	M N 222054～M N 222105
P P	1	P P 220001～P P 220040
	2	P P 220041～P P 220079
	3	P P 220080～P P 220118
	4	P P 220119～P P 220157
	5	P P 220158～P P 220196
	6	P P 220197～P P 220235
G S	1	G S 220001～G S 220038
	2	G S 220039～G S 220076
	3	G S 220077～G S 220114
	4	G S 220115～G S 220151
	5	G S 220152～G S 220188
	6	G S 220189～G S 220225
G H	1	G H 220301～G H 220337
	2	G H 220338～G H 220375

2021年度入学生 (21台)

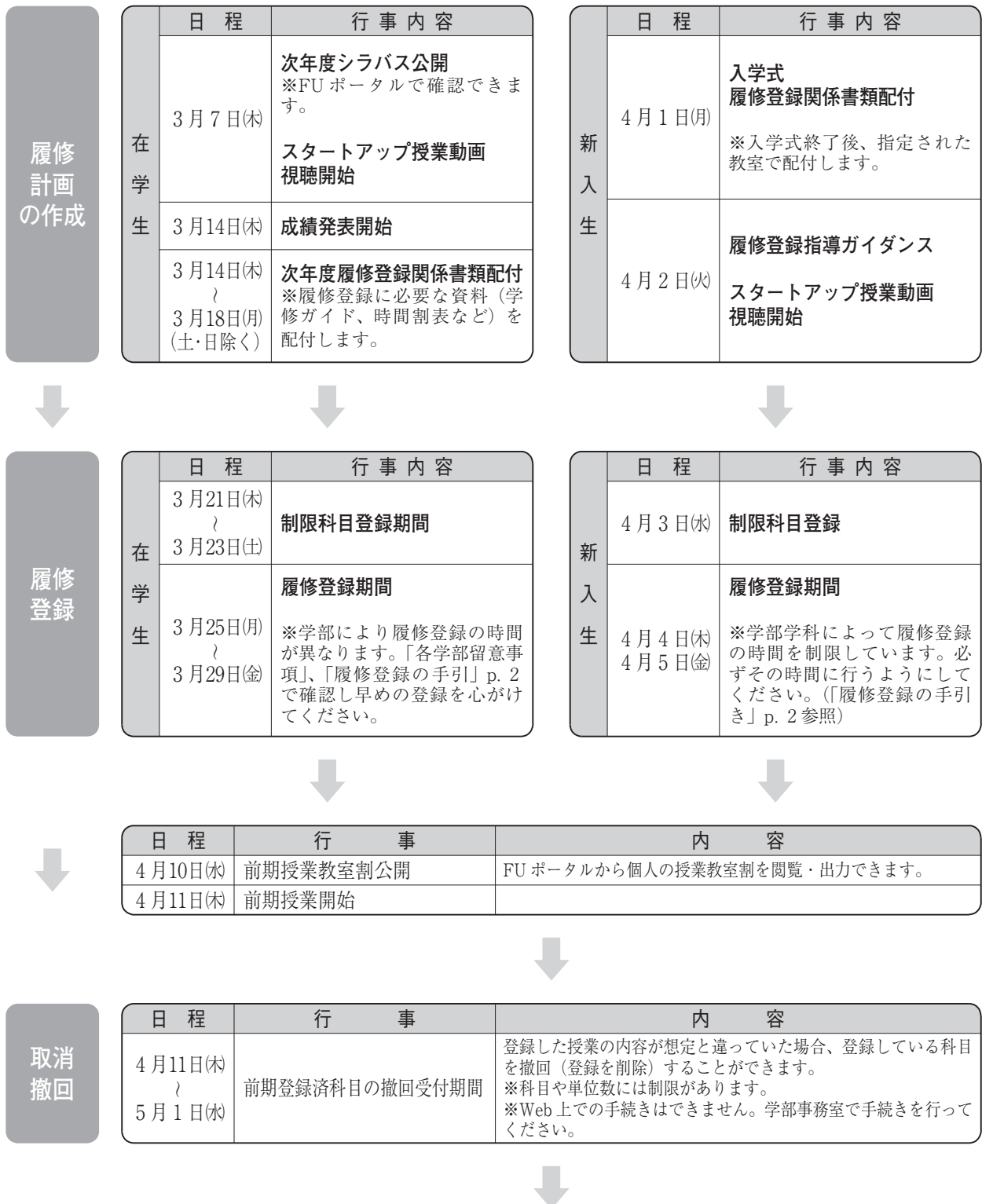
学部学科	クラス	学籍番号
L C	1	L C 210001～L C 210049
	2	L C 210050～L C 210098
L H	1	L H 210301～L H 210333
	2	L H 210334～L H 210368
L J	1	L J 210501～L J 210535
	2	L J 210536～L J 210569
L P	1	L P 211501～L P 211567
	2	L P 211568～L P 211633
L E	1	L E 210701～L E 210744
	2	L E 210745～L E 210789
L G	1	L G 210901～L G 210948
L F	1	L F 211101～L F 211149
L A	1	L A 211301～L A 211331
	2	L A 211332～L A 211364
J J	1	J J 210001～J J 210041
	2	J J 210042～J J 210082
	3	J J 210083～J J 210123
	4	J J 210124～J J 210164
	5	J J 210165～J J 210205
	6	J J 210206～J J 210246
	7	J J 210247～J J 210287
	8	J J 210288～J J 210328
	9	J J 210329～J J 210368
	10	J J 210369～J J 210410
J B	1	J B 212001～J B 212039
	2	J B 212040～J B 212077
	3	J B 212078～J B 212115
	4	J B 212116～J B 212153
	5	J B 212154～J B 212191
E E	1	E E 210001～E E 210038
	2	E E 210039～E E 210076
	3	E E 210077～E E 210114
	4	E E 210115～E E 210152
	5	E E 210153～E E 210190
	6	E E 210191～E E 210227
	7	E E 210228～E E 210264
	8	E E 210265～E E 210301
	9	E E 210302～E E 210338
	10	E E 210339～E E 210375
	11	E E 210376～E E 210412
	12	E E 210413～E E 210450
E I	1	E I 212001～E I 212049
	2	E I 212050～E I 212098
	3	E I 212099～E I 212147
	4	E I 212148～E I 212203
C C	1	C C 210001～C C 210039
	2	C C 210040～C C 210078
	3	C C 210079～C C 210117
	4	C C 210118～C C 210156
	5	C C 210157～C C 210195
	6	C C 210196～C C 210242

学部学科	クラス	学籍番号
C B	1	C B 211001～C B 211039
	2	C B 211040～C B 211078
	3	C B 211079～C B 211117
	4	C B 211118～C B 211156
	5	C B 211157～C B 211194
	6	C B 211195～C B 211234
C F	1	C F 212001～C F 212047
	2	C F 212048～C F 212094
	3	C F 212095～C F 212140
	4	C F 212141～C F 212186
B B	1	B B 210001～B B 210027
	2	B B 210028～B B 210053
	3	B B 210054～B B 210079
	4	B B 210080～B B 210105
	5	B B 210106～B B 210131
	6	B B 210132～B B 210160
S M	1	S M 210001～S M 210033
	2	S M 210034～S M 210049 S M 211001～S M 211017
S P	1	S P 210201～S P 210226
	2	S P 210227～S P 210244 S P 211201～S P 211208
S C	1	S C 210401～S C 210430
	2	S C 210431～S C 210454 S C 211401～S C 211406
		S E 210601～S E 210629
S E	2	S E 210630～S E 210657
	T M	1
2		T M 210058～T M 210114
T E	1	T E 210301～T E 210355
	2	T E 210356～T E 210409
T L	1	T L 211201～T L 211237
	2	T L 211238～T L 211274
	3	T L 211275～T L 211310
	4	T L 211311～T L 211346
T K	1	T K 211501～T K 211548
	2	T K 211549～T K 211596
T C	1	T C 210601～T C 210662
	2	T C 210663～T C 210724
T A	1	T A 210901～T A 210953
	2	T A 210954～T A 211007
M M	1	M M 210001～M M 210055
	2	M M 210056～M M 210110
M N	1	M N 212001～M N 212053
	2	M N 212054～M N 212106
P P	1	P P 210001～P P 210038
	2	P P 210039～P P 210076
	3	P P 210077～P P 210114
	4	P P 210115～P P 210152
	5	P P 210153～P P 210189
	6	P P 210190～P P 210226
G S	1	G S 210001～G S 210040
	2	G S 210041～G S 210080
	3	G S 210081～G S 210119
	4	G S 210120～G S 210158
	5	G S 210159～G S 210197
	6	G S 210198～G S 210236
G H	1	G H 210301～G H 210337
	2	G H 210338～G H 210373

履修登録等の日程

シラバスや履修登録関係書類で事前に履修計画を立てられます。また、巻末の『履修登録の手引(p. 3)』の「履修登録用紙(下書き用)」を事前に記入し、履修登録に臨んでください。

1 履修登録スケジュール



前期 成績 発表	日 程	行 事	内 容
	9月2日(月))	前期成績発表開始	FUポータルにて各自参照 ※成績評価に疑問がある場合には、学部事務室を窓口として、科目担当者に問合せることができる制度を設けています。なお、受付期間は、成績発表から3日間となっています。詳細については、FUポータル等よりお知らせします。
後期開 講科目 の登録 変更	日 程	行 事	内 容
	9月4日(水)12時) 9月6日(金)16時	後期開講科目の登録変更	FUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「Web履修登録」にて申請。
	日 程	行 事	内 容
	9月13日(金) 9月16日(月)	後期授業教室割公開 後期授業開始	FUポータルから個人の授業教室割を閲覧・出力できます。
取消 撤回	日 程	行 事	内 容
	9月16日(月)) 10月7日(月)	後期登録済科目の撤回受付期間	登録した授業の内容が想定と違っていた場合、登録している科目を撤回（登録を削除）することができます。 ※科目や単位数には制限があります。 ※Web上での手続きはできません。学部事務室で手続きを行ってください。

全学部共通留意事項

学部別、分野毎に、設置科目および開講科目が決められています。

設置科目とは、学則の教育課程に設置している科目であり、開講科目とは、その年度に開講される科目のことです。学部によっては、年度により開講しない科目がありますので、学修ガイドを参照し、学科履修規程を正しく理解し、履修していく必要があります。

1 共通教育科目の履修登録の撤回および後期開講科目の登録変更について

総合教養科目・外国語科目・保健体育科目における履修登録の撤回と後期開講科目の登録変更は、下表のように取り扱います。「○」印は可能、「×」印は不可を示しています。

	授業科目の区分、学部、年次、科目名等		登録撤回 (p. 48参照)		登録変更 (p. 48参照)	
			前期	後期	追加	削除
総合教養科目	登録制限科目 (注1参照)	登録制限科目①	○	○	×	○
		登録制限科目②(注2参照)	×	×	○	×
	学修基盤科目	データサイエンス・AI入門	×	×	×	×
	それ以外の科目(注3参照)		○	○	○	○
外国語科目	アドバンスト・イングリッシュⅡ ※所定の登録人数に達しない場合に限る(注4参照)		×	×	○	×
	それ以外の科目 ※学部留学生対象の日本語を含む		×	×	×	×
保健体育科目 (注5参照)	選択科目	生涯スポーツ演習Ⅱ、生涯スポーツ演習Ⅲ、 生涯スポーツ演習Ⅳ、生涯スポーツ論	○	○	○	○
	必修科目 ※商学部第二部 を除く学部	1年次生(24台) 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ演習Ⅱ	×	×	×	×
		2年次生以上(23台以前) 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ演習Ⅱ、 生涯スポーツ演習Ⅲ、生涯スポーツ演習Ⅳ、 生涯スポーツ論	×	×	○	○
	必修科目 ※商学部第二部	1年次生(24台) 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ論	×	×	×	×
2年次生以上(23台以前) 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ論		×	×	○	○	

(注1) 登録制限科目の種類や対象科目等は、p. 55の「2登録制限科目について」を参照してください。

(注2) 登録制限科目②の科目(p. 59~60の表3、およびp. 61~62の表4を参照)の中で、定員に達していない後期開講科目に限り、登録変更期間に定員の範囲内で「先着順」による追加募集を行います。詳細は登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。なお、追加募集で登録が許可された科目も、履修登録の撤回はできません。

(注3) 登録変更期間は登録定員を300人とし、「先着順」による登録制限を行います。前期に登録完了した科目でも、登録エラーの状態のままであれば、エラーを解消するまでの間に当該科目が満員となり登録できなくなることがあります。登録変更時はエラーにならないよう気をつけてください。

(注4) 追加登録を行う場合は、登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。

(注5) 保健体育科目は、学科基本クラスや履修年次等によってあらかじめ時間割が指定されており、指定外の時間割は履修登録できません(p. 67の「3保健体育科目について」を参照)。

2 総合教養科目関係

1 授業科目の学部・学科等指定について

総合教養科目には、1クラス当たりの登録者数を適正な規模にするため、履修登録を認める学部・学科・学科基本クラスをあらかじめ指定する授業科目があります。これらの科目は指定以外の学部・学科等の学生は登録できませんので注意してください。履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

2 登録制限科目について

総合教養科目には、あらかじめ登録者数を制限する授業科目（登録制限科目）があります。登録制限科目は制限理由により、以下の2種類に分かれます。履修希望者は各科目の注意事項および要領等に従い、「履修登録の手引」p.12～13を参照のうえ、申し込んでください。

登録制限科目①…登録者数が多数になることが予想されるため登録者数を制限する科目
登録制限科目②…ゼミナール形式やオムニバス形式など授業形態に合わせて登録者数を制限する科目

2-1 登録制限科目①（登録者数が多数になることが予想されるため登録者数を制限する科目）

対象学生の年次により、登録者の選考方法が異なります。

【対象学生：2年次生以上】

2年次生以上は「抽選」で登録者を決定します。表1（p.56）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「制限科目を選択」から申し込んでください。履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

登録エラーの表示（赤色で表示）が出た場合は、科目の選択をやり直し、エラーがない状態にしてください。

結果発表後、履修登録画面上で当否を確認し、抽選に外れた場合はその科目を削除してください。

表1の科目の登録が許可された場合は、登録の取り消しはできません。授業や試験時間割との重複等がないか確認のうえ申請してください。

表1 【対象学生：2年次生以上】登録制限科目①

No.	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間および結果発表
1	倫理学A	中村 未来	前期	木	2	150	抽選	申込期間 3月21日(木) 14:00~ 3月22日(金) 18:00 結果発表 3月23日(土) 18:00
2	倫理学A	広川 明	前期	火	3	150		
3	倫理学A	広川 明	前期	火	4	150		
4	倫理学B	中村 未来	後期	木	2	150		
5	倫理学B	広川 明	後期	月	4	150		
6	宗教学A	岸根 敏幸	前期	月	2	150		
7	宗教学A	岸根 敏幸	前期	月	3	150		
8	宗教学A	岸根 敏幸	前期	水	2	150		
9	宗教学A	岸根 敏幸	前期	水	3	150		
10	宗教学A	東谷 孝一	前期	金	3	150		
11	宗教学A	東谷 孝一	前期	金	4	150		
12	宗教学B	岸根 敏幸	後期	月	2	150		
13	宗教学B	東谷 孝一	後期	金	3	150		
14	宗教学B	東谷 孝一	後期	金	4	150		
15	日本史A	松木 俊暁	前期	水	4	150	抽選	申込期間 3月21日(木) 15:00~ 3月22日(金) 18:00 結果発表 3月23日(土) 18:00
16	東洋史A	久芳 崇	前期	月	4	150		
17	日本文学B	須藤 圭	後期	金	2	150		
18	芸術A	浦上 雅司	前期	火	2	150		
19	芸術A	落合 桃子	前期	木	4	150		
20	芸術A	川浪 千鶴	前期	金	4	150		
21	芸術B	浦上 雅司	後期	火	2	150		
22	芸術B	落合 桃子	後期	木	4	150		
23	日本国憲法	守谷 賢輔	後期	金	2	150		
24	日本国憲法	守谷 賢輔	前期	金	2	150		
25	政治学A	東原 正明	前期	木	3	150	抽選	申込期間 3月21日(木) 16:00~ 3月22日(金) 18:00 結果発表 3月23日(土) 18:00
26	経済学A	主計 浩	前期	水	3	150		
27	社会学A	井手 靖子	前期	木	2	150		
28	社会学A	高岡 弘幸	前期	月	3	150		
29	社会学A	花野 裕康	前期	金	3	150		
30	社会学B	井手 靖子	後期	木	2	150		
31	社会学B	花野 裕康	後期	金	3	150		
32	地理学A	藤村 健一	前期	木	4	150		
33	心理学A	佐藤 基治	前期	月	4	150		
34	心理学A	古川 善也	前期	水	3	150		
35	心理学A	古川 善也	前期	木	4	150		
36	地球圏科学入門	上原誠一郎	前期	月	2	150	抽選	申込期間 3月21日(木) 17:00~ 3月22日(金) 18:00 結果発表 3月23日(土) 18:00
37	地球圏科学入門	赤木 右	前期	金	2	150		
38	新しい地球観	上原誠一郎	後期	月	2	150		
39	新しい地球観	田上 響	後期	火	2	150		
40	ミクロの生物科学	中川 裕之	前期	木	1	150		
41	ミクロの生物科学	中川 緑	前期	火	2	150		
42	マクロの生物科学	中川 緑	後期	火	1	150		
43	マクロの生物科学	中川 緑	後期	火	2	150		
44	自然科学入門	林 辰弥	前期	月	2	150		
45	自然科学入門	西園 幸久	前期	火	4	150		
46	自然科学入門	中川 緑	前期	木	3	150		
47	自然科学と人間	中川 緑	後期	木	3	150		

【対象学生：1年次生】

1年次生は「先着順」で登録者を決定します。表2（下記および次ページ）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「制限科目を選択」から登録してください。履修登録画面には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。なお、2年次生以上が登録定員に達しなかった科目は、不足分を1年次生の登録定員に追加して受け付けます。

登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ登録は完了です。登録エラーの表示が出た場合は、科目の選択をやり直し、エラーがない状態にしてください。

表2の科目の登録が許可された場合は、登録の取り消しはできません。授業や試験時間割との重複等がないか確認のうえ申請してください。

表2 【対象学生：1年次生】登録制限科目①

No.	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間および結果発表
1	倫理学A	中村 未来	前期	木	2	150	先着順	4月3月（水）12：00～23：59
2	倫理学A	広川 明	前期	火	3	150		
3	倫理学A	広川 明	前期	火	4	150		
4	倫理学B	中村 未来	後期	木	2	150		
5	倫理学B	広川 明	後期	月	4	150		
6	宗教学A	岸根 敏幸	前期	月	2	150		
7	宗教学A	岸根 敏幸	前期	月	3	150		
8	宗教学A	岸根 敏幸	前期	水	2	150		
9	宗教学A	岸根 敏幸	前期	水	3	150		
10	宗教学A	東谷 孝一	前期	金	3	150		
11	宗教学A	東谷 孝一	前期	金	4	150		
12	宗教学B	岸根 敏幸	後期	月	2	150		
13	宗教学B	東谷 孝一	後期	金	3	150		
14	宗教学B	東谷 孝一	後期	金	4	150		
15	日本史A	松木 俊暁	前期	水	4	150	先着順	4月3月（水）12：30～23：59
16	東洋史A	久芳 崇	前期	月	4	150		
17	日本文学B	須藤 圭	後期	金	2	150		
18	芸術A	浦上 雅司	前期	火	2	150		
19	芸術A	落合 桃子	前期	木	4	150		
20	芸術A	川浪 千鶴	前期	金	4	150		
21	芸術B	浦上 雅司	後期	火	2	150		
22	芸術B	落合 桃子	後期	木	4	150		
23	日本国憲法	守谷 賢輔	後期	金	2	150	先着順	4月3月（水）13：00～23：59
24	日本国憲法	守谷 賢輔	前期	金	2	150		
25	政治学A	東原 正明	前期	木	3	150		
26	経済学A	主計 浩	前期	水	3	150		
27	社会学A	井手 靖子	前期	木	2	150		
28	社会学A	高岡 弘幸	前期	月	3	150		
29	社会学A	花野 裕康	前期	金	3	150		
30	社会学B	井手 靖子	後期	木	2	150		
31	社会学B	花野 裕康	後期	金	3	150		
32	地理学A	藤村 健一	前期	木	4	150		
33	心理学A	佐藤 基治	前期	月	4	150		
34	心理学A	古川 善也	前期	水	3	150		
35	心理学A	古川 善也	前期	木	4	150		

次のページへ続く

表2 【対象学生：1年次生】登録制限科目①

No.	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	登録受付日時
36	地球圏科学入門	上原誠一郎	前期	月	2	150	先着順	4月3月(水) 13:30~23:59
37	地球圏科学入門	赤木 右	前期	金	2	150		
38	新しい地球観	上原誠一郎	後期	月	2	150		
39	新しい地球観	田上 響	後期	火	2	150		
40	ミクロの生物科学	中川 裕之	前期	木	1	150		
41	ミクロの生物科学	中川 緑	前期	火	2	150		
42	マクロの生物科学	中川 緑	後期	火	1	150		
43	マクロの生物科学	中川 緑	後期	火	2	150		
44	自然科学入門	林 辰弥	前期	月	2	150		
45	自然科学入門	西園 幸久	前期	火	4	150		
46	自然科学入門	中川 緑	前期	木	3	150		
47	自然科学と人間	中川 緑	後期	木	3	150		

2 - 2 登録制限科目②

(ゼミナール形式やオムニバス形式など授業形態に合わせて登録者数を制限する科目)

対象科目の種類や対象学生の年次により登録者の選考方法が異なりますので注意してください。履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。登録エラーの表示が出た場合は、科目の選択をやり直しエラーがない状態にしてください。

【対象科目：教養ゼミを除く科目】

「先着順」で登録者を決定します。表3の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「制限科目を選択」から登録してください。登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ登録は完了です。

●表3の科目に関する注意事項

- ①「登録定員」欄に示した人数は2年次生以上と1年次生の合計定員です。
- ②表3の科目の登録が許可された場合は、登録の取消しはできません。また、履修登録の撤回、後期登録変更時の削除もできませんので、授業や試験時間割との重複等がないか確認のうえ申請してください。

表3 授業形態に合わせて登録者数を制限する科目（教養ゼミの科目を除く）

No.	科目名	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	登録対象年次	選考方法および登録受付日時
1	哲学A	大西 克智	前期	木	2	80	全学年	<p>●【2年次生以上】 先着順 3月21日(木)12:00~ 3月23日(土)23:59</p> <p>●【1年次生】 先着順 4月3日(水) 9:30~23:59</p> <p>●登録定員に達しない場合 4月4日(木)9:00~</p> <p>(1年次生のみを対象に先着順で追加募集を実施)</p>
2	哲学A	大西 克智	前期	木	3	80	全学年	
3	哲学B	大西 克智	後期	木	2	80	全学年	
4	哲学B	大西 克智	後期	木	3	80	全学年	
5	論理学A	林 誓雄	前期	火	4	150	全学年	
6	論理学A	林 誓雄	前期	水	2	150	全学年	
7	論理学A	林 誓雄	前期	金	3	150	全学年	
8	論理学A	林 誓雄	前期	金	2	150	全学年	
9	論理学B	林 誓雄	後期	火	4	150	全学年	
10	論理学B	林 誓雄	後期	水	2	150	全学年	
11	論理学B	林 誓雄	後期	金	3	150	全学年	
12	論理学B	林 誓雄	後期	金	2	150	全学年	
13	宗教学B	飯嶋 秀治	後期	木	1	100	全学年	
14	人文地理学	近藤 祐磨	後期	火	1	200	全学年	
15	アジアの文学A	間 ふさ子	前期	金	1	60	全学年	
16	アジアの文学A	何 憶鶴	前期	水	1	80	全学年	
17	アジアの文学B	何 憶鶴	後期	水	1	80	全学年	
18	経済学A	楊 光洙	前期	火	4	40	全学年	
19	経済学A	楊 光洙	前期	火	5	40	全学年	
20	経済学B	楊 光洙	後期	火	4	40	全学年	
21	経済学B	楊 光洙	後期	火	5	40	全学年	
22	地理学A	近藤 祐磨	前期	金	2	200	全学年	
23	地理学A	近藤 祐磨	前期	金	4	200	全学年	
24	地理学B	近藤 祐磨	後期	金	3	200	全学年	
25	地理学B	近藤 祐磨	後期	金	5	200	全学年	
26	心理学A	大上 渉	前期	火	3	200	全学年	
27	心理学A	大上 渉	前期	火	4	200	全学年	

次のページへ続く

表3 授業形態に合わせて登録者数を制限する科目（教養ゼミの科目を除く）

No.	科目名	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	登録対象年次	選考方法および登録受付日時
28	心理学 B	大上 渉	後期	火	3	200	全学年	<p>●【2年次生以上】 先着順 3月21日(木)12:00~ 3月23日(土)23:59</p> <p>●【1年次生】 先着順 4月3日(水) 9:30~23:59</p> <p>●登録定員に達しない場合 4月4日(木)9:00~</p> <p>(1年次生のみを対象に先着順で追加募集を実施)</p>
29	心理学 B	大上 渉	後期	火	4	200	全学年	
30	地誌学	近藤 祐磨	前期	月	二部2	200	商二部全学年	
31	福岡大学で考える現代社会	岩山 隆寛	前期	木	5	100	24~23台のみ	
32	福岡大学で考える現代社会	鈴木 学	後期	火	2	24	24~23台のみ	
33	福岡大学で考える現代社会	鈴木 学	後期	火	3	24	24~23台のみ	
34	福岡大学で考える現代社会	須長 一幸	前期	金	2	24	24~23台のみ	
35	福岡大学で考える現代社会	飛田 努	後期	金	2	100	24~23台のみ	
36	福岡大学で考える現代社会	橋場 論	前期	水	5	40	24~23台のみ	
37	福岡大学で考える現代社会	須長 一幸	後期	月	5	40	24~23台のみ	
38	福岡大学で考える現代社会	熊丸 憲男	後期	火	4	12	24~23台のみ(文系)	
39	福岡大学で考える現代社会	熊丸 憲男	後期	火	4	13	24~23台のみ(理系)	
40	福大生のためのキャリアデザイン	植上 一希	前期	火	1	200	24台のみ	
41	福大生のためのキャリアデザイン	植上 一希	前期	火	2	200	24台のみ	
42	アカデミックスキルズゼミ I	紺田 広明	前期	火	5	40	24~23台のみ	
43	アカデミックスキルズゼミ I	道山 治延	前期	木	1	36	24~23台のみ	
44	アカデミックスキルズゼミ II	吉田 秀幸	後期	木	1	48	24~23台のみ	
45	アカデミックスキルズゼミ II	鈴木 学	後期	火	5	50	24~23台のみ	
46	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	前期	火	3	50	24台のみ	
47	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	後期	木	2	50	24台のみ	

【対象科目：教養ゼミの科目】

対象学生：2年次生以上

2年次生以上は「抽選」で登録者を決定します。表4（p.61～62）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「選択科目を選択」から申し込んでください。

結果発表後、履修登録画面上で当否を確認し、抽選に外れた場合はその科目を削除してください。

対象学生：1年次生

1年次生は「先着順」で登録者を決定します。表4（p.61～62）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「選択科目を選択」から登録してください。なお、2年次生以上が登録定員に達しなかった科目は、不足分を1年次生の登録定員に追加して受け付けます。

登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ登録は完了です。

●表4の科目に関する注意事項

- ①「教養ゼミ」の科目は前期1科目、後期1科目、前期と後期の合計で2科目までしか登録できません。前期または後期に2科目以上登録しようとする、登録エラーになります。
- ②「登録定員」欄に示した人数は2年次生以上と1年次生の合計定員です。
- ③「教養ゼミ」の科目は定期試験を実施しない授業科目であるため、再試験は実施しません。
- ④表4の科目の登録が許可された場合は、登録の取消しはできません。また、履修登録の撤回、後期登録変更時の削除もできませんので、授業時間割との重複等に十分に注意して申請してください。

表4 「教養ゼミ」の科目

No.	科目名 (サブタイトル)	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	備考	選考方法および登録受付日時
1	哲学A (哲学入門)	竹花 洋佑	前期	水	2	15		<p>【2年次生以上】 …抽選 ●申込期間 3月21日(木) 12:00～23:59</p> <p>●結果発表 3月22日(金) 16:00</p> <p>●登録定員に達しない場合 3月25日(月) 12:00～ 先着順で追加募集を実施</p> <p>【1年次生】 …先着順 ●登録期間 4月3日(水) 9:30～23:59</p> <p>●登録定員に達しない場合 4月4日(木) 12:00～ 先着順で追加募集を実施</p>
2	哲学B (政治哲学入門)	竹花 洋佑	後期	火	4	15		
3	倫理学A (中国古典に見る人間観)	中村 未来	前期	火	4	16		
4	倫理学B (無為自然を説く道家の世界)	中村 未来	後期	水	2	16		
5	宗教学A (生の教説①)	小笠原史樹	前期	金	5	15		
6	宗教学B (生の教説②)	小笠原史樹	後期	金	5	15		
7	日本史A (日本近代史を学び憲法改正問題を考える)	梶原 良則	前期	月	3	15	登録対象: 24台のみ	
8	日本史B (沖縄の歴史を学び基地問題を考える)	梶原 良則	後期	月	3	15	登録対象: 24台のみ	
9	東洋史A (現代中国・アジアについて語る)	山根 直生	前期	木	3	15		
10	東洋史B (現代中国・アジアについて語り、議論する)	山根 直生	後期	木	3	15		
11	西洋史A (疫病の歴史を考える)	渡邊 裕一	前期	火	4	16		
12	西洋史B (「私たち」から見る日米関係史)	森 丈夫	後期	水	2	20		
13	日本文学A (近現代文学の精読と分析)	畑中 佳恵	前期	火	2	20	登録対象: 24台のみ	
14	日本文学B (ミャークフツ入門)	衣畑 智秀	後期	月	3	30		
15	日本文学A (『徒然草』輪読)	大坪 亮介	前期	木	3	20		

次のページへ続く

表4 「教養ゼミ」の科目

No.	科目名 (サブタイトル)	担当者	開講 期別	曜日	時限	登録 定員	備考	選考方法および 登録受付日時
16	日本文学B (日本近現代の短編小説を読む)	永井 太郎	後期	水	4	15		【2年次生以上】 …抽選 ●申込期間 3月21日(木) 12:00~23:59 ●結果発表 3月22日(金) 16:00 ●登録定員に達 しない場合 3月25日(月) 12:00~ 先着順で追加 募集を実施 【1年次生】 …先着順 ●登録期間 4月3日(水) 9:30~23:59 ●登録定員に達 しない場合 4月4日(木) 12:00~ 先着順で追加 募集を実施
17	西洋文学A (Speculative Japan 2)	クロス テイモシー	前期	月	4	16	授業は 英語で実施	
18	西洋文学B (Speculative Japan 3)	クロス テイモシー	後期	月	4	16	授業は 英語で実施	
19	経済学A (社会科学の基礎を学ぶ)	武井 敬亮	前期	金	2	15		
20	経済学B (アダム・スミス『道徳感情論』を読む)	武井 敬亮	後期	金	2	15		
21	教育論A (戦没学生の手記を読もう)	勝山 吉章	前期	木	2	15	登録対象: 24台のみ	
22	地理学A (現実世界の多様性を考えるI)	磯田 則彦	前期	水	3	15		
23	地理学B (現実世界の多様性を考えるII)	磯田 則彦	後期	水	3	15		
24	地理学A (地域の学術的探究I)	近藤 祐磨	前期	火	5	15		
25	地理学B (地域の学術的探究II)	近藤 祐磨	後期	火	4	15		
26	心理学A (犯罪者プロファイリングとは何か)	大上 渉	前期	水	4	14		
27	心理学B (「パワーハラスメントの理解と対策」)	大上 渉	後期	水	4	14		
28	心理学A (心の仕組みを学ぶ)	縄田 健悟	前期	木	3	15		
29	心理学B (心の働きを学ぶ)	縄田 健悟	後期	木	3	15		
30	文化人類学A (文化人類学の思考を学ぶ)	中村 亮	前期	月	2	15		
31	文化人類学B (身近な文化を調べ考える力を身に付ける)	宮岡真央子	後期	月	3	16		
32	物理科学入門 (ためして物理を理解する)	西 憲敬	前期	月	5	16		
33	生活と環境の化学 (衣食住の実験化学)	松原 公紀	後期	火	3	12		

3 総合系列科目について

総合系列科目は、現代の諸問題を考える科目です。授業はオムニバス（学部や専門分野の異なる複数の教員が授業を担当する）形式で行われます。

履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

登録制限科目の履修希望者は、p. 55「2 登録制限科目について」の注意事項および要領等に従い申し込んでください。

表 5 - 1 総合系列科目（22台以前）

No.	科目名 (サブタイトル)	担当者	開講 期別	曜日	時限	定期試験 の有・無	留意事項
1	地球環境 (資源循環と地球環境)	山本 俊浩	後期	水	5	有	
2	国際化と日本 (ヨーロッパを知る-その多様性と統一-)	辻部 大介	後期	月	5	有	
3	国際化と日本 (グローバルな平和論)	渡邊 裕一	後期	月	5	有	
4	国際化と日本 (東アジアと福岡)	三島 健司	後期	金	4	有	
5	国際化と日本 (Globalization of Japan)	鈴木 孝将	後期	金	5	有	
6	現代を生きる (災害から自分や家族を守る)	重松 幹二	後期	水	5	有	

表5-2 総合系列科目（23台以降）

科目名：「福岡大学で考える現代社会」

No.	サブタイトル	担当者	開講 期別	曜日	時限	定期試験 の有・無	留意事項
1	ものづくり体験から学ぶ企画・制作力	熊丸 憲男	後期	火	4	無	登録制限科目②
2	Innovation for a Sustainable Society (サステナビリティのためのイノベーション)	安井 英俊	前期	火	4	無	
3	貨幣の謎 -新型コロナウイルスから解明する	山崎 好裕	後期	火	4	有	
4	皆で考える地球温暖化とカーボンニュートラル	岩山 隆寛	前期	木	5	無	登録制限科目②
5	大学生のための現代社会論	鈴木 学	後期	火	2	無	登録制限科目②
6	大学生のための政治経済論	鈴木 学	後期	火	3	無	登録制限科目②
7	「言葉の力」を身につける	須長 一幸	前期	金	2	無	登録制限科目②
8	多職種連携で支える人生100年時代	安元 佐和	前期	木	5	無	
9	アントレプレナーシップを学ぶ	飛田 努	後期	金	2	有	登録制限科目②
10	資源循環と地球環境	山本 俊浩	後期	水	5	有	
11	グローバルな平和論	渡邊 裕一	後期	月	5	有	
12	ヨーロッパを知る -その多様性と統一-	辻部 大介	後期	月	5	有	
13	東アジアと福岡	三島 健司	後期	金	4	有	
14	Globalization of Japan	鈴木 孝将	後期	金	5	有	
15	災害から自分や家族を守る	重松 幹二	後期	水	5	有	
16	主体性・社会性・協働性を身につける	橋場 論	前期	水	5	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
17	主体性・社会性・協働性を身につける	須長 一幸	後期	月	5	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ

4 学修基盤科目について

学修基盤科目は、学問と向き合うための正しい姿勢や学問的技法、学ぶことの意義を理解するための科目です。なお、履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

登録制限科目の履修希望者は、p. 55「2 登録制限科目について」の注意事項および要領等に従い申し込んでください。

表 6 学修基盤科目

No.	科目名 (サブタイトル)	担当者	開講 期別	曜日	時限	定期試験 の有・無	留意事項
1	福大生のためのキャリアデザイン (大学生活を設計する)	植上 一希	前期	火	1	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
2	福大生のためのキャリアデザイン (大学生活を設計する)	植上 一希	前期	火	2	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
3	アカデミックスキルズゼミ I (読む・書く・話す・聞くことのレッスン)	紺田 広明	前期	火	5	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
4	アカデミックスキルズゼミ I (読む・書く・話す・聞くことのレッスン)	道山 治延	前期	木	1	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
5	アカデミックスキルズゼミ II (思考と発想のレッスン)	鈴木 学	後期	火	5	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
6	アカデミックスキルズゼミ II (思考と発想のレッスン)	吉田 秀幸	後期	木	1	無	登録制限科目② 登録対象：23～24台のみ
7	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	前期	火	3	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
8	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	後期	木	2	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
9	データサイエンス・AI 入門	香野 淳	前期	集中	集中	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
10	データサイエンス・AI 入門 BB	香野 淳	前期	集中	集中	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
11	データサイエンス・AI 入門	香野 淳	後期	集中	集中	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ
12	データサイエンス・AI 入門 BB	香野 淳	後期	集中	集中	無	登録制限科目② 登録対象：24台のみ

データサイエンス・AI 入門の詳細については、p. 66「学修基盤科目 データサイエンス・AI 入門について」を参照してください。

5. 履修登録の停止について

総合教養科目では、大学が定める登録者数の上限を超えた科目が発生した場合、履修登録の途中でであってもその科目の登録受付を停止することがあります。

登録停止となった科目については、FU ポータルのお知らせを確認してください。

学修基盤科目 データサイエンス・AI 入門について

●科目の概要

インターネットやニュースなどでよく見聞きするようになった「AI」とは何か知っていますか。現在、膨大なデータを収集して傾向などを分析し、社会やビジネスの課題解決につなげることを目指すデータサイエンスやAI（Artificial Intelligence：人工知能）の利活用が盛んになっています。これからはAIの時代とも言われ、文系・理系を問わず大学生のうちに、データサイエンス・AIの知識・技術を学び、素養（デジタル社会の読み・書き・そろばん）を身に付けておくことが求められています。

この科目は、データサイエンス・AIについて学び、そのリテラシー（適切に理解し、活用する力）を習得するための入門科目で、全学部の1年次生が履修できる共通教育科目として2022年度から新たに開講されています。e-Learningを活用し、オンデマンド型で学ぶことができるため、都合の良い時間に受講することができます（受講する曜日・時限は決まっておらず、自ら計画を立てて学んでいきます）。

科目の詳細については、シラバスを参照してください。

※文部科学省が推進する認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に適合する内容となっています。

●身に付けることができる能力

- データサイエンス・AIの必要性を理解し、説明できるようになる
- 社会で活用されているデータ・AI活用の事例について説明できるようになる
- どのような思考方法でデータを扱うかを理解し、説明できるようになる
- データを読み、説明できるようになる
- Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱えるようになる
- データ・AIを扱う上での留意事項を説明できるようになる
- 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢を身に付ける

●e-Learning を活用したオンライン学習の科目

本科目は、オンライン上でe-Learningを使って自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。所定の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学習を進め、また各回の小テストや課題に取り組むことで理解を深めていきます。

●学びを深めるサポート体制

オンラインまたは教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で質問を受け付け、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。

●対象学生

全学部1年次生

●開講学期

前期と後期に開講

●履修登録方法

4月4日(木)～4月5日(金)のweb履修登録期間中に、履修登録画面最下部の「集中講義科目等を選択」ボタンから前期または後期いずれかの科目を選択して登録します。

※履修登録の「撤回」、「後期登録変更」はできませんのでご注意ください。

3 保健体育科目について

本学の保健体育科目は、生涯スポーツ演習と生涯スポーツ論より構成されています。前者は実技と理論による演習形式で、後者は講義形式で実施されます。

生涯スポーツ演習は、学生が様々なスポーツ活動の体験・学習を通して、その楽しさを知るとともに、心身の健康を回復・保持・増進し、学生生活を豊かにすることを目的としています。また、学生が生涯にわたるスポーツ活動の必要性を、健康・体力のみならず、生きがいという面からも理解し、その実践に必要な技能・知識・態度を身につけることも目的としています。

生涯スポーツ論は、学生が本学スポーツ科学部編集のテキスト(『大学生のスポーツと健康生活』)によって、健康の増進に寄与する科学的知識を学ぶとともに、スポーツ活動に関わる自然・人文・社会科学的な理解を深めることで、スポーツ活動を生涯にわたって「行う」「観る」「支える」「調べる」ようになることを目的としています。

こうした保健体育科目での学修を通して、学生が在学期間のみならず、生涯にわたって様々なスポーツ活動に親しみ、健康で充実した生活を送れるようになることを目指しています。

1 登録手続等について

スポーツ科学部以外の学部

<p>生涯スポーツ演習Ⅰ (前期または後期) 生涯スポーツ演習Ⅱ (前期または後期)</p>	<p>1年次生(24台)…授業時間は学科基本クラスごとに指定されています。授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください(但し、医学部医学科を除く)。</p> <p>2年次生以上(23台以前)…本人が所属する学部のいずれかのクラスに登録してください。他の必修科目と授業が重複する等の事情により、他学部のクラスの受講を希望する場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。</p> <p>ただし、前・後期の火曜日2～4時限、前・後期の金曜日1時限、前・後期の金曜日3時限は再履修者は登録できません。</p> <p>[次ページに掲載しているクラス分け一覧を参照してください。] ※授業の第1週目はオリエンテーションを行いますので、第二記念会堂に集合してください。なお、このときトレーニングウェアは不要です。</p>
<p>生涯スポーツ演習Ⅲ(前期) 生涯スポーツ演習Ⅳ(後期) ※理・薬学部のみ</p>	<p>授業時間割で決められた曜日・時限(理学部：火曜2限、薬学部：金曜4限)に登録してください。</p> <p>※授業の第1週目はオリエンテーションを行いますので、第二記念会堂に集合してください。なお、このときトレーニングウェアは不要です。</p>
<p>生涯スポーツ論 (前期または後期)</p>	<p>2年次生(23台)…授業時間は学科基本クラスごとに指定されています。生涯スポーツ論を必修科目としている人文学部、法学部、経済学部、商学部については、授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。なお、別科目の受講を優先する等の事情により2年次生での受講を希望しない場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。</p> <p>生涯スポーツ論を選択科目としている理学部、医学部看護学科、薬学部については、授業時間割で決められた曜日・時限に登録してください。</p> <p>3年次生以上(22台以前)…本人が所属する学部のいずれかのクラスに登録してください。他の必修科目と授業が重複する等の事情により、他学部のクラスの受講を希望する場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。</p> <p>[次ページに掲載しているクラス分け一覧を参照してください。]</p>

スポーツ科学部

生涯スポーツ演習Ⅰ(前期) 生涯スポーツ演習Ⅱ(後期) 生涯スポーツ演習Ⅲ(前期) 生涯スポーツ演習Ⅳ(後期)	授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。詳しくは授業開始前に掲示にてお知らせします。
--	--

生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱクラス分け一覧

時 限	月		火		水		木		金	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	I : CB 1-4 II : CB 5-6	I : CB 5-6 II : CB 1-4	I : JB 1-3 II : JB 4-5	I : JB 4-5 II : JB 1-3	I : JJ 4-6	II : JJ 4-6	I : JJ 1-3 I : MM(20名) I : 保健コース II : 保健コース	II : JJ 1-3 II : MM(20名) I : 保健コース II : 保健コース	II : EE 1-4	I : EE 1-4
2	I : CF 1-2 II : CF 3-4	I : CF 3-4 II : CF 1-2	II : EE 5-8	I : EE 5-8	I : JJ 7-9 I : MM(30名) II : LG・JJ10	I : LG・JJ10 II : JJ 7-9 II : MM(30名)	I : CC 1-3 II : CC 4-6	I : CC 4-6 II : CC 1-3	I : PP 1-2 II : PP 3-6	I : PP 3-6 II : PP 1-2
3	I : SM・SP II : SC・SE	I : SC・SE II : SM・SP	II : EE 9-12 II : MM(10名)	I : EE 9-12 I : MM(10名)	I : TM II : TE	I : TE II : TM	I : EI 1-2 II : EI 3-4 I : GS・GH	I : EI 3-4 II : EI 1-2 II : GS・GH	I : TL 1-2 I : MM(20名) II : TL 3-4	I : TL 3-4 II : TL 1-2 II : MM(20名)
4	I : TA・LP 1 II : TK・LP 2	I : TK・LP 2 II : TA・LP 1	I : LF・LA I : MM(30名) II : MN	I : MN II : LF・LA II : MM(30名)	II : TC	I : TC	I : LC II : LH I : 保健コース II : 保健コース	I : LH II : LC I : 保健コース II : 保健コース	I : LE・LJ	II : LE・LJ

(注1) 前・後期の火曜2～4時限、前・後期の金曜1時限、前・後期の金曜3時限は再履修者は登録できません。

(注2) 前・後期の木曜3限目のGS・GHクラスはスポーツ科学部の学生のみ履修可能。

(注3) 医学部医学科(MM)の新入生は、指定する複数クラス(火曜3時限、火曜4時限、水曜2時限、木曜1時限、金曜3時限)の中から先着順で登録者を決定します。なお、登録要領等については、履修登録ガイダンスの際にお知らせします。

生涯スポーツ論クラス分け一覧

時 限	月		火		水		木		金	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	LC・LH	LJ・LE LP・P	EE 1-3	EE 4-6	EE 7-9	EE 10-12	EI 1-2	EI 3-4	CF 1-2	CF 3-4
2	JJ 1-3	JJ 4-6	CC 1-3 S	CC 4-6 S	JJ 7-8	JJ 9-10	CB 1-3	CB 4-6	JB 1-3	JB 4-5
3	LG・LF・LA MN・P									

2 保健コースについて

- 生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱの履修者のうち、疾患および障がい等のため激しい運動ができない学生を対象とします。
- 保健コースの登録を希望する人は、まず時間割で指定されたクラスに出席してください。第1週目の授業(オリエンテーション)にて面談を行います。その結果、コースの変更が必要と判断された場合は、保健コース(木曜日1時限または4時限)への変更手続きを行います。なお、変更手続きの際に診断書の提出を求めることもあります。

3 その他

- 生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび生涯スポーツ論における前期・後期の登録撤回、および後期の登録変更の取り扱いについては、「共通教育科目の履修登録の撤回および後期開講科目の登録変更につ

いて」(p.54)を参照してください。

- 生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業ではトレーニングウェア(水泳の場合には水着)を着用してください。また、体育館シューズも用意してください。詳しくは授業1週目のオリエンテーションで説明します。
- 令和6年度は、生涯スポーツ演習Ⅱのスキーを実施する予定です。生涯スポーツ演習Ⅱでスキーを選択できるのは、医学部と薬学部を除く学部の3年次生までの学生です。

なお、生涯スポーツ演習Ⅱでスキーを選択する人は実習費として100,000円程度必要になります(実習費は12月に徴収します)。但し、経済状況により実習費は変動することがあります。実習地は山形県蔵王スキー場を予定しています。

4 外国語科目

共通教育科目の外国語科目は、7つの外国語と学部留学生を対象とした日本語（注1）が設置されています。各学部・学科の外国語科目の開講は下表の通りです。

2024年度 外国語科目 学部・学科別開講一覧表

学部・学科		外国語科目			
		第1外国語		第2外国語（注5）	
人文学部	文化学科・歴史学科 日本語日本文学科 教育臨床心理学科 英語学科	英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択必修 (8単位)
	ドイツ語学科	ドイツ語	必修(8単位)	・英語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択必修 (8単位)
	フランス語学科	フランス語	必修(8単位)	・英語・ドイツ語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択必修 (8単位)
	東アジア地域言語学科 (注2)	中国語・朝鮮語・英語……必修(12単位) および選択必修(4単位) 英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語……選択			
法・経済・商学部		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択
商学部第二部 (注3)		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択
理工学部		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択必修 (4単位)
薬学部		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択
医学部	医学科	英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択
	看護学科 (注4)	英語……必修(8単位) ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語 ……選択必修(2単位)			
スポーツ科学部		英語	必修(8単位)	・ドイツ語・フランス語 ・中国語・ロシア語 ・スペイン語・朝鮮語	選択

(注1) 学部留学生を対象とした日本語の取り扱いについては、P. 78「学部留学生のための授業科目「日本語」について」を参照してください。

(注2) 人文学部東アジア地域言語学科については、第1外国語・第2外国語の区別はありません。

(注3) 商学部第二部について、2023年度(23台)以前入学生は、ロシア語・スペイン語を除く4科目が開講されます。

(注4) 医学部看護学科については、第1外国語・第2外国語の区別はありません。

(注5) 第2外国語が、同一言語で4単位以上修得しない場合に、卒業要件単位として認められないことがあります。学部によって取扱いが異なりますので注意してください。

(注6) この他に選択科目として、アドバンスト・イングリッシュ(L(LH, LJ)・S・Mを除く学部)が開講されています。

1 外国語科目の履修登録について

●外国語科目の履修は、下位年次科目から順次登録しなければなりません。

●外国語科目は、履修登録の撤回・後期開講科目の登録変更を認めていません。

※アドバンスト・イングリッシュⅡ（後期科目）のみ、所定の登録人数に達しない場合に限り、登録変更期間に追加登録を行います。追加登録を行う場合は登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。なお、追加登録を行った場合も履修登録の撤回はできません。

●英語の履修登録について

英語には以下の3種類があり（カッコ内は略称）、アドバンスト・イングリッシュ以外は履修するクラスが決まっています。クラスは事前に登録してありますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。

フレッシュマン・イングリッシュ（FE）

インターミディエイト・イングリッシュ（IE）

アドバンスト・イングリッシュ（AE）

- ※1 アドバンスト・イングリッシュは開講される学部・学科・年台が決まっています。授業科目表を参照してください。履修希望者は各自で履修登録が必要です。
- 2 東アジア地域言語学科のFEⅢ・ⅣとIEⅢ・Ⅳは、事前登録を行いませんので各自で履修登録してください。
- 3 人文学部ドイツ語学科とフランス語学科は各自で英語の事前登録を取り消すことができます。
- 4 休学や留年等によりFE・IEの履修年度が遅れた場合は再履修と同様各自で履修登録が必要です。下の「●再履修の履修登録について（2年次生以上）」を読んでください。



履修登録画面の時間割表に事前登録されている英語の科目の④をクリックすると【履修科目の詳細情報】が表示され、クラスを確認することができます。

●その他の外国語の履修登録について

選択する外国語によって、登録するクラスが指定されている科目や、いくつかのクラスの中から選んで登録できる科目、登録できるクラスのペアが定められている科目などがあります。詳細は「3 英語以外の外国語について」（p.77～）を読んでください。

●再履修の履修登録について（2年次生以上）

再履修の場合は、英語・その他の外国語ともに事前登録はしませんので各自で履修登録が必要です。

また、再履修クラスが開講されている科目と、開講されていない科目があります。再履修クラスが開講されていない場合、所属する学部のクラスに登録することを原則としますが、時間割の都合上所属する学部のクラスに登録できない場合は、他の学部のクラスに登録することができます。その場合、自学部の履修登録可能期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きが必要です。

詳細は各語学の説明（p.72～）を読んでください。

●「海外英語研修」

全学部を対象に「海外英語研修」（2単位）を開設しています。応募方法など詳細はp.143の「2 海外研修・海外語学研修」を参照してください。

なお、この科目は研修に参加した翌年度に単位を認定する科目です。

2 英語の履修について

●フレッシュマン・イングリッシュ I～IV（1年次生）

フレッシュマン・イングリッシュ（以下 FE）は前期・後期とも週2回の授業があります。事前に受講するクラスが決められていて、下表の [例1] または [例2] のどちらかのパターンで1年間に3種類の目的別クラスを受講します。

	科目名	例1	例2
前期	FE I	R&L	R&L
	FE III	IA	ESP
後期	FE II	R&L	R&L
	FE IV	ESP	IA

R&L：リーディング&リスニング（前期・後期とも）

ESP：検定対策英語（前期または後期どちらか）

I A：インタラクティブ英語（前期または後期どちらか）

- ※1 人文学部東アジア地域言語学科は FE I・II のみが必修科目ですが、選択科目として FE III・IV を履修することができます。
- 2 医学部医学科の FE I～IV は、すべて前期科目です。
- 3 アスリート特別選抜および留学生クラスの FE I～IV は目的別クラスではありません。

プレイズメントテストについて

インターミディエイト・イングリッシュで受講する目的別クラスを決めるために、授業時間外にプレイズメントテストを実施します。プレイズメントテストを受験しない場合は、受講クラスの希望を受け付けられませんので注意してください。実施については、FE II の授業内および FU ポータルのお知らせで通知します。

●インターミディエイト・イングリッシュ I～IV（2・3年次生）

インターミディエイト・イングリッシュ（以下 IE）I～IV は、学部・学科により履修年次が異なりますので、各学科の年次別授業科目表で履修年次を確認してください。

IE は「目的別クラス選択制」を導入しています。開講クラスは下記のとおりで、プレイズメントテスト受験の際に選択した希望順位をもとに受講クラスが決定され、事前登録されています。IE I～IV すべて同じ種類の目的別クラスを受講します。

R&W：リーディング&ライティング

ESP：検定対策英語

C&O：CALL & オーラル・コミュニケーション

- ※1 人文学部東アジア地域言語学科は IE I・II のみが必修科目ですが、選択科目として IE III・IV を履修することができます。
- 2 医学部医学科の IE I～IV は、すべて1年次の後期科目です。
- 3 アスリート特別選抜および留学生クラスの IE I～IV は目的別クラスではありません。

●アドバンスト・イングリッシュ I・II（3年次生以上、L（LH, LJ）・S・Mを除く学部）

アドバンスト・イングリッシュ（以下 AE）は、I あるいは II のみの受講も可能です。必修科目ではありませんので、履修希望者は履修登録が必要です。なお、AE は TOEIC[®] Listening & Reading Test のスコアが500点以上相当の英語運用能力を有する学生を想定した授業内容となっていますので、500点に満たない場合は、単位の取得が困難となる場合がありますので、注意してください。

●再履修について (FE・IE)

FE と IE を再履修する場合は、再履修者用のクラスを受講するか、下位年次生が受講するレギュラークラス (目的別クラス) で受講するかを選択することができます。

再履修クラスを受講する場合

下記《再履修クラス登録方法》を参照のうえ、自分で履修登録をしてください。

前期卒業する場合

「FE II・IV」および「IE II・IV」は本来後期科目ですが、前期にも各1クラス開講しています。

これらの科目の履修が必要な場合、このクラスに履修登録しなければなりません。

登録人数には定員を設けており、先着順に受け付けますので、早めに履修登録してください。

【注意】上記4クラスの定期試験は二部(夜間部)の時間帯で実施しますので、履修登録時に試験日・時限を必ず確認してください。

※ 医学部医学科の学生(再履修者)は、医学部事務課の窓口で指示を受けてください。

《再履修クラス登録方法》

[1] 下表で、再履修しようとする科目の講義形態を確認してください。

学部によって受講できる講義形態が決まっていますので注意してください。

【英語再履修クラスの講義形態】

学部・学科	科目	講義形態	定期試験日程	講義日程
人文学部 法学部 経済学部 商学部 スポーツ科学部	FE I・III	前期科目	定期試験期間中に実施。	p. 74 [2] へ
	FE II・IV	前期科目	定期試験期間中に 二部の時間帯 で実施。	
		後期科目	定期試験期間中に実施。	
	IE I・III	前期科目	定期試験期間中に実施。	
	IE II・IV	前期科目	定期試験期間中に 二部の時間帯 で実施。	
後期科目		定期試験期間中に実施。		
理・工・薬学部 医学部看護学科	FE I～IV	夏季集中講義	夏季集中講義期間中に実施。	p. 75 [3] へ
	IE I～IV			

※ 工学部社会デザイン工学科の3年次以上で、キャリアデザインを登録する学生は「前期科目」または「後期科目」で受講してください。

[2] 下表で受講するクラスの期別・日程を確認してください。

【再履修クラス】

フレッシュマン・イングリッシュ (FE)

科目	学部 学科	組	期別	曜日	時 限	担 当 者
FE I	L J E C G	再①	前期	火	5	石 垣 恵 一
		再②		水	5	津 村 早 紀
		再③		金	4	伊 藤 益 代
	S T M (M N) P	集中再	前期	集中		井 石 哲 也
FE II	L J E C G	再①	後期	火	5	今 川 京 子
		再②		水	5	毛 利 優 花
		再③		金	4	一 瀬 陽 子
		再④	前期	火	5	平 野 あかり
	S T M (M N) P	集中再	後期	集中		毛 利 史 生
FE III	L J E C G	再①	前期	水	4	高 木 留 美
		再②		木	4	坂 井 隆
		再③		金	5	石 垣 恵 一
	S T M (M N) P	集中再	前期	集中		ク ロ ス
FE IV	L J E C G	再①	後期	水	4	福 原 俊 平
		再②		木	4	津 村 早 紀
		再③		金	5	久 保 佑 輔
		再④	前期	金	5	久 保 佑 輔
	S T M (M N) P	集中再	後期	集中		秋 好 礼 子

インターミディエイト・イングリッシュ (IE)

科目	学部 学科	組	期別	曜日	時 限	担 当 者
IE I	L J E C G	再①	前期	月	4	大 村 孝 紀
		再②		火	4	川 村 真 央
		再③		木	5	渡 部 智 也
		再④		金	4	大 津 敦 史
	S T M (M N) P	集中再	前期	集中		光 富 省 吾
IE II	L J E C G	再①	後期	月	4	園 田 暁 子
		再②		火	4	岩 崎 雅 之
		再③		木	5	秋 好 礼 子
		再④		金	5	船 田 佐 央 子
		再⑤	前期	月	5	福 田 慎 司
	S T M (M N) P	集中再	後期	集中		古 賀 恵 介
IE III	L J E C G	再①	前期	月	5	高 橋 美 知 子
		再②		火	4	田 中 悠 介
		再③		水	4	福 原 俊 平
		再④		木	4	船 田 佐 央 子
	S T M (M N) P	集中再	前期	集中		毛 利 史 生
IE IV	L J E C G	再①	後期	月	5	樋 渡 真 理 子
		再②		火	5	迫 由 紀 子
		再③		水	4	高 木 留 美
		再④		木	4	光 富 省 吾
		再⑤	前期	月	4	園 田 暁 子
	S T M (M N) P	集中再	後期	集中		福 原 俊 平

3月21日(木)からの履修登録期間中に「FUポータル」にログインし、Web履修登録から履修申請をしてください。半期完結の再履修クラスは1クラスあたりの登録人数に定員を設けていて、先着順に受け付けます。登録ができない場合は他の再履修クラスに履修申請してください。

[3] 夏季集中講義について

このクラスを受講できるのは、理・工・薬学部および医学部看護学科の学生のみです。それ以外の学部学生は受講できませんので注意してください。

【夏季集中講義日程】

期別	科目名	期 間	授業時間	試験日・時限
前期	FE I・III IE I・III	8月5日(月)～9日(金)	1時限～3時限 ただし最終日は 1時限～2時限	8月9日3限目 (13:00～14:00)
後期	FE II・IV IE II・IV	9月2日(月)～6日(金)	1時限～3時限 ただし最終日は 1時限～2時限	9月6日3限目 (13:00～14:00)

※ 授業時間 [1時限] 9:00～10:30 [2時限] 10:40～12:10 [3時限] 13:00～14:30

3月21日(木)からの履修登録期間中に「FUポータル」にログインし、Web履修登録の履修申請画面で「集中講義科目等を選択」から受講するクラスを選択し、履修申請してください。各クラスとも登録人数に定員はありませんが、前期と後期1科目ずつしか登録できませんので、**複数の再履修がある場合**、夏季集中講義に登録できない再履修科目は前期科目または後期科目の再履修クラスに履修登録してください。また、履修登録期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きすれば、希望する曜日・時限のレギュラークラスに登録することも可能です。

レギュラークラスで受講する場合

自学部の履修登録可能期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きが必要です。登録できるクラス・人数に定員がありますので、早めに申し出てください。

また、休学等により、当該年次の英語が受講できなかった場合も、レギュラークラスを受講することができます。

- ※1 商学部第二部の学生（再履修者）がレギュラークラスへの登録を希望する場合は、商学部第二部事務課に相談してください。
- 2 再履修者のレギュラークラスへの登録方法については、共通教育センターのホームページ(<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu871/>)に詳しい説明を掲載しています。

TOEIC® L&R の成績による単位認定について

1. 本学入学後に受験した TOEIC® Listening & Reading Test (以下 TOEIC® L&R) の成績により、2024年度履修登録科目の中から下表の通り 4 単位を上限として認定を申請することができます。

認定授業科目 (単位)	TOEIC® L&R 成績	認定上限 単位数	成績標語 評価
フレッシュマン・イングリッシュ I～IV (各 1 単位)	860点以上	4 単位	秀(A) 90点
	730点～859点	3 単位	
インターメディアイト・イングリッシュ I～IV (各 1 単位)	600点～729点	2 単位	
	550点～599点	1 単位	

- ※ 1 単位認定科目は、申請時に履修登録されている上表の認定授業科目の中から認定上限単位数の範囲内で申請者が選択することができます。
- 2 上表の科目を再履修する場合でも単位認定を申請できますが、履修登録をしていなければ申請できませんので、注意してください。なお、再履修は下位年次から順次登録しなければなりません。
- 3 申請後、休学等により登録科目が取り消される場合、TOEIC® により認定された科目がそこに含まれる時は、認定も取り消されます。
- 4 TOEIC® L&R の成績により単位認定された授業科目は、特待生の選考にあたって考慮されません。また、GPA 評価の対象にもなりません。

2. 単位認定の申請受けは、下表の要領で 4 月と 9 月に行います。大学入学後に受験した TOEIC® L&R の成績により単位認定しますので 1 年次生は 4 月に申請することはできませんが、9 月に後期科目の単位認定を申請することができます。

申請期間	2024年 4月11日(木)～4月17日(水)	2024年 9月16日(月)～9月20日(金)
認定科目	2024年度前・後期登録科目の FE と IE	2024年度後期登録科目の FE と IE (再履修の夏季集中講義を除く)
受付場所	文系センター棟 1 階 共通教育センター (受付時間 月～金曜日のうちの授業日 8:50～16:50)	
提出物	(1) TOEIC® L&R の成績による単位認定申請書 (2) 公開テストのデジタル公式認定証を印刷したものと URL または IP テストのスコアレポート (原本)	
対象となる成績	申請日から過去 1 年以内に取得した TOEIC® L&R の成績 (入学前に受験したものは不可)	

- ※ 1 一度単位認定申請に使用した TOEIC® L&R の成績は、申請科目数が認定上限単位数に満たない場合でも再度認定申請に使用することはできません。
- 2 TOEIC® L&R 単位認定に使えるのは、公開テストおよび対面で実施された IP テストの成績です。IP テストは本学内でキャリアセンターが実施しており、団体価格で受験できます。なお、IP テスト (オンライン) のテスト結果は単位認定には使用できません。
- 3 共通教育外国語科目は、後期開講科目の履修登録を変更することはできませんので、9 月に単位認定を申請できる科目は、前期開講前に履修登録した後期登録科目に限ります (夏季集中講義については、9 月に単位認定を申請することはできません)。
- 4 商学部第二部の学生に限り、申請期間中の受付時間内に申請ができない場合は、商学部第二部事務課の窓口事務時間内に提出物を提出してください。後日共通教育センターより申請の可否について連絡します。なお、申請期間以外の申請は受け付けません。
- 5 デジタル公式認定証を利用する申請には、スマートフォン等モバイル端末を窓口を持参してください。

3. TOEIC® L&R の成績による単位認定を受けた者が、その後更に上位の成績を取得した場合には再度単位認定を申請することができます。ただし、認定上限単位数から既に認定を受けた単位数を差し引いた単位数までしか申請できません。

4. IE III・IV が 3 年次科目の場合 (理学部・工学部・スポーツ科学部) は、2 年次に 730 点以上の成績で IE I・II を認定申請する場合に限り、認定上限単位数内で 3 年次の IE III・IV も同時に認定申請することができます。その場合 IE III・IV は 3 年次に履修登録 (事前登録) したうえで単位認定しますので、IE III・IV の開講曜日・時限に別の科目を登録することはできません。また、3 年次に進級できなかった場合は、IE III・IV の申請は取り消されます。

5. TOEIC® L&R の成績による単位認定の詳細および申請用紙は共通教育センターのホームページに掲載しています。

【共通教育センターのホームページ】 <http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu871/>

3 英語以外の外国語について

- 英語以外の外国語には、**1年次開講科目の「I A・I B」**（医学部看護学科は「I」のみ）と**2年次開講科目の「II A・II B」**があります。p. 70の「2024年度 外国語科目 学部・学科別開講一覧表」および以下の説明を参考に受講科目を決めて、履修申請してください。
- 商学部第二部の2023年度（23台）以前入学生については、夜間部で各外国語の「I」と「II」が開講されますが、夜間部での開講は2024年度が最後となりますので注意してください。
- 商学部第二部（23台以前）で開講される各外国語の「I・II」と医学部看護学科で開講される各外国語の「I」は、週1回授業が行われる通年科目です。
- クラス指定がある外国語で、指定のクラスに登録できない等英語以外の外国語の登録について不明な点があれば、当該学生の履修登録期間中の窓口が開いている時間に共通教育センター（文系センター棟1階）で相談してください。
- 制限科目登録日に履修登録が必要な科目はありません。**
所属する学部・学科の履修登録期間中に履修申請してください。なお、定員に達して履修申請を行うことができない場合は、他の外国語を履修申請してください。

(1) I A・I Bについて

- 各外国語の I A・I B は、**1年次に履修登録する場合は必ず両科目とも登録してください。片方だけの登録は認められません。**また、登録できるクラスは学科基本クラスにより指定されています。p. 128以降の各外国語の「クラス別担当者一覧」を参照してください。
 - ※ 1 日本語は開講されているクラスが複数ある場合は、その中から登録するクラスを選択できます。ただし、I A・I Bは同じクラスの I A・I Bに登録しなければなりません。
 - 2 FUポータルで履修申請をする際に、I A・I Bのいずれか片方だけ選択して申請ボタンをクリックしても、エラーとなり登録できません。I A・I Bとも選択した状態で申請ボタンをクリックして登録してください。
- 英語以外の外国語科目は、同一外国語の I A（2単位）と I B（2単位）の計4単位を取得しなければ外国語科目として卒業要件単位に算入されません。なお、学部・学科によっては英語以外の外国語科目で2単位のみ取得した場合に自由履修単位として卒業要件に算入する場合があります。
- 英語以外の外国語科目は通年科目**です。
 - ※ 人文学部ドイツ語学科の「ドイツ語 I A（前期）」・「ドイツ語 I B（後期）」、フランス語学科の「フランス語 I A（前期）」・「フランス語 I B（後期）」、東アジア地域言語学科の「中国語 I A（前期）」・「中国語 I B（後期）」と、「朝鮮語 I A（前期）」・「朝鮮語 I B（後期）」はそれぞれ週2回授業が行われ、前期または後期完結になります。

(2)ⅡA・ⅡBについて

○「ⅡA・ⅡB」は、人文学部東アジア地域言語学科の中国語・朝鮮語を除き、それぞれ週1回授業が行われる通年科目で、登録するクラスが指定されています。p.128以降の各外国語の「クラス別担当者一覧」を参照してください。

※1 理学部・工学部はⅡAまたはⅡBのいずれか一方しか登録できません。

2 ⅡA・ⅡBは、ⅠA・ⅠBの内容を修得していることを前提に授業が行われます。

○東アジア地域言語学科の中国語と朝鮮語は、ⅡA・ⅡBとも週2回授業が行われる前期または後期完結科目です。

○人文学部は、ⅠA・ⅠBを修得した外国語のⅡA・ⅡB両方の単位を修得しなければ第2外国語に関する卒業要件を満たすことができません。所属する学科の指定クラスで登録してください。ただし、時間割の都合上所属するクラスでの履修ができない場合は、他のクラスに登録できます（ただし同じクラスのⅡA・ⅡBに登録しなければなりません）。

※ ドイツ語のLGクラス、フランス語のLFクラス、中国語のLAクラス、朝鮮語のLAクラスへの登録は、指定の学科に限られます。

○人文学部以外の学部は、ⅡA・ⅡBのどちらか1つだけ履修することも可能です。時間割の都合で所属する学部のクラスに登録できない、または、所属する学部クラスが開講されていない場合は、前項の※にあるクラス以外の人文学部のクラスに登録できます。

(3)再履修について

○再履修者は、各科目の所属する学部のクラスに登録することを原則としますが、時間割の都合上所属する学部のクラスに登録できない場合は、他の学部のクラスに登録できます（p.128～参照）。ただし、ⅠA・ⅠBまたはⅡA・ⅡBを同時に再履修する場合は、同じクラスのⅠA・ⅠBまたはⅡA・ⅡBに登録してください。

※ ドイツ語のLGクラス、フランス語のLFクラス、中国語のLAクラス、朝鮮語のLAクラスへの登録は、指定の学科に限られます。

学部留学生のための授業科目「日本語」について

学部留学生は、外国語科目（「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「朝鮮語」、「スペイン語」、「ロシア語」）のうち、自らの母語である言語を外国語科目として履修することができません。母語である言語が必修科目に指定されている場合は下記の「日本語」を履修し、所定の単位を修得することで、8単位を限度として当該外国語科目の単位を修得したものとして取り扱います。

また、上記外国語科目に母語が含まれない学部留学生が「日本語」を履修し単位を修得した場合は、その単位を第2外国語の単位として取り扱います。

1年次 日本語ⅠA（通年2単位）、日本語ⅠB（通年2単位）

2年次 日本語ⅡA（通年2単位）、日本語ⅡB（通年2単位）

5 単位互換科目について

福岡市の西部地区に位置する五大学（九州大学、中村学園大学、西南学院大学、福岡歯科大学および本学）連携事業の一環として、各大学の授業を相互に開放し、単位を認定する「単位互換制度」を実施しています。これは、他大学のキャンパスで、他大学の開講科目を受講できる制度となっています。この制度に則った他大学の受講科目を「単位互換科目」と言います。

出願資格は、2年次生以上となっています。また、学部によって単位の認定についての詳細が異なりますので、履修希望者は、FUポータルあるいは窓口で配布する履修者募集要項を確認してください。詳しくは、3月中旬にFUポータルに掲示します。

※学修ガイド「福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程」(p. 271～272)を参照。

6 試験について

定期試験を実施しない授業科目

下記科目については、定期試験期間中に試験は実施しません。

各科目の成績評価方法については、シラバスで必ず確認したうえで履修申請を行ってください。

(1) 総合教養科目

- ①「教養ゼミ」の科目（※p. 61～62の表4を参照）
- ②化学実験・物理学実験・生物学実験
- ③データサイエンス・AI入門
- ④下表の科目

No.	科 目 名	担当者	開講期別	曜日	時限
1	図形情報	奈尾 信英	後期	木	4
2	哲学A	大西 克智	前期	木	2
3	哲学A	大西 克智	前期	木	3
4	哲学B	大西 克智	後期	木	2
5	哲学B	大西 克智	後期	木	3
6	論理学A	林 誓雄	前期	火	4
7	論理学A	林 誓雄	前期	水	2
8	論理学A	林 誓雄	前期	金	3
9	論理学A	林 誓雄	前期	金	2
10	論理学B	林 誓雄	後期	火	4
11	論理学B	林 誓雄	後期	水	2
12	論理学B	林 誓雄	後期	金	3
13	論理学B	林 誓雄	後期	金	2
14	宗教学B	飯嶋 秀治	後期	木	1
15	日本史通論A	久保 知里	前期	月	4
16	日本史通論B	久保 知里	後期	月	4
17	外国史通論A	森 丈夫	前期	水	5
18	外国史通論B	森 丈夫	後期	水	5
19	人文地理学	近藤 祐磨	後期	火	1
20	アジアの文学A	間 ふさ子	前期	金	1
21	アジアの文学A	何 憶鶴	前期	水	1
22	アジアの文学B	何 憶鶴	後期	水	1
23	経済学A	楊 光洙	前期	火	4
24	経済学A	楊 光洙	前期	火	5

IV. 履修の手引

No.	科 目 名	担当者	開講期別	曜日	時限
25	経済学B	楊 光洙	後期	火	4
26	経済学B	楊 光洙	後期	火	5
27	教育論A	中世古貴彦	前期	火	4
28	教育論B	中世古貴彦	後期	木	4
29	地理学A	近藤 祐磨	前期	金	2
30	地理学A	近藤 祐磨	前期	金	4
31	地理学B	近藤 祐磨	後期	金	3
32	地理学B	近藤 祐磨	後期	金	5
33	心理学A	大上 渉	前期	火	3
34	心理学A	大上 渉	前期	火	4
35	心理学B	大上 渉	後期	火	3
36	心理学B	大上 渉	後期	火	4
37	法律学概論	畑中 久彌	後期	金	5
38	地誌学	近藤 祐磨	前期	月	二部2
39	福岡大学で考える現代社会	岩山 隆寛	前期	木	5
40	福岡大学で考える現代社会 文系	熊丸 憲男	後期	火	4
41	福岡大学で考える現代社会 理系	熊丸 憲男	後期	火	4
42	福岡大学で考える現代社会	鈴木 学	後期	火	2
43	福岡大学で考える現代社会	鈴木 学	後期	火	3
44	福岡大学で考える現代社会	須長 一幸	前期	金	2
45	福岡大学で考える現代社会	須長 一幸	後期	月	5
46	福岡大学で考える現代社会	橋場 論	前期	水	5
47	福岡大学で考える現代社会	安井 英俊	前期	火	4
48	福岡大学で考える現代社会	安元 佐和	前期	木	5
49	福大生のためのキャリアデザイン	植上 一希	前期	火	1
50	福大生のためのキャリアデザイン	植上 一希	前期	火	2
51	アカデミックスキルズゼミⅠ	紺田 広明	前期	火	5
52	アカデミックスキルズゼミⅠ	道山 治延	前期	木	1
53	アカデミックスキルズゼミⅡ	吉田 秀幸	後期	木	1
54	アカデミックスキルズゼミⅡ	鈴木 学	後期	火	5
55	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	前期	火	3
56	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田 暢	後期	木	2

(2) 保健体育科目


生涯スポーツ演習Ⅰ 生涯スポーツ演習Ⅱ
生涯スポーツ演習Ⅲ 生涯スポーツ演習Ⅳ 生涯スポーツ論

(3) 課程科目

課程科目のうち定期試験を実施しない授業科目についての留意事項は、別冊『教職課程・博物館学芸員課程・社会教育主事課程 履修の手引』を参照してください。

(4) 外国語科目

- ①英語科目 (FEⅢ・ⅣのIAクラス、IEⅠ～ⅣのC&Oクラス、左記以外で授業シラバスの試験実施欄に「無し」と記載されているクラス)
- ②ドイツ語科目 (※LGクラスを除く ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語ⅠA・ⅠB、ドイツ語ⅡA・ⅡB)
- ③フランス語科目 (※LFクラスを除く フランス語Ⅰ・Ⅱ、フランス語ⅠA・ⅠB、フランス語ⅡA・ⅡB)
- ④中国語科目 (※LAクラスを除く 中国語Ⅰ・Ⅱ、中国語ⅠA・ⅠB、中国語ⅡA・ⅡB)
- ⑤スペイン語科目 (スペイン語Ⅰ、スペイン語ⅠA・ⅠB、スペイン語ⅡA・ⅡB)

 上記の「定期試験を実施しない授業科目」については、追試験・再試験を実施しません。

商学部留意事項

商 学 部

1 登録制限単位数（上限）	… 81
2 試験（専門・関連教育科目）	… 81
3 週2回講義科目	… 83
4 「卒業要件単位・年次別授業科目表」の早見表	… 83
5 自学科およびプログラム生のみ履修できる専門教育科目	… 83
6 登録制限科目等（専門・関連教育科目）	… 84
7 2年専門ゼミナール（23台）	… 91
8 専門・関連教育科目における登録撤回・後期登録変更の取扱い	… 92
9 関連教育科目（他学部の授業科目）	… 92
10 前期卒業（20台以前）	… 95
11 履修登録日程	… 95
12 既修得単位の認定	… 96

1 登録制限単位数（上限）

《2024年度に登録できる単位数（登録上限単位数）》

学科等	年次(年台)	1年次(24台)	2年次(23台)	3年次(22台)	4年次(21台以前)
商・経営・貿易		42単位	42単位	42単位	46単位
会計専門職プログラム		48単位	48単位	48単位	46単位

（※学科履修規程の第5条第4項を参照してください）

なお、教職課程科目は上表の単位数には含まれません。

2 試験（専門・関連教育科目）

●定期試験を実施しない科目

下記の「①ゼミナール・演習・実習、その他これに準ずる科目」と「②開講期間内評価科目」については、定期試験期間中に試験を実施しません。

（成績考査規程第2条の2第2項を適用）

※成績評価基準および方法については、「WEBシラバス」で必ず確認してください。

①ゼミナール・演習・実習、その他これに準ずる科目

〔専門教育科目〕

※（ ）内サブタイトル表記がある場合は当該クラスのみ

- | | |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 商学基礎ゼミナール | <input type="checkbox"/> クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ |
| <input type="checkbox"/> 経営基礎ゼミナールⅠ | <input type="checkbox"/> クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ |
| <input type="checkbox"/> 経営基礎ゼミナールⅡ | <input type="checkbox"/> クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ |
| <input type="checkbox"/> 貿易基礎ゼミナール | <input type="checkbox"/> クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ |
| <input type="checkbox"/> ステップアップゼミナール | <input type="checkbox"/> ビジネス英会話初級 |
| <input type="checkbox"/> 特別ゼミナールA | <input type="checkbox"/> ビジネス英会話中級Ⅰ |

- 特別ゼミナールB
- 2年基礎ゼミナール
- 2年専門ゼミナール
- 3年専門ゼミナールI
- 3年専門ゼミナールII
- 論文ゼミナール
- 情報表現技術
- 海外交流ゼミナール
- 外書講読I A
- 外書講読A I
- 外書講読I B
- 外書講読A II
- 外書講読II A
- 外書講読B I
- 外書講読II B
- 外書講読B II
- 外書講読上級A
- 外書講読上級B
- ビジネス英会話中級II
- ビジネス英会話上級I
- ビジネス英会話上級II

〔関連教育科目〕

- 経済学のための情報技術

②開講期間内評価科目

〔専門教育科目〕

※（ ）内サブタイトル表記がある場合は当該クラスのみ

- キャリアデザイン
- 特別講義A (CMP)
- 広告コミュニケーション
- 社会的企業論
- 経営特別講義A
- 経営特別講義B
- 経営特別講義D
- クリエイティブ・マネジメント論
- プロジェクト・マネジメント論

●再試験を実施しない科目

上記の「定期試験を実施しない科目」については、再試験を実施しません。

●集中講義科目の試験

集中講義科目の試験は、集中講義期間中（試験日時等は後日掲示）に実施します。登録を希望する学生は、履修登録画面の最下部にある【集中講義科目等の登録科目】の「集中講義科目等を選択」ボタンから申請してください。

なお、期間が重複する科目は同時に登録することはできません。

《集中講義科目》

(専門教育科目)

年次	学科	科目名	担当者	期別	期間(予定)	試験(予定)
2	CF (CC・CB)	貿易特別講義B (商社のアントレプレナーシップと日本貿易)	保田 明子	後期集中	9月2日(月) ～9月6日(金)	9月6日(金)

3 週2回講義科目

● 同時登録

半期〔前期または後期〕完結として開講される4単位（第2外国語は2単位・論文ゼミナールは6単位）の科目は、週2回（2コマ）の受講が必須です。

「授業時間割」（別紙）ではペアになるコマの「曜日－時限」を【 】内に表記しています。

4 「卒業要件単位・年次別授業科目表」の早見表

各学科（24台のみ）ごとの「卒業要件単位・年次別授業科目表」（早見表 p. 120～125）を学科履修規程を基に作成しましたので、履修登録時の参考にしてください。

〔※各学科・年台ごとの「卒業要件単位・年次別授業科目表」については、学科履修規程（p. 172～219）を参照してください。〕

5 自学科およびプログラム生のみ履修できる専門教育科目

商学科・経営学科・貿易学科の学生は、自学科に開講されていない他学科開講の専門教育科目を履修できるようになっていますが、下表の科目については自学科および、プログラム生のみが履修できる専門教育科目となります。

◎自学科生のみが履修できる専門教育科目

学科	科目名	単位	年次	備考
商学科	商学基礎ゼミナール	2	1	
経営学科	経営基礎ゼミナールⅠ	2	1	
	経営基礎ゼミナールⅡ	2	1	
貿易学科	貿易基礎ゼミナール	2	1	
	ステップアップゼミナール	2	1	
	△貿易入門A	2	1	
	△貿易入門B	2	1	
	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2	2・3・4	
	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2	2・3・4	
	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2	3・4	
ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2	3・4		

◎会計専門職プログラム、クリエイティブ・マネジメント・プログラムおよび高校商業・情報科教員育成プログラム学生のみが履修できる科目

科目名	単位	備考
○●☆2年基礎ゼミナール	2	○印の科目は、会計専門職プログラムの学生が履修可 ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生が履修可 ☆印の科目は、高校商業・情報科教員育成プログラムの学生が履修可
● クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	
● クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	
● クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2	
● クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2	

6 登録制限科目等（専門・関連教育科目）

次の「登録制限科目」等については、講義の教育効果を高めるために登録者数を制限します。希望者は科目ごとの注意事項および要領等に従い申請してください。

※「登録制限科目」について、一度登録が完了するとその後の削除はできません。「授業時間割」や「試験時間割」の重複などに注意のうえ、慎重に選択してください。

ただし、開講後の登録撤回は可能です。登録撤回については p. 48を確認してください。

なお、登録制限科目ではないものの、商学部が定めた所定の登録者数の上限を超えた科目については登録を制限する場合があります。

● 1年次生（24台）の制限科目について（p. 84～85）

「登録制限科目」については、『学修ガイド』の「履修登録の手引」p. 12～13「8 制限科目（抽選・先着順）を申請する」を参照し登録してください。選考方法が抽選の場合、抽選が外れた時は、その科目を必ず削除してください。

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間・結果発表	備考
1	◎	キャリアデザイン	門田 良明/ 白梅 英子	後期	水	1	100	抽選	●申込期間 4月3日(木) 9:00～12:00 ●結果発表 4月3日(木)17:00	定員に満たない場合は、 4月4日(木)16:20から Web履修登録画面上 で追加募集を行います (先着順)。
1	◎	特別講義A (キャリア形成入門)	森脇 淳子	前期	木	1	25			
1	◎	特別講義B (キャリア形成を考える)	森脇 淳子	後期	木	1	25			
1	◎	会社簿記	飯塚 雄基	後期	火 金	1 2	200			
1	◎	原価計算論	田坂 公	後期	月 木	4 5	100			
1	(CB・CF)	保険論入門	植村 信保	前期	月	3	100			
1	CC・CF	経営入門	中川 誠士	前期	月	4	100			
1	CC・CF	経営学総論	猿田 冬樹	後期	月	1	100			
1	(CC・CF)	経営戦略論	合力 知工	前期	水	2	50			
1	(CC・CF)	経営心理学	門田 良明	前期	水	1	50			

注意が必要な制限科目（備考を参照。）

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間・結果発表	備考
1	CB(CC・CF)	経営特別講義A (デザインと経営)	吉川 伸彦	前期	金	5	10	抽選	●申込期間 4月3日(水) 9:00~12:00 ●結果発表 4月3日(水)17:00	本講義は科目の性質上、A・Bともに履修する必要があります。履修を希望する場合は経営特別講義Aの抽選に申し込みを行ってください。当選した場合、経営特別講義Bも自動的に登録されます。 ※抽選に申し込む場合は、経営特別講義Bの曜日・時限には科目を登録しないでください。既に別の科目が登録されていた場合、経営特別講義Aに当選したとしても経営特別講義Bを履修することはできません。
1	CB(CC・CF)	経営特別講義B (デザインと経営)	吉川 伸彦	後期	木	5	10			

● 1年次生（24台）に対する注意事項

- 商学基礎ゼミナール〔商学科(CC)〕
- 経営基礎ゼミナールⅠ〔経営学科(CB)〕
- 経営基礎ゼミナールⅡ〔会計専門職プログラム〕
- 貿易基礎ゼミナール〔貿易学科(CF)〕について

- 1年次生（24台）のみを対象とした、少人数で行われる授業です。
- 事前登録されていますので、Web履修登録画面にて確認してください。

● 情報表現技術について

- この科目は、パソコン初心者向けの情報処理関連の入門科目です。
- 事前登録されていますので、Web履修登録画面にて確認してください。

● ビジネス英会話初級について

- 貿易学科学生は事前登録されていますので、Web履修登録画面にて確認してください。
- 商学科・経営学科学生が履修を希望する場合は、履修登録期間内に各自で登録してください。

● 2年次生以上（23台以前）の制限科目について（p. 86～90）

【外書講読関連科目】

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間・結果発表	備考
2 5	◎ ◎	外書講読ⅠA 外書講読AⅠ	長谷川 伸子	前期	水	4	各20	抽選	●申込期間 3月21日(水)11:00～ 3月22日(木)13:00 ●結果発表 3月23日(金)12:00 (Web履修登録画面上)	定員に満たない場合は、 3月25日(月)9:00から Web履修登録画面上 で追加募集を行います (先着順)。
			鮑 慧		火	2				
			木幡 伸二		火	2				
			山本 和人		月	5				
			深川 博史		月	2				
2 5	◎ ◎	外書講読ⅠB 外書講読AⅡ	長谷川 伸子	後期	水	4	各20			
			鮑 慧		火	2				
			山本 和人		月	5				
			深川 博史		月	2				
			山口 夕妃子		木	5				
			李 錦東		金	4				
3 5	◎ ◎	外書講読ⅡA 外書講読BⅠ	陶 怡敏	前期	木	2	各20			
			長谷川 伸子		水	5				
			鮑 慧		水	2				
			アキコ、キチコ、アツ		月	3				
			大石 恵		水	2				
3 5	◎ ◎	外書講読ⅡB 外書講読BⅡ	陶 怡敏	後期	木	2	各20			
			長谷川 伸子		水	5				
			鮑 慧		水	2				
			大石 恵		水	2				
			林 裕		木	4				
3	◎	外書講読上級A	ホフカリストアワー-ジョブ	前期	金	5	20			
3	◎	外書講読上級B	ホフカリストアワー-ジョブ	後期	金	5	20			

【その他制限科目（抽選）】

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間・結果発表	備考
2	◎	情報表現技術	押本 則子	前期	月	2	各5	抽選	●申込期間 3月21日(木)11:00~ 3月22日(金)13:00 ●結果発表 3月23日(土)12:00 (Web履修登録画面上)	定員に満たない場合は、 3月25日(月)9:00から Web履修登録画面上 で追加募集を行います (先着順)。
				後期	月	2				
2	◎	特別講義A(キャリア形成入門)	森脇 淳子	前期	木	1	25			
2	◎	特別講義B(キャリア形成を考える)	森脇 淳子	後期	木	1	25			
2	CB(CC・CF)	経営戦略論	合力 知工	前期	水	2	250			
2	CB(CC・CF)	企業戦略論	合力 知工	後期	木	5	300			
2	CB(CC・CF)	経営心理学	門田 良明	前期	水	1	250			
2	◎	原価計算論	田坂 公	後期	月	4	200			
					木	5				
2	◎	特別講義C(データサイエンス)	太宰 潮	後期	水	2	25			
2	◎	特別講義C(キャリア形成実践Ⅰ)	門田 良明	前期	金	1	30			
2	◎	特別講義D(キャリア形成実践Ⅱ)	門田 良明	後期	金	1	30			
2	◎	会社簿記	飯塚 雄基	後期	火	1	100			
					金	2				
2	◎	財務会計論	渡辺 剛	後期	水	2	300			
2	◎	財務会計論	飯塚 雄基	前期	火	2	300			
2	(CB・CF)	保険論入門	植村 信保	前期	月	3	200			
2	CC(CB・CF)	リスクマネジメント論	植村 信保	後期	火	5	300			
2	(CB・CF)	保険論	植村 信保	前期	火	5	300			
2	CC・CB(CF)	情報産業論	弘津 真澄	前期	月	4	300			
2	CC・CB(CF)	情報社会論	福澤 勝彦	後期	水	3	300			
2	CC・CF(CB)	市場分析論	福澤 勝彦	後期	水	4	300			
2	CC(CB・CF)	マーケティング論	村上 剛人	後期	火	4	300			
2	CC	マーケティング戦略論	村上 剛人	前期	火	4	300			
2	CB(CF)	マーケティング戦略論	村上 剛人	前期	金	4	300			
2	CC・CB(CF)	マーケティングリサーチ	杉本 宏幸	後期	金	5	45			
2	CC(CB・CF)	マーケティングデータ解析	太宰 潮	後期	木	2	40			
2	CC(CB・CF)	消費者行動論	太宰 潮	前期	木	3	180			
2	CC(CB・CF)	サプライチェーンマネジメント	陶 怡敏	後期	火	5	50			
2	CC(CB・CF)	広告コミュニケーション	明神 雅也	後期	火	5	60			
2	CC(CB・CF)	生活保障論	伊藤 豪	後期	月	3	300			
2	CC(CB・CF)	交通経済論	鈴木 裕介	後期	木	3	300			
2	CC(CB・CF)	金融論	中塚 晴雄	前期	金	2	300			
2	CC(CB・CF)	金融政策論	中塚 晴雄	後期	金	2	300			
2	CC(CB・CF)	証券市場論	田中 義孝	前期	金	1	300			
2	CC(CB・CF)	証券と金融	田中 義孝	後期	金	1	300			
2	CB(CC・CF)	クリエイティブ・マネジメント論	和田 剛明	後期	水	2	35			
2	CB(CC・CF)	プロジェクト・マネジメント論	貝増 匡俊	前期	金	1	30			
2	CB(CC・CF)	プロジェクト・マネジメント論		前期	金	2	30			
2	CC・CF	経営入門	中川 誠士	前期	月	4	200			
2	CC・CF	経営学総論	猿田 冬樹	後期	月	1	200			
2	CB(CC・CF)	企業論	真木 圭亮	後期	月	4	300			
5	CB(CC・CF)	企業行動論								
2	CB(CC・CF)	国際経営論	横井 克典	前期	月	5	300			
2	CB(CC・CF)	地域経営論	木藤 亮太	前期	金	2	300			
5	CB(CC・CF)	九州の経済・経営A								
2	CB(CC・CF)	税と生活	高橋 秀至	前期	火	3	300			
2	CB(CC・CF)	会計情報システム論	平川 茂	前期	木	1	40			
2	CB(CC・CF)	会計情報システム論		後期	木	1	40			

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間・結果発表	備考
2	(CC・CB)	貿易商務論A	田代 安彦	前期	水	3	300	抽選	●申込期間 3月21日(木)11:00～ 3月22日(金)13:00 ●結果発表 3月23日(土)12:00 (Web履修登録画面上)	定員に満たない場合は、 3月25日(月)9:00から Web履修登録画面上 で追加募集を行います (先着順)。
2	(CC・CB)	貿易商務論B	田代 安彦	後期	水	3	300			
2	CF	ビジネスコミュニケーション実務初級I	岡 陽子	前期	月	3	45			
2	CF	ビジネスコミュニケーション実務初級II	岡 陽子	後期	月	3	45			
2	CF(CC・CB)	ビジネス英会話中級I	野間 ローラメイ	前期	水	3	30			
2	CF(CC・CB)	ビジネス英会話中級II	野間 ローラメイ	後期	水	3	30			
2	CF(CC・CB)	海上保険論A	五十部 沢	前期	木	4	300			
2	CF(CC・CB)	海上保険論B	五十部 沢	後期	木	4	300			
2	CF(CC・CB)	アメリカ経済論I	掛下 達郎	前期	月	1	300			
2	CF(CC・CB)	アメリカ経済論II	掛下 達郎	後期	月	1	300			
2	CF(CC・CB)	海外直接投資論	大石 恵	前期	木	2	300			
2	CF(CC・CB)	グローバル企業論	大石 恵	後期	木	2	300			
2	CF(CC・CB)	貿易史	大石 恵	前期	水	1	300			
2	CF(CC・CB)	国際マーケティング論A	山口 夕妃子	前期	木	5	300			
2	CF(CC・CB)	国際マーケティング論B	山口 夕妃子	後期	木	4	300			
3	◎	情報システム論	福永 良浩	前期	木	5	45			
				後期	木	5	45			
3	◎	マルチメディア概論	永島 徹	前期	木	5	45			
3	◎	特別講義E(観光経済事情)	天羽 俊夫	後期	金	4	300			
3	CF(CC・CB)	ビジネス英会話上級I	スキャンロン,アラン	前期	水	3	25			
3	CF(CC・CB)	ビジネス英会話上級II	スキャンロン,アラン	後期	水	3	25			
3	CF	ビジネスコミュニケーション実務上級I	田代 安彦	前期	水	5	30			
3	CF	ビジネスコミュニケーション実務上級II	岡 陽子	後期	月	4	30			

注意が必要な制限科目 (備考を参照)

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間・結果発表	備考
2	CB(CC・CF)	経営特別講義A (デザインと経営)	吉川 伸彦	前期	金	5	20	抽選	●申込期間 3月21日(木)11:00～ 3月22日(金)13:00 ●結果発表 3月23日(土)12:00 (Web履修登録画面上)	本講義は科目の性質上、 A・Bともに履修する必 要があります。履修を 希望する場合は経営特 別講義Aの抽選に申 し込みを行ってくださ い。当選した場合、経 営特別講義Bも自動 的に登録されます。 ※抽選に申し込む場 合は、経営特別講義B の曜日・時限には科目 を登録しないでくださ い。既に別の科目が登 録されていた場合、経 営特別講義Aに当選 したとしても経営特別 講義Bを履修するこ とはできません。
2	CB(CC・CF)	経営特別講義B (デザインと経営)	吉川 伸彦	後期	木	5	20			

【その他制限科目（先着順）】

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	登録受付日時	備考						
2	©	情報処理入門	弘津 真澄	前期	木	1	各45	先着順	●申込期間 3月22日(金)10:00~ 3月23日(土)12:00 ※受付期間終了後 定員に満たない場合は、 3月25日(月)9:00 からWeb履修登録 画面上で追加募集を 行います(先着順)。	「入門」と「基礎」は 同じ担当者でそれぞれ 登録してください。 【注意】 「入門」を登録した だけでは「基礎」は登録 されません。 ※諸原担当の情報処理 入門・基礎はBYOD 科目として一般教室で 実施します。PCを所 有していない方は諸原 以外の担当者のクラス に申し込みを行って ください。						
			井田 貴志		火	1										
			諸原 真樹		火	2										
			後期	火	2											
2	©	情報処理基礎	弘津 真澄	後期	木	1	各45				先着順	●受付期間 3月21日(木)10:00~ 3月23日(土)23:59 ※受付期間終了後 定員に満たない場合は、 3月25日(月)9:00 からWeb履修登録 画面上で追加募集を 行います(先着順)。	左記の科目は一部の教 職免許状において必須 の科目です。先着順の ため履修希望者は早 めに登録をしてください。 なお、制限科目登録期 間内に定員を満たした 場合は、教職希望者の み履修を認めることが あるので教職課程教育 センターまで相談して ください。			
			井田 貴志		火	1										
			諸原 真樹		火	2										
			後期	火	3											
2	CF(CC・CB)	概説日本史	久保 知里	前期	月	5	170							先着順	●受付期間 3月21日(木)10:00~ 3月23日(土)23:59 ※受付期間終了後 定員に満たない場合は、 3月25日(月)9:00 からWeb履修登録 画面上で追加募集を 行います(先着順)。	左記の科目は一部の教 職免許状において必須 の科目です。先着順の ため履修希望者は早 めに登録をしてください。 なお、制限科目登録期 間内に定員を満たした 場合は、教職希望者の み履修を認めることが あるので教職課程教育 センターまで相談して ください。
2	CF(CC・CB)	概説外国史	森 丈夫 山根 直生	後期	金	5	170									
2	CF(CC・CB)	概説社会学	森 康司	前期	木	5	170									

【関連教育科目の制限科目】

下記の科目は、申込期間・結果発表時間等異なるので注意してください。

●人文学部

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	登録受付日時	備考
2	CF	概説哲学	広川 明	後期	火	5	170	先着順	●受付期間 3月21日(木)10:00~ 3月23日(土)23:59	定員に満たない場合 は、3月25日(月)9:00 からWeb履修登録 画面上で追加募集を 行います(先着順)。

※上記の科目は一部の教職免許状において必須の科目です。先着順のため履修希望者は早めに登録をしてください。
なお、制限科目登録期間内に定員を満たした場合は、教職希望者のみ履修を認めることがあるので教職課程教育センターまで相談してください。

● 法学部

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間・結果発表	備考
2	◎	国際関係論	松山 祐平	後期	月 木	1 4	30	抽選	●申込期間 3月21日(木)9:00~ 3月23日(土)10:00 ●結果発表 3月25日(月)9:00	定員に満たない場合は、3月25日(月)9:00からWeb履修登録画面上で追加募集を行います(先着順)。
2	◎	政治学原論	廣澤 孝之	前期	月 火	2 3	30			
2	◎	刑法I	石川 友佳子	後期	火 水	3 2	30			
2	◎	アジア法	李 黎明	前期	月	4	30			
2	◎	ベンチャー起業と法	平澤 卓人	後期	月	5	30			
3	◎	国際法総論	萩原 一樹	前期	火 金	3 1	30			
3	◎ ◎	税法I A 税法I (19台以前)	芳賀 真一	前期 通年	月	4	30			
3	◎ ◎	税法I B 税法I (19台以前)	芳賀 真一	後期 通年	月	4	30			
3	◎ ◎	税法II A 税法II (19台以前)	芳賀 真一	前期 通年	月	5	30			
3	◎ ◎	税法II B 税法II (19台以前)	芳賀 真一	後期 通年	月	5	30			
3	◎	知的財産法	平澤 卓人	前期	月 木	5 2	30			
3	◎	社会保障法	山下 慎一	後期	火 水	2 3	30			

※1 履修登録の撤回(前・後期)および後期登録変更を認めます。

※2 登録上限数を定めていない後期開設の法学部専門教育科目が300名を超えた場合、後期登録変更を取り止めることがあります。ただし、登録削除は可能です。

● 経済学部

年次	学科	科目名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員	選考方法	申込期間・結果発表	備考
3	CC・CB	経済統計論	田中 昌宏	前期	月 木	3 1	5	抽選	●申込期間 3月21日(木)11:00~ 3月22日(金)12:00 ●結果発表 3月23日(土)17:00	定員に満たない場合でも追加募集は行いません。また、登録撤回および登録削除はできません。
3	◎	経済学のための情報技術	野崎 竜太郎	後期	月	1	5			
2	CC	経済学史A	山崎 好裕	前期	木	3	5	抽選	●申込期間 3月21日(木)13:00~ 3月22日(金)12:00 ●結果発表 3月23日(土)17:00	定員に満たない場合でも追加募集は行いません。登録撤回および後期履修登録変更期間に登録削除が可能です。
3	CC	経済学史B		後期	木	3	5			
3	◎	財政学	山下 耕治	前期	木 木	4 5	5			
3	CC・CB	国際経済学	井手 豊也	後期	月 水	3 5	5			
3	◎	経済政策	森田 薫夫	前期	木 木	2 3	5			

● 2年次生以上(23台以前)に対する注意事項

● 登録者決定済科目について

「3年専門ゼミナールI」・「3年専門ゼミナールII」・「論文ゼミナール」・「海外交流ゼミナール」については、既に履修登録できる学生が決定しており、事前登録されていますので、Web履修登録画面にて確認してください。

7 2年専門ゼミナール【23台】

ゼミナールは通常の講義とは異なり、少人数で行われます。

商学部では2年次前期に募集選考し、「2年専門ゼミナール(後期)」「3年専門ゼミナールⅠ(前期)」「3年専門ゼミナールⅡ(後期)」「論文ゼミナール(通年)」と2年半にわたって開講します。この期間、ゼミ生は同じ指導教員のもとで連続して受講することになっています。

会計専門職プログラム学生選抜試験の受験を希望する場合は、必ず履修してください。プログラム修了要件(p.98~100参照)の必修科目です。

①履修登録(仮登録)

3月の履修登録期間中に次のとおり、仮登録(2単位)をしてください。なお、この期間中に仮登録以外の「2年専門ゼミナール」を登録することはできません。

科 目：2年専門ゼミナール(仮登録)

仮担当者：杉本 宏幸

単 位：2単位

※「集中講義等の登録科目」に表示され、登録上限単位数〔42単位〕に含まれます。

(登録上の注意)

2年専門ゼミナールは2年次前期に履修者を選考し、後期に開講します(下表参照)。第一希望のゼミナールに合格するとは限りませんが、「2024年度商学部授業時間割」を確認し、**希望する担当者の時限枠は空けておくことが望ましいです。特に後期登録変更ができない科目(外国語科目、登録制限科目、通年科目)は登録しないでください。**

外国語科目(再履修、第二外国語ⅠA・ⅠB等)についてはp.73~75、p.77~78を参照してください。

選考にもれた場合は、後期履修登録変更期間〔9月4日(水)~6日(金)〕に追加登録等の登録変更をしてください。

●令和6(2024)年度2年専門ゼミナール時間割

曜日	時限	学科(系列)	教員氏名	曜日	時限	学科(系列)	教員氏名	曜日	時限	学科(系列)	教員氏名
月	2	商	弘津 真澄 伊藤 豪	水	3	経営(経営)	河瀬 宏則 藤野 真 和田 剛明	木	3	貿易	大石 恵 木幡 伸二 豊 嘉哲 岡 陽子
	5	経営(会計)	長 東 航				樋口 あゆみ				林 裕
火	3	商	植村 信保 鈴木 裕介 田中 義孝				経営(会計)				篠原 巨司馬 高橋 秀至 渡辺 剛
			経営(経営)			大上 麻海 猿田 冬樹		飛田 努	貿易	伊豆 久 松永 達	
		経営(会計)	飯塚 雄基			商	太宰 潮 藤田 裕邦	新田町 尚人			
		貿易	アケミク,キユチク アリ 掛下 達郎				経営(経営)	森田 泰暢	池田 健一 田坂 公	ポ-ブ,クリストファー ジョ-ジ	
水	2	商	本村 希代	木	3	経営(会計)	池田 健一 田坂 公	金	3	貿易	伊豆 久 松永 達
	3	経営(経営)	笹川 洋平 合力 知工								

②募集説明会の開催

募集説明会で募集要項を配付し、選考スケジュール等を説明します。

希望する学生は必ず出席してください。出席しなかった場合は、履修登録（本登録）できません。説明会の日時・場所については、次のとおりです。

日 時：4月17日（水）16：30～（予定）

場 所：後日、FUポータルでお知らせします。

8 専門・関連教育科目における登録撤回・後期登録変更の取扱い

(1) 登録撤回について

- ①専門教育科目の「必修科目」および「ゼミナール」については、登録撤回をすることができません。
- ②上記①以外の専門教育科目のうち、前期完結科目および通年科目については前期の登録撤回、後期完結科目については後期の登録撤回をすることができます。ただし、撤回を行った期に、撤回した科目の代わりとなる科目を追加登録することはできません。
- ③関連教育科目の登録制限科目については、p.89～90を参照してください。

(2) 後期登録変更について

- ①専門教育科目のうち、必修科目、ゼミナール、登録制限科目および通年科目については、後期登録変更をすることはできません。
- ②上記①以外の科目であっても、登録者数が300人以上の後期完結科目は、後期登録変更（追加）ができません。また、登録者数が300人未満の科目であっても、講義の教育効果を高めるために後期登録変更（追加）ができない場合があります。これらの詳細については、FUポータル等でお知らせします。
- ③専門教育科目の登録制限科目のうち募集人員に達していない科目については、追加募集をすることがあります。この場合であっても、科目の取扱いとしては「登録制限科目」になりますので、上記①が適用されます。
- ④関連教育科目の登録制限科目については、p.89～90を参照してください。

9 関連教育科目（他学部の授業科目）

年次別授業科目表（学科履修規程・第4条別表）関連教育科目における「他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目」は、次のとおりです。

【商学科】
24台

	第1年次		第2年次		第3・4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2
			債権法Ⅰ	2	債権法Ⅲ	2	税法ⅡA	2
			債権法Ⅱ	2	地方自治法	2	税法ⅡB	2
			物権法Ⅰ	2	政治思想史	4	中小企業と法	2
			物権法Ⅱ	2	保険法	2	国際私法	4
			刑法Ⅰ	4	海商法	2	社会保障法	4
			アジア法	2	金融商品取引法	2		
			企業法総論	2				
			ベンチャー起業と法	2				
			EU法	2				
			国際関係論	4				
			英米法	2				
	経済学 部					労働経済学	4	
					公共経済学	4		
					東洋経済史	4		
					基礎防災学	2		

【経営学科】
24台

	第1年次		第2年次		第3・4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2
			債権法Ⅰ	2	債権法Ⅲ	2	税法ⅡA	2
			債権法Ⅱ	2	地方自治法	2	税法ⅡB	2
			物権法Ⅰ	2	政治思想史	4	中小企業と法	2
			物権法Ⅱ	2	保険法	2	国際私法	4
			刑法Ⅰ	4	海商法	2	社会保障法	4
			アジア法	2	金融商品取引法	2		
			企業法総論	2				
			ベンチャー起業と法	2				
			EU法	2				
			国際関係論	4				
			英米法	2				
	経済学 部					労働経済学	4	
					公共経済学	4		
					東洋経済史	4		
					基礎防災学	2		

【貿易学科】

24台

	第1年次		第2年次		第3・4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2
			債権法Ⅰ	2	債権法Ⅲ	2	税法ⅠA	2
			債権法Ⅱ	2	地方自治法	2	税法ⅠB	2
			物権法Ⅰ	2	政治思想史	4	税法ⅡA	2
			物権法Ⅱ	2	保険法	2	税法ⅡB	2
			刑法Ⅰ	4	海商法	2	中小企業と法	2
			アジア法	2	金融商品取引法	2	労働法	4
			企業法総論	2			社会保障法	4
			ベンチャー起業と法	2			行政法Ⅰ	4
			E U 法	2				
	経済学部					労働経済学	4	
工学部					公共経済学	4		
					東洋経済史	4		
					基礎防災学	2		

【貿易学科】

23台

	第1年次		第2年次		第3・4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2
			債権法Ⅰ	2	債権法Ⅲ	2	税法ⅠA	2
			債権法Ⅱ	2	地方自治法	2	税法ⅠB	2
			物権法Ⅰ	2	政治思想史	4	税法ⅡA	2
			物権法Ⅱ	2	保険法	2	税法ⅡB	2
			刑法Ⅰ	4	海商法	2	中小企業と法	2
			アジア法	2	金融商品取引法	2	労働法	4
			企業法総論	2			社会保障法	4
			ベンチャー起業と法	2			行政法Ⅰ	4
			E U 法	2				
	経済学部					労働経済学	4	
工学部					公共経済学	4		
					東洋経済史	4		
					基礎防災学	2		

【貿易学科】

22台

	第1年次		第2年次		第3・4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2
			債権法Ⅰ	2	債権法Ⅲ	2	税法ⅠA	2
			債権法Ⅱ	2	地方自治法	2	税法ⅠB	2
			物権法Ⅰ	2	政治思想史	4	税法ⅡA	2
			物権法Ⅱ	2	保険法	2	税法ⅡB	2
			刑法Ⅰ	4	海商法	2	中小企業と法	2
			アジア法	2	金融商品取引法	2	労働法	4
			企業法総論	2			社会保障法	4
			ベンチャー起業と法	2			行政法Ⅰ	4
			E U 法	2				
	経済学部					労働経済学	4	
工学部					公共経済学	4		
					東洋経済史	4		
					基礎防災学	2		

【貿易学科】

21台

	第1年次		第2年次		第3・4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2
			債権法Ⅰ	2	債権法Ⅲ	2	税法ⅠA	2
			債権法Ⅱ	2	地方自治法	2	税法ⅠB	2
			物権法Ⅰ	2	政治思想史	4	税法ⅡA	2
			物権法Ⅱ	2	保険法	2	税法ⅡB	2
			刑法Ⅰ	4	海商法	2	中小企業と法	2
			アジア法	2	金融商品取引法	2	労働法	4
			企業法総論	2			社会保障法	4
			ベンチャー起業と法	2			行政法Ⅰ	4
			E U 法	2				
	経済学部					労働経済学	4	
工学部					公共経済学	4		
					東洋経済史	4		
					基礎防災学	2		

【貿易学科】

20台

	第1年次		第2年次		第3・4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2
			債権法Ⅰ	2	債権法Ⅲ	2	税法ⅠA	2
			債権法Ⅱ	2	地方自治法	2	税法ⅠB	2
			物権法Ⅰ	2	政治思想史	4	税法ⅡA	2
			物権法Ⅱ	2	保険法	2	税法ⅡB	2
			刑法Ⅰ	4	海商法	2	中小企業と法	2
			アジア法	2	金融商品取引法	2	労働法	4
			企業法総論	2			社会保障法	4
			ベンチャー起業と法	2			行政法Ⅰ	4
			E U 法	2				
	経済学部					労働経済学	4	
工学部					公共経済学	4		
					東洋経済史	4		
					基礎防災学	2		

【貿易学科】

19台

	第1年次		第2年次		第3・4年次				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2	
			債権各論	4	債権総論	4	税法Ⅰ	4	
			物権法	4	地方自治法	2	税法Ⅱ	4	
			刑法Ⅰ	4	政治思想史	4	中小企業と法	2	
			アジア法	2	保険法	2	労働法	4	
			企業法総論	2	海商法	2	社会保障法	4	
			ベンチャー起業と法	2	金融商品取引法	2	行政法Ⅰ	4	
			E U 法	2					
	経済学部					労働経済学	4		
	工学部					公共経済学	4		
						東洋経済史	4		
					基礎防災学	2			

【貿易学科】

18台

	第1年次		第2年次		第3・4年次				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2	
			債権各論	4	債権総論	4	税法Ⅰ	4	
			物権法	4	地方自治法	2	税法Ⅱ	4	
			刑法Ⅰ	4	政治思想史	4	中小企業と法	2	
			アジア法	2	保険法	2	労働法	4	
			企業法総論	2	海商法	2	社会保障法	4	
			ベンチャー起業と法	2	金融商品取引法	2	行政法Ⅰ	4	
			E U 法	2					
	経済学部					労働経済学	4		
	工学部					公共経済学	4		
						東洋経済史	4		
					基礎防災学	2			

【貿易学科】

17台

	第1年次		第2年次		第3・4年次				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
法 学 部			政治学原論	4	行政学	4	企業金融法	2	
			債権各論	4	債権総論	4	税法Ⅰ	4	
			物権法	4	地方自治法	2	税法Ⅱ	4	
			刑法Ⅰ	4	政治思想史	4	中小企業と法	2	
			アジア法	2	保険法	2	労働法	4	
			企業法総論	2	海商法	2	社会保障法	4	
			ベンチャー起業と法	2	金融商品取引法	2	行政法Ⅰ	4	
			E U 法	2					
	経済学部					労働経済学	4		
	工学部					公共経済学	4		
						東洋経済史	4		
					基礎防災学	2			

10 前期卒業【20台以前】

「前期卒業」は、本人による事前の手続きが必要です。

手続きがない場合、「前期卒業」はできません。

「前期卒業」を希望される方は、申請手続き方法について説明しますので、説明会に出席してください。
(p. 34の「卒業」の2前期卒業を参照)

なお、前期卒業に関する説明会の日時および場所についてはFUポータルに掲載します。

※「前期卒業」を考えている方で上記説明会に出席できない方は、必ず3月の履修登録前に教務二課商学部の窓口で相談してください。

11 履修登録日程

商学部在学生および新入生の履修登録は、事前に履修計画(下書き)を済ませ、次のスケジュールで行ってください。

なお、学修ガイド巻末の履修登録の手引 p. 2 にも「履修登録スケジュール表」を掲載しています。

1. 制限科目の登録

登録制限科目については全学部共通留意事項 p. 54～80および商学部留意事項 p. 84～90を参照してください。

科目によって受付開始・終了時間、方法等が異なりますので、特に注意してください。

2. 制限科目以外の科目

対象者		期 日	時 間	備 考
2 ・ 3 ・ 4 年 次	全学部 23台以前	3月25日(月)	9:00～19:30	●インターネット接続が可能なパソコン等で登録してください。 注) ■の時間帯はアクセスが集中した場合、スムーズな履修登録ができません。 注) 学部指定の時間帯は、指定学部以外は履修登録メニューが表示されません。
			20:00～25:00	
	商学部 23台以前	3月26日(火)	9:00～12:10	
			20:00～25:00	
3月27日(水)	16:20～19:30			
	3月28日(木)	13:00～16:10		
新 入 生	CF24台 CC24台 CB24台	4月4日(木)	14:40～16:10	●インターネット接続が可能なパソコン等で登録してください。 注) ■の時間帯はアクセスが集中した場合、スムーズな履修登録ができません。 注) 学科指定の時間帯は、指定学科以外は履修登録メニューが表示されません。
			16:20～17:50	
	20:00～25:00			
	全学部 新入生	4月5日(金)	16:20～17:50	

※登録アクセスが集中しない学部学科指定時間を有効に活用し、早めの申請を心がけてください。

12 既修得単位の認定

● 1年次生（24台）の皆さんへ

本学入学前に他大学等で修得した単位について

新入生の皆さんが、本学へ入学する前に大学・短期大学（外国の大学・短期大学を含む）、高等専門学校および専修学校の専門課程等において単位を修得した授業科目があれば30単位を限度に、教授会が教育上有益と認めた場合は、本学で修得した授業科目として認定することがあります。ただし、認定は入学年度の4月申請時のみです。

該当する学生で、認定を希望する場合は、次の要領で手続きをしてください。

〔申請要領〕

1. 申請書配付 4月2日（火）から
教務二課 商学部（文系センター棟1階）で希望者に配付。
2. 提出締切日 4月9日（火）
3. 提出先 教務二課 商学部
4. 提出書類 申請書・学業成績証明書・授業科目の具体的な内容、授業回数、授業時間を確認できるもの（シラバス・履修要項等）

『学修ガイド』p. 271～272「福岡大学における既修得単位等の取扱いに関する規程」参照。

会計専門職プログラム

会計専門職プログラムは、商学部及び商学部第二部の教育研究の理念に基づき、会計学の理論教育を深化させるとともに徹底的な演習教育を実施することにより、高度な会計学の理論と実務能力を身に付け、グローバル社会及び地域社会に貢献できる優秀な職業会計人を育成することを目的とします。(p. 98内規第2条参照)

1 会計専門職プログラムについて

- 会計専門職プログラムの学生（以下、「プログラム学生」という。）となれる者は、商学部及び商学部第二部の学生に限ります。
- プログラム学生となるためには、会計専門職プログラムの入学試験に合格して入学するか、または1年次後期開始前及び2年次後期開始前に実施される会計専門職プログラム学生選抜試験に合格しなければなりません。なお、会計専門職プログラム学生選抜試験の詳細はp. 103に記載されていますが、「簿記原理」の単位を修得することが受験資格となっているので（修得見込者も可）、プログラム学生となることを志願する者は時間割に注意し、間違いのないよう、履修登録を行う必要があります。
また、2年次後期開始前に実施される会計専門職プログラム学生選抜試験の受験を考える者は、原則として2年専門ゼミナールを修得することが必要となります。2年次の履修登録の際に漏れがないよう注意してください。
なお、いったんプログラム学生となっても、p. 99に記載の資格審査によりその資格を喪失することがあるので注意してください。
- 会計専門職プログラム学生選抜試験を受験する場合には、必ず「会計専門職プログラム説明会」に出席しなければなりません。（欠席した者は受験できません。）
会計専門職プログラム説明会は、前期中に実施予定です。（説明会開催の詳細な日時については6月下旬FUポータル・商学部掲示板でお知らせします。）
- プログラム学生は、公認会計士試験受験対策講座等を受講できるほか、会計専門職プログラム独自の科目を履修することができます。プログラム学生は、p. 98～101に記載のこのプログラムに関する内規を参照し履修してください。
- プログラム学生となるにあたり、特別な受講料を納入する必要はありません。
- プログラム学生は、7号館4階にある会計専門職プログラム専用の自習室を利用できます。

2 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラムに関する内規と科目履修について

会計専門職プログラムの学生は、以下の内規及び別表第1、別表第2に則って科目を履修しなければなりません。

プログラム学生は十分注意し、p. 172～219の該当する学科履修規程及び年次別授業科目表を参照のうえ履修登録を行ってください。

(趣旨)

第1条 福岡大学学科履修規程第6条の4第1項に規定する商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下「プログラム」という。）に関する取扱いについては、別に定めあるもののほか、この内規の定めるところによる。

(目的)

第2条 プログラムは、商学部及び商学部第二部の教育研究の理念に基づき、会計学の理論教育を深化させるとともに、徹底的な演習教育を実施することにより、高度な会計学の理論と実務能力を身に付け、グローバル社会及び地域社会に貢献できる優秀な職業会計人を育成することを目的とする。

(教育目標)

第3条 プログラムは、会計学的能力に優れかつ勉学意欲の高い学生を選抜し、公認会計士試験受験対策講座を含むカリキュラムを学修することにより、グローバル企業の経理担当者として通用する能力を修得することを教育目標とする。また、在学中に、公認会計士、税理士、不動産鑑定士、中小企業診断士、国税専門官、日商簿記1級などの試験に合格できる学生を輩出することも教育目標とする。

(プログラム学生の受入れ)

第4条 プログラムは、第2条の目的を達成するため、次に掲げる学生をプログラム学生として広く受け入れる。

- (1) 在学中、努力を怠らず勉学に意欲のある者
- (2) 自学自習に励み、公認会計士試験受験対策講座等を受講するなどして、在学中に公認会計士試験等に合格することを目標とする者

(選抜)

第5条 プログラム学生は、商学部経営学科及び商学部第二部商学科におけるプログラム入学試験の合格者並びに商学部及び商学部第二部の第1年次又は第2年次におけるプログラム選抜試験の合格者とする。
2 選抜試験の実施に関する事項は、別に定める。

(授業科目、単位等)

第6条 プログラムの授業科目、単位等については、別表に定める。

2 プログラム選抜試験に合格しプログラム学生となった者が次年度より履修することができる単位数は、規程第5条第4項第2号本文又は同条第5項第2号本文に定めるとおりとする。

(講座の受講)

第7条 プログラム学生は、福岡大学（以下「本学」という。）が提供する公認会計士試験受験対策等の講座（以下「講座」という。）を受講することができる。

2 前項の受講に関する取扱いについては、次のとおりとする。

- (1) プログラム学生は、講座を受講するにあたり、別に定める誓約書を商学部長に提出する。
- (2) プログラム入学試験の合格者及び第1年次におけるプログラム選抜試験の合格者は、第3年次8月に実施される公認会計士試験（論文式試験）を受験するための公認会計士試験受験対策講座を受講することができる。
- (3) 前号の合格者で、所定の審査を経たものは、第4年次8月に実施される公認会計士試験（論文式試験）又は税理士試験を受験するための公認会計士試験受験対策講座又は税理士試験受験対策講座（簿記論及び財務諸表論）を受講することができる。
- (4) 第2年次におけるプログラム選抜試験の合格者は、第4年次8月に実施される公認会計士試験（論文式試験）を受験するための公認会計士試験受験対策講座を受講することができる。

(5) 本学が指定した講座の受講料以外の諸費用については、全てプログラム学生の自己負担とする。

(資格審査)

第8条 商学部及び商学部第二部では、プログラム学生の質を保ち、また勉学意欲を維持するために当該学生の資格審査を実施する。

2 資格審査は、各学期末に実施する。

3 資格審査において、次の各号のいずれかに該当する者は、原則としてプログラム学生の資格を喪失する。

(1) 退学、除籍、休学又は転部（商学部又は商学部第二部への転部を除く。）をした者

(2) プログラムを修了する意思がないと認められる者

(3) 別表に定める各年次の修了要件を満たすことができないことが確定した者

(4) プログラム学生となった年度末の資格審査時において、当該年度の単位修得率が8割5分に満たない者*

(5) プログラム資格審査試験に合格しなかった者

(6) 資格審査日の直近の6ヵ月間に受講した講座の出席率が概ね9割5分未満であり、改善の見込みがないと認められる者

(7) 資格審査日の直近の6ヵ月間に受講した講座における確認テスト等の得点率が概ね8割未満であり、改善の見込みがないと認められる者

(8) 卒業までの在学年数が4年を越えることが確定した者

(9) その他プログラム学生としてふさわしくないと認められる者

4 プログラム学生の資格を喪失した者が1年間に履修することができる単位数は、規程第5条第4項第2号ただし書又は同条第5項第2号ただし書に定めるとおりとする。

5 プログラム学生として修得した全ての単位は、その資格を喪失した後も卒業要件単位として認める。

6 資格審査の実施に関する事項は、別に定める。

(修了)

第9条 第4年次終了時にプログラム学生が所属する学科の卒業に必要な単位を修得し、かつ、卒業要件を満たすとともに、別表に定めるプログラムの修了要件を満たした者に対し、商学部教授会の議を経て、商学部長がプログラム修了証を授与する。

(補則)

第10条 プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和6年4月1日から施行し、令和3年度入学生から適用する。

※認定単位（成績通知書において、科目名欄に「*」が記載されているもの）および教職課程のために特に設けられた科目（成績通知書において、教職課程科目欄に表示される科目）は含まない。

別表

第1 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)のプログラムの授業科目、単位等

配当年次	授業科目	単位	修得必要単位		最低修得年次
1	※簿記原理	4			
1	※会社簿記	4	12		1
1	※原価計算論	4			
1	□経営基礎ゼミナールⅠ	2			
1	□経営基礎ゼミナールⅡ	2	-		-
2	□2年基礎ゼミナール	2			
2	※2年専門ゼミナール	2	2		2
1	△会計学総論	2			
2・3・4	△財務会計論	2			
2・3・4	△経営分析論	2			
2・3・4	△監査論	2			
2・3・4	△会計学特論	2	左記科目の		
2・3・4	△税と生活	2	うちから		
2・3・4	△税務会計論	2	16	20	3
2・3・4	△管理会計論	2			
2・3・4	△意思決定会計論	2			
2・3・4	△国際会計論	2			
2・3・4	△会計情報システム論	2			
3	※3年専門ゼミナールⅠ	2			
3	※3年専門ゼミナールⅡ	2			
4	△キャリア研修X	4	左記科目の		
4	△キャリア研修Y	4	うちから		
4	△キャリア研修Z	4	4	10	4
4	※論文ゼミナール	6			

(注) ※必修科目、△選択必修科目、□プログラム修了要件単位とはならないが履修を強く推奨する科目

1 プログラム学生は、学科履修規程第2条第4項に定める卒業に必要な単位を修得するとともに、別表第1に定める修得必要単位を修得しなければならない。

2 プログラム学生は、年次毎に定める必要な単位(修得必要単位)を当該年次終了時までまでに修得しなければならない。

3 別表第1に定めるキャリア研修の単位は、第4年次1月末日までに次の試験に合格したときに、これを認める。

(1)キャリア研修X 日商簿記検定試験1級、全経簿記検定試験上級又は税理士試験の簿記論若しくは財務諸表論

(2)キャリア研修Y 公認会計士試験短答式若しくは国税専門官採用試験に合格又は税理士試験の簿記論及び財務諸表論

(3)キャリア研修Z 公認会計士試験又は税理士試験

別表

第2 商学部第二部（商学科）のプログラムの授業科目、単位等

配当年次	授業科目	単位	修得必要単位		最低修得年次
1	※簿記原理	4	4		1
1	□基礎ゼミナール	2	-		-
1	□会計基礎ゼミナール	2			
2	□2年基礎ゼミナール	2			
2	□2年専門ゼミナール	2			
1	※会社簿記	4	8	28	3
1	※原価計算論	4			
2・3・4	△会計学総論	2	左記科目の うちから 16		
2・3・4	△財務会計論	2			
2・3・4	△経営分析論	2			
2・3・4	△監査論	2			
2・3・4	△会計学特論	2			
2・3・4	△税と生活	2			
2・3・4	△税務会計論	2			
2・3・4	△管理会計論	2			
2・3・4	△意思決定会計論	2			
2・3・4	△国際会計論	2			
2・3・4	△会計情報システム論	2			
3	△3年専門ゼミナールⅠ	2	左記科目の うちから 4	4	
3	△3年専門ゼミナールⅡ	2			
2・3	△会計ゼミナールA	4			
2・3	△会計ゼミナールB	4			
4	△論文ゼミナール	6			
4	△キャリア研修X	4	左記科目のうちから		
4	△キャリア研修Y	4	4		
4	△キャリア研修Z	4	4		

(注) ※必修科目、△選択必修科目、□プログラム修了要件単位とはならないが履修を強く推奨する科目

- 1 プログラム学生は、学科履修規程第2条第5項に定める卒業に必要な単位を修得するとともに、別表第2に定める修得必要単位を修得しなければならない。
- 2 プログラム学生は、年次毎に定める必要な単位（修得必要単位）を当該年次終了時までには修得しなければならない。
- 3 別表第2に定めるキャリア研修の単位は、第4年次1月末日までに次の試験に合格したときに、これを認める。
 - (1)キャリア研修X 日商簿記検定試験1級、全経簿記検定試験上級又は税理士試験の簿記論若しくは財務諸表論
 - (2)キャリア研修Y 公認会計士試験短答式若しくは国税専門官採用試験に合格又は税理士試験の簿記論及び財務諸表論
 - (3)キャリア研修Z 公認会計士試験又は税理士試験

【キャリア研修X・Y・Zの単位認定について】

1. キャリア研修X・Y・Zとは

キャリア研修X・Y・Zとは、プログラム修了要件別表注(3)に示す試験に合格した場合に本人の申請により単位が認定される科目です。詳細は下表のとおりです。X・Y・Z全てを申請することも可能です。申請には合格証書の原本が必要ですので、必ず保管しておいてください。なお、本学入学前に合格した試験についても、申請することができます。

申請科目	対象となる試験・検定	単位数
キャリア研修X	日商簿記検定試験1級 全経簿記検定試験上級 税理士試験の簿記論又は財務諸表論	4単位
キャリア研修Y	公認会計士試験短答式 国税専門官採用試験 税理士試験の簿記論及び財務諸表論	4単位
キャリア研修Z	公認会計士試験 税理士試験	4単位

※一つの申請科目に対し対象となる試験に複数合格した場合でも、認定は4単位のみです。

2. 受験票提出及び合格報告について

上表の各種試験の受験毎に、受験票の受領日から原則として1週間以内に教務二課（商学部会計専門職プログラム）に「受験票の控え（コピー）」を提出してください。また、各種試験に合格した際は、合格証書の発行日から原則として1週間以内に「合格報告（報告書の提出及び合格証書の原本提示）」を行ってください。なお、入学前に合格した試験については入学後1ヶ月以内（選抜試験によりプログラム学生となった者が選抜試験前に合格した試験については選抜試験合格後1週間以内）に報告してください。報告の最終締め切りは4年次の1月末です。

※公認会計士試験論文式試験に合格した際は、合格証書に加え「論文式試験成績通知書」も持参すること。

3. キャリア研修単位認定申請について

キャリア研修単位認定の申請期間及び提出書類は次のとおりです。この期間内に、自身が希望する科目を申請します。なお申請する科目の対象となる試験の合格報告がなければ単位は認定されません。合格報告のみで申請書の提出がない場合も同様です。

申請期間：4年次の12月中の一定期間（詳細は11月上旬に掲示します）
提出書類：キャリア研修単位認定申請書
提出先：教務二課（商学部会計専門職プログラム）

なお、単位認定申請期間までに合格発表が行われていない試験であっても、4年次1月末日までに合格報告が可能な試験を受験している場合には、単位認定を申請することができます。

4. 単位の認定時期及び履修登録について

単位の認定時期は4年次末です。

キャリア研修X・Y・Zは4年次のWeb履修登録は不要です。ただし、これらの単位は年間登録上限単位数に含まれます。申請する予定の単位数を差し引いて履修計画を立てる必要があるので注意してください。

3 会計専門職プログラム学生選抜試験について

会計専門職プログラムで学ぶためには、会計専門職プログラム学生選抜試験に合格しなければなりません。

試験の実施要領は以下のとおりですので、受験希望者は参照してください。

(目的)

- 1 この実施要領は、商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラムに関する内規（以下「内規」という。）第5条第2項の規定に基づき選抜試験について必要な事項を定める。

(募集時期)

- 2 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下「プログラム」という。）の学生選抜試験の募集時期は、第1年次後期開始前及び第2年次後期開始前とする。

(募集人員)

- 3 プログラムの募集人員は、概ね次のとおりとする。

- (1) 商学部商学科・経営学科・貿易学科20人
- (2) 商学部第二部商学科5人

(出願資格)

- 4 プログラム学生選抜試験に出願することができる者は、内規第4条に定める者のうち、次の各号の条件をすべて満たすものとする。

- (1) 商学部又は商学部第二部の第1年次又は第2年次に在籍する者
- (2) 職業会計人の使命及びプログラムの趣旨を理解し、合格後は勉学に専念してプログラムのカリキュラムを修了する意思を固めている者
- (3) 「簿記原理」の単位を修得した者又は修得見込である者
- (4) 過去にプログラム学生でなかった者

(選考)

- 5 プログラム学生の選考は、前項各号に掲げる出願資格を確認の上、筆記試験（簿記原理）及び面接により行い、その評点は各100点、合計200点満点とする。

(運営委員会)

- 6 プログラム学生選抜試験に関する学生募集、筆記試験及び面接は、会計専門職プログラム運営委員会が実施する。

(実施日)

- 7 この要領は、令和5年4月1日から実施し、令和4年度入学生から適用する。

4 その他

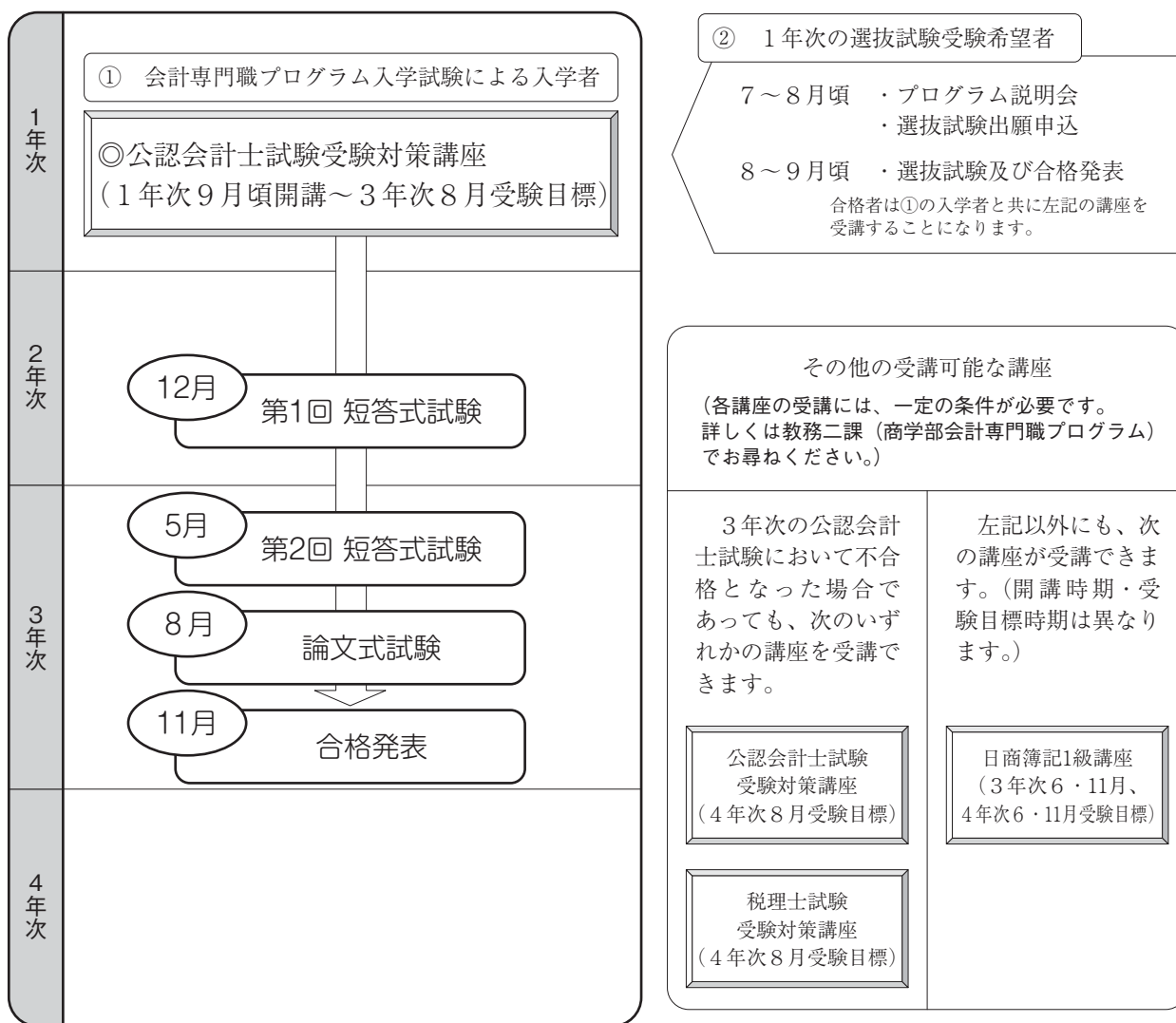
【会計専門職プログラムのスケジュール】

スケジュールは下表に示していますので、参考にしてください。

講座や試験の日程は多少前後する可能性もありますので、掲示などに注意してください。

なお、会計専門職プログラム学生となるには、次の3つの方法があります。

- ① 会計専門職プログラム入学試験による入学者
- ② 1年次の選抜試験合格者
- ③ 2年次の選抜試験合格者（※1）



◆公認会計士試験・税理士試験・国税専門官採用試験・日商簿記1級・全経簿記上級の合格は、4年次の選択必修科目であるキャリア研修X・Y・Zに該当します。単位認定の詳細についてはp.102を参照してください。



所属する学科の卒業要件とプログラムの修了要件（※2）を満たした場合、プログラム修了証が授与されます。

(注) 資格審査 (p.99内規第8条参照) は学年末に実施されます。

※1 2年次9月頃から開講の4年次8月を受験目標とする公認会計士試験受験対策講座を受講することになります。

※2 プログラム修了要件の詳細は p.100の別表第1を参照してください。

クリエイティブ・マネジメント・プログラム

クリエイティブ・マネジメント・プログラムは、商学部及び商学部第二部の教育研究の理念に基づき、経営学の理論教育を深化させることにより、知的コンテンツ（映画、音楽、文芸、アニメーション、コンピュータゲーム等）を創造する産業界における制作活動の管理・監督者（ディレクター）、企画・事業化統括者（プロデューサー）、経営者などの育成を目的とする。（P. 105内規第2条参照）

1 クリエイティブ・マネジメント・プログラムについて

- クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生（以下、「プログラム学生」という。）となる者は、商学部及び商学部第二部の学生に限ります。
- プログラム学生となるためには、1年次に実施されるクリエイティブ・マネジメント・プログラム学生選抜試験に合格しなければなりません。なお、クリエイティブ・マネジメント・プログラム学生選抜試験の詳細はp. 109に記載されていますが、「クリエイティブ社会論」の単位を修得することが受験資格となっているので（修得見込者も可）、プログラム学生となることを志願する者は特に注意して履修登録を行う必要があります。
なお、いったんプログラム学生となっても、p. 106に記載の資格審査によりその資格を喪失することがあるので注意してください。
- クリエイティブ・マネジメント・プログラム学生選抜試験を受験する場合には、必ず「クリエイティブ・マネジメント・プログラム説明会」に出席しなければなりません。（欠席した者は受験できません。）
クリエイティブ・マネジメント・プログラム説明会の詳細な日時については商学部掲示板等に掲示します。
- プログラム学生は、クリエイティブ・マネジメント・プログラム独自の科目を履修することができます。
プログラム学生は、p. 105～108に記載のこのプログラムに関する内規を参照し履修してください。
- プログラム学生となるにあたり、特別な受講料を納入する必要はありません。

2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラムに関する内規と科目履修について

クリエイティブ・マネジメント・プログラムのプログラム学生選抜試験の受験を希望する学生は、以下の内規及び別表に則って科目を履修しなければなりません。

プログラム学生選抜試験の受験を希望する学生は、十分注意し、p. 172～219の学科履修規程及び年次別授業科目表を参照のうえ履修登録を行ってください。

（趣旨）

第1条 福岡大学学科履修規程第6条の4第2項に規定する商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下「プログラム」という。）に関する取扱いについては、別に定めあるもののほか、この内規に定めるところによる。

（目的）

第2条 プログラムは、商学部及び商学部第二部の教育研究の理念に基づき、経営学の理論教育を深化させることにより、知的コンテンツ（映画、音楽、文芸、アニメーション、コンピュータゲーム等）を創造する産業界における制作活動の管理・監督者（ディレクター）、企画・事業化統括者（プロデューサー）、経営者などの育成を目的とする。

(教育目標)

第3条 プログラムは、知的コンテンツへの関心及び情報技術に関する基礎知識を有し、かつ、勉学意識の高い学生を選抜し、演習に重点を置いたカリキュラムを学修することにより、知的コンテンツの制作活動の企画・事業化統括、管理・監督及び事業の経営に関する高度な理論と実践能力を修得することを目標とする。

(選抜)

第4条 プログラムの履修を希望する学生は、第1年次におけるプログラム選抜試験を経て、プログラム学生となる。

2 前項のプログラム選抜試験に関する事項は、別に定める。

(授業科目、単位等)

第5条 プログラムの授業科目、単位等については、別表に定める。

(資格審査)

第6条 プログラムの履修にあたり、プログラム学生の質を保ち、また勉学意欲を維持するために当該学生の資格審査を実施する。

2 資格審査は、学年末に実施する。

3 資格審査において、次の各号のいずれかに該当する者は、プログラム学生の資格を喪失する。

- (1) 退学、除籍又は転部（商学部又は商学部第二部への転部者を除く。）をした者
- (2) プログラムを修了する意思がないと認められる者
- (3) 別表に定める各年次の修了要件を満たすことができないことが確定した者
- (4) プログラム学生となった年度末の資格審査時において、当該年度の修得単位数が32単位に満たない者*
- (5) 卒業までの在学年数（休学を除く。）が4年を越えることが確定した者
- (6) その他プログラム学生としてふさわしくないと認められる者

4 プログラム学生として修得した全ての単位は、その資格を喪失した後も卒業要件単位として認める。

(修了)

第7条 第4年次終了時にプログラム学生が所属する学科の卒業に必要な単位を修得し、かつ、卒業要件を満たすとともに、別表に定めるプログラムの修了要件を満たした者に対し、商学部教授会の議を経て、商学部長がプログラム修了証を授与する。

(補則)

第8条 プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和3年4月1日から施行する。

※教職課程のために特に設けられた科目（成績通知書において、教職課程科目欄に表示される科目）は32単位に含まない。

【令和6～3年度入学生（24～21台）】

別表第1

商学部（商学科、経営学科、貿易学科）のプログラムの授業科目、単位等

配当年次	授業科目	単位	修得必要単位		最低修得年次
1	※クリエイティブ社会論	2	2		1
1	※経営入門	2	8		-
1	※経営学総論	2			
1	※簿記原理	4			
1	□商学のための数学	2	-		-
1	□商学のための統計学	2			
1	□情報倫理	2			
2	※クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	8		2
2	※クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2			
2	※2年基礎ゼミナール	2			
2	※2年専門ゼミナール	2			
2	※プロジェクト・マネジメント論	2	4		3
2	※クリエイティブ・マネジメント論	2			
1	△経営戦略論	2	左記科目の うちから 6	14	3
1	△経営心理学	2			
1	△経営組織論	2			
2・3・4	△生産管理論	2			
2・3・4	△経営管理論	2			
2・3・4	△管理会計論	2			
3	※クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2			
3	※クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2			
3	※3年専門ゼミナールⅠ	2			
3	※3年専門ゼミナールⅡ	2			
4	※論文ゼミナール	6	6		4

(注) ※必修科目、△選択必修科目、□プログラム修了要件単位とはならないが履修を強く推奨する科目

【令和6～3年度入学生（24～21台）】

別表第2

商学部第二部商学科のプログラムの授業科目、単位等

配当年次	授業科目	単位	修得必要単位		最低修得年次
1	※クリエイティブ社会論	2	2		1
1	※経営入門	2	8		-
2・3・4	※経営学総論	2			
1	※簿記原理	4			
1	<input type="checkbox"/> 商学のための数学	2	-		-
1	<input type="checkbox"/> 商学のための統計学	2			
1	<input type="checkbox"/> 情報倫理	2			
2	※クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	8		2
2	※クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2			
2	※2年基礎ゼミナール	2			
2	※2年専門ゼミナール	2			
2	※プロジェクト・マネジメント論	2	4		3
2	※クリエイティブ・マネジメント論	2			
2・3・4	△経営戦略論	2	左記科目の うちから 6	14	3
2・3・4	△経営心理学	2			
2・3・4	△経営組織論	2			
2・3・4	△生産管理論	2			
2・3・4	△経営管理論	2			
2・3・4	△管理会計論	2			
3	※クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2			
3	※クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2			
3	※3年専門ゼミナールⅠ	2			
3	※3年専門ゼミナールⅡ	2			
4	※論文ゼミナール	6	6		4

(注) ※必修科目、△選択必修科目、□プログラム修了要件単位とはならないが履修を強く推奨する科目

3 クリエイティブ・マネジメント・プログラム学生選抜試験について

クリエイティブ・マネジメント・プログラムで学ぶためには、クリエイティブ・マネジメント・プログラム学生選抜試験に合格しなければなりません。

試験の実施要領は以下のとおりですので、受験希望者は参照してください。

(目的)

- 1 この実施要領は、商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラムに関する内規（以下「内規」という。）第4条第2項の規程に基づき選抜試験について必要な事項を定める。

(募集時期)

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム(以下「プログラム」という。)の学生選抜試験の募集時期は、第1年次とする。

(募集人員)

- 3 プログラムの募集人員は、概ね次のとおりとする。

(1) 商学部商学科・経営学科・貿易学科・商学部第二部20人

(出願資格)

- 4 プログラム学生選抜試験に出願することができる者は、次の各号の条件をすべて満たすものとする。

(1) 商学部及び商学部第二部の第1年次に在籍する者

(2) プログラムの趣旨を理解し、合格後は勉学に専念してプログラムのカリキュラムを修了する意思を固めている者

(3) 「クリエイティブ社会論」の単位を修得した者又は修得見込である者

(選考)

- 5 プログラム学生の選考は、前項各号に掲げる出願資格を確認の上、小論文及び面接により行い、その評点は各100点、合計200点満点とする。

(運営委員会)

- 6 プログラム学生選抜試験に関する学生募集、小論文及び面接は、クリエイティブ・マネジメント・プログラム運営委員会が実施する。

(実施日)

- 7 この要領は、令和6年4月1日から実施する。

高校商業・情報科教員育成プログラム

高校商業・情報科教員育成プログラムは、高等学校の商業科又は情報科の優れた教員となる人材を育成し、高等学校の教科教育に貢献するとともに高大接続を深化させ、商学部及び商学部第二部における人材養成をより効果的にすることによって、商学に関する研究成果を社会に還元する商学部及び商学部第二部の教育研究の理念を実現することを目的とします。(P. 110内規第2条参照)

1 高校商業・情報科教員育成プログラムについて

○高校商業・情報科教員育成プログラムの学生（以下、「プログラム学生」という。）となる者は、商学部商学科・経営学科及び商学部第二部の学生に限ります。

○プログラム学生となるためには、特別ゼミナールA（教員育成基礎）の成績（標準得点）及び1年次に履修登録した科目（教職課程科目を含む。）の成績（標準得点）に基づく選考に合格しなければなりません。プログラム学生となることを志願する者は、特に注意して特別ゼミナールA（教員育成基礎）及び教職課程科目の履修登録を行う必要があります。また、特別講義A（教員育成入門）についても可能な限り履修登録することを推奨します。

なお、いったんプログラム学生となっても、p. 111に記載の資格審査によりその資格を喪失することがあるので注意してください。

○プログラム学生となることを志願する者は、必ず「高校商業・情報科教員育成プログラム説明会」に出席しなければなりません。（正当な理由以外で欠席した者は志願できません）

「高校商業・情報科教員育成プログラム説明会」は、4月入学直後に実施予定です。

○プログラム学生は、高校商業・情報科教員育成プログラム独自の科目を履修することができるほか、本学のキャリアセンターで開講される高校商業・情報科教員採用試験受験対策講座を受講することができます。プログラム学生は、p. 110～115に記載のこのプログラムに関する内規を参照し履修してください。

○プログラム学生となるにあたり、特別な受講料を納入する必要はありません。

また、その講座が開講されない場合はプログラム独自の特別対策講座を開講し、合格へ向けたサポートを行います。

2 商学部商学科・経営学科及び商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラムに関する内規と科目履修について

高校商業・情報科教員育成プログラムの学生は、以下の内規及び別表第1、別表第2に則って科目を履修しなければなりません。

プログラム学生は十分注意し、p. 172～219の該当する学科履修規程及び年次別授業科目表を参照のうえ履修登録を行ってください。

（趣旨）

第1条 福岡大学学科履修規程第6条の4第3項に規定する商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の商業・情報科教員育成プログラム（以下「プログラム」という。）に関する取扱いについては、別に定めあるもののほか、この内規に定めるところによる。

（目的）

第2条 プログラムは、高等学校の商業科又は情報科の優れた教員となる人材を育成し、高等学校の教科教育に貢献するとともに高大接続を深化させ、商学部及び商学部第二部における人材養成をより効果的にすることによって、商学にかかる研究成果を社会に還元する商学部及び商学部第二部の教育研究の理念を実現することを目的とする。

(教育目標)

第3条 プログラムは、高等学校において商業科又は情報科の教員となる意欲と適性を持つ学生を選抜し、教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目(教科に関する科目を含む。)の履修に加えて、特別講義を含む演習に重点を置いたカリキュラムを学修させることにより、高等学校の商業科又は情報科の優秀な教員となるための高度な理論と教育能力を修得させることを目標とする。

(選抜)

第4条 プログラムの履修を希望する学生は、原則として、第1年次の成績に基づく選考を経て、プログラム学生となる。

2 前項のプログラム学生の選考に関する事項は、別に定める。

(授業科目、単位等)

第5条 プログラムの授業科目、単位等については、別表に定める。

(講座の受講)

第6条 プログラム学生は、福岡大学が提供する高等学校商業科又は情報科教員採用試験受験対策講座を受講することができる。

(資格審査)

第7条 プログラムの履修にあたり、プログラム学生の質を保ち、また勉学意欲を維持するために当該学生の資格審査を実施する。

2 資格審査は、プログラム運営委員会が行う。

3 資格審査は、学年末に実施する。

4 資格審査において、次の各号のいずれかに該当する者は、プログラム学生の資格を喪失する。

(1) 退学、除籍、転部(商学部又は商学部第二部への転部を除く。)又は商学部貿易学科への転科をした者

(2) プログラムを修了する意思がないと認められる者

(3) 別表に定める各年次の修了要件を満たすことができないことが確定した者

(4) 年度末の資格審査時において、当該年度の修得単位数が履修登録単位数の75パーセントに満たない者

(5) 卒業までの在学年数(休学を除く。)が4年を越えることが確定した者

(6) その他プログラム学生としてふさわしくないと認められる者

5 プログラム学生として修得した全ての単位(教職課程科目を除く。)は、その資格を喪失した後も卒業要件単位として認める。

(修了)

第8条 第4年次終了時にプログラム学生が所属する学科の卒業に必要な単位を修得し、かつ、卒業要件を満たすとともに、教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目(教科に関する科目を含む。)の単位を修得し、別表に定めるプログラムの修了要件を満たした者に対し、商学部教授会の議を経て、商学部長がプログラム修了証を授与する。

(補則)

第9条 プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、令和4年4月1日から施行する。

※認定単位(成績通知書において、科目名欄に「*」が記載されているもの)は、年度末の資格審査における履修登録単位数に含まないが、教職課程のために特に設けられた科目(成績通知書において、教職課程科目欄に表示される科目)は、年度末の資格審査における履修登録単位数に含む。

【令和6～4年度入学生（24～22台）】

別表第1 商学部（商学科・経営学科）のプログラム授業科目、単位等

配当年次	授業科目	単位	修得必要単位	最低修得年次
1	□特別講義A（教員育成入門）	2	—	—
	※特別ゼミナールA（教員育成基礎）	2	2	1
2	※2年基礎ゼミナール	2	6	2
	※2年専門ゼミナール	2		
	※特別ゼミナールB（教員実力養成）	2		
3	※3年専門ゼミナールⅠ	2	4	3
	※3年専門ゼミナールⅡ	2		
4	△キャリア研修X	4	左記科目の うちから4	4
	△キャリア研修Y	4		
	△キャリア研修Z	4		
	※論文ゼミナール	6		

※必修科目、△選択必修科目、□プログラム修了要件単位に算入しないが履修を強く推奨する科目

(注)

- 1 プログラム学生は、学科履修規程第2条第4項に定める卒業に必要な単位を修得し、教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位を修得するとともに、別表第1に定める修得必要単位を修得しなければならない。
- 2 プログラムの履修を希望する者は、第1年次に特別ゼミナールA（教員育成基礎）を履修しなければならない。
- 3 プログラム学生は、年次ごとに定める修得必要単位を当該年次終了までに修得しなければならない。
- 4 2年基礎ゼミナールは、別に指定するプログラムのクラスにおいて履修する。
- 5 キャリア研修の単位は、第4年次1月末日までに次の試験に合格したときにこれを認める。
 - (1) キャリア研修X 日商簿記検定試験2級又は全経簿記検定試験1級に合格し、かつ、日商販売士検定試験2級及び情報処理推進機構が実施する基本情報技術者検定試験に合格
 - (2) キャリア研修Y 日商簿記検定試験1級、全経簿記検定試験上級、日商販売士検定試験1級又は情報処理推進機構が実施する応用情報技術者検定試験のうち、いずれか一つに合格
 - (3) キャリア研修Z 公立高等学校の商業科若しくは情報科の教員採用試験に最終合格した者（公立高等学校採用候補者名簿に登載されること。）又はこれに準ずる進路を決定した者（学校法人等に教員としての採用内定を得た者等）

【令和3年度入学生（21台）】

別表第1 商学部（商学科・経営学科）のプログラム授業科目、単位等

配当年次	授業科目	単位	修得必要単位	最低修得年次
1	※特別講義A（教員育成プログラム入門）	2	4	1（注4）
	※特別講義B（教員育成プログラム基礎）	2		
2	※2年基礎ゼミナール	2	4	2
	※2年専門ゼミナール	2		
3	※3年専門ゼミナールⅠ	2	4	3
	※3年専門ゼミナールⅡ	2		
4	△キャリア研修X	4	左記科目の うちから4	4
	△キャリア研修Y	4		
	△キャリア研修Z	4		
	※論文ゼミナール	6	6	

※必修科目、△選択必修科目

(注)

- 1 プログラム学生は、学科履修規程第2条第4項に定める卒業に必要な単位を修得し、教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位を修得するとともに、別表第1に定める修得必要単位を修得しなければならない。
- 2 プログラムの履修を希望する者は、第1年次前期に特別講義A（教員育成プログラム入門）を履修しなければならない。
- 3 プログラム学生は、年次ごとに定める修得必要単位を当該年次終了までに修得しなければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、第1年次前期終了時のプログラム学生の選考で不合格となった者のうち、なおプログラム学生となることを希望する者は、定員に余裕がある場合に限り、第1年次末の追加選考を経てプログラム学生となることができる。この場合において、特別講義B（教員育成プログラム基礎）は、2年次後期に履修するものとする。
- 5 特別講義B（教員育成プログラム基礎）及び2年基礎ゼミナールは、別に指定するプログラムのクラスにおいて履修する。
- 6 キャリア研修の単位は、第4年次1月末日までに次の試験に合格したときにこれを認める。
 - (1) キャリア研修X 日商簿記検定試験2級又は全経簿記検定試験1級に合格し、かつ、日商販売士検定試験2級及び情報処理推進機構が実施する基本情報技術者検定試験に合格
 - (2) キャリア研修Y 日商簿記検定試験1級、全経簿記検定試験上級、日商販売士検定試験1級又は情報処理推進機構が実施する応用情報技術者検定試験のうち、いずれか一つに合格
 - (3) キャリア研修Z 公立高等学校の商業科又は情報科の教員採用試験に最終合格（公立高等学校採用候補者名簿に登録されること。）

【令和6～4年度入学生（24～22台）】

別表第2 第二部商学科のプログラム授業科目、単位等

配当年次	授業科目	単位	修得必要単位	最低修得年次
1	<input type="checkbox"/> 特別講義A（教員育成入門）	2	—	—
	※特別ゼミナールA（教員育成基礎）	2	2	1
2	※2年基礎ゼミナール	2	2	2
	<input type="checkbox"/> 2年専門ゼミナール	2	—	—
	※特別ゼミナールB（教員実力養成）	2	2	2
2・3	△商学ゼミナールA	4	左記科目のうちから4	3
	△商学ゼミナールB	4		
	△金融ゼミナールA	4		
	△金融ゼミナールB	4		
	△経営ゼミナールA	4		
	△経営ゼミナールB	4		
	△会計ゼミナールA	4		
	△会計ゼミナールB	4		
	△国際ゼミナールA	4		
	△国際ゼミナールB	4		
3	△3年専門ゼミナールI	2	左記科目のうちから4	4
	△3年専門ゼミナールII	2		
4	△キャリア研修X	4	左記科目のうちから4	4
	△キャリア研修Y	4		
	△キャリア研修Z	4		
	<input type="checkbox"/> 論文ゼミナール	6	—	—

※必修科目、△選択必修科目、□プログラム修了要件単位に算入しないが履修を強く推奨する科目

(注)

- 1 プログラム学生は、学科履修規程第2条第5項に定める卒業に必要な単位を修得し、教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位を修得するとともに、別表第2に定める修得必要単位を修得しなければならない。
- 2 プログラムの履修を希望する者は、第1年次に特別ゼミナールA（教員育成基礎）を履修しなければならない。
- 3 プログラム学生は、年次ごとに定める修得必要単位を当該年次終了までに修得しなければならない。
- 4 2年基礎ゼミナールは、別に指定するプログラムのクラスにおいて履修する。
- 5 キャリア研修の単位は、第4年次1月末日までに次の試験に合格したときにこれを認める。
 - (1) キャリア研修X 日商簿記検定試験2級又は全経簿記検定試験1級に合格し、かつ、日商販売士検定試験2級及び情報処理推進機構が実施する基本情報技術者検定試験に合格
 - (2) キャリア研修Y 日商簿記検定試験1級、全経簿記検定試験上級、日商販売士検定試験1級又は情報処理推進機構が実施する応用情報技術者検定試験のうち、いずれか一つに合格
 - (3) キャリア研修Z 公立高等学校の商業科若しくは情報科の教員採用試験に最終合格した者（公立高等学校採用候補者名簿に登載されること。）又はこれに準ずる進路を決定した者（学校法人等に教員としての採用内定を得た者等）

【令和3年度入学生（21台）】

別表第2 第二部商学科のプログラム授業科目、単位等

配当年次	授業科目	単位	修得必要単位	最低修得年次
1	※特別講義A（教員育成プログラム入門）	2	4	1（注4）
	※特別講義B（教員育成プログラム基礎）	2		
2	※2年基礎ゼミナール	2	2	2
	□2年専門ゼミナール	2	—	—
2・3	△商学ゼミナールA	4	左記科目のうちから4	3
	△商学ゼミナールB	4		
	△経営ゼミナールA	4		
	△経営ゼミナールB	4		
	△会計ゼミナールA	4		
	△会計ゼミナールB	4		
3	△3年専門ゼミナールⅠ	2		
	△3年専門ゼミナールⅡ	2		
4	△キャリア研修X	4	左記科目のうちから4	4
	△キャリア研修Y	4		
	△キャリア研修Z	4		
	□論文ゼミナール	6	—	—

※必修科目、△選択必修科目、□プログラム修了要件単位に算入しないが履修を強く推奨する科目

(注)

- 1 プログラム学生は、学科履修規程第2条第5項に定める卒業に必要な単位を修得し、教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位を修得するとともに、別表第2に定める修得必要単位を修得しなければならない。
- 2 プログラムの履修を希望する者は、第1年次前期に特別講義A（教員育成プログラム入門）を履修しなければならない。
- 3 プログラム学生は、年次ごとに定める修得必要単位を当該年次終了までに修得しなければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、第1年次前期終了時のプログラム学生の選考で不合格となった者のうち、なおプログラム学生となることを希望する者は、定員に余裕がある場合に限り、第1年次末の追加選考を経てプログラム学生となることができる。この場合において、特別講義B（教員育成プログラム基礎）は、2年次後期に履修するものとする。
- 5 特別講義B（教員育成プログラム基礎）及び2年基礎ゼミナールは、別に指定するプログラムのクラスにおいて履修する。
- 6 キャリア研修の単位は、第4年次1月末日までに次の試験に合格したときにこれを認める。
 - (1) キャリア研修X 日商簿記検定試験2級又は全経簿記検定試験1級に合格し、かつ、日商販売士検定試験2級及び情報処理推進機構が実施する基本情報技術者検定試験に合格
 - (2) キャリア研修Y 日商簿記検定試験1級、全経簿記検定試験上級、日商販売士検定試験1級又は情報処理推進機構が実施する応用情報技術者検定試験のうち、いずれか一つに合格
 - (3) キャリア研修Z 公立高等学校の商業科又は情報科の教員採用試験に最終合格（公立高等学校採用候補者名簿に登録されること。）

【キャリア研修X・Y・Zの単位認定について】

1. キャリア研修X・Y・Zとは

キャリア研修X・Y・Zとは、プログラム修了要件別表（注）に示す試験に合格した場合に本人の申請により単位が認定される科目です。詳細は下表のとおりです。X・Y・Z全てを申請することも可能です。申請には合格証書の原本が必要ですので、必ず保管しておいてください。なお、本学入学前に合格した試験についても、申請することができます。

申請科目	対象となる試験・検定等	単位数
キャリア研修X	日商簿記検定試験2級 又は 全経簿記検定試験1級	4
	かつ 日商販売士検定試験2級 及び 基本情報技術者検定試験	
キャリア研修Y	日商簿記検定試験1級	左のうちいずれか1つ
	全経簿記検定試験上級	
	日商販売士検定試験1級	
	応用情報技術者検定試験	
キャリア研修Z	公立高等学校商業科教員採用試験最終試験若しくは公立高等学校情報科教員採用試験最終試験 (いずれも公立高等学校採用候補者名簿に登載されること) また、22台以降は上記に準ずる進路を決定した者（学校法人等に教員としての採用内定を得た者等）も対象	4

2. 受験票提出及び合格報告について

上表の各種試験の受験毎に、受験票の受領日から原則として1週間以内に2号館1階事務室に「受験票の控え（コピー）」を提出してください。また、各種試験に合格した際は、合格証書の発行日から原則として1週間以内に2号館1階事務室に「合格報告（報告書の提出及び合格証書の原本提示）」を行ってください。なお、入学前に合格した試験については、選考のうえプログラム学生となった時から1ヶ月以内に報告してください。報告の最終締め切りは4年次の1月末です。

3. キャリア研修単位認定申請について

キャリア研修単位認定の申請期間及び提出書類は次のとおりです。この期間内に、自身が希望する科目を申請します。なお申請する科目の対象となる試験の合格報告がなければ単位は認定されません。合格報告のみで申請書の提出がない場合も同様です。

申請期間：4年次の12月中の一定期間（詳細は11月上旬に掲示します）
提出書類：キャリア研修単位認定申請書
提出先：2号館1階事務室

なお、単位認定申請期間までに合格発表が行われていない試験であっても、4年次1月末日までに合格報告が可能な試験を受験している場合には、単位認定を申請することができます。

4. 単位の認定時期および履修登録について

単位の認定時期は4年次末です。

キャリア研修X・Y・Zは4年次のWeb履修登録は不要です。ただし、これらの単位は年間登録上限単位数に含まれます。申請する予定の単位数を差し引いて履修計画を立てる必要があるので注意してください。

3 高校商業・情報科教員育成プログラム学生の選考について

高校商業・情報科教員育成プログラムで学ぶためには、高校商業・情報科教員育成プログラム学生選考に合格しなければなりません。

選考の実施要領は以下のとおりですので、選考希望者は参照してください。

(目的)

- 1 この実施要領は、商学部商学科・経営学科及び商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラムに関する内規第4条第2項の規定に基づき選考について必要な事項を定める。

(募集時期)

- 2 商学部商学科・経営学科及び商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下「プログラム」という。）の学生選考の募集時期は、第1年次後期末とする。

(募集人員)

- 3 プログラムの募集人員は、各学科のバランスを考慮した上で、概ね20人とする。

(出願資格)

- 4 プログラム学生選考に出願することができる者は、次に掲げる条件をすべて満たすものとする。
 - (1) 商学部商学科、経営学科、又は商学部第二部商学科の第1年次、又は貿易学科の学生で、商学部商学科、経営学科、又は商学部第二部商学科のいずれかの学科に転科希望の第1年次に在籍する者
 - (2) 教職課程を履修している者
 - (3) 高校商業・情報科教員の使命及びプログラムの趣旨を理解し、選考合格後は勉学に専念してプログラムのカリキュラムを修了する意思がある者
 - (4) 特別ゼミナールA（教員育成基礎）の単位を修得している者
 - (5) 年度末の出願時点において、当該年度の修得単位数が履修登録単位数の75パーセントを満たしている者

(選考)

- 5 プログラム学生の選考は、次の各号に掲げる科目の1単位当たりの標準得点（各科目の標準得点に当該科目の単位数を乗じた点数の合計を当該各号に掲げる科目の総単位数で除した点数をいう。以下同じ。）の合計により行う。ただし、他大学又は短期大学において履修し、単位認定された科目及び短期大学又は高等専門学校等の専攻科において学修し、単位認定された科目を除く。
 - (1) 特別ゼミナールA（教員育成基礎）の標準得点
 - (2) 前号の科目を除く、第1年次に履修登録した科目（教職課程科目を含む。）の標準得点なお、応募者が多い場合、選考に当たって、特別講義A（教育育成入門）の履修の有無及び標準得点を評価項目に入れて行う。

(運営委員会)

- 6 プログラム学生選考に関する学生募集及び選考は、プログラム運営委員会が実施する。

(実施日)

- 7 この要領は、令和4年4月1日から実施し、令和4年度入学生から適用する。

4 その他

【高校商業・情報科教員育成プログラムのスケジュール】

スケジュールは下表に示していますので、参考にしてください。

【1年次】

4月	・教職課程説明会
	・プログラム説明会
	・プログラム履修登録
9月	・プログラム履修登録
12月	・プログラム説明会及びプログラム学生募集
1月	・プログラム学生選考出願申込
2～3月	・プログラム学生選考及び合格発表
	・プログラム履修登録

【2年次】

3月	・資格審査
----	-------

【3年次】

6月	・キャリアセンター高校商業・情報科教員採用試験受験対策講座説明会
	・キャリアセンター高校商業・情報科教員採用試験受験対策講座受講申込
9月	・キャリアセンター高校商業・情報科教員採用試験受験対策講座開講
3月	・資格審査

【4年次】

6月	・キャリアセンター高校商業・情報科教員採用試験受験対策講座終了
7月	・公立高等学校商業・情報科教員採用試験1次試験及び合格発表
	・教職課程教育センター高校商業・情報科教員免許状取得見込証明書発行
	・プログラム修了見込証発行
8～9月	・公立高等学校商業・情報科教員採用試験2次試験
10月	・公立高等学校商業・情報科教員採用試験2次試験合格発表及び採用候補者名簿登載
11月	・教職課程教育センター高校商業・情報科教員免許状一括申請説明会
12月	・教職課程教育センター高校商業・情報科教員免許状一括申請申込
	・キャリア研修X・Y・Z単位認定申請
2月	・キャリア研修X・Y・Z単位認定
3月	・卒業式終了後、高校商業・情報科教員免許状及びプログラム修了証授与
	・赴任校決定

●卒業要件単位（正式には、学科履修規程を参照してください。）

商学部商学科 令和6年度入学生（CC24台）

卒業するためには、次の単位の修得が必要です。

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
		学修基盤科目		
	外国語科目	第1外国語 8単位以上	計72単位以上	
第2外国語 4単位以上				
保健体育科目 4単位				
単位互換科目				
専門教育科目	選択必修科目 6単位以上	計20単位以上		
	選択科目 66単位以上			
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目			

- (注) 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 3 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 4 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 5 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

◇関連教育科目は、専門教育科目として卒業単位には認定されません。

◇他学科の専門教育科目修得には上限があり、その上限単位を超えた単位は、自由履修単位に算入します。

●年次別授業科目表（正式には、学科履修規程を参照してください。）

商学部商学科 令和6年度入学生（CC24台）

内の科目は、令和6年度に登録可能な科目です。

内の科目は、令和6年度には登録できません。

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2	
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2	
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2	
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
	社会科学	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2	
		法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2	
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2	
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2	
自然科学	文化人類学A	2	文化人類学B	2						
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2		
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2								
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2		
		データサイエンス・AI入門	2							
教育科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2					
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2						
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2						
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
※生涯スポーツ演習Ⅱ	1									
単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	選択必修科目	流通・マーケティング入門	2							
		金融入門	2							
		交通経済入門	2							
		保険論入門	2							
		商業史入門	2							
	選択科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
		特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
		情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
		情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
		商学のための数学	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
商学のための統計学	2	情報処理基礎	2	海外交流ゼミナール	4					
経営入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2			
経営学総論	2	マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	流通システム論	2			
簿記原理	4	地域商業論	2	流通政策	2	サービスマネジメント	2			
会社簿記	4	サービスマーケティング	2	情報産業論	2	広告コミュニケーション	2			
原価計算論	4	情報社会論	2	市場分析論	2	金融論	2			
キャリアデザイン	2	金融政策論	2	銀行論	2	金融システム論	2			
特別講義A	2	証券市場論	2	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2			
特別講義B	2	交通経済論	2	海運と航空	2	交通政策	2			
		保険論	2	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2			
		サプライチェーンマネジメント	2	商業史概論	2	日本商業史	2			
		近代日本商業史	2	西洋商業史	2	近代西洋商業史	2			
		会計学総論	2	財務会計論	2	経営分析論	2			
		商学特別講義A	4	商学特別講義B	2	商学特別講義C	2			
		特別講義C	2	特別講義D	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	知的財産法	4		
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	経済法	4	労働法	4		
	民法入門	2	経済政策	4	税法ⅠA	2	税法ⅠB	2		
	民法総則	2			税法Ⅱ	2	会社法Ⅰ	2		
					会社法Ⅱ	2	企業取引法	2		
					企業取引法	2	企業取引決済法	2		
					国際法総論	4	経済学史A	2		
					経済学史B	2	経済統計論	4		
					財政学	4	国際経済学	4		
					産業組織論A	2	産業組織論B	2		
				経済学のための情報技術	2					
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

●卒業要件単位（正式には、学科履修規程を参照してください。）

商学部経営学科 令和6年度入学生（CB24台）

卒業するためには、次の単位の修得が必要です。

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
		学修基盤科目		
	外国語科目	第1外国語 8単位以上		
第2外国語 4単位以上				
保健体育科目 4単位				
単位互換科目				
専門教育科目	必修科目 8単位以上	計72単位以上		
	選択必修科目 12単位以上			
	選択科目 52単位以上			
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目	計20単位以上		

- (注) 1 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（52単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 3 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 4 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 5 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

◇関連教育科目は、専門教育科目として卒業単位には認定されません。

◇他学科の専門教育科目修得には上限があり、その上限単位を超えた単位は、自由履修単位に算入します。

●年次別授業科目表（正式には、学科履修規程を参照してください。）

商学部経営学科 令和6年度入学生（CB24台）

□内の科目は、令和6年度に登録可能な科目です。

■内の科目は、令和6年度には登録できません。

※印は必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通 教養 科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	社会科学	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2
		法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
自然科学	文化人類学A	2	文化人類学B	2					
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
	自然科学と人間	2							
総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2							
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
	データサイエンス・AI入門	2							
教育 科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
	授業科目		授業科目		授業科目		授業科目		
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1	
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1	
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1			
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1			
					海外英語研修	2			
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
フランス語ⅠB		2	フランス語ⅡB	2					
中国語ⅠA		2	中国語ⅡA	2					
中国語ⅠB		2	中国語ⅡB	2					
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2					
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2					
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2						
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2						
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2						
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2						
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門 教育 科目	必修科目	経営入門	2						
		経営学総論	2						
	選択必修科目	簿記原理	4						
		経営戦略論	2	財務会計論	2				
		経営組織論	2						
		経営心理学	2						
		商学のための数学	2						
		商学のための統計学	2						
		会計学総論	2						
		会社簿記	4						
原価計算論	4								
選択科目	経営基礎ゼミナールⅠ	2	○●☆2年基礎ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
	経営基礎ゼミナールⅡ	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅡ	2	○☆キャリア研修X	4	
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	○☆キャリア研修Y	4	
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2	○☆キャリア研修Z	4	
	特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
	情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
	情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
	情報処理基礎	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
	クリエイティブ社会論	2	情報処理基礎	2	海外交流ゼミナール	4			
	経営特別講義A	2	企業論	2	社会的企業論	2	中小企業論	2	
経営特別講義B	2	経営管理論	2	生産管理論	2	経営労務論	2		
		ヒューマンリソースマネジメント	2	企業戦略論	2	経営財務論	2		
		オペレーションズリサーチ	2	国際経営論	2	経営史	2		
キャリアデザイン	2	クリエイティブ・マネジメント論	2	プロジェクト・マネジメント論	2	マーケティング戦略論	2		
		マーケティングリサーチ	2	サービスマネジメント	2	サービスマーケティング	2		
特別講義A	2	地域経営論	2	情報産業論	2	情報社会論	2		
特別講義B	2	経営学特論	2						
		国際会計論	2	監査論	2	税と生活	2		
		税務会計論	2	会計情報システム論	2	経営分析論	2		
		管理会計論	2	意思決定会計論	2	会計学特論	2		
		経営特別講義C	2	経営特別講義D	2				
		特別講義C	2						
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	知的財産法	4	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	経済法	4	労働法	4	
	民法入門	2	経済政策	4	税法ⅠA	2	税法ⅠB	2	
	民法総則	2			会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2	
					企業取引法	2	企業取引決済法	2	
				国際法総論	4	経済統計論	4		
				財政学	4	国際経済学	4		
				産業組織論A	2	産業組織論B	2		
				経済学のための情報技術	2				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生が履修することができる。
 (2) ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生が履修することができる。
 (3) ☆印の科目は、高校商業・情報科教員育成プログラムの学生が履修することができる。

●卒業要件単位（正式には、学科履修規程を参照してください。）

商学部貿易学科 令和6年度入学生（CF24台）

卒業するためには、次の単位の修得が必要です。

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
		学修基盤科目		
	外国語科目	第1外国語 8単位以上	計72単位以上	
第2外国語 4単位以上				
保健体育科目 4単位				
単位互換科目				
専門教育科目	選択必修科目 6単位以上	計20単位以上		
	選択科目 66単位以上			
自由履修単位	共通教育科目	計20単位以上		
	専門教育科目			
	関連教育科目			

- (注) 1 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 3 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 4 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 5 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

◇関連教育科目は、専門教育科目として卒業単位には認定されません。

◇他学科の専門教育科目修得には上限があり、その上限単位を超えた単位は、自由履修単位に算入します。

●年次別授業科目表（正式には、学科履修規程を参照してください。）

商学部貿易学科 令和6年度入学生（CF24台）

□内の科目は、令和6年度に登録可能な科目です。

■内の科目は、令和6年度には登録できません。

※印は必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通 教養 科目	総合 人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
		人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2
		西洋教育史	2						
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
自然科学	地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2	心理学A	2	
	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2			
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2							
	学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン データサイエンス・AI入門	2 2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2
育 外 国 語 科 目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2				
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2				
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2				
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2					
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2					
スペイン語ⅠA		2	スペイン語ⅡA	2					
スペイン語ⅠB		2	スペイン語ⅡB	2					
朝鮮語ⅠA		2	朝鮮語ⅡA	2					
朝鮮語ⅠB		2	朝鮮語ⅡB	2					
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1							
単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専 門 教 育 科 目	選択必修科目	貿易入門A	2	貿易商務論A	2				
		貿易入門B	2	貿易商務論B	2				
	選択科目	簿記原理	4						
		貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6
		ステップアップゼミナール	2			3年専門ゼミナールⅡ	2		
		特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2
		情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2
		情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2
		商学のための数学	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2
		商学のための統計学	2	情報処理基礎	2	ビジネス英会話上級Ⅰ	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2
流通・マーケティング入門		2	海外交流ゼミナール	4	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2	
金融入門		2	国際物流論A	2	国際物流論B	2	海上保険論A	2	
経営入門		2	海上保険論B	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2	
経営学総論		2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2	国際貿易論Ⅰ	2	
ビジネス英会話初級		4	国際貿易論Ⅱ	2	国際金融論Ⅰ	2	国際金融論Ⅱ	2	
会社簿記		4	貿易政策	2	国際政治経済学	2	世界経済論	2	
原価計算論		4	貿易史	2	国際協力論A	2	国際協力論B	2	
キャリアデザイン		2	開発経済論A	2	開発経済論B	2	日本経済論A	2	
特別講義A	2	日本経済論B	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2		
特別講義B	2	アメリカ経済論Ⅰ	2	アメリカ経済論Ⅱ	2	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2		
		ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	海外直接投資論	2	グローバル企業論	2		
		市場分析論	2	国際マーケティング論A	2	国際マーケティング論B	2		
		会計学総論	2	財務会計論	2	国際会計論	2		
		貿易特別講義A	2	貿易特別講義B	2	貿易特別講義C	2		
		貿易特別講義D	2						
		特別講義C	2	特別講義D	2				
		概説日本史	2	概説外国史	2	概説法律学	2		
		概説政治学	2	概説社会学	2				
関 連 教 育 科 目	憲法Ⅰ	2	英米法	2	知的財産法	4	経済法	4	
	憲法Ⅱ	2	国際関係論	4	国際私法	4	会社法Ⅰ	2	
	民法入門	2	マクロ経済学	4	会社法Ⅱ	2	企業取引法	2	
	民法総則	2	ミクロ経済学	4	企業取引決済法	2	国際法総論	4	
			経済政策	4	財政学	4	ストックの経済学	2	
			概説哲学	2	経済学のための情報技術	2			
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

各種課程の履修について

本学では教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程を開設しており、学生の免許・資格の取得をサポートしています。これらの課程の履修方法については別冊『教職課程・博物館学芸員課程・社会教育主事課程 履修の手引』を参照してください。

教職課程

本学の各学部・学科で取得できる教員免許状は次の表のとおりです。

〈取得できる免許状の種類と教科〉

学 部	学 科	免許状の種類及び教科		
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	その他の一種免許状
人文学部	文化学科	社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民	—
	歴史学科			
	日本語日本文学科	国 語	国 語	
	教育・臨床心理学科	社 会	公 民	
	英語学科	外国語(英語)	外国語(英語)	
	ドイツ語学科	外国語(ドイツ語)	外国語(ドイツ語)	
	フランス語学科	外国語(フランス語)	外国語(フランス語)	
	東アジア 地域言語学科	中国コース 外国語(中国語)	外国語(中国語)	
	韓国コース 外国語(朝鮮語)	外国語(朝鮮語)		
法学部	法律学科	社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民	—
	経営法学科			
経済学部	経済学科	社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民 ・ 情 報	—
	産業経済学科			
商学部	商学科	—	商 業 ・ 情 報	—
	経営学科	社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民	
	貿易学科			
商学部第二部	商学科	社 会	地 理 歴 史 ・ 公 民 ・ 商 業 ・ 情 報	—
理学部	応用数学科	数 学	数 学 ・ 情 報	—
	物理科学科	理 科	理 科 ・ 情 報	
	化学科		理 科	
	地球圏科学科		理 科	
工学部	機械工学科	—	工 業	—
	電気工学科		工 業 ・ 情 報	
	電子情報工学科		工 業	
	化学システム工学科			
	社会デザイン工学科			
	建築学科			
医学部	看護学科	—	看 護	養 護 教 諭
スポーツ科学部	スポーツ科学科	保 健 体 育	保 健 体 育	—
	健康運動科学科			

[人文学部ドイツ語学科・フランス語学科・東アジア地域言語学科]

他学科の科目を履修することで、人文学部ドイツ語学科・フランス語学科については「外国語(英語)」の免許状を、東アジア地域言語学科については「国語」の免許状を取得することが可能です。しかし、いずれも在籍する学科で取得できる免許教科の取得が前提であり、その他成績等の制約も設けられているため在学中の取得は難しいかもしれません。

[医学部看護学科]

高一種「看護」と養護教諭一種免許状を取得できますが、学科の看護学実習等もあるため、在学中に両方を取得することは困難です。どちらかに決めて履修の方が望ましいでしょう。

[小学校教諭免許状取得プログラム]

本プログラムに参加することにより、小学校教諭一種免許状の取得に必要な単位の修得も可能です。ただし参加条件があり、1年次の後期に応募し受講を許可される必要があります。

博物館学芸員課程

学芸員とは、博物館（美術館・歴史資料館・動物園・植物園・水族館など）に置かれる専門職員で、資料の収集や保管、調査研究、展示などを行います。

本学では次の学部・学科に学芸員となる資格を取得できる博物館学芸員課程を設けています。

学 部	学 科
人 文 学 部	文 化 学 科
	歴 史 学 科
理 学 部	応 用 数 学 科
	物 理 科 学 科
	化 学 科
	地 球 圏 科 学 科

社会教育主事課程

社会教育主事とは、都道府県および市町村の教育委員会の事務局に置かれる「専門的教育職員」であり、主に学校外教育で青少年および成人に対して行われる組織的な教育活動（体育およびレクリエーションの活動を含む。）を行う者に専門的・技術的な助言と指導を行うことを職務とします。

本学では次の学部・学科に社会教育主事となるために必要な単位を修得できる社会教育主事課程を設けています。

学 部	学 科
人 文 学 部	文 化 学 科
	教 育 ・ 臨 床 心 理 学 科
ス ポ ー ツ 科 学 部	ス ポ ー ツ 科 学 科
	健 康 運 動 科 学 科

外国語科目クラス別担当者一覧

※英語のレギュラークラス（目的別クラス）担当者については、Web履修登録画面または授業科目確認表を参照してください。

※英語の再履修クラス担当者については、「IV履修の手引き」（p.74）を参照してください。

ドイツ語

ドイツ語 I A およびドイツ語 I B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者	
LC LH	全	I A	通年	火	3	堺 雅 志	
		I B	通年	金	5	片 岡 宜 行	
LJ LP LE LF LA	全	I A	通年	火	3	篠 崎 元	
		I B	通年	金	5	永 田 善 久	
LG	1(a)	I A	前期	月	2	富 重 純 子	
		I B	後期	木	4		
	1(b)	I A	前期	月	4		森 澤 万里子
		I B	後期	木	2		
JJ	1-5	I A	通年	火	2	篠 崎 元	
		I B	通年	金	2	篠 崎 元	
	6-10	I A	通年	火	5	マ ン ケ	
		I B	通年	木	3	堀 口 順 子	
JB	全	I A	通年	月	1	田 口 武 史	
		I B	通年	木	2	有 馬 良 之	
E	全	I A	通年	月	2	森 澤 万里子	
		I B	通年	木	1	堀 口 順 子	
CC	1-4	I A	通年	火	4	堀 口 順 子	
		I B	通年	金	1	有 馬 良 之	
	5-6	I A	通年	火	4	有 馬 良 之	
		I B	通年	金	1	篠 崎 元	
CB	全	I A	通年	月	3	富 重 純 子	
		I B	通年	水	2	有 馬 良 之	
CF	全	I A	通年	月	5	ライヒャルト	
		I B	通年	木	4	金 山 正 道	
SM SP	全	I A	通年	火	4	堀 口 順 子	
		I B	通年	金	1	有 馬 良 之	
SC SE	全	I A	通年	火	4	有 馬 良 之	
		I B	通年	金	1	篠 崎 元	
TM TE	全	I A	通年	火	5	マ ン ケ	
		I B	通年	木	3	堀 口 順 子	
TL	全	I A	通年	月	5	ライヒャルト	
		I B	通年	木	4	金 山 正 道	
TK	全	I A	通年	月	5	ライヒャルト	
		I B	通年	木	4	金 山 正 道	
TC	全	I A	通年	月	1	田 口 武 史	
		I B	通年	木	2	有 馬 良 之	
TA	全	I A	通年	月	3	富 重 純 子	
		I B	通年	水	2	有 馬 良 之	

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
MM	全	I A	通年	火	2	篠 崎 元
		I B	通年	金	2	篠 崎 元
P	全	I A	通年	月	2	森 澤 万里子
		I B	通年	木	1	堀 口 順 子
G	全	I A	通年	火	3	堺 雅 志
		I B	通年	金	5	片 岡 宜 行

ドイツ語Ⅱ Aおよびドイツ語Ⅱ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC LH	全	Ⅱ A	通年	火	1	篠 崎 元
		Ⅱ B	通年	金	4	デル カステイヨ
LJ LP LE LF LA	全	Ⅱ A	通年	金	4	金 山 正 道
		Ⅱ B	通年	火	1	ライヒャルト
LG	1(a)	Ⅱ A	通年	水	2	富 重 純 子
		Ⅱ B	通年	金	2	ゴ ツ イ ッ ク
	1(b)	Ⅱ A	通年	金	2	片 岡 宜 行
		Ⅱ B	通年	水	2	デル カステイヨ

※ J・E・C・S・T・P・Gの学生で、ドイツ語Ⅱ A・Ⅱ Bの履修を希望する場合は、ドイツ語Ⅱ A・Ⅱ BのLGクラス以外で履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、Ⅱ A・Ⅱ Bを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。(S、Tの学生以外)

※ S、Tの学生はⅡ AかⅡ Bのいずれか片方を「ドイツ語Ⅱ」として履修します。

フランス語

フランス語ⅠAおよびフランス語ⅠB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH LJ LG	全	I A	通年	火	3	甲斐春香
		I B	通年	金	5	山本崇代
LP LE LA	全	I A	通年	火	3	山下広一
		I B	通年	金	5	渡邊佳奈
LF	1(a)	I A	前期	月	2	村石麻子
				木	4	
	I B	後期	月	2	井関麻帆	
			木	4		
1(b)	I A	前期	月	4	小池美穂	
			木	2		
JJ	1-5	I A	通年	火	2	甲斐春香
		I B	通年	金	2	
	6-10	I A	通年	火	5	山下広一
		I B	通年	木	3	
JB	全	I A	通年	月	1	鈴木隆美
		I B	通年	木	2	
E	全	I A	通年	月	2	渡邊佳奈
		I B	通年	木	1	
CC	全	I A	通年	火	4	山下広一
		I B	通年	金	1	
CB	全	I A	通年	月	3	渡邊佳奈
		I B	通年	水	2	
CF	全	I A	通年	月	5	渡邊佳奈
		I B	通年	木	4	
SM SP SC	全	I A	通年	火	4	木下樹親
		I B	通年	金	1	
SE	全	I A	通年	火	4	山下広一
		I B	通年	金	1	
TM TE	全	I A	通年	火	5	山下広一
		I B	通年	木	3	
TL	全	I A	通年	月	5	渡邊佳奈
		I B	通年	木	4	
TK	全	I A	通年	月	5	渡邊佳奈
		I B	通年	木	4	
TC	全	I A	通年	月	1	鈴木隆美
		I B	通年	木	2	
TA	全	I A	通年	月	3	渡邊佳奈
		I B	通年	水	2	
MM	全	I A	通年	火	2	甲斐春香
		I B	通年	金	2	
P	全	I A	通年	月	2	渡邊佳奈
		I B	通年	木	1	
G	全	I A	通年	火	3	甲斐春香
		I B	通年	金	5	

フランス語ⅡAおよびフランス語ⅡB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH LJ	全	Ⅱ A	通年	火	1	河野敦子
		Ⅱ B	通年	金	4	山本崇代
LE LP LG LA	全	Ⅱ A	通年	火	1	原田裕里
		Ⅱ B	通年	金	4	原田裕里
LF	1(a)	Ⅱ A	通年	水	2	村石麻子
		Ⅱ B	通年	金	2	アンティエ
	1(b)	Ⅱ A	通年	金	2	山本大地
		Ⅱ B	通年	水	2	アンティエ

※ J・E・C・S・T・P・Gの学生で、フランス語ⅡA・ⅡBの履修を希望する場合は、フランス語ⅡA・ⅡBのLFクラス以外で履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、ⅡA・ⅡBを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。(S、Tの学生以外)

※ S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「フランス語Ⅱ」として履修します。

中国語

中国語ⅠAおよび中国語ⅠB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC	全	I A	通年	火	3	王 雲 燕
		I B	通年	金	5	王 秀 珍
LH	全	I A	通年	火	3	龍 一 夫
		I B	通年	金	5	王 貞 月
LJ	全	I A	通年	火	3	何 憶 鶴
		I B	通年	金	5	岡 村 真寿美
LP	1	I A	通年	火	3	オウ イクブン
		I B	通年	金	5	荀 暁 崢
	2	I A	通年	火	3	宮 下 尚 子
		I B	通年	金	5	武 継 平
LE LG LF	全	I A	通年	火	3	ア イ ネ ル
		I B	通年	金	5	宮 下 尚 子
LA	1	I A	前期	火	3	王 美 蘭
		I B	後期	火	3	王 一 萍
	2	I A	前期	火	3	王 一 萍
		I B	後期	火	3	王 美 蘭
JJ	1-5	I A	通年	火	2	中里見 敬 夫
		I B	通年	金	2	龍 一 夫
	6-10	I A	通年	火	5	田 村 和 彦
		I B	通年	木	3	有 働 彰 子
JB	全	I A	通年	月	1	王 美 蘭
		I B	通年	木	2	王 貞 月
EE	1-6	I A	通年	月	2	王 一 萍
		I B	通年	木	1	陳 青 鳳
	7-12	I A	通年	月	2	朱 冰
		I B	通年	木	1	王 貞 月
EI	全	I A	通年	月	2	朱 冰
		I B	通年	木	1	王 貞 月
CC	全	I A	通年	火	4	陳 青 鳳
		I B	通年	金	1	ア イ ネ ル
CB	全	I A	通年	月	3	オウ イクブン
		I B	通年	水	2	葛 目 至
CF	1-2	I A	通年	月	5	チ ヨ ウ ロ
		I B	通年	木	4	羽 田 ジェシカ
	3-4	I A	通年	月	5	オウ イクブン
		I B	通年	木	4	堤 和 幸

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
SM	1	I A	通年	火	4	陳 青 鳳
		I B	通年	金	1	ア イ ネ ル
	2	I A	通年	火	4	王 一 萍
		I B	通年	金	1	羅 明 坤
SP	1	I A	通年	火	4	陳 青 鳳
		I B	通年	金	1	ア イ ネ ル
	2	I A	通年	火	4	ホウ ラメイ
		I B	通年	金	1	オウ イクブン
SC	全	I A	通年	火	4	王 一 萍
		I B	通年	金	1	羅 明 坤
SE	1	I A	通年	火	4	ホウ ラメイ
		I B	通年	金	1	オウ イクブン
	2	I A	通年	火	4	宮 下 尚 子
		I B	通年	金	1	王 美 蘭
S再	全	I A	通年	火	4	宮 下 尚 子
		I B	通年	金	1	王 美 蘭
TM	1	I A	通年	火	5	王 秀 珍
		I B	通年	木	3	羽 田 ジェシカ
	2	I A	通年	火	5	ホウ ラメイ
		I B	通年	木	3	葛 目 至
TE	1	I A	通年	火	5	龍 一 夫
		I B	通年	木	3	王 雲 燕
	2	I A	通年	火	5	王 雲 燕
		I B	通年	木	3	堤 和 幸
TL	1-2	I A	通年	月	5	王 一 萍
		I B	通年	木	4	葛 目 至
	3-4	I A	通年	月	5	王 美 蘭
		I B	通年	木	4	大 澤 武 司
TK	1	I A	通年	月	5	中 村 昌 彦
		I B	通年	木	4	岡 村 真寿美
	2	I A	通年	月	5	伊 伏 啓 子
		I B	通年	木	4	有 働 彰 子
TC	1	I A	通年	月	1	朱 冰
		I B	通年	木	2	陳 青 鳳
	2	I A	通年	月	1	王 一 萍
		I B	通年	木	2	何 憶 鶴
TA	1	I A	通年	月	3	王 美 蘭
		I B	通年	水	2	岡 村 真寿美
	2	I A	通年	月	3	中 村 昌 彦
		I B	通年	水	2	河 本 美 紀
MM	全	I A	通年	火	2	中里見 敬
		I B	通年	金	2	龍 一 夫
PP	1-3	I A	通年	月	2	王 一 萍
		I B	通年	木	1	陳 青 鳳
	4-6	I A	通年	月	2	朱 冰
		I B	通年	木	1	王 貞 月
G	全	I A	通年	火	3	龍 一 夫
		I B	通年	金	5	王 貞 月

中国語ⅡAおよび中国語ⅡB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC	全	ⅡA	通年	火	1	ア イ ネ ル
		ⅡB	通年	金	4	ホ ウ ラ メ イ
LH	1	ⅡA	通年	火	1	有 働 彰 子
		ⅡB	通年	金	4	オ ウ イ ク ブ ン
	2	ⅡA	通年	火	1	王 美 蘭
		ⅡB	通年	金	4	王 一 萍
LJ	全	ⅡA	通年	火	1	中里見 敬
		ⅡB	通年	金	4	宮 下 尚 子
LP	1	ⅡA	通年	火	1	オウ イクブン
		ⅡB	通年	金	4	王 美 蘭
	2	ⅡA	通年	火	1	王 一 萍
		ⅡB	通年	金	4	武 継 平
LE LG LF	全	ⅡA	通年	火	1	宮 下 尚 子
		ⅡB	通年	金	4	王 秀 珍
LA	全	ⅡA	前期	火 金	4 3	オウ イクブン
		ⅡB	後期	火 金	4 3	オウ イクブン
J E C S T P G	全	ⅡA	通年	火	5	荀 曉 崢
		ⅡB	通年	木	4	宮 下 尚 子

※S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「中国語Ⅱ」として履修します。

スペイン語

スペイン語 I A およびスペイン語 I B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC LH LE LF LA	全	I A	通年	火	3	鈴 木 美 香
		I B	通年	金	5	辻 博 子
LJ LP LG	全	I A	通年	火	3	青 木 文 夫
		I B	通年	金	5	上 間 洋
JJ	1-5	I A	通年	火	2	青 木 文 夫
		I B	通年	金	2	上 間 洋
	6-8	I A	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	木	3	デ ィ ア ス
	9-10	I A	通年	木	3	青 木 文 夫
		I B	通年	火	5	デ ィ ア ス
JB	全	I A	通年	木	2	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	月	1	デ ィ ア ス
E	全	I A	通年	木	1	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	月	2	デ ィ ア ス
CC	1-3	I A	通年	火	4	鈴 木 美 香
		I B	通年	金	1	上 間 洋
	4-6	I A	通年	金	1	鈴 木 美 香
		I B	通年	火	4	デ ィ ア ス
CB	全	I A	通年	月	3	鈴 木 美 香
		I B	通年	水	2	辻 博 子
CF	1-2	I A	通年	月	5	鈴 木 美 香
		I B	通年	木	4	デ ィ ア ス
	3-4	I A	通年	木	4	青 木 文 夫
		I B	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
SC SE	全	I A	通年	火	4	鈴 木 美 香
		I B	通年	金	1	上 間 洋
SM SP	全	I A	通年	金	1	鈴 木 美 香
		I B	通年	火	4	デ ィ ア ス
TM	1	I A	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	木	3	デ ィ ア ス
	2	I A	通年	木	3	青 木 文 夫
		I B	通年	火	5	デ ィ ア ス
TE	1	I A	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	木	3	デ ィ ア ス
	2	I A	通年	木	3	青 木 文 夫
		I B	通年	火	5	デ ィ ア ス
TL	1-2	I A	通年	月	5	鈴 木 美 香
		I B	通年	木	4	デ ィ ア ス
	3-4	I A	通年	木	4	青 木 文 夫
		I B	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
TK	1	I A	通年	月	5	鈴 木 美 香
		I B	通年	木	4	デ ィ ア ス
	2	I A	通年	木	4	青 木 文 夫
		I B	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
TC	全	I A	通年	木	2	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	月	1	デ ィ ア ス
TA	全	I A	通年	月	3	鈴 木 美 香
		I B	通年	水	2	辻 博 子

学部 学科	組	科目	期別	曜 日	時 限	担 当 者
MM	全	I A	通年	火	2	青 木 文 夫
		I B	通年	金	2	上 間 洋
P	全	I A	通年	木	1	フジヨシ ミヨコ
		I B	通年	月	2	デ ィ ア ス
G	全	I A	通年	火	3	青 木 文 夫
		I B	通年	金	5	上 間 洋

スペイン語ⅡAおよびスペイン語ⅡB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC LH LE LF LA	全	ⅡA	通年	火	1	青 木 文 夫
		ⅡB	通年	金	4	辻 博 子
LJ LP LG	全	ⅡA	通年	火	1	鈴 木 美 香
		ⅡB	通年	金	4	上 間 洋

※ J・E・C・S・T・P・Gの学生で、スペイン語ⅡA・ⅡBの履修を希望する場合は、スペイン語ⅡA・ⅡBのLクラスで履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、ⅡA・ⅡBを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。(S、Tの学生以外)

※ S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「スペイン語Ⅱ」として履修します。

朝鮮語

朝鮮語ⅠAおよび朝鮮語ⅠB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC	1	I A	通年	火	3	押川 信久
		I B	通年	火	5	朴順 伊鎬
	2	I A	通年	火	3	申鎬 十
		I B	通年	火	5	鄭ハ 順
LH	全	I A	通年	火	3	押川 信久
		I B	通年	火	5	朴順 伊久
LJ	1	I A	通年	火	3	押川 信順
		I B	通年	火	5	朴順 伊鎬
	2	I A	通年	火	3	申鎬 十
		I B	通年	火	5	鄭ハ 順
LG LF	全	I A	通年	火	3	申鎬 十
		I B	通年	火	5	鄭ハ 順
LE	全	I A	通年	火	3	鄭美 京
		I B	通年	火	5	申鎬 十
LP	全	I A	通年	火	3	白岩 美穂
		I B	通年	火	5	趙賢 眞
LA	1	I A	前期	月	4	尹秀 美
		I B	後期	月	4	羅義 圭
	2	I A	前期	月	4	羅義 圭
		I B	後期	月	4	尹秀 美
JJ	1-3	I A	通年	火	2	押川 信久
		I B	通年	火	2	黃聖 媛
	4-5	I A	通年	火	2	黃聖 媛
		I B	通年	火	2	高仁 淑
	6-10	I A	通年	火	5	高仁 淑
		I B	通年	木	3	申鎬 十
JB	1	I A	通年	月	1	羅義 圭
		I B	通年	月	2	崔秀 蓮
	2	I A	通年	月	1	大川 賢眞
		I B	通年	月	2	趙賢 眞
3-5	I A	通年	月	1	趙賢 眞	
		通年	月	2	朴順 伊	
	I B	通年	月	1	大川 賢眞	
		通年	月	2	趙賢 眞	
EE	1-6	I A	通年	月	2	大川 賢眞
		I B	通年	月	1	趙賢 眞
	7-12	I A	通年	月	2	羅義 圭
		I B	通年	月	1	崔秀 蓮
EI	1-2	I A	通年	月	2	大川 賢眞
		I B	通年	月	1	趙賢 眞
	3-4	I A	通年	月	2	羅義 圭
		I B	通年	月	1	崔秀 蓮
CC	1	I A	通年	火	4	羅義 圭
		I B	通年	火	1	高鄭 仁
	2	I A	通年	火	1	趙賢 眞
		I B	通年	火	1	趙賢 眞
	3-4	I A	通年	火	4	白岩 美穂
		I B	通年	火	1	金慶 湖
	5-6	I A	通年	火	4	申鎬 十
		I B	通年	火	1	押川 信久
CB	1-3	I A	通年	月	3	千受 獨
		I B	通年	水	2	吳安 藤
	4-6	I A	通年	月	3	安藤 純
		I B	通年	水	2	金京 聖
CF	1	I A	通年	月	5	趙賢 眞
		I B	通年	木	4	李廷 恩
	2	I A	通年	月	5	千受 獨
		I B	通年	木	4	趙賢 眞
	3	I A	通年	月	5	吳安 藤
		I B	通年	木	4	崔秀 蓮
	4	I A	通年	月	5	金京 聖
		I B	通年	木	4	金京 聖

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
SM	1	I A	通年	火	4	白岩 美穂
		I B	通年	火	1	金慶 湖
	2	I A	通年	火	4	高仁 淑
		I B	通年	火	1	黃聖 媛
SC	1	I A	通年	火	4	申鎬 十
		I B	通年	火	1	押川 信久
	2	I A	通年	火	4	高仁 淑
		I B	通年	火	1	黃聖 媛
SP	1	I A	通年	火	4	羅義 圭
		I B	通年	火	1	高仁 淑
	2	I A	通年	火	4	鄭美 京
		I B	通年	火	1	趙賢 眞
SE	1	I A	通年	火	4	羅義 圭
		I B	通年	火	1	高鄭 仁
	2	I A	通年	火	4	鄭美 京
		I B	通年	火	1	趙賢 眞
TM	1	I A	通年	火	5	羅義 圭
		I B	通年	木	3	李廷 恩
	2	I A	通年	火	5	大川 賢眞
		I B	通年	木	3	朴順 伊
TE	1	I A	通年	火	5	羅義 圭
		I B	通年	木	3	李廷 恩
	2	I A	通年	火	5	大川 賢眞
		I B	通年	木	3	朴順 伊
TL	1-2	I A	通年	月	5	吳安 藤
		I B	通年	木	4	崔秀 蓮
	3-4	I A	通年	月	5	金京 聖
		I B	通年	月	4	趙賢 眞
TK	1	I A	通年	月	5	趙賢 眞
		I B	通年	木	4	李廷 恩
	2	I A	通年	月	5	千受 獨
		I B	通年	木	4	趙賢 眞
TC	1	I A	通年	月	1	羅義 圭
		I B	通年	月	2	崔秀 蓮
	2	I A	通年	月	1	大川 賢眞
		I B	通年	月	2	趙賢 眞
TA	1	I A	通年	月	3	千受 獨
		I B	通年	水	2	吳安 藤
	2	I A	通年	月	3	安藤 純
		I B	通年	水	2	金京 聖
MM	全	I A	通年	火	2	高仁 淑
		I B	通年	火	2	高仁 淑
PP	1-3	I A	通年	月	2	大川 賢眞
		I B	通年	木	1	趙賢 眞
	4-6	I A	通年	月	2	羅義 圭
		I B	通年	木	1	崔秀 蓮
G	全	I A	通年	火	3	鄭美 京
		I B	通年	火	5	申鎬 十

朝鮮語ⅡAおよび朝鮮語ⅡB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時 限	担 当 者
LC	1	ⅡA	通年	火	1	押 川 信 久
		ⅡB	通年	金	4	金 慶 湖
	2	ⅡA	通年	火	1	申 鎬
		ⅡB	通年	金	4	大 川 大 輔
LH	1	ⅡA	通年	火	1	押 川 信 久
		ⅡB	通年	金	4	金 慶 湖
	2	ⅡA	通年	火	1	申 鎬
		ⅡB	通年	金	4	大 川 大 輔
LJ LG LF	全	ⅡA	通年	火	1	緒 方 義 広
		ⅡB	通年	金	4	高 仁 淑
LE	全	ⅡA	通年	火	1	黄 聖 媛
		ⅡB	通年	金	4	趙 賢 眞
LP	全	ⅡA	通年	火	1	羅 義 圭
		ⅡB	通年	金	4	鄭 ハ ナ
LA	1	ⅡA	前期	水	2 5	金 慶 湖
		ⅡB	後期	水	2 5	羅 義 圭
	2	ⅡA	前期	水	2 5	羅 義 圭
		ⅡB	後期	水	2 5	金 慶 湖
J E C S T P G	全	ⅡA	通年	火	5	申 鎬
		ⅡB	通年	木	4	李 泰 勲

※S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「朝鮮語Ⅱ」として履修します。

ロシア語

ロシア語ⅠAおよびロシア語ⅠB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
全学部	全	I A	通年	火	3	ヴ エ ラ
		I B	通年	金	5	ヴ エ ラ

ロシア語ⅡAおよびロシア語ⅡB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
L J E C S T P G	全	Ⅱ A	通年	火	1	ヴ エ ラ
		Ⅱ B	通年	金	4	ヴ エ ラ

※S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「ロシア語Ⅱ」として履修します。

日本語

日本語ⅠAおよび日本語ⅠB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
留学生	①	I A	通年	火	2	清 水 りえ子
		I B	通年	金	1	川 邊 理 恵
	②	I A	通年	火	3	清 水 りえ子
		I B	通年	水	5	川 邊 理 恵

日本語ⅡAおよび日本語ⅡB

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
留学生	全	Ⅱ A	通年	火	1	清 水 りえ子
		Ⅱ B	通年	金	4	清 水 りえ子



そ の 他

- 大学院受験(飛び級制度)
- 特待生制度
- 国際交流・海外留学支援

大学院受験（飛び級制度）

大学に3年以上在学している者で、「本学の大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるもの」は大学院を受験することができる。（大学院学則第30条第1項第9号）

1 研究科及び専攻

研 究 科	専 攻
理 学 研 究 科	応 用 数 学 専 攻（博士課程前期）
	応 用 物 理 学 専 攻（博士課程前期）
	化 学 専 攻（博士課程前期）
	地 球 圏 科 学 専 攻（博士課程前期）
工 学 研 究 科	機 械 工 学 専 攻（博士課程前期）
	電 気 工 学 専 攻（博士課程前期）
	電 子 情 報 工 学 専 攻（博士課程前期）
	化 学 シ ス テ ム 工 学 専 攻（博士課程前期）
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 研 究 科	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 専 攻（博士課程前期）

2 出 願 資 格

志願者は、所属する学科において、成績及び単位修得状況等に関する所定の要件を満たしていること。

3 出 願 手 続 等

出願手続・願書受付時期・入学試験等の詳細については、大学院事務課にお問い合わせください。

特待生制度

本学には、学業成績並びに品行の特に優秀な学生を「特待生」として表彰する制度があります。（学則第40条）。この制度は、優秀な成績を修めた学生の榮譽を称えるとともに、今後の学生生活や社会生活における自信に繋げ、更なる活躍を期待して設けられたものです。

前年度の学業成績や品行をもとに、学部ごとの選考基準により、学部学科、学年別に選考します。各学部の2年次以上の学生を対象に、全学で約200人が選ばれ、特待生には、規定された奨学金が授与されます。

国際交流・海外留学支援

世界には日本と大きく異なる文化、歴史、言語、宗教、習慣を持つ国や地域が存在しています。本学では、そうした価値観や文化を理解する広い視野を持ち、国際社会で大いに活躍できる人材の育成を目指し、海外協定校を中心とした学術交流を行っています。

同時に、学生が“海外で学ぶ”プログラムとして、交換留学や海外研修、海外語学研修、認定留学などの制度だけでなく、学部留学生、交換留学生をはじめとした外国人留学生の受入れも積極的に行っており、福岡大学生が“学内で学ぶ”環境も整備しています。

また、交換留学をめざす全学部生を対象とした「特別授業」や交換留学、海外研修に関するガイダンスを行う「留学フェア（2024年4月と9月の年2回実施）」など、国際交流・海外留学支援を促進する様々なプログラムを行っています。ぜひ参加してください。

1 交換留学

1. 交換留学制度について

交換留学とは、海外の大学との協定に基づいて協定校から学生を受け入れると同時に、本学の学生を学籍上「在学」の扱いで協定校に1年間派遣する制度です。留学先大学では主に専門科目の知識修得を目的とし、履修した科目は内容・時間数等により帰国後に本学の授業科目として単位認定されます。また、留学先大学での授業料は免除され、本学より留学援助金が助成されます。

出願年次は1～3年次です。交換留学実施大学、出願時期、派遣期間については下表を参照してください。選考は語学能力、学業成績および面接により総合的に評価し判定します。対象学部など交換留学についての必要な情報や留意事項は国際センターウェブサイトに掲載しています。また、わからないことがあれば、国際センター事務室に相談してください。

※この他に人文学部が独自に行っている交換留学があります。人文学部の交換留学については、教務二課（人文学部）にお問い合わせください。

交換留学実施校一覧（内容が変更となる場合がありますので、出願に際しては事前に国際センター事務室にお問い合わせください。）

大学名	国・地域	出願時期	派遣期間	対象学部
仁川大学校	韓国	2024年5月下旬	2025年2月 ） 2026年1月	医・薬を除く学部
蔚山大学校				
東義大学校				
釜山大学校				
慶熙大学校				
啓明大学校				
慶南大学校				
国民大学校				人文・法・経済・商・理・工
釜慶大学校				人文・経済・商・理・工・スポーツ科
東国大学校				人文・経済・工
東亜大学校				人文・経済・商 (いずれの学部も1年次生の出願不可)
慶北大学校				医・薬を除く学部
釜山外国語大学校				医・薬を除く学部
成均館大学校	人文・経済・商			
華東師範大学	中国			人文・法・経済・商
煙台大学				人文
揚州大学				人文・経済・商
広州大学				人文・法・経済・商
黒龍江大学				人文
中央财经大学				人文・法・経済・商・理・工
ハルビン理工大学				人文
西安交通大学				人文
上海财经大学				

大学名	国・地域	出願時期	派遣期間	対象学部
国立高雄大学	台湾	2024年5月下旬	2025年2月 ～ 2026年1月	人文・法・経済・商・理・工
輔仁大学				人文・法・経済・商 (いずれの学部も3年次生の出願不可)
ハノイ大学	ベトナム	2024年10月下旬	2025年8月 ～ 2026年7月	医・薬を除く学部
リーズ大学	イギリス			人文・法・経済・商
ニューカッスル大学				医・薬を除く学部 (いずれの学部も1年次生の出願不可)
セントラル・ランカシャー大学	フランス			人文・法・経済・商
リヨン政治学院				人文・法・経済・商・工
セルジー・パリ大学	ベルギー			人文・法・経済・商・理・工
パリ・シテ大学				人文・法・理・工
リエージュ大学	フィンランド			人文・商・理
タンペレ大学	スペイン			医・薬を除く学部
セビージャ大学	ブラジル			
連邦立サンタ・カタリナ大学				

2 海外研修・海外語学研修

1. 海外研修制度について

海外研修とは、海外の大学との協定に基づいて学生を短期間（1カ月間または約20日間）協定校に派遣する研修制度です。主に語学研修、文化研修、ホームステイ等を通じて語学力と国際感覚の養成を目的としています。全学部の学生を対象に募集を行い、選考試験（筆記試験および面接）によって各大学21人（予定）の学生を選抜します。本学から往復渡航旅費相当額が助成されます。蔚山大学校は1～4年次生まで、ウオッシュバン大学、グリフィス大学は1～3年次生（医学部医学科・薬学部は1～4年次生）まで出願可能です。

海外研修実施校一覧

大学名	国名	対象学部	募集時期	研修期間
蔚山大学校	韓国	全学部	4月上旬	8月初旬～8月下旬
※ウオッシュバン大学	アメリカ		9月中旬	2月中旬～3月中旬
※グリフィス大学	オーストラリア			

※海外英語研修2単位として認定されます（卒業要件単位としての取扱いは学則および学科履修規程によります）。

2. 海外語学研修について

海外語学研修は、選考試験は行われませんが、経費は全額自己負担となります。語学力を向上させたい、現地の文化や歴史に触れたいと考えている皆さんを対象としたプログラムです。受付は先着順で、定員になり次第、募集を締め切ります。1～4年次生まで出願可能です。

海外語学研修実施校一覧

大学名	国名	対象学部	定員	募集時期	研修期間
ニューカッスル大学	イギリス	全学部	25人	5月上旬	8月初旬～8月下旬
シアトル大学	アメリカ		20人		8月下旬～9月上旬
ハノイ大学	ベトナム		10人	10月上旬	2月下旬～3月中旬
揚州大学	中国		20人		

3 留学支援のためのプログラム

国際センターでは、全学部学生を対象に次のような授業を開講します（単位認定なし）。

交換留学をめざす学生を対象に朝鮮語、中国語、フランス語の語学力向上を目的とした授業や英語で何かを学びたい学生のために、様々な学習内容の英語授業を実施します。受講料は無料です。

前期申込受付は3月中旬～4月上旬、後期申込受付は7月上旬～9月上旬で、国際センター事務室が案内します。

2023年度実績（参考）

科 目 名	講 師	曜 日 ・ 時 限
Introduction to Global Career Design (初級)	新 田 よしみ	前期・木曜・5限
Japanese Subcultures (初級)	新 田 よしみ	前期・火曜・4限
To be a competent speaker (初級)	新 田 よしみ	後期・水曜・5限
Cartoons in America (初級)	新 田 よしみ	後期・火曜・5限
Overseas Training Program (初級)	S. A. ウェストン	前後期・月曜・4限
Global Issues Practicum (中級)	S. A. ウェストン	前後期・水曜・4限
Japanese History and Culture (中級)	クロス,ティモシー	前期・火曜・5限
朝鮮語をのぼそう！（中級以上）	申 鎬	前・後期・木曜・5限
步步高 中級中国語	王 雲 燕	前・後期・木曜・5限
実践フランス語	清 水 りえ子	前・後期・金曜・5限

また、受講者のニーズに合わせて国際センター所属の教員による目的別の短期集中講座を実施します。

2023年度実績（参考）

科 目 名	回 数	開 催 時 期
Interactive English	4回完結	前期（5月）／後期（10月）
グローバル育成能力講座	4回完結	前期（6月）／後期（11月）
IELTS Speaking 特講	10回コース	4月（その後随時対応）
将来海外で働きたい人向けの履歴書・カバーレター書き方講座	6回コース	4月（その後随時対応）

4 外国人留学生・海外研修生等の受入れ

本学では、海外の大学との協定に基づいて、イギリス、フランス、フィンランド、ベルギー、ドイツ、スペイン、中国、韓国、台湾等の協定校から1年間または5カ月間、交換留学生を受け入れています。交換留学生は、「日本語・日本文化講座」という交換留学生のための授業を受講する学生と、学部的一般科目を受講する学生に分かれます。また、課外活動にも積極的に参加し、本学学生との交流を深めています。

学士の学位取得を目的として学部留学生選抜に合格して入学した中国、韓国、ベトナム等からの学部留学生も日本人学生と共に勉学に励んでいます。彼らは外国人留学生会（愛好会）を組織して、学内外で交流活動を行っています。

5 認定留学

認定留学とは、本学が認定した外国の大学において、事前に本学の許可を得て特定の科目を履修することを目的とするものです。留学を希望する大学の資料等、必要書類を本学へ提出し許可を得れば認定留学生となります。留学先大学で履修した科目は本学の授業科目として単位認定されますが、留学先大学へも授業料を支払わなければなりません。なお、認定留学の詳細については所属する学部の事務部署にお問い合わせください。

交換留学、海外研修・海外語学研修、留学のための支援プログラムについては、国際センター事務室（中央図書館6階）にお問い合わせください。

なお、国際センターのウェブサイトにも本学の国際交流に関する情報を多く掲載していますので、こちらもご覧ください。



<https://www.kokusai.fukuoka-u.ac.jp/>

VI

諸 規 程

- 福岡大学学則
- 授業科目及び単位・時間数(学則第31条(表))
以上 新入生(令和6年度入学生)適用
- 福岡大学学科履修規程
- 年次別授業科目表(学科履修規程 第4条 別表)
- 福岡大学成績考査規程
- その他諸規程
 - 福岡大学における既修得単位等の取扱いに関する規程
 - 福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程
 - 福岡大学転部・転科に関する規程
 - 福岡大学授業料その他諸納入金規程
 - 学費等納入金一覧表

福岡大学学則〔新入生(令和6年度入学生)適用〕

第1章 総 則

第1節 目 的

第1条 本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条の規定に基づき、人文、法律、経済、商学、理学、工学、医学、薬学及びスポーツ科学に関する専門的研究及び教授を行い、学識深く教養高き人材を養成することを目的とする。

2 第2条第1項に定める各学部及び学科の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) **人文学部**は、広範な一般教養を身に付けると同時に、すべての学問の基礎となる人文学諸分野の専門知識を修得し、他者との関係への配慮や自由と責任に基づく倫理観を備えた人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、社会人として人間の精神と社会のあり方を多様な価値観の中で総合的に捉え、高度技術社会において人間の原点に立って行動できる人材を養成すること、及び外国語学習を通して異文化を理解し、日本と世界を結ぶコミュニケーション能力を持った国際人を養成することを目的とする。

文化学科は、「文化の多角的、総合的理解」という学習・教育理念のもと、文化に広い関心を持つ人材を受け入れる。1年次の必修科目を通じて基本的な知識と研究方法とを修得させ、2年次以降は一つの専門領域に偏ることのない学際的なカリキュラムを通じて文化の多角的、総合的理解を身に付けた人材を育成する。文化学科は、多様な価値観が共存し、複雑化してゆく時代にあって、固定観念にとらわれない、広い視野と柔軟な発想力とを持つ有為な人材を社会に送り出すことを目的とする。

歴史学科は、古代以来国際交流の窓口であったという、本学が位置する地域の特性を生かして、九州から日本史、世界史を見直す地域に根ざす視点と、九州を東アジア史、世界史の中に位置づける国際的な視点を併せ持つ教育と研究の推進を理念とする。少人数教育を徹底して行い、導入教育において大学生としての基本的能力を涵養するとともに、専門教育では、日本史、東洋史、西洋史、考古学の各分野において高い専門性を身に付けた人材の育成を目指す。また、専門分野の枠を超えた横断的な科目履修を通じて歴史を総合的に理解する能力を涵養し、もって、専門的な知識・教養と複眼的な思考力を兼ね備えた人材の養成を目的とする。

日本語日本文学科は、日本の文化や社会の根幹をなす日本語と、その結実たる日本文学を広く深く学び、それらを国際的視点に立って捉え直すことにより、豊かな教養と深い洞察力を備え、日本語の高度なコミュニケーション能力を身に付けた広い視野を持つ人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、日本語日本文学への深い理解を基盤として国際化社会で活躍し得る人材、及び専門的知識によって地域社会に貢献し得る人材の養成を目的とする。

教育・臨床心理学科は、教育と臨床心理の二つの分野の統合による人への支援や援助、人間形成とそのケアに貢献し得る総合的、実践的な力量を備えた人間を育むことを理念とする。この理念に基づき、具体的には、メンタルヘルスやストレスマネジメント、自己啓発や生涯学習、キャリア発達等の諸課題に対して、教育学と臨床心理学の知識や技法を用いてアプローチし得る能力を実社会の多様な場面で発揮できる人材を養成することを目的とする。

英語学科は、国際化や異文化との共生がますます進む状況下にあって、異文化を理解し、これに順応するとともに、国際社会、地域社会における諸問題を解決するために他者と協力しながら貢献できる人材を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、英語については、4技能（話す・聞く・書く・読む）をバランス良く身に付けるとともに、英語以外の言語とその文化に関する知識を修得している人材、及び学術的専門分野については、深い知識を持つとともに、情報の収集・分析・考察をし、その結果を発信する力を有する人材の養成を目的とする。

ドイツ語学科は、多角的なカリキュラムにおいて、ドイツ語によるコミュニケーション能力を培うとともに、ドイツをはじめとするドイツ語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観を様々な側

面から理解するための充実した教育を実施することを目指す。すなわち、複眼的思考力を身に付けることにより、国際社会において文化の枠組みを越えて他者との関係を構築し、多様な価値観を顧慮しながら人間の原点に立って行動できる人材、及び深い学識を有し、異文化間の相互理解に貢献できる国際人を育成することを目的とする。

フランス語学科は、多角的なカリキュラムにおいて、フランス語によるコミュニケーション能力を培うとともに、フランスをはじめとするフランス語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観を様々な側面から理解することを教育研究の目的とする。すなわち、複眼的思考力を身に付けることにより、国際社会において文化の枠組みを越えて他者との関係を構築し、多様な価値観を顧慮しながら人間の原点に立って行動できる人材、及び異文化間の相互理解に貢献できる広い教養と深い学識をそなえた国際人を養成することを目的とする。

東アジア地域言語学科は、確実な言語運用能力の習得を基礎とし、東アジアの社会や伝統、文化、地域事情を深く洞察することで、日本を含めた東アジアを足場とした広い視野と洞察力を併せ持つ人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、東アジアで有用な各種の語学力とそれを用いた地域事情の知識を通して問題の発見と解決ができる人材、地域のバランス感覚に富んだ人材、他者を尊重し様々な問題にも柔軟に対応できる人材、そして卒業後その更新が可能な人材の養成を目的とする。

- (2) **法学部**は、法学（政治学を含む。）の学修及び研究を通じて、現代社会の諸問題に積極的に取り組み、地域社会、企業活動、公共分野及び国際社会に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、広範な一般教養を身に付け、法学の専門的知識及び法的思考力を有する人材を養成することを目的とする。

法律学科は、憲法・民法・政治学などの科目の基礎的知識の習得を前提とした上で、将来の目標に向けて必要な専門科目を効果的に履修することを可能にするため、法律総合コース、公共法務コース又は総合政策コースのいずれか一つを選択できるようにし、これらのコースの授業、演習等による教育研究を通じて、法的思考力及び政策的思考力を身に付け、法曹その他の法律専門職並びに公共分野、企業及び地域社会において指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。

経営法学科は、民法などの私法系科目の基礎的知識の習得を前提とした上で、将来の目標に向けて必要な専門科目を効果的に履修することを可能にするため、企業法コース又は国際コースのいずれかを選択できるようにし、これらのコースの授業、演習等による教育研究を通じて、法的思考力並びに企業法制に関する専門的知識及び国際的視野を身に付け、企業、地域社会及び国際社会において指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。

- (3) **経済学部**は、経済学的知の伝承と創造により、社会の調和ある発展と人類の福祉の向上に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、経済学における論理的思考力と実証的分析能力及び歴史的理解力を向上させ、経済学的知性と豊かな人間性、国際的な視野、旺盛な行動力によって社会の進歩と繁栄に貢献できる人材を養成することを目的とする。

経済学科は、伝統的な経済学の知識と経済学的思考方法の教育により、経済全般に対する理解力を有するゼネラリストを育成することを教育理念とする。この理念に基づき、今日の経済情勢と経済学の理論と応用、経済の歴史的発展に関する学習を通して、現代社会とその背後にあるメカニズムとダイナミクスに対する理解力と洞察力を養い、近世代を担う総合力ある経済人を養成することを目的とする。

産業経済学科は、学際の実学教育により、現実社会における問題の発見と原因究明を行い、その解決策を立案し実行できるスペシャリストを育成することを教育理念とする。この理念に基づき、経済学とその関連諸学の学習を通して論理的思考力と実証的分析力を高め、さらにフィールドスタディによって地域社会や企業経営に対する洞察力を養い、実践的な問題解決力を有する人材を養成することを目的とする。

- (4) **商学部**は、大きく変化する社会的・経済的環境のもとで、商学研究を深化させ、研究成果を社会に還元することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、商学の知識及び理論を身に付け、これらを活用して問題の発見・解決に当たる能力を持ち、他者と協働して企業、地域等の発展を担う人材を

養成することを目的とする。

商学科は、商学、特に流通・マーケティング、情報・サービス、交通、金融・保険、商業史の広範な分野の理論を学ぶことを通して、時代の変化を多面的な視点から考察し、実務に対応できる基礎力を身に付けることで、地域や社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

経営学科は、企業をはじめとする各種組織のマネジメントリーダー又は職業会計人として強い責任感を有し、問題発見及び問題解決の能力を持ち、協働して社会や組織の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

貿易学科は、世界情勢の変化に適応し、これを先取りできるビジネスマインドを持った国際教養人の養成を目指す。すなわち、様々な個人、団体、組織による国際的な活動の内容及びこれらのグローバルな関係を理解する能力を有するとともに、世界で活躍できる人材又は地域と世界をつなぐ能力を持った人材を養成することを目的とする。

(5) **商学部第二部商学科**は、勤労学生、社会人学生、シニア層等の多様な学生を教育の対象とすることから、商学部の教育研究の理念に加えて、リカレント教育や生涯教育の場を提供することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、商学の広範な内容について学ぶことを通して、地域社会を動かすリーダーシップを備えた人材を養成することを目的とする。

(6) **理学部**は、自然科学と数理科学に関する分野の探究を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、既知の事実と理論を学びながら、自然現象や数理を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力を修得し、総合的な視野から知識の活用ができ、豊かな人間性、社会性及び国際性を兼ね備えた活力ある人材を養成することを目的とする。

応用数学科応用数学コース及び応用数学科社会数理・情報インスティテュートコースは、数学や情報数理の理論と応用を学ぶことを通して、論理的な分析力、思考力を養うことを教育の理念とする。この理念に基づき、探求心、向上心を持ち、柔軟な発想力、豊かな創造力のもと、数学を通して社会における諸問題を解決する力を備え、社会の健全な発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

物理科学科は、物理学とそれに関連する分野の探究を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、力学・電磁気学・波動・熱力学・量子力学などに代表される物理学と、それに関連する幅広い応用分野の既知の事実と理論を学びながら、物理現象を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力及び未知の現象を解明する力を修得し、総合的な視野から知識の活用ができ、豊かな人間性、社会性及び国際性を兼ね備えた活力ある人材を養成することを目的とする。

化学科は、化学の探求を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、新たな機能性物質の開発を目指す物質化学の分野及び分子レベルでの生命現象の解明を目指す生命化学の分野において、化学的現象の摂理や物質の機能性発現の原理を種々の観点から理解し、化学の知識と技術を実社会で活用し、21世紀に国内外で活躍できる人材を養成することを目的とする。

地球圏科学科は、幅広い視野と知識から地球とそこに生息する生物に関する多様な現象・問題に対処できる能力を養い、健全な未来社会の発展に貢献することを教育研究の理念とする。その実現のために、自然科学の基礎となる数学、物理、化学、生物学及び地学を幅広く学び、さらに固体地球、大気、生物のいずれかを専門的に学ぶことにより、自然現象を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力及び未知の現象を解明する力を発揮し、国内外で活躍できる人材を養成することを目的とする。

(7) **工学部**は、良心に基づいた社会的責任感を有し、時代に即応した判断力と科学技術をもって社会の持続的発展に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、工学・技術に求められる豊かな創造性と実務に即した応用力を育成するために、十分な基礎学力に加えて深い専門の科学技術と、幅広い教養を修得させて調和のとれた人格の発達を促すことを目的とする。

機械工学科は、幅広い教養と高度な専門知識を備え、ものづくり（機械の創造）を通して、指導的立場から、実践的な応用力と豊かな創造性を発揮して、人類の幸福と社会の福祉に貢献できる技術者を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、確実な観察力を備え、幅広い知識により問題を的確に分析し、解決に向かって果敢に行動できる技術者を育てることを人材育成の目的とする。

る。

電気工学科は、日々進歩する技術レベルに対応できる創造性及び課題の探求能力に優れ、かつ、コミュニケーション能力を有する人材の育成を教育研究の理念とする。この理念を達成するため、科学及び工学全般にわたる問題の理解力、判断力、解決力を養うことにより、情報・制御・環境などの分野を含めた広範囲にわたる基礎知識を修得し、社会的責務を果たすことのできる技術者を育てることを教育の目的とする。

電子情報工学科は、時代の要求に応じた新しい電子情報システムを構築することのできる技術者を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えた技術者を養成することを目的とする。専門分野においては、電子工学と情報工学の基礎を理解し、それらを応用して電子・情報工学の技術開発に寄与できる技術者を養成することを目的とする。

化学システム工学科は、化学技術者としての幅広い教養と健全な倫理観を身に付けるとともに、化学工学分野の知識を修得し、持続可能な社会の発展に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、基礎及び専門知識を修得し、それを問題解決に応用する能力、技術者として社会に対する責任を自覚する能力及び社会の進展に伴って自己変革する能力を有し、国内外での化学技術・環境技術に関連する広い分野で活躍できる柔軟な思考力と総合力を兼ね備えたエンジニアを養成することを目的とする。

社会デザイン工学科は、自然環境と調和した生活環境の創造に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、地球及び地域の環境問題を直視して自然と調和しながら地震や洪水などの災害に強い社会資本整備を行う建設技術者を養成する。さらに、強い責任感と倫理感を持って次世代に豊かな生活や文化を継承し続けられる社会デザインに取り組める人材を養成することを目的とする。

建築学科は、美しく、快適で、安全で、豊かな建築空間・都市空間を創造できる人材の育成を教育研究の理念とする。この理念に基づき、建築分野に要求される社会的・技術的ニーズに適切に応えられる建築技術者としての十分な基礎学力を身に付け、高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格を有し、社会において指導力を発揮して、幅広く活躍・貢献できる人材を養成することを目的とする。

- (8) **医学部**は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、社会のニーズや医療・福祉・地域に貢献できる人間性豊かな医療専門職者（医師・看護師・保健師・養護教諭・医学及び医療研究者）を養成することを目的とする。

医学科は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、人間性豊かな臨床医の育成、地域社会への医療奉仕、重点的総合研究体系の確立を教育研究の理念とする。この理念に沿って、豊かな人間性と指導力・協調性を備え、総合的臨床能力を発揮して広く社会の医療と福祉に貢献できる医師及び高度な知識と国際的・学際的視野を持ち医学の発展に貢献できる医学研究者を養成することを目的とする。

看護学科は、生命の尊厳に基づいた心豊かで総合的な人間教育を基盤として、創造的で国際的・学際的視野に立った論理的・倫理的な看護実践能力を育成し、看護学の発展及び地域・国際社会に貢献できる高い能力を有する看護専門職者を養成することを目的とする。

- (9) **薬学部薬学科**は、医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成することを目的とする。

- (10) **スポーツ科学部**は、スポーツ・運動に関する人文科学、社会科学、自然科学及び各分野を融合した総合科学的研究を深め、それによって得られた知識を実践に生かすことを教育研究の理念とする。この理念に基づき、スポーツ界、教育界、産業界、官界、地域社会、医療分野等において、貢献し得る

優秀な人材を養成することを目的とする。

スポーツ科学科は、スポーツ競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、スポーツ界、教育界、産業界、官界等において、スポーツ医科学の知識に基づいた適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を中心に、科学的トレーニング法のみならず、施設や用具等の開発、スポーツイベント等の企画・運営を含めたスポーツマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

健康運動科学科は、健康運動やレクリエーション活動による心身の健康の回復、保持、増進を目指した医科学分野の知識を有し、地域社会、教育界、産業界、医療分野等において、創造的・実践的な指導を行うことができる人材を中心に、企業や地域及び医療とも連携した健康づくりマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

第1条の2 本学の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

2 自己点検・評価に関する規程は、別に定める。

第1条の3 本学は、組織的かつ継続的な教育内容、教育方法等の改善を実施するものとする。

第2節 組 織 等

第2条 本学に人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部、薬学部及びスポーツ科学部を置く。

2 人文学部に文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科、法学部に法律学科及び経営法学科、経済学部には経済学科及び産業経済学科、商学部には商学科、経営学科及び貿易学科、商学部第二部に商学科、理学部に応用数学科、物理科学科、化学科及び地球圏科学科、工学部に機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科及び建築学科、医学部に医学科及び看護学科、薬学部には薬学科、スポーツ科学部にスポーツ科学科及び健康運動科学科を置く。

第3条 本学に大学院を置く。

2 大学院学則は、別にこれを定める。

第4条 本学に次の附属学校を置く。

- (1) 福岡大学附属大濠高等学校
- (2) 福岡大学附属若葉高等学校
- (3) 福岡大学附属大濠中学校

2 附属学校に関する規程は、別にこれを定める。

第5条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他の職員を置く。

2 職員の職務は、学校教育法その他法令の定めあるもののほか、別に定めるところによる。

第6条 本学の各学部に教授会を置く。

2 教授会の構成員、審議事項その他教授会に関し必要な事項は、別に定める。

第7条 本学に本学の運営及び教学に関する重要事項を審議するため、大学協議会を置く。

2 大学協議会の構成員、審議事項その他大学協議会に関し必要な事項は、別に定める。

第8条 本学に図書館を置く。

2 図書館に関する規程は、別にこれを定める。

第9条 本学に研究推進部を置く。

2 研究推進部に関する規程は、別にこれを定める。

第10条 本学の医学部に附属病院を置く。

2 附属病院に関する規程は、別にこれを定める。

第11条 本学に留学生別科を置く。

2 留学生別科に関する規程は、別にこれを定める。

第11条の2 学長は、本学の教育研究に関する重要な事項について、教授会等の審議を経て、最終的な決定を行う。

第2章 履 修

第1節 修業年限、学年、学期及び休業日

第12条 修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科及び薬学部については、6年とする。

2 学生は、8年を超えて在学することができない。ただし、医学部医学科及び薬学部については、12年を超えて在学することができない。

3 前項の規定のほか、医学部医学科及び薬学部にあつては、同一学年に在学できる年数は2年を限度とする。ただし、医学部医学科にあつて、同一学年に2年在学した後に退学し又は除籍された者が、退学し又は除籍された学年への再入学を許可された場合には、再入学を許可された学年に限り、さらに1年を限度として在学することができる。

第12条の2 第49条に基づく科目等履修生が本学における授業科目の単位を修得し、その後に本学に入学した場合、教授会は、第34条の4の規定により本学における授業科目の単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認めるときに、その単位数等に応じて、相当期間を修業年限の2分の1を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

2 前項の規定は、第49条に基づく科目等履修生が本学において第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目を修了した場合に、これを準用する。

3 前2項の規定は、再入学の場合に、これを準用する。

第13条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第14条 学年を2期に分け、学年の始めから9月13日までを前期とし、9月14日から学年の終わりまでを後期とする。

第15条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 春季休業 4月1日から4月7日まで

(4) 夏季休業 8月4日から9月13日まで

(5) 冬季休業 12月27日から翌年1月4日まで

2 学長は、教授会の議を経て前項に定める休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるほか、学長は特に必要があると認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。

4 第1項に定める休業日であっても、教授会が教育上必要と認める場合には、学長は、教務委員会の議を経て、授業を行うことを決定することができる。

第2節 定員、入学、転入学、編入学、転部・転科、留学、休学、退学、除籍、復学及び再入学

第16条 入学を許可する時期は、学年の始めとする。

第17条 本学の学部及び学科の入学定員及び収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学 部	学 科	入学定員 (人)	収容定員 (人)
人 文 学 部	文 化 学 科	100	400
	歴 史 学 科	70	280
	日 本 語 日 本 文 学 科	70	280
	教 育 ・ 臨 床 心 理 学 科	110	440
	英 語 学 科	90	360
	ド イ ツ 語 学 科	50	200
	フ ラ ン ス 語 学 科	50	200
	東 ア ジ ア 地 域 言 語 学 科	65	260
	計	605	2,420
法 学 部	法 律 学 科	430	1,720
	経 営 法 学 科	200	800
	計	630	2,520
経 済 学 部	経 済 学 科	460	1,840
	産 業 経 済 学 科	200	800
	計	660	2,640
商 学 部	商 学 科	245	980
	経 営 学 科	240	960
	貿 易 学 科	180	720
	計	665	2,660
商学部第二部	商 学 科	165	660
理 学 部	応 用 数 学 科	65	260
	物 理 科 学 科	60	240
	化 学 科	65	260
	地 球 圏 科 学 科	60	240
	計	250	1,000
工 学 部	機 械 工 学 科	110	440
	電 気 工 学 科	110	440
	電 子 情 報 工 学 科	150	600
	化 学 シ ス テ ム 工 学 科	110	440
	社 会 デ ザ イン 工 学 科	110	440
	建 築 学 科	110	440
	計	700	2,800
医 学 部	医 学 科	110	660
	看 護 学 科	110	440
	計	220	1,100
薬 学 部	薬 学 科	230	1,380
スポーツ科学部	ス ポ ー ツ 科 学 科	225	900
	健 康 運 動 科 学 科	70	280
	計	295	1,180
合 計		4,420	18,360

第18条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

2 入学願書提出の年の3月末日までに前項の資格を得る見込みの者は、当該学校長の提出する調査書又はその資格を証明する書類を添えて出願することができる。

第19条 入学を志願する者は、本学所定の入学願書及び入学試験に必要な提出書類に別表Iの(1)に定める入学検定料を添えて所定の期日までに学長に提出しなければならない。

2 既に納入した入学検定料は、これを返還しない。

第20条 入学志願者については、選考の上、合格者を決定する。

第21条 合格の通知を受けた者は、本学の承認する保証人連署の入学誓書及び所定の書類に授業料等納入金（新生にあつては入学金及び第1期分の納入金）を添えて、所定の期日までに学長に提出しなければならない。ただし、本学の留学生別科を修了し入学する者の入学金については、留学生別科入学時の入学金相当額を免除する。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 正当な理由なくして第1項の手続を怠る者は、入学を許可しない。

4 入学手続完了後において、やむを得ず入学を辞退する場合、別に定める期日までに入学辞退届を学長に提出し受理された者に限り、入学金以外の授業料等納入金を返還することができる。

第22条 本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転入学を許可することがある。

2 本学に転入学することができる者は、他の大学に2年以上在学し、本学の定める単位数を修得している者とする。

3 転入学の時期は、学年始又は学期始とし、本人の既修の授業科目及び単位・時間数並びに在学年数については、その一部又は全部を本学において認定し、今後履修すべき授業科目及び単位・時間数並びに在学年数を決定する。

第23条 本学に編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、編入学を許可することがある。

2 本学に編入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学士の学位を有する者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

3 編入学の時期並びに履修すべき授業科目、単位・時間数及び在学年限については、前条の規定に準ずる。

第23条の2 学生が他の学部転部を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転部を許可することがある。

2 学生が当該学部の他学科に転科を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転科を許可することがある。

3 転部・転科に関する規程は、別に定める。

第24条 学生が他の大学に転学又は受験しようとするときは、学長に届け出るものとする。

第24条の2 学生が外国の大学又は短期大学に留学しようとするときは、学長は教授会の議を経てこれを許可することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、本学の修業年限に算入することができる。

3 留学に関し必要な事項については、別に定める。

第25条 学生が病気その他のやむを得ない理由で長期にわたり欠席しようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、休学することができる。ただし、入学年度の前期については、原則として休学することができない。

2 休学の1期間は、当該年度内の前期、後期又は1年間とする。ただし、医学部医学科及び薬学部は、原則として当該年度1年間とする。

3 休学の開始の時期は、前期又は後期の始めとする。

4 休学は、通算して4年を超えることができない。

5 休学期間は、在学期間に算入しない。

第26条 学生が結核性その他感染性の疾患により療養の必要ありと認められるときは、学長は、教授会の議を経て、これに休学を命ずることがある。

第27条 休学している者は、休学期間満了までに復学、休学又は退学のいずれかの所定の手続をしなければならない。

第27条の2 休学している者が復学をしようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、復学することができる。

2 復学の時期は、学期の始めとする。

第28条 学生が退学しようとするときは、その理由を具し、保証人連署をもって、学長に届け出るものとする。ただし、疾病による場合は、医師の診断書を添付しなければならない。

第29条 学長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して除籍を行う。

- (1) 第42条の定めるところにより、授業料等納入金を納入しない者
- (2) 成績不振等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく、出席が常でない者
- (4) 死亡した者
- (5) 休学期間満了時に、正当な理由がなく復学、休学又は退学のいずれの手続も行わない者

第30条 退学した者が再入学を願い出たときは、学長は、教授会の議を経て、これを許可することができる。

2 再入学を願い出た者には、必要に応じて学力検査、面接を行う。

3 前2項の規定は、除籍された者が再入学を願い出た場合に、これを準用する。

4 前3項に基づく再入学の取扱いについては、別にこれを定める。

第3節 教育課程

第31条 学部・学科の授業科目及び単位・時間数は、次の表に掲げるとおりとする。

(※印は必修科目、△印及び▲印は選択必修科目とする。)

学部・学科授業科目等については p. 169～171に掲載

2 前項に掲げる授業科目のほかに学部留学生の授業科目として日本語（8単位）を置く。

3 第1項のほかに自由履修単位として換算できる授業科目は、次のうちから学部が指定するものとする。

- (1) 共通教育科目又は専門教育科目のうち、卒業に必要な単位数を超えて修得した科目
- (2) 関連教育科目
- (3) その他、教授会が適当と認める科目

4 第1項及び第2項に掲げる授業科目のほかに随意科目を設けることができる。随意科目については別に定め、卒業に必要な単位数に算入しない。

5 第1項、第2項及び第4項に掲げる授業科目のほかに、人文学部、工学部及びスポーツ科学部にあっては大学院授業科目を、法学部にあっては法科大学院授業科目を設けることができる。大学院及び法科大学院授業科目については別に定め、卒業に必要な単位数に算入しない。

第32条 各授業科目の単位数は、授業の方法に応じ、次の各基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業演習、卒業計画等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

第32条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により

行うものとする。

- 2 各学部が教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第33条 学生は、福岡大学学科履修規程（以下「学科履修規程」という。）第4条の定めるところにより授業科目を履修し、次条に定める単位数を修得しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、医学部医学科において修得すべき専門教育科目の単位の修得については、これに相当する授業時間の履修をもって代えることができる。
- 3 前2項の規定により修得すべき単位数のうち、前条第2項の授業の方法により修得する単位数は、60単位（教授会において、前項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目の授業時間数に相当すると認められた単位数を含む。）を超えないものとする。

第34条 **人文学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。

- (1) **文化学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計24単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計44単位以上、専門教育科目については、必修科目20単位、選択必修科目及び選択科目から計52単位以上（選択必修科目8単位以上及び選択科目36単位以上を含む。）、合計72単位以上、自由履修単位については12単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (2) **歴史学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目16単位、選択必修科目40単位以上、選択科目20単位以上、計76単位以上、自由履修単位については12単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (3) **日本語日本文学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目24単位、選択必修科目24単位以上、選択科目28単位以上、計76単位以上、自由履修単位については12単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (4) **教育・臨床心理学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目24単位、選択必修科目12単位以上、選択科目30単位以上、計66単位以上、自由履修単位については22単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (5) **英語学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目40単位、選択必修科目8単位以上、選択科目28単位以上、計76単位以上、自由履修単位については12単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- (6) **ドイツ語学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、ドイツ語圏コースの学生は必修科目24単位、選択必修科目24単位以上、選択科目16単位以上、計64単位以上、ヨーロッパ特別コースの学生は必修科目32単位、選択必修科目22単位以上、選択科目14単位以上、計68単位以上、自由履

修単位については、ドイツ語圏コースの学生は20単位以上、ヨーロッパ特別コースの学生は16単位以上、総計124単位以上修得しなければならない。

- (7) **フランス語学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位、第2外国語8単位以上、計16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、フランス語圏コースの学生は必修科目24単位、選択必修科目24単位以上、選択科目16単位以上、計64単位以上、ヨーロッパ特別コースの学生は必修科目32単位、選択必修科目22単位以上、選択科目14単位以上、計68単位以上、自由履修単位については、フランス語圏コースの学生は20単位以上、ヨーロッパ特別コースの学生は16単位以上、総計124単位以上修得しなければならない。
- (8) **東アジア地域言語学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として16単位以上、保健体育科目として4単位、単位互換科目を含め合計40単位以上、専門教育科目については、必修科目6単位、選択必修科目34単位、選択科目20単位以上、計60単位以上、自由履修単位については28単位以上、総計128単位以上修得しなければならない。
- 2 **法学部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上（なお、第2外国語4単位以上を修得しない者は総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目から4単位以上）、保健体育科目として4単位、専門教育科目については、学科別の規定に従い72単位以上、自由履修単位については24単位以上、総計124単位以上を修得しなければならない。
- 3 **経済学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。
 - (1) **経済学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、自然科学分野から6単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、保健体育科目として4単位、専門教育科目については計76単位以上、自由履修単位については計20単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
 - (2) **産業経済学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、自然科学分野から6単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、保健体育科目として4単位、専門教育科目については計66単位以上、自由履修単位については計30単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
- 4 **商学部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上（なお、第2外国語4単位以上を修得しない者は総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目から4単位以上）、保健体育科目として4単位、専門教育科目については、学科別の規定に従い72単位以上、自由履修単位については20単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
- 5 **商学部第二部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上（なお、第2外国語4単位以上を修得しない者は総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目から4単位以上）、保健体育科目として3単位以上、専門教育科目については、商学部第二部の規定に従い60単位以上、自由履修単位については29単位以上、総計124単位以上を修得しなければならない。
- 6 **理学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。
 - (1) **応用数学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ6単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位以上、単位互換科目を含め合計34単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い

応用数学コースの学生は必修科目31単位、選択必修科目31単位以上、合計82単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は必修科目33単位、選択必修科目28単位以上、合計82単位以上、自由履修単位については両コースとも12単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

- (2) **物理科学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ6単位以上、自然科学分野から4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位以上、単位互換科目を含め合計34単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い必修科目34単位、必修実験科目10単位、選択必修科目20単位以上、選択科目22単位以上、合計86単位以上、自由履修単位については、8単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
- (3) **化学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ6単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位以上、単位互換科目を含め合計34単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い必修科目30単位、選択必修科目24単位以上、選択必修実験・実習科目18単位以上、選択科目12単位以上、合計84単位以上、自由履修単位については、10単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。
- (4) **地球圏科学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ6単位以上、自然科学分野から4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位以上、単位互換科目を含め合計34単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い必修科目16単位、選択必修科目(A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目)8単位以上、選択科目60単位以上、合計84単位以上、自由履修単位については10単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

7 **工学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。ただし、共通教育科目の単位互換科目については、その修得単位を卒業及び学科履修規程第6条の6に規定する必要な修得単位数に算入しない。

- (1) **機械工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計24単位以上（必修科目18単位、選択科目6単位以上）、専門教育科目については、計80単位以上（必修科目39単位、選択科目41単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- (2) **電気工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計20単位以上（必修科目14単位、選択科目6単位以上）、専門教育科目については、計84単位以上（必修科目60単位、選択科目24単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- (3) **電子情報工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計18単位以上（必修科目14単位、選択科目4単位以上）、専門教育科目については、計86単位以上（必修科目及びコース別必修科目として電子通信コース36単位、情報コース34単位、情報システムコース62単位、選択科目及びコース別選択科目として電子通信コース50単位以上、情報コース52単位以上、情報システムコース24単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。

- (4) **化学システム工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計20単位以上（必修科目14単位、選択科目6単位以上）、専門教育科目については、計84単位以上（必修科目及びコース別必修科目として化学工学コース75単位、分子工学コース75単位、選択科目及びコース別選択科目として化学工学コース9単位以上、分子工学コース9単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- (5) **社会デザイン工学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計18単位以上（必修科目16単位、選択科目2単位以上）、専門教育科目については、計86単位以上（必修科目73単位、選択科目13単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- (6) **建築学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学及び社会科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、自然科学、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目として2単位、合計26単位以上、工学共通科目については、計18単位以上（必修科目4単位、選択科目14単位以上）、専門教育科目については、計86単位以上（必修科目63単位、選択科目23単位以上）、総計130単位以上を修得しなければならない。
- 8 **医学部医学科**の学生は、次に掲げる要件を満たしていなければ進級し、卒業することができない。
- (1) 各学年においては、当該学年の専門教育科目の全授業科目の単位又は時間数を修得していること。
- (2) 第4学年及び第6学年においては、前号の要件に加え、全国共用試験において一定以上の成績を修めていること。
- 9 **医学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数、時間数は次のとおりとする。ただし、単位互換科目については、その修得単位を卒業及び進級に必要な修得単位数に算入しない。
- (1) **医学科**は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から6単位以上、自然科学から6単位以上、計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、保健体育科目として2単位、第2外国語を含め合計34単位以上、専門教育科目については18単位と4,261時間を修得しなければならない。
- (2) **看護学科**は、共通教育科目については、総合教養科目の人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、外国語科目より10単位以上、保健体育科目より2単位以上、計28単位以上、専門基礎科目については、必修科目27単位、専門教育科目については、必修科目68単位、選択必修科目2単位以上、計70単位以上、総計125単位以上を修得しなければならない。
- 10 **薬学部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として計12単位以上、外国語科目として第1外国語8単位以上、保健体育科目として2単位以上を含め合計28単位以上、専門教育科目については、学科履修規程に従い、必修科目72単位、選択必修科目の1年次科目から計15単位以上、2年次科目から計27単位以上、3年次科目から計25単位以上、4年次科目から計14単位以上を含め計81単位以上、選択科目の6年次科目から5単位以上、合計158単位以上、総計186単位以上を修得しなければならない。
- 11 **スポーツ科学部**の学生は、共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び自然科学の各分野にわたってそれぞれ4単位以上、また、総合系列科目及び学修基盤科目を含め計20単位以上、外国語科目として8単位、保健体育科目として4単位、合計32単位以上、専門教育科目については、スポーツ科学部の規定に従い、合計82単位以上「スポーツ科学科（必修科目34単位、選択必修科目6単位以上、選択科目42単位以上）、健康運動科学科（必修科目39単位、選択必修科目2単位以上、選択科目41単位以上）」、自由履修単位については、10単位以上、総計124単位以上を修得しなければならない。ただし、単位互換科目については、その修得単位を卒業に必要な修得単位数に算入しない。

第34条の2 学部留学生が第31条第2項の規定により開設された授業科目の単位を修得したときは、別に

定めるところにより、これを卒業に必要な修得単位数に算入することができる。

第34条の3 学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、第34条の3の3の規定に従って60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、60単位に相当する授業時間数を超えない範囲において、これを準用する。

3 第1項に基づいて本学における授業科目の履修により単位を修得したものとみなす授業科目が共通教育科目であるときは、教授会に先立って教務委員会の議を経るものとする。

4 前3項の規定は、第24条の2の規定により学生が外国の大学又は短期大学において履修した授業科目について、これを準用する。

第34条の3の2 学生が行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他別に定める学修を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、第34条の3の3の規定に従って60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる。

2 前項の規定は、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、60単位に相当する授業時間数を超えない範囲において、これを準用する。

3 第1項に基づいて本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる授業科目が共通教育科目である場合については、前条第3項の規定を準用する。

4 前3項の規定は、本学との協定等により学生が外国の大学又は短期大学において行った学修について、これを準用する。

第34条の3の3 第34条の3第1項により修得したものとみなし、又は前条第1項により認定することのできる単位数は、合わせて60単位を限度とする。ただし、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目にあって、第34条の3第2項により修了したものとみなし、又は前条第2項により修了を認定することのできる授業時間数は、合わせて60単位に相当する授業時間数を限度とする。

第34条の4 学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準第31条又は短期大学設置基準第17条により科目等履修生として修得した単位を含む。)を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が本学に入学する前に行った第34条の3の2第1項に規定する学修を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができる。

3 前2項の規定は、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、これを準用する。

4 第1項又は第2項により単位を修得したものとみなし、又は認定することのできる単位数は、本学において修得した単位以外のものについては、編入学及び転入学の場合を除き、合わせて30単位を限度とする。ただし、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目にあって、前項により修了したものとみなし、又は修了を認定することのできる授業時間数は、本学において履修した授業時間以外のものについては、編入学及び転入学の場合を除き、合わせて30単位に相当する授業時間数を限度とする。

5 第1項又は第2項により単位を修得したものとみなし、又は単位を認定することのできる授業科目が共通教育科目である場合については、第34条の3第3項の規定を準用する。

6 前各項の規定は、外国の大学又は短期大学を卒業又は退学した場合及び本学に再入学した場合に、これを準用する。

第34条の4の2 第34条の3第1項若しくは第34条の4第1項により単位を修得したものとみなし、又は第34条の3の2第1項若しくは第34条の4第2項により単位を認定することができる単位数は、合わせて60単位を限度とする。ただし、第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目にあって、第34条の3第1項若しくは第34条の4第1項により修了したものとみなし、又は第34条の3の2第1項若しくは第34条の4第2項により修了を認定することのできる授業時間数は、合

わせて60単位に相当する授業時間数を限度とする。

2 前項の場合において、本学において修得した単位及び履修した授業時間については、これを算入しないものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、編入学及び転入学の場合については、別にこれを定める。

第34条の4の3 第34条の3から前条までの規定に基づき修得したものとみなし、又は認定することのできる単位（医学部医学科の専門科目にあっては授業時間）について必要な事項は、別に定める。

第34条の5 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第5条、別表第1及び別表第2に基づいて教育職員の免許状の授与を受けるための資格の取得を目的として、本学に教職課程を置く。

2 教育職員の免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な授業科目（以下「教職課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、次の表に掲げる免許状の種類及び免許教科に応じ、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

教育職員免許法別表第1（第5条関係）

学部・学科の名称 (正規の課程)		免許状の種類及び免許教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
人文学部	文化学科	社 会	地 理 歴 史 民 衆
	歴史学科		
	日本語日本文学科	国 語	国 語
	教育・臨床心理学科	社 会	公 民
	英語学科	外国語(英語)	外国語(英語)
	ドイツ語学科	外国語(ドイツ語)	外国語(ドイツ語)
	フランス語学科	外国語(フランス語)	外国語(フランス語)
	東アジア地域言語学科	外国語(中国語)	外国語(中国語)
		外国語(朝鮮語)	外国語(朝鮮語)
法学部	法律学科	社 会	地 理 歴 史 民 衆
	経営法学科		
経済学部	経済学科	社 会	地 理 歴 史 民 衆 報
	産業経済学科		
商学部	商学科	社 会	商 情 報 業 報
	経営学科		
	貿易学科		
商学部第二部	商学科	社 会	地 理 歴 史 民 衆 報 業 報
理学部	応用数学科	数 学	数 情 報 学 報
	物理科学科	理 科	理 情 報 科 報
	化学科		理 科
	地球圏科学科		
工学部	機械工学科	社 会	工 業 報
	電気工学科		工 業 報
	電子情報工学科		工 業 報
	化学システム工学科		
	社会デザイン工学科		
	建築学科		
医学部	看護学科	社 会	看 護 業 報
スポーツ科学部	スポーツ科学科	保 健 体 育	保 健 体 育
	健康運動科学科		

教育職員免許法別表第2（第5条関係）

学部・学科の名称（正規の課程）		免許状の種類
医 学 部	看 護 学 科	養護教諭1種免許状

第34条の6 博物館法（昭和26年法律第285号）第5条第1項第1号に基づいて学芸員となる資格の取得を目的として、本学に博物館学芸員課程を置く。

2 学芸員となる資格の取得に必要な授業科目（以下「博物館学芸員課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、博物館法及び博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

第34条の7 社会教育法（昭和24年法律第207号）第9条の4第1項第3号に基づいて社会教育主事となる資格の取得を目的として、本学に社会教育主事課程を置く。

2 社会教育主事となる資格の取得に必要な授業科目（以下「社会教育主事課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、社会教育法及び社会教育主事講習等規程（昭和26年文部省令第12号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

第34条の8 日本語教育施設の運営に関する基準（昭和63年文部省制定）第11項第2号に基づいて日本語教育施設における教員の資格の取得を目的として、本学に日本語教員課程を置く。

2 日本語教育施設における教員の資格の取得に必要な授業科目（以下「日本語教員課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、日本語教育施設の運営に関する基準の定めるところに従い、別にこれを定める。

第4節 学習修了の認定及び卒業

第35条 各授業科目の学習修了の認定は、試験等によるものとし、成績の評価は60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

2 60点以上の成績の評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。

第36条 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

第36条の2 定期試験は、各学期末にこれを行う。ただし、医学部医学科の時間制の授業科目について所定の期日に行う場合も同様に取り扱う。

第37条 病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受けることのできなかった者に対しては、成績考査規程の定めるところにより追試験を行うことがある。

第37条の2 第2年次生（理学部の学生に限る。）及び第4年次以上の卒業見込者に対しては、成績考査規程の定めるところにより、不合格科目につき再試験を行うことがある。

第37条の3 医学部及び薬学部の学生に対しては、成績考査規程の定めるところにより、不合格科目につき再試験を行うことがある。

第38条 学士の学位の授与は、本学の人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部看護学科及びスポーツ科学部にあっては4年以上、医学部医学科及び薬学部にあっては6年以上在学し、所定の授業科目を履修して、所定の課程を修め、卒業と認める者に対し、教授会の議を経て、学長がこれを決定する。ただし、人文学部又は法学部の学生として3年以上在学した者が、卒業の要件として当該学部の定める単位を優秀な成績で修得したと認められ、かつ、本学大学院へ進学する場合には、その卒業を認めることができる。

2 前項の学位記の様式は別に定め、卒業証書を兼ねるものとする。

第39条 第36条に定める試験の実施及び成績の評価に関する規程は、別にこれを定める。

第5節 賞 罰

第40条 学業成績並びに品行の特に優秀な者、その他業績顕著な者は、これを表彰することがある。

第41条 本学の規則に違反し、学内の秩序を乱し、又は学生の本分に反する者は、学長が定める手続に基づき、これを懲戒する。

2 前項の規定による懲戒は、訓告、停学及び退学とする。ただし、退学は、次の各号のいずれかに該当

する者に対してこれを行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第6節 授業料その他諸納入金

第42条 学生は、別に定める期日までに、別表Ⅰの(2)に定める授業料等納入金を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）の定めるところに従い、特に優れた者であって経済的理由により極めて修学に困難があると認められるものとして認定を受けた学生（以下「修学支援学生」という。）が所定の授業料等納入金を納入したときは、前項の納入を行ったものとみなす。

第43条 次の各号に掲げる授業科目であって、その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目を履修する者は、別表Ⅱに定めるところに従い、受講料を納入しなければならない。

- (1) 教職課程科目
- (2) 博物館学芸員課程科目
- (3) 社会教育主事課程科目
- (4) 日本語教員課程科目

2 前項の規定にかかわらず、博物館学芸員課程科目を履修する者については、当該授業科目がその所属する学部のいずれかの学科に関して学則第31条に掲げる表に定められている場合において、その受講料を免除する。

3 前2項の規定にかかわらず、科目等履修生として第1項の各号に掲げる授業科目を履修する者は、別表Ⅲに定めるところに従い、受講料を納入するものとする。

第43条の2 実習又は研修など特別の費用を必要とする授業科目を履修する者は、別に定めるところに従い、実習・研修費等としてこれら諸費用を納入しなければならない。

第44条 削除

第45条 削除

第46条 学生が所定の期日までに第42条に定める授業料等納入金を完納しなかったときは、除籍する。

第47条 授業料等納入金及び受講料に関する細部については、別に定める。

第48条 特殊の事情ある学生に対しては、その事情により授業料等納入金の減免を行うことがある。

2 前項に規定する学生及び修学支援学生に対する授業料等納入金の減免に関し必要な事項は、別に定める。

第7節 科目等履修生、研究生、特別聴講学生及び外国人留学生

第49条 本学において、特定の授業科目を受講することを志願する者があるときは、学長は、選考の上、科目等履修生として受入れを許可することができる。

第50条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は、選考の上、研究生として受入れを許可することができる。

第51条 他の大学又は短期大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として受け入れることができる。

第52条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、学長は、選考の上、外国人留学生として受入れを許可することができる。

第53条 科目等履修生、研究生、特別聴講学生及び外国人留学生に関する取扱いについては、別にこれを定める。

2 科目等履修生及び研究生の受講料等については、別表Ⅲに掲げるとおりとする。

第8節 公開講座

第54条 本学における教育研究を広く社会に開放し、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。

VI. 諸 規 程

- 2 公開講座に関し必要な事項については、別に定める。

第9節 厚 生 施 設

第55条 本学に厚生施設として学生寮その他の施設を置く。

- 2 前項の厚生施設に関する規程は、別にこれを定める。

附 則

- 1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 第32条の2及び第33条の規定は、令和3年3月31日以前から引き続き在籍する学生にも適用する。
- 3 第42条第1項の規定は、令和3年3月31日以前から引き続き在籍する学生にも適用する。

別表Ⅰ 入学検定料及び授業料等納入金

- (1) 入学検定料（第19条第1項）
（略）
(2) 授業料等納入金（第21条第1項・第42条）
（平成31年度入学以降）

（単位 円）

学 部	区 分 (年額)	入 学 金	特別教育充実費	計	毎 年 納 付 金		計
					授 業 料	教 育 充 実 費	
人 文 学 部 法 学 部 経 済 学 部 商 学 部		190,000		190,000	730,000	180,000	910,000
商学部第二部		60,000		60,000	310,000	80,000	390,000
理 学 部 工 学 部		240,000		240,000	1,000,000	380,000	1,380,000
医 学 部	医 学 科	1,000,000	3,000,000	4,000,000	3,912,000	688,000	4,600,000
	看 護 学 科	270,000		270,000	1,040,000	470,000	1,510,000
薬 学 部		400,000		400,000	1,350,000	290,000	1,640,000
スポーツ科学部		300,000		300,000	800,000	350,000	1,150,000

備考

- この表にかかわらず、平成31年3月31日以前に入学し引き続き在学する者にかかる授業料等納入金については、なお従前の例による。
- 入学金については、入学時に限り納入すべき額とする。ただし、第21条第1項ただし書の規定に該当し、その適用を受ける者については、この限りではない。
- 特別教育充実費については、入学初年度（1年次）から3年次までの各年次において納入すべき額とする。
- 薬学部の教育充実費については、入学初年度（1年次）に納入すべき額とし、2年次から6年次までの各学年において720,000円を納入しなければならない。
- 第42条第2項に定める修学支援学生の所定の授業料等納入金は、当該各学生につき、別に定める額とする。

別表Ⅱ その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目の受講料（第43条第1項）

- (1) 教職課程科目

受 講 料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない教職課程科目	全科目につき 36,000円
-------	---------------------------------	----------------

※ ただし、当該授業科目を博物館学芸員課程科目又は社会教育主事課程科目としてのみ履修する場合については(2)を適用する。

- (2) 博物館学芸員課程科目及び社会教育主事課程科目

受 講 料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない博物館学芸員課程科目	全科目につき 12,000円
	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない社会教育主事課程科目	全科目につき 16,000円

※ ただし、博物館学芸員課程科目を履修する者については、当該授業科目がその所属する学部のいずれかの学科に関して第31条に掲げる表に定められている場合において、その受講料を免除する。

- (3) 日本語教員課程科目

受 講 料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない日本語教員課程科目	1単位につき 1,000円
-------	------------------------------------	---------------

VI. 諸 規 程

別表Ⅲ 科目等履修生及び研究生の受講料等（第43条第3項・第53条第2項）

(1) 単位又は授業時間の認定を必要とする科目等履修生

選 考 料		15,000円
受 講 料	第31条に掲げる表において、理学部、工学部、医学部看護学科又は薬学部の専門教育科目（工学部については、工学共通科目を、医学部看護学科については、専門基礎科目を含む。）としてのみ定められている授業科目	1単位につき 18,000円
	第31条に掲げる表において、医学部医学科の専門教育科目としてのみ定められている授業科目	1単位につき又は15時間につき 40,000円
	第31条に掲げる表に定められている上記以外の授業科目	1単位につき 12,000円
	第31条に掲げる表において、商学部第二部の専門教育科目のうち別に定められている授業科目	20単位まで 110,000円
	第31条に掲げる表に定められていない授業科目	本学の卒業者
その他		1単位につき 12,000円

(2) 単位の認定を必要としない科目等履修生

選 考 料		15,000円
受 講 料	第31条に掲げる表に定められている授業科目（医学部医学科を除く。）	1単位につき 9,000円

(3) 研究生

選 考 料	医学部医学科	20,000円
	その他の学部・学科	15,000円
研究指導料		月額 15,000円

授業科目及び単位・時間数 [学則第31条 (表)]

令和6年度入学生 (24台)

商学部 商学科

分野	科目	授 業 科 目 (単 位)																					
共通教育科目 (122単位)	人文科学	哲学A (2)	哲学B (2)	論理学A (2)	論理学B (2)	倫理学A (2)	倫理学B (2)	宗教学A (2)	宗教学B (2)	日本史A (2)	日本史B (2)	東洋史A (2)	東洋史B (2)	日本文学A (2)	日本文学B (2)	西洋文学A (2)	西洋文学B (2)	アジアの文学A (2)	アジアの文学B (2)	芸術A (2)	芸術B (2)	日本教育史 (2)	西洋教育史 (2)
		社会科学	法学A (2)	法学B (2)	日本国憲法 (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	経済学A (2)	経済学B (2)	社会学A (2)	社会学B (2)	教育論A (2)	教育論B (2)	教育の原理・課程論 (2)	地理学A (2)	地理学B (2)	心理学A (2)	心理学B (2)	文化人類学A (2)	文化人類学B (2)			
			自然科学	数学入門 (2)	基礎数学 (2)	統計入門 (2)	物理科学入門 (2)	物理の世界 (2)	自然界と物質の化学 (2)	生活と環境の化学 (2)	地球圏科学入門 (2)	新しい地球観 (2)	ミクロの生物科学 (2)	マクロの生物科学 (2)	自然科学入門 (2)	自然科学と人間 (2)							
				総合系列科目	福岡大学で考える現代社会 (2)																		
				学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン (2)	アカデミックスキルズゼミⅠ (2)	アカデミックスキルズゼミⅡ (2)	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか (2)															
	外国語科目 (60単位)	第1	※フレッシュマン・イングリッシュ (4)				※インターメディアエイト・イングリッシュ (4)																
		第2	ドイツ語Ⅰ (2-4)	ドイツ語Ⅱ (2-4)	フランス語Ⅰ (2-4)	フランス語Ⅱ (2-4)	中国語Ⅰ (2-4)	中国語Ⅱ (2-4)	ロシア語Ⅰ (2-4)	ロシア語Ⅱ (2-4)	スペイン語Ⅰ (2-4)	スペイン語Ⅱ (2-4)	朝鮮語Ⅰ (2-4)	朝鮮語Ⅱ (2-4)									
	保健体育科目 (4単位)	※生涯スポーツ演習 (2)		※生涯スポーツ論 (2)																			
	単位互換科目	他大学 (短期大学を含む。) の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目																					

分野	科目	授 業 科 目 (単 位)																																																																					
専門教育科目 (160単位)	選択必修科目 (10単位)	流通・マーケティング入門 (2)	金融入門 (2)	交通経済入門 (2)	保険論入門 (2)																																																																		
		商業史入門 (2)	2年専門ゼミナール (2)		3年専門ゼミナールⅠ (2)	3年専門ゼミナールⅡ (2)																																																																	
	選択科目 (160単位)	商学基礎ゼミナール (2)	論文ゼミナール (6)	特別ゼミナールA (2)	特別ゼミナールB (2)	キャリアデザイン (2)	商学のための数学 (2)	商学のための統計学 (2)	情報表現技術 (2)	情報倫理 (2)	情報処理入門 (2)	情報処理基礎 (2)	情報システム論 (2)	マルチメディア概論 (2)	外書講読ⅠA (2)	外書講読ⅠB (2)	外書講読ⅡA (2)	外書講読ⅡB (2)	特別講義A (2)	特別講義B (2)	特別講義C (2)	特別講義D (2)	特別講義E (2)	特別講義F (2)	海外交流ゼミナール (4)	経営入門 (2)	経営学総論 (2)	簿記原理 (4)	マーケティング論 (2)	マーケティング戦略論 (2)	マーケティングリサーチ (2)	マーケティングデータ解析 (2)	消費者行動論 (2)	流通システム論 (2)	地域商業論 (2)	流通政策 (2)	サービスマネジメント (2)	サービスマーケティング (2)	情報産業論 (2)	広告コミュニケーション (2)	情報社会論 (2)	市場分析論 (2)	金融論 (2)	金融政策論 (2)	銀行論 (2)	金融システム論 (2)	証券市場論 (2)	証券と金融 (2)	国際金融論Ⅰ (2)	交通経済論 (2)	海運と航空 (2)	交通政策 (2)	保険論 (2)	生活保障論 (2)	リスクマネジメント論 (2)	サプライチェーンマネジメント (2)	商業史概論 (2)	日本商業史 (2)	近代日本商業史 (2)	西洋商業史 (2)	近代西洋商業史 (2)	会社簿記 (4)	原価計算論 (4)	会計学総論 (2)	財務会計論 (2)	経営分析論 (2)	商学特別講義A (4)	商学特別講義B (2)	商学特別講義C (2)		
		関連教育科目 (74単位)	憲法Ⅰ (2)	憲法Ⅱ (2)	民法入門 (2)	民法総則 (2)	行政法Ⅰ (4)	知的財産法 (4)	経済法 (4)	労働法 (4)	税法ⅠA (2)	税法ⅠB (2)	会社法Ⅰ (2)	会社法Ⅱ (2)	企業取引法 (2)	企業取引決済法 (2)	国際法総論 (4)	マクロ経済学 (4)	ミクロ経済学 (4)	経済政策 (4)	経済学史A (2)	経済学史B (2)	経済統計論 (4)	財政学 (4)	国際経済学 (4)	産業組織論A (2)	産業組織論B (2)	経済学のための情報技術 (2)																																											
			他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目																																																																				
			他大学 (短期大学を含む。) の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目																																																																				

令和6年度入学生（24台）

商学部 経営学科

分野	科目	授 業 科 目 (単 位)							
共通教育科目 (122単位)	人文学科	哲学A	(2)	哲学B	(2)	論理学A	(2)	論理学B	(2)
		倫理学A	(2)	倫理学B	(2)	宗教学A	(2)	宗教学B	(2)
		日本史A	(2)	日本史B	(2)	東洋史A	(2)	東洋史B	(2)
		西洋史A	(2)	西洋史B	(2)	日本文学A	(2)	日本文学B	(2)
		アジアの文学A	(2)	アジアの文学B	(2)	西洋文学A	(2)	西洋文学B	(2)
		芸術A	(2)	芸術B	(2)	日本教育史	(2)	西洋教育史	(2)
	社会科学	法学A	(2)	法学B	(2)	日本国憲法	(2)	政治学A	(2)
		政治学B	(2)	経済学A	(2)	経済学B	(2)	社会学A	(2)
		社会学B	(2)	教育論A	(2)	教育論B	(2)	教育の原理・課程論	(2)
		地理学A	(2)	地理学B	(2)	心理学A	(2)	心理学B	(2)
	自然科学	文化人類学A	(2)	文化人類学B	(2)				
		数学入門	(2)	基礎数学	(2)	統計入門	(2)	物理学入門	(2)
		物理の世界	(2)	自然界と物質の化学	(2)	生活と環境の化学	(2)	地球圏科学入門	(2)
		新しい地球観	(2)	ミクロの生物科学	(2)	マクロの生物科学	(2)	自然科学入門	(2)
	総合系科目	福岡大学で考える現代社会	(2)						
		学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	(2)	アカデミックスキルズゼミⅠ	(2)	アカデミックスキルズゼミⅡ	(2)	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか
外国語科目 (60単位)	第1	※フレッシュマン・イングリッシュ	(4)	※インターミディエイト・イングリッシュ	(4)				
		アドバンスト・イングリッシュ	(2)	海外英語研修	(2)				
	第2	ドイツ語Ⅰ	(2-4)	ドイツ語Ⅱ	(2-4)	フランス語Ⅰ	(2-4)	フランス語Ⅱ	(2-4)
		中国語Ⅰ	(2-4)	中国語Ⅱ	(2-4)	ロシア語Ⅰ	(2-4)	ロシア語Ⅱ	(2-4)
		スペイン語Ⅰ	(2-4)	スペイン語Ⅱ	(2-4)	朝鮮語Ⅰ	(2-4)	朝鮮語Ⅱ	(2-4)
保健体育科目 (4単位)	※生涯スポーツ演習	(2)	※生涯スポーツ論	(2)					
	単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目							

分野	科目	授 業 科 目 (単 位)								
専門教育科目	必修科目 (8単位)	経営入門	(2)	経営学総論	(2)	簿記原理	(4)			
		経営戦略論	(2)	経営組織論	(2)	経営心理学	(2)	商学のための数学	(2)	
	選択必修科目 (22単位)	商学のための統計学	(2)	会計学総論	(2)	会社簿記	(4)	原価計算論	(4)	
		財務会計論	(2)							
	選択科目 (156単位)	経営基礎ゼミナールⅠ	(2)	経営基礎ゼミナールⅡ	(2)	2年基礎ゼミナール	(2)	2年専門ゼミナール	(2)	
		3年専門ゼミナールⅠ	(2)	3年専門ゼミナールⅡ	(2)	論文ゼミナール	(6)	特別ゼミナールA	(2)	
		特別ゼミナールB	(2)	キャリアデザイン	(2)	情報表現技術	(2)	情報倫理	(2)	
		情報処理入門	(2)	情報処理基礎	(2)	情報システム論	(2)	マルチメディア概論	(2)	
		情報産業論	(2)	情報社会論	(2)	外書講読ⅠA	(2)	外書講読ⅠB	(2)	
		外書講読ⅡA	(2)	外書講読ⅡB	(2)	外書講読上級A	(2)	外書講読上級B	(2)	
		特別講義A	(2)	特別講義B	(2)	特別講義C	(2)	特別講義D	(2)	
		特別講義E	(2)	特別講義F	(2)	海外交流ゼミナール	(4)	企業論	(2)	
		社会的企業論	(2)	中小企業論	(2)	経営管理論	(2)	生産管理論	(2)	
		経営労務論	(2)	ヒューマンリソースマネジメント	(2)	企業戦略論	(2)	経営財務論	(2)	
		オペレーションズリサーチ	(2)	国際経営論	(2)	経営史	(2)	クリエイティブ社会論	(2)	
		クリエイティブ・マネジメント論	(2)	プロジェクト・マネジメント論	(2)	クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	(2)	クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	(2)	
		クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	(2)	クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	(2)	マーケティング戦略論	(2)	マーケティングリサーチ	(2)	
		サービスマネジメント	(2)	サービスマーケティング	(2)	地域経営論	(2)	経営学特論	(2)	
		国際会計論	(2)	監査論	(2)	税と生活	(2)	税務会計論	(2)	
		会計情報システム論	(2)	経営分析論	(2)	管理会計論	(2)	意思決定会計論	(2)	
		会計学特論	(2)	経営特別講義A	(2)	経営特別講義B	(2)	経営特別講義C	(2)	
		経営特別講義D	(2)	キャリア研修X	(4)	キャリア研修Y	(4)	キャリア研修Z	(4)	
		関連教育科目 (70単位)	憲法Ⅰ	(2)	憲法Ⅱ	(2)	民法入門	(2)	民法総則	(2)
			行政法Ⅰ	(4)	知的財産法	(4)	経済法	(4)	労働法	(4)
			税法ⅠA	(2)	税法ⅠB	(2)	会社法Ⅰ	(2)	会社法Ⅱ	(2)
			企業取引法	(2)	企業取引決済法	(2)	国際法総論	(4)	マクロ経済学	(4)
			ミクロ経済学	(4)	経済政策	(4)	経済統計論	(4)	財政学	(4)
			国際経済学	(4)	産業組織論A	(2)	産業組織論B	(2)	経済学のための情報技術	(2)
		他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目						

令和6年度入学生(24台)

商学部 貿易学科

分野	科目	授業科目(単位)																					
共通教育科目 (128単位)	人文学科	哲学A (2)	哲学B (2)	論理学A (2)	論理学B (2)	倫理学A (2)	倫理学B (2)	宗教学A (2)	宗教学B (2)	日本史A (2)	日本史B (2)	東洋史A (2)	東洋史B (2)	アジアの文学A (2)	アジアの文学B (2)	日本文学A (2)	日本文学B (2)	人文地理学 (2)	芸術A (2)	芸術B (2)	日本教育史 (2)	西洋教育史 (2)	
		社会科学	法学A (2)	法学B (2)	日本国憲法 (2)	政治学A (2)	政治学B (2)	経済学A (2)	経済学B (2)	社会学A (2)	社会学B (2)	教育論A (2)	教育論B (2)	教育の原理・課程論 (2)	地理学A (2)	地理学B (2)	地誌学 (2)	心理学A (2)	心理学B (2)	文化人類学A (2)	文化人類学B (2)		
			自然科学	数学入門 (2)	基礎数学 (2)	統計入門 (2)	物理学入門 (2)	物理の世界 (2)	自然界と物質の化学 (2)	生活と環境の化学 (2)	地球圏科学入門 (2)	新しい地球観 (2)	自然地理学 (2)	ミクロの生物科学 (2)	マクロの生物科学 (2)	自然科学入門 (2)	自然科学と人間 (2)						
				総合系列科目	福岡大学で考える現代社会 (2)																		
				学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン (2)	アカデミックスキルズゼミⅠ (2)	アカデミックスキルズゼミⅡ (2)	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか (2)	データサイエンス・AI入門 (2)														
		外国語科目 (60単位)	第1	※フレッシュマン・イングリッシュ (4)				※インターメディアイト・イングリッシュ (4)															
			第2	ドイツ語Ⅰ (2-4)	ドイツ語Ⅱ (2-4)	フランス語Ⅰ (2-4)	フランス語Ⅱ (2-4)	中国語Ⅰ (2-4)	中国語Ⅱ (2-4)	ロシア語Ⅰ (2-4)	ロシア語Ⅱ (2-4)	スペイン語Ⅰ (2-4)	スペイン語Ⅱ (2-4)	朝鮮語Ⅰ (2-4)	朝鮮語Ⅱ (2-4)								
	保健体育科目 (4単位)	※生涯スポーツ演習 (2)		※生涯スポーツ論 (2)																			
	単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目																					

分野	科目	授業科目(単位)																																																																																							
専門教育科目	選択必修科目 (12単位)	貿易入門A (2)	貿易入門B (2)	簿記原理 (4)	貿易商務論A (2)	貿易基礎ゼミナール (2)	ステップアップゼミナール (2)	2年専門ゼミナール (2)	3年専門ゼミナールⅠ (2)	3年専門ゼミナールⅡ (2)	論文ゼミナール (6)	特別ゼミナールA (2)	特別ゼミナールB (2)	キャリアデザイン (2)	商学のための数学 (2)	商学のための統計学 (2)	情報表現技術 (2)	情報倫理 (2)	情報処理入門 (2)	情報処理基礎 (2)	情報システム論 (2)	マルチメディア概論 (2)	外書講読ⅠA (2)	外書講読ⅠB (2)	外書講読ⅡA (2)	外書講読ⅡB (2)	外書講読上級A (2)	外書講読上級B (2)	特別講義A (2)	特別講義B (2)	特別講義C (2)	特別講義D (2)	特別講義E (2)	特別講義F (2)	海外交流ゼミナール (4)	流通・マーケティング入門 (2)	金融入門 (2)	経営入門 (2)	経営学総論 (2)	ビジネス英会話初級 (4)	ビジネス英会話中級Ⅰ (2)	ビジネス英会話中級Ⅱ (2)	ビジネス英会話上級Ⅰ (2)	ビジネス英会話上級Ⅱ (2)	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ (2)	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ (2)	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ (2)	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ (2)	国際物流論A (2)	国際物流論B (2)	海上保険論A (2)	海上保険論B (2)	国際貿易論Ⅰ (2)	国際貿易論Ⅱ (2)	国際金融論Ⅰ (2)	国際金融論Ⅱ (2)	貿易政策 (2)	国際政治経済学 (2)	世界経済論 (2)	貿易史 (2)	国際協力論A (2)	国際協力論B (2)	開発経済論A (2)	開発経済論B (2)	日本経済論A (2)	日本経済論B (2)	アジア経済論A (2)	アジア経済論B (2)	アメリカ経済論Ⅰ (2)	アメリカ経済論Ⅱ (2)	海外直接投資論 (2)	グローバル企業論 (2)	市場分析論 (2)	国際マーケティング論A (2)	国際マーケティング論B (2)	会社簿記 (4)	原価計算論 (4)	会計学総論 (2)	財務会計論 (2)	国際会計論 (2)	貿易特別講義A (2)	貿易特別講義B (2)	貿易特別講義C (2)	貿易特別講義D (2)	概説日本史 (2)	概説外国史 (2)	概説法律学 (2)	概説政治学 (2)	概説社会学 (2)
		選択科目 (184単位)	憲法Ⅰ (2)	憲法Ⅱ (2)	民法入門 (2)	民法総則 (2)	知的財産法 (4)	経済法 (4)	英米法 (2)	国際私法 (4)	会社法Ⅰ (2)	会社法Ⅱ (2)	企業取引法 (2)	企業取引決済法 (2)	国際法総論 (4)	国際関係論 (4)	マクロ経済学 (4)	ミクロ経済学 (4)	経済政策 (4)	財政学 (4)	ストックの経済学 (2)	経済学のための情報技術 (2)	概説哲学 (2)																																																																		
	他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目																																																																																								
	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目																																																																																								

福岡大学学科履修規程(含む年次別授業科目表) (学科履修規程 第4条 別表)

第1章 総 則

第1条 卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第2章 科目の履修

第2条 (抜粋)

令和6年度入学生(24台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
		学修基盤科目		
共通教育科目	外国語科目	第1外国語 8単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		第2外国語 4単位以上		
		保健体育科目 4単位		
単位互換科目				
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目		計20単位以上	

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 商学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2	
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2	
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2		
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
	政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2		
	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2		
	地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2		
文化人類学A	2	文化人類学B	2							
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2		
物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2			
新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2			
自然科学と人間	2									
総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2								
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2		
	データサイエンス・AI入門	2								
教育科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅣ	1					
			1	海外英語研修	2					
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2							
ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2							
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2							
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
※生涯スポーツ演習Ⅱ	1									
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	選択必修科目	流通・マーケティング入門	2							
		金融入門	2							
		交通経済入門	2							
		保険論入門	2							
		商業史入門	2							
	選択科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
						3年専門ゼミナールⅡ	2			
		特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
		情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
		情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
商学のための数学	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2			
商学のための統計学	2	情報処理基礎	2	海外交流ゼミナール	4					
経営入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2			
経営学総論	2	マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	流通システム論	2			
簿記原理	4	地域商業論	2	流通政策	2	サービスマネジメント	2			
会社簿記	4	サービスマーケティング	2	情報産業論	2	広告コミュニケーション	2			
原価計算論	4	情報社会論	2	市場分析論	2	金融論	2			
	4	金融政策論	2	銀行論	2	金融システム論	2			
キャリアデザイン	2	証券市場論	2	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2			
	2	交通経済論	2	海運と航空	2	交通政策	2			
特別講義A	2	保険論	2	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2			
特別講義B	2	サプライチェーンマネジメント	2	商業史概論	2	日本商業史	2			
	2	近代日本商業史	2	西洋商業史	2	近代西洋商業史	2			
	2	会計学総論	2	財務会計論	2	経営分析論	2			
	2	商学特別講義A	4	商学特別講義B	2	商学特別講義C	2			
	2	特別講義C	2	特別講義D	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	知的財産法	4		
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	経済法	4	労働法	4		
	民法入門	2	経済政策	4	税法ⅠA	2	税法ⅠB	2		
	民法総則	2			会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2		
					企業取引法	2	企業取引決済法	2		
					国際法総論	4	経済学史A	2		
					経済学史B	2	経済統計論	4		
					財政学	4	国際経済学	4		
					産業組織論A	2	産業組織論B	2		
					経済学のための情報技術	2				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

令和5年度入学生(23台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
		学修基盤科目		
	外国語科目	第1外国語 8単位以上 第2外国語 4単位以上		
	保健体育科目 4単位			
	単位互換科目			
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目		計20単位以上	

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 商学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2	
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2	
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2		
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
	政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2		
	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2		
	地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2		
文化人類学A	2	文化人類学B	2							
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2		
物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2			
新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2			
自然科学と人間	2									
総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2								
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2		
	データサイエンス・AI入門	2								
教育科目			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
					海外英語研修	2				
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2	ドイツ語ⅡB	2			
			ドイツ語ⅠB		2		ドイツ語ⅡB			2
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2	フランス語ⅡB	2			
フランス語ⅠB			2		フランス語ⅡB		2			
中国語ⅠA		2	中国語ⅡA	2	中国語ⅡB	2				
		中国語ⅠB		2		中国語ⅡB	2			
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2	ロシア語ⅡB	2				
		ロシア語ⅠB		2		ロシア語ⅡB	2			
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2	スペイン語ⅡB	2					
	スペイン語ⅠB		2		スペイン語ⅡB	2				
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2	朝鮮語ⅡB	2					
	朝鮮語ⅠB		2		朝鮮語ⅡB	2				
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
※生涯スポーツ演習Ⅱ	1									
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	選択必修科目	流通・マーケティング入門	2							
		金融入門	2							
		交通経済入門	2							
		保険論入門	2							
		商業史入門	2							
	選択科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
						3年専門ゼミナールⅡ	2			
		特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
		情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
		情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
商学のための数学	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2			
商学のための統計学	2	情報処理基礎	2	海外交流ゼミナール	4	[インターンシップ]	2			
経営入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2			
経営学総論	2	マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	流通システム論	2			
簿記原理	4	地域商業論	2	流通政策	2	サービスマネジメント	2			
会社簿記	4	サービスマーケティング	2	情報産業論	2	広告コミュニケーション	2			
原価計算論	4	情報社会論	2	市場分析論	2	金融論	2			
		金融政策論	2	銀行論	2	金融システム論	2			
		証券市場論	2	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2			
特別講義A	2	交通経済論	2	海運と航空	2	交通政策	2			
特別講義B	2	保険論	2	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2			
		サブライチェーンマネジメント	2	商業史概論	2	日本商業史	2			
		近代日本商業史	2	近代西洋商業史	2	近代西洋商業史	2			
		会計学総論	2	財務会計論	2	経営分析論	2			
		[商学特別講義A]	4	[商学特別講義B]	2	[商学特別講義C]	2			
		特別講義C	2	特別講義D	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	知的財産法	4		
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	経済法	4	労働法	4		
	民法入門	2	経済政策	4	税法ⅠA	2	税法ⅠB	2		
	民法総則	2			会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2		
					企業取引法	2	企業取引決済法	2		
					国際法総論	4	経済学史A	2		
					経済学史B	2	経済統計論	4		
					財政学	4	国際経済学	4		
					産業組織論A	2	産業組織論B	2		
					経済学のための情報技術	2				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

(注) []内は今年度休講。

令和4年度入学生(22台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
	学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語 8単位以上 第2外国語 4単位以上			
	保健体育科目 4単位			
	単位互換科目			
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目	計20単位以上		

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 商学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
	社会科学	日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
		芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2
	自然科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
総合系列科目	文化人類学A	2	文化人類学B	2					
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2	
学修基盤科目	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
		自然科学と人間	2						
		地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2
		[文化と教育]	2	現代を生きる	2				
		福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2
		データサイエンス・AI入門	2						
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
	第2	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
				海外英語研修	2				
		ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2				
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2				
中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2						
ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2						
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2						
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2						
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2						
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2						
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2						
保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2				
単位互換科目		他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目							
専門教育科目	選択必修科目	流通・マーケティング入門	2						
		金融入門	2						
		交通経済入門	2						
		保険論入門	2						
		商業史入門	2						
	選択科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6
						3年専門ゼミナールⅡ	2		
		特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2
		情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2
		情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2
商学のための数学	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2		
商学のための統計学	2	情報処理基礎	2	海外交流ゼミナール	4	[インターンシップ]	2		
経営入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2		
経営学総論	2	マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	流通システム論	2		
簿記原理	4	地域商業論	2	流通政策	2	サービスマネジメント	2		
会社簿記	4	サービスマーケティング	2	情報産業論	2	広告コミュニケーション	2		
原価計算論	4	情報社会論	2	市場分析論	2	金融論	2		
特別講義A	2	金融政策論	2	銀行論	2	金融システム論	2		
特別講義B	2	証券市場論	2	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2		
		交通経済論	2	海運と航空	2	交通政策	2		
		保険論	2	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2		
		サプライチェーンマネジメント	2	商業史概論	2	日本商業史	2		
		近代日本商業史	2	西洋商業史	2	近代西洋商業史	2		
		会計学総論	2	財務会計論	2	経営分析論	2		
		[商学特別講義A]	4	[商学特別講義B]	2	[商学特別講義C]	2		
		特別講義C	2	特別講義D	2				
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	知的財産法	4	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	経済法	4	労働法	4	
	民法入門	2	経済政策	4	税法ⅠA	2	税法ⅠB	2	
	民法総則	2			会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2	
					企業取引法	2	企業取引決済法	2	
					国際法総論	4	経済学史A	2	
					経済学史B	2	経済統計論	4	
					財政学	4	国際経済学	4	
					産業組織論A	2	産業組織論B	2	
					経済学のための情報技術	2			
		他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目							
		他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目							

(注) []内は今年度休講。

令和3年度入学生 (21台) 卒業要件単位

4 商学部 (商学科、経営学科、貿易学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	}	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目 学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上	}		
	第2外国語…………… 4単位以上				
保健体育科目…………… 4単位					
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	}		総計128単位以上
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上	}		
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	}		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位	共通教育科目				
	専門教育科目		計20単位以上		
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 商学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2	
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
文化人類学A	2	文化人類学B	2						
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2	
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
	自然科学と人間	2							
総合系列科目	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2	
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
育外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2				
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2				
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2				
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2					
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2					
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2						
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2						
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2						
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2						
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1							
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
					3年専門ゼミナールⅡ	2			
	商学のための数学	2	外書講読ⅠA	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
	商学のための統計学	2	外書講読ⅠB	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
	情報表現技術	2	情報処理入門	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
	情報倫理	2	情報処理基礎	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
			海外交流ゼミナール	4	[特別寄付講座A]	2	[特別寄付講座B]	2	
			[インターンシップ]	2					
	△流通・マーケティング入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2	
	△金融入門	2	マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	流通システム論	2	
	△交通経済入門	2	地域商業論	2	流通政策	2	サービスマネジメント	2	
	△保険論入門	2	サービスマーケティング	2	情報産業論	2	広告コミュニケーション	2	
	△商業史入門	2	情報社会論	2	市場分析論	2	金融論	2	
			金融政策論	2	銀行論	2	金融システム論	2	
	経営入門	2	証券市場論	2	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2	
	経営学総論	2	交通経済論	2	海運と航空	2	交通政策	2	
	簿記原理	4	保険論	2	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2	
	会社簿記	4	サブライチェーンマネジメント	2	商業史概論	2	日本商業史	2	
	原価計算論	4	近代日本商業史	2	西洋商業史	2	近代西洋商業史	2	
			会計学総論	2	財務会計論	2	経営分析論	2	
特別講義A	2	[商学特別講義A]	4	[商学特別講義B]	2	[商学特別講義C]	2		
特別講義B	2	特別講義C	2	特別講義D	2				
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	国際法総論	4	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	経済学史A	2	
	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	経済学史B	2	
	民法総則	2			労働法	4	経済統計論	4	
					税法ⅠA	2	財政学	4	
					税法ⅠB	2	国際経済学	4	
					会社法Ⅰ	2	産業組織論A	2	
					会社法Ⅱ	2	産業組織論B	2	
				企業取引法	2	経済学のための情報技術	2		
				企業取引決済法	2				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) []内は今年度休講。

令和2年度入学生(20台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学……………4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学……………4単位以上			
		自然科学……………4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語……………8単位以上	学修基盤科目	計72単位以上		
		第2外国語……………4単位以上			
保健体育科目……………4単位	単位互換科目				
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目……………6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上		
	選 択 科 目……………66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目……………8単位	計72単位以上			
	選択必修科目……………12単位以上				
	選 択 科 目……………52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目……………6単位以上	計72単位以上			
	選 択 科 目……………66単位以上				
(3)自由履修単位					
}	共通教育科目	計20単位以上		}	
	専門教育科目				
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 商学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2	
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2	
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2		
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
	政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2		
	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2		
	地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2		
文化人類学A	2	文化人類学B	2							
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2		
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球科学入門	2		
総合系列科目	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
	自然科学と人間	2								
学修基盤科目	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2		
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2						
		福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
育外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2					
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2						
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2						
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6		
	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2		
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2		
	情報表現技術	2	情報処理入門	2	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2		
	情報倫理	2	情報処理基礎	2	[外書講読CⅡ]	2				
			海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2				
			[特別寄付講座A]	2	外書講読上級B	2				
			[特別寄付講座B]	2	[外書講読上級C]	2				
			[インターンシップ]	2	情報システム論	2				
	△流通・マーケティング入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2		
	△金融入門	2	マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	流通システム論	2		
	△交通経済入門	2	地域商業論	2	流通政策	2	サービスマネジメント	2		
	△保険論入門	2	サービスマーケティング	2	情報産業論	2	広告コミュニケーション	2		
	△商業史入門	2	情報社会論	2	市場分析論	2	金融論	2		
			金融政策論	2	証券と金融	2	金融システム論	2		
経営入門	2	証券市場論	2	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2			
経営学総論	2	交通経済論	2	海運と航空	2	交通政策	2			
簿記原理	4	保険論	2	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2			
会社簿記	4	サプライチェーンマネジメント	2	商業史概論	2	日本商業史	2			
原価計算論	4	近代日本商業史	2	西洋商業史	2	近代西洋商業史	2			
		会計学総論	2	財務会計論	2	経営分析論	2			
特別講義A	2	[商学特別講義A]	4	[商学特別講義B]	2	[商学特別講義C]	2			
特別講義B	2	特別講義C	2	特別講義D	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	国際法総論	4		
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	経済学史A	2		
	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	経済学史B	2		
	民法総則	2			労働法	4	経済統計論	4		
					税法ⅠA	2	財政学	4		
					税法ⅠB	2	国際経済学	4		
					会社法Ⅰ	2	産業組織論A	2		
					会社法Ⅱ	2	産業組織論B	2		
					企業取引法	2	経済学のための情報技術	2		
					企業取引決済法	2				
		他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目								
		他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) []内は今年度休講。

平成31年度入学生 (19台) 卒業要件単位

4 商学部 (商学科、経営学科、貿易学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4 単位以上	計20単位以上	
		社会科学…………… 4 単位以上		
		自然科学…………… 4 単位以上		
		総合系列科目 学修基盤科目		
外国語科目	第1外国語…………… 8 単位以上	計72単位以上		
	第2外国語…………… 4 単位以上			
保健体育科目…………… 4 単位				
単位互換科目				
(2)専門教育科目				
商 学 科	選択必修科目…………… 6 単位以上	計72単位以上		総計128単位以上
	選 択 科 目…………… 66単位以上			
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8 単位	計72単位以上		
	選択必修科目…………… 12単位以上			
	選 択 科 目…………… 52単位以上			
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6 単位以上	計72単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上			
(3)自由履修単位	共通教育科目			
	専門教育科目	計20単位以上		
	関連教育科目			

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 商学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2	
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2	
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2		
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
	政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2		
	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2		
	地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2		
文化人類学A	2	文化人類学B	2							
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2		
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
総合系列科目	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
	自然科学と人間	2								
学修基盤科目	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2		
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2						
	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2		
		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
育外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2					
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2						
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2						
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6		
					3年専門ゼミナールⅡ	2				
	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2		
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2		
	情報表現技術	2	情報処理入門	2	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2		
	情報倫理	2	情報処理基礎	2	[外書講読CⅡ]	2				
			海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2				
			[特別寄付講座A]	2	外書講読上級B	2				
			[特別寄付講座B]	2	[外書講読上級C]	2				
			[インターンシップ]	2	情報システム論	2				
	△流通・マーケティング入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2		
	△金融入門	2	マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	流通システム論	2		
	△交通経済入門	2	地域商業論	2	流通政策	2	流通政策	2		
	△保険論入門	2	サービスマーケティング	2	情報産業論	2	広告コミュニケーション	2		
	△商業史入門	2	情報社会論	2	市場分析論	2	金融論	2		
			金融政策論	2	銀行論	2	金融システム論	2		
	経営入門	2	証券市場論	2	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2		
	経営学総論	2	交通経済論	2	海運と航空	2	交通政策	2		
	簿記原理	4	保険論	2	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2		
	会社簿記	4	サプライチェーンマネジメント	2	商業史概論	2	日本商業史	2		
原価計算論	4	近代日本商業史	2	西洋商業史	2	近代西洋商業史	2			
特別講義A	2	会計学総論	2	財務会計論	2	経営分析論	2			
特別講義B	2	[商学特別講義A]	4	[商学特別講義B]	2	[商学特別講義C]	2			
		特別講義C	2	特別講義D	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	経済学史A	2		
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	経済学史B	2		
	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	経済統計論	4		
	民法総則	2			労働法	4	財政学	4		
					税法Ⅰ	4	国際経済学	4		
					会社法	4	産業組織論A	2		
					企業取引法	2	産業組織論B	2		
					企業取引決済法	2	経済学のための情報技術	2		
					国際法総論	4				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) []内は今年度休講。

平成30年度入学生（18台） 卒業要件単位

4 商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	}	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目 学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上	}		
	第2外国語…………… 4単位以上				
保健体育科目…………… 4単位					
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	}		総計128単位以上
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上	}		
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	}		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位	共通教育科目				
	専門教育科目		計20単位以上		
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（52単位）に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 商学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目	
共通科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
	社会科学	日本史A	2	日本史B	2	日本史通論A	2	日本史通論B	2
		東洋史A	2	東洋史B	2	西洋史A	2	西洋史B	2
		外国史通論A	2	外国史通論B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		中国文学A	2	中国文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2		
西洋教育史	2	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	法律学概論	2
自然科学	政治学A	2	政治学B	2	政治学概論A	2	政治学概論B	2	
	経済学A	2	経済学B	2	経済学概論A	2	経済学概論B	2	
総合系列科目	社会学A	2	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	
	教育原論	2	地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2	
学修基盤科目	心理学A	2	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2	
学修基盤科目	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
学修基盤科目	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2	国際化と日本	2	〔科学・技術・情報と社会〕	2	
	地球環境	2	〔生命・健康と医療〕	2	現代を生きる	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
学修基盤科目	〔文化と教育〕	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2			
	福大生のためのキャリアデザイン	2							
外国語科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
保健体育科目	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
	※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
単位互換科目	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
	※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
単位互換科目			海外英語研修	2					
	〔ドイツ語ⅠA〕	2	ドイツ語ⅡA	2					
単位互換科目	〔ドイツ語ⅠB〕	2	ドイツ語ⅡB	2					
	〔フランス語ⅠA〕	2	フランス語ⅡA	2					
単位互換科目	〔フランス語ⅠB〕	2	フランス語ⅡB	2					
	〔中国語ⅠA〕	2	中国語ⅡA	2					
単位互換科目	〔中国語ⅠB〕	2	中国語ⅡB	2					
	〔ロシア語ⅠA〕	2	ロシア語ⅡA	2					
単位互換科目	〔ロシア語ⅠB〕	2	ロシア語ⅡB	2					
	〔スペイン語ⅠA〕	2	スペイン語ⅡA	2					
単位互換科目	〔スペイン語ⅠB〕	2	スペイン語ⅡB	2					
	〔朝鮮語ⅠA〕	2	朝鮮語ⅡA	2					
単位互換科目	〔朝鮮語ⅠB〕	2	朝鮮語ⅡB	2					
	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
単位互換科目	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1							
単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
単位互換科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
					3年専門ゼミナールⅡ	2			
単位互換科目	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2	
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2	
単位互換科目	情報表現技術	2	情報処理入門	2	〔外書講読CⅠ〕	2	特別講義F	2	
	情報倫理	2	情報処理基礎	2	〔外書講読CⅡ〕	2			
単位互換科目	△流通・マーケティング入門	2	海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2			
	△金融入門	2	〔特別寄付講座A〕	2	外書講読上級B	2			
単位互換科目	△交通経済入門	2	〔特別寄付講座B〕	2	〔外書講読上級C〕	2			
	△保険論入門	2	〔インターンシップ〕	2	情報システム論	2			
単位互換科目	△商業史入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2	
			マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	流通システム論	2	
単位互換科目	経営入門	2	地域商業論	2	流通政策	2	サービスマネジメント	2	
	経営学総論	2	サービスマーケティング	2	情報産業論	2	広告コミュニケーション	2	
単位互換科目	簿記原理	4	情報社会論	2	市場分析論	2	金融論	2	
	会社簿記	4	金融政策論	2	銀行論	2	金融システム論	2	
単位互換科目	原価計算論	4	証券市場論	2	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2	
			交通経済論	2	海運と航空	2	交通政策	2	
単位互換科目	特別講義A	2	保険論	2	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2	
	特別講義B	2	サブライチェーンマネジメント	2	商業史概論	2	日本商業史	2	
単位互換科目			近代日本商業史	2	西洋商業史	2	近代西洋商業史	2	
			会計学総論	2	財務会計論	2	経営分析論	2	
単位互換科目			〔商学特別講義A〕	4	〔商学特別講義B〕	2	〔商学特別講義C〕	2	
			特別講義C	2	特別講義D	2			
単位互換科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	経済学史A	2	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	経済学史B	2	
単位互換科目	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	経済統計論	4	
	民法総則	2			労働法	4	財政学	4	
単位互換科目					税法Ⅰ	4	国際経済学	4	
					会社法	4	産業組織論A	2	
単位互換科目					企業取引法	2	産業組織論B	2	
					企業取引決済法	2	経済学のための情報技術	2	
単位互換科目					国際法総論	4			
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) [] 内は今年度休講。

平成29年度入学生 (17台) 卒業要件単位

4 商学部 (商学科、経営学科、貿易学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	}	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目 学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上	}		
	第2外国語…………… 4単位以上				
	保健体育科目…………… 4単位				
	単位互換科目				
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	}		総計128単位以上
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上	}		
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	}		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位	共通教育科目				
	専門教育科目		計20単位以上		
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。
また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 商学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
	社会科学	日本史A	2	日本史B	2	日本史通論A	2	日本史通論B	2
		東洋史A	2	東洋史B	2	西洋史A	2	西洋史B	2
		外国史通論A	2	外国史通論B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		中国文学A	2	中国文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
自然科学	人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	
	西洋教育史	2							
総合系科目	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	法学概論	2	
	政治学A	2	政治学B	2	政治学概論A	2	政治学概論B	2	
学修基盤科目	経済学A	2	経済学B	2	経済学概論A	2	経済学概論B	2	
	社会学A	2	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	
学修基盤科目	教育原論	2	地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2	
	心理学A	2	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	
学修基盤科目	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2	
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
学修基盤科目	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2					
学修基盤科目	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2	
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
外国語科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
保健体育科目	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
	※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
単位互換科目	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
	※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
単位互換科目			海外英語研修	2					
単位互換科目	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
	ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
単位互換科目	フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
	フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
単位互換科目	中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
	中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2					
単位互換科目	ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2					
	ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2					
単位互換科目	スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2					
	スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2					
単位互換科目	朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2					
	朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2					
単位互換科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1							
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
単位互換科目	商学基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	[3年専門ゼミナール]	4	論文ゼミナール	6	
			流通システム論	2					
単位互換科目			外書講読AⅠ	2					
			外書講読AⅡ	2					
単位互換科目	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	情報処理入門	2	外書講読BⅠ	2	[外書講読上級C]	2	
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	情報処理基礎	2	外書講読BⅡ	2	情報システム論	2	
単位互換科目	情報表現技術	2	海外交流ゼミナール	4	[外書講読CⅠ]	2	特別講義E	2	
	情報倫理	2	[特別寄付講座A]	2	[外書講読CⅡ]	2	特別講義F	2	
単位互換科目	△流通・マーケティング入門	2	[特別寄付講座B]	2	外書講読上級A	2	マルチメディア概論	2	
	△金融入門	2	[インターンシップ]	2	外書講読上級B	2			
単位互換科目	△交通経済入門	2	マーケティング論	2	マーケティング戦略論	2	マーケティングリサーチ	2	
	△保険論入門	2	マーケティングデータ解析	2	消費者行動論	2	地域商業論	2	
単位互換科目	△商業史入門	2	流通政策	2	サービスマネジメント	2	サービスマネジメント	2	
			情報産業論	2	広告コミュニケーション	2	情報社会論	2	
単位互換科目	経営入門	2	市場分析論	2	金融論	2	金融政策論	2	
	経営学総論	2	銀行論	2	金融システム論	2	証券市場論	2	
単位互換科目	簿記原理	4	証券と金融	2	国際金融論Ⅰ	2	交通経済論	2	
	会社簿記	4	海運と航空	2	交通政策	2	保険論	2	
単位互換科目	原価計算論	4	生活保障論	2	リスクマネジメント論	2	サプライチェーンマネジメント	2	
			商業史概論	2	日本商業史	2	近代日本商業史	2	
単位互換科目	特別講義A	2	西洋商業史	2	近代西洋商業史	2	会計学総論	2	
	特別講義B	2	財務会計論	2	経営分析論	2	[商学特別講義A]	4	
単位互換科目			[商学特別講義B]	2	[商学特別講義C]	2	特別講義C	2	
			特別講義D	2					
単位互換科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	経済学史A	2	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	経済学史B	2	
単位互換科目	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	経済統計論	4	
	民法総則	2			労働法	4	財政学	4	
単位互換科目					税法Ⅰ	4	国際経済学	4	
					会社法	4	産業組織論A	2	
単位互換科目					企業取引法	2	産業組織論B	2	
					企業取引決済法	2	経済学のための情報技術	2	
単位互換科目					国際法総論	4			
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) []内は今年度休講。

令和6年度入学生(24台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
	学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語 8単位以上 第2外国語 4単位以上			
	保健体育科目 4単位			
	単位互換科目			
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目		計20単位以上	

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 経営学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	社会科学	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2
		法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
自然科学	文化人類学A	2	文化人類学B	2					
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
	自然科学と人間	2							
総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2							
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン データサイエンス・AI入門	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
育外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
				海外英語研修	2				
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2				
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2				
中国語ⅠB		2	中国語ⅡB	2					
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2					
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2					
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2						
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2						
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2						
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2						
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1							
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	必修科目	経営入門	2						
		経営学総論	2						
	選択必修科目	簿記原理	4						
		経営戦略論	2	財務会計論	2				
		経営組織論	2						
		経営心理学	2						
		商学のための数学	2						
		※商学のための統計学	2						
	選択科目	会計学総論	2						
		会社簿記	4						
原価計算論		4							
経営基礎ゼミナールⅠ		2	○●☆2年基礎ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
経営基礎ゼミナールⅡ		2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅡ	2	○☆キャリア研修X	4	
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2	○☆キャリア研修Y	4	
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2	○☆キャリア研修Z	4	
特別ゼミナールA		2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
情報表現技術		2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
情報倫理		2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
			情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
			情報処理基礎	2	海外交流ゼミナール	4			
クリエイティブ社会論	2	企業論	2	社会的企業論	2	中小企業論	2		
経営特別講義A	2	経営管理論	2	生産管理論	2	経営労務論	2		
経営特別講義B	2	ヒューマンリソースマネジメント	2	企業戦略論	2	経営財務論	2		
		オペレーションズリサーチ	2	国際経営論	2	経営史	2		
キャリアデザイン	2	マーケティングリサーチ	2	プロジェクト・マネジメント論	2	マーケティング戦略論	2		
		マーケティングリサーチ	2	サービスマネジメント	2	サービスマーケティング	2		
特別講義A	2	地域経営論	2	情報産業論	2	情報社会論	2		
特別講義B	2	経営学特論	2						
		国際会計論	2	監査論	2	税と生活	2		
		税務会計論	2	会計情報システム論	2	経営分析論	2		
		管理会計論	2	意思決定会計論	2	会計学特論	2		
		経営特別講義C	2	経営特別講義D	2				
		特別講義C	2	特別講義D	2				
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	知的財産法	4	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	経済法	4	労働法	4	
	民法入門	2	経済政策	4	税法ⅠA	2	税法ⅠB	2	
	民法総則	2			会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2	
					企業取引法	2	企業取引決済法	2	
					国際法総論	4	経済統計論	4	
					財政学	4	国際経済学	4	
					産業組織論A	2	産業組織論B	2	
					経済学のための情報技術	2			
					他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目				
				他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目					

(注) (1) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生が履修することができる。
 (2) ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生が履修することができる。
 (3) ☆印の科目は、高校商業・情報科教員育成プログラムの学生が履修することができる。

令和5年度入学生(23台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
	学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語 8単位以上 第2外国語 4単位以上			
	保健体育科目 4単位			
	単位互換科目			
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目		計20単位以上	

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 経営学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通科目	総合	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	社会科学	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2
		法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
自然科学	文化人類学A	2	文化人類学B	2					
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2							
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
		データサイエンス・AI入門	2						
教育科目	第1年次	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
	第2年次	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2				
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2				
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2				
ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2						
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2						
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2						
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2						
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2						
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2						
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	必修科目	経営入門	2						
		経営学総論	2						
	選択必修科目	簿記原理	4						
		経営戦略論	2	財務会計論	2				
		経営組織論	2						
		経営心理学	2						
		商学のための数学	2						
		商学のための統計学	2						
		会計学総論	2						
		会社簿記	4						
原価計算論	4								
選択科目	経営基礎ゼミナールⅠ	2	○●☆2年基礎ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
	経営基礎ゼミナールⅡ	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅡ	2	○☆キャリア研修X	4	
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	○☆キャリア研修Y	4	
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2	○☆キャリア研修Z	4	
	特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
	情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
	情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
		2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
		2	情報処理基礎	2	海外交流ゼミナール	4	[インターンシップ]	2	
	クリエイティブ社会論	2	企業論	2	社会的企業論	2	中小企業論	2	
	経営特別講義A	2	経営管理論	2	[生産管理論]	2	経営労務論	2	
	経営特別講義B	2	ヒューマンリソースマネジメント	2	企業戦略論	2	経営財務論	2	
		2	オペレーションズリサーチ	2	国際経営論	2	経営史	2	
	特別講義A	2	クリエイティブ・マネジメント論	2	プロジェクト・マネジメント論	2	マーケティング戦略論	2	
	特別講義B	2	マーケティングリサーチ	2	サービスマネジメント	2	サービスマーケティング	2	
		2	地域経営論	2	情報産業論	2	情報社会論	2	
		2	[経営学特論]	2					
		2	国際会計論	2	監査論	2	税と生活	2	
	2	税務会計論	2	会計情報システム論	2	経営分析論	2		
	2	管理会計論	2	意思決定会計論	2	会計学特論	2		
	2	[経営特別講義C]	2	経営特別講義D	2				
	2	特別講義C	2	特別講義D	2				
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	知的財産法	4	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	経済法	4	労働法	4	
	民法入門	2	経済政策	4	税法ⅠA	2	税法ⅠB	2	
	民法総則	2			会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2	
					企業取引法	2	企業取引決済法	2	
					国際法総論	4	経済統計論	4	
				財政学	4	国際経済学	4		
				産業組織論A	2	産業組織論B	2		
				経済学のための情報技術	2				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生が履修することができる。
 (2) ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生が履修することができる。
 (3) ☆印の科目は、高校商業・情報科教員育成プログラムの学生が履修することができる。
 (4) []内は今年度休講。

令和4年度入学生(22台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
	学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語 8単位以上 第2外国語 4単位以上			
	保健体育科目 4単位			
	単位互換科目			
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目		計20単位以上	

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 経営学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位
共通科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
			日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
			アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	社会科学	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2	
		法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2	
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2	
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2	
自然科学	文化人類学A	2	文化人類学B	2						
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2		
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
	自然科学と人間	2								
総合系列科目	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2		
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2						
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2		
	データサイエンス・AI入門	2								
教育科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
専門教育科目	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
					海外英語研修	2				
	第2	[ドイツ語ⅠA]	2	ドイツ語ⅡA	2					
		[ドイツ語ⅠB]	2	ドイツ語ⅡB	2					
		[フランス語ⅠA]	2	フランス語ⅡA	2					
		[フランス語ⅠB]	2	フランス語ⅡB	2					
		[中国語ⅠA]	2	中国語ⅡA	2					
[中国語ⅠB]	2	中国語ⅡB	2							
[ロシア語ⅠA]	2	ロシア語ⅡA	2							
[ロシア語ⅠB]	2	ロシア語ⅡB	2							
[スペイン語ⅠA]	2	スペイン語ⅡA	2							
[スペイン語ⅠB]	2	スペイン語ⅡB	2							
[朝鮮語ⅠA]	2	朝鮮語ⅡA	2							
[朝鮮語ⅠB]	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	必修科目	経営入門	2							
		経営学総論	2							
	選択必修科目	簿記原理	4							
		経営戦略論	2	財務会計論	2					
		経営組織論	2							
		経営心理学	2							
		商学のための数学	2							
		商学のための統計学	2							
		会計学総論	2							
		会社簿記	4							
原価計算論	4									
選択科目	経営基礎ゼミナールⅠ	2	○●☆2年基礎ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6		
	経営基礎ゼミナールⅡ	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅡ	2	○☆キャリア研修X	4		
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	○☆キャリア研修Y	4		
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2	○☆キャリア研修Z	4		
	特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2		
	情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2		
	情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2		
			情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2		
	クリエイティブ社会論	2	情報処理基礎	2	海外交流ゼミナール	4	[インターンシップ]	2		
	経営特別講義A	2	企業論	2	社会的企業論	2	中小企業論	2		
経営特別講義B	2	経営管理論	2	[生産管理論]	2	経営労務論	2			
		ヒューマンリソースマネジメント	2	企業戦略論	2	経営財務論	2			
		オペレーションズリサーチ	2	国際経営論	2	経営史	2			
特別講義A	2	クリエイティブ・マネジメント論	2	プロジェクト・マネジメント論	2	マーケティング戦略論	2			
特別講義B	2	マーケティングリサーチ	2	サービスマネジメント	2	サービスマネジメント	2			
		地域経営論	2	情報産業論	2	情報社会論	2			
		[経営学特論]	2							
		国際会計論	2	監査論	2	税と生活	2			
		税務会計論	2	会計情報システム論	2	経営分析論	2			
		管理会計論	2	意思決定会計論	2	会計学特論	2			
		[経営特別講義C]	2	経営特別講義D	2					
		特別講義C	2	特別講義D	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	知的財産法	4		
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	経済法	4	労働法	4		
	民法入門	2	経済政策	4	税法ⅠA	2	税法ⅠB	2		
	民法総則	2			会社法Ⅰ	2	会社法Ⅱ	2		
					企業取引法	2	企業取引決済法	2		
					国際法総論	4	経済統計論	4		
				財政学	4	国際経済学	4			
				産業組織論A	2	産業組織論B	2			
				経済学のための情報技術	2					
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

(注) (1) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生が履修することができる。
 (2) ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生が履修することができる。
 (3) ☆印の科目は、高校商業・情報科教員育成プログラムの学生が履修することができる。
 (4) []内は今年度休講。

令和3年度入学生(21台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上			
	第2外国語…………… 4単位以上				
保健体育科目…………… 4単位					
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上			
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上			
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位					
(3)自由履修単位	共通教育科目	計20単位以上		} 総計128単位以上	
	専門教育科目				
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 経営学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2	
	社会	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
文化人類学A		2	文化人類学B	2					
自然	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
総合	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2	
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
学修	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
育外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2				
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2				
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2				
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2					
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2					
スペイン語ⅠA		2	スペイン語ⅡA	2					
スペイン語ⅠB		2	スペイン語ⅡB	2					
朝鮮語ⅠA		2	朝鮮語ⅡA	2					
朝鮮語ⅠB		2	朝鮮語ⅡB	2					
保健体育	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1							
単位	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	経営基礎ゼミナールⅠ	2	○●☆2年基礎ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
	経営基礎ゼミナールⅡ	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅡ	2	○☆キャリア研修X	4	
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2	○☆キャリア研修Y	4	
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2	○☆キャリア研修Z	4	
	情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
	情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
			情報処理入門	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
			情報処理基礎	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
			海外交流ゼミナール	4	[特別寄付講座A]	2	[特別寄付講座B]	2	
			[インターンシップ]	2					
	※経営入門	2	企業論	2	社会的企業論	2	中小企業論	2	
	※経営学総論	2	経営管理論	2	[生産管理論]	2	経営労務論	2	
	△経営戦略論	2	ヒューマンリソースマネジメント	2	企業戦略論	2	経営財務論	2	
	△経営組織論	2	オペレーションズリサーチ	2	国際経営論	2	経営史	2	
	△経営心理学	2	クリエイティブ・マネジメント論	2	プロジェクト・マネジメント論	2	マーケティング戦略論	2	
△商学のための数学	2	マーケティングリサーチ	2	サービスマネジメント	2	サービスマーケティング	2		
△商学のための統計学	2	地域経営論	2	情報産業論	2	情報社会論	2		
クリエイティブ社会論	2	[経営学特論]	2						
※簿記原理	4	△財務会計論	2	国際会計論	2	監査論	2		
△会計学総論	2	税と生活	2	税務会計論	2	会計情報システム論	2		
△会社簿記	4	経営分析論	2	管理会計論	2	意思決定会計論	2		
△原価計算論	4	会計学特論	2						
経営特別講義A	2	[経営特別講義C]	2	経営特別講義D	2	特別講義D	2		
経営特別講義B	2	特別講義C	2						
特別講義A	2								
特別講義B	2								
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	企業取引決済法	2	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	国際法総論	4	
	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	経済統計論	4	
	民法総則	2			労働法	4	財政学	4	
					税法ⅠA	2	国際経済学	4	
				税法ⅠB	2	産業組織論A	2		
				会社法Ⅰ	2	産業組織論B	2		
				会社法Ⅱ	2	経済学のための情報技術	2		
				企業取引法	2				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) 選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生が履修することができる。
 (4) ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生が履修することができる。
 (5) ☆印の科目は、高校商業・情報科教員育成プログラムの学生が履修することができる。
 (6) []内は今年度休講。

令和2年度入学生(20台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学……………	4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学……………	4単位以上			
		自然科学……………	4単位以上			
		総合系列科目				
外国語科目	}	第1外国語……………	8単位以上	計72単位以上		
		第2外国語……………	4単位以上			
		保健体育科目……………	4単位			
	単位互換科目					
(2)専門教育科目						
商 学 科	}	選択必修科目……………	6単位以上	計72単位以上		
		選 択 科 目……………	66単位以上			
経 営 学 科	}	必 修 科 目……………	8単位	計72単位以上		
		選択必修科目……………	12単位以上			
		選 択 科 目……………	52単位以上			
貿 易 学 科	}	選択必修科目……………	6単位以上	計72単位以上		
		選 択 科 目……………	66単位以上			
(3)自由履修単位		共通教育科目		計20単位以上		
		専門教育科目				
		関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 経営学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	社会科学	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2
		法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
自然科学	文化人類学A	2	文化人類学B	2					
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
	地球環境	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
総合系列科目	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
	自然科学と人間	2							
学修基盤科目	[生命・健康と医療]	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2	
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
	学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2
		第1年次		第2年次		第3年次		第4年次	
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
育外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
	第2	[ドイツ語ⅠA]	2	ドイツ語ⅡA	2				
		[ドイツ語ⅠB]	2	ドイツ語ⅡB	2				
		[フランス語ⅠA]	2	フランス語ⅡA	2				
		[フランス語ⅠB]	2	フランス語ⅡB	2				
		[中国語ⅠA]	2	中国語ⅡA	2				
		[中国語ⅠB]	2	中国語ⅡB	2				
[ロシア語ⅠA]		2	ロシア語ⅡA	2					
[ロシア語ⅠB]		2	ロシア語ⅡB	2					
[スペイン語ⅠA]		2	スペイン語ⅡA	2					
[スペイン語ⅠB]		2	スペイン語ⅡB	2					
[朝鮮語ⅠA]		2	朝鮮語ⅡA	2					
[朝鮮語ⅠB]		2	朝鮮語ⅡB	2					
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1							
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	[経営基礎ゼミナール]	2	○●☆2年基礎ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
	○[会計基礎ゼミナール]	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅡ	2	○☆キャリア研修X	4	
	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2	○☆キャリア研修Y	4	
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2	○☆キャリア研修Z	4	
	情報表現技術	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2	
	情報倫理	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2	
		2	情報処理入門	2	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2	
		2	情報処理基礎	2	[外書講読CⅡ]	2			
		4	海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2			
		2	[特別寄付講座A]	2	外書講読上級B	2			
		2	[特別寄付講座B]	2	[外書講読上級C]	2			
		2	[インターンシップ]	2	情報システム論	2			
	※経営入門	2	△[経営管理各論]	2	△[中小企業経営論]	2	[比較経営史]	2	
	※経営学総論	2	経営戦略論	2	企業戦略論	2	マーケティング戦略論	2	
	△経営管理論	2	経営組織論	2	企業行動論	2	経営労務論	2	
△中小企業論	2	ヒューマンリソースマネジメント	2	国際経営論	2	[国際企業論]	2		
△経営史概論	2	[工業経営論]	2	[工業経営各論]	2	経営財務論A	2		
クリエイティブ社会論	2	[経営財務論B]	2	オペレーションズリサーチ	2	[経営シミュレーション]	2		
	2	経営心理学	2	[経営心理学各論]	2	[経営診断論]	2		
	2	[応用経営診断論]	2	九州の経済・経営A	2	[九州の経済・経営B]	2		
	2	[アジアの経済・経営A]	2	[アジアの経済・経営B]	2	情報社会論	2		
	2	情報産業論	2						
※簿記原理	4	△財務会計論	2	国際会計論	2	会計学特論	2		
△会計学総論	2	税と生活	2	税務会計論	2	監査論	2		
△会社簿記	4	経営分析論	2	管理会計論	2	意思決定会計論	2		
△原価計算論	4	会計情報システム論	2						
特別講義A	2	特別講義C	2	特別講義D	2				
特別講義B	2	[経営特別講義A]	4	[経営特別講義B]	4				
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	企業取引決済法	2	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	国際法総論	4	
	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	経済統計論	4	
	民法総則	2			労働法	4	財政学	4	
					税法ⅠA	2	国際経済学	4	
					税法ⅠB	2	産業組織論A	2	
				会社法Ⅰ	2	産業組織論B	2		
				会社法Ⅱ	2	経済学のための情報技術	2		
				企業取引法	2				
		他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目							
		他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目							

(注) (1) 選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生が履修することができる。
 (4) ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生が履修することができる。
 (5) ☆印の科目は、高校商業・情報科教員育成プログラムの学生が履修することができる。
 (6) []内は今年度休講。

平成31年度入学生 (19台) 卒業要件単位

4 商学部 (商学科、経営学科、貿易学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上			
	第2外国語…………… 4単位以上				
保健体育科目…………… 4単位					
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上			
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上			
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位					
(3)自由履修単位	共通教育科目	計20単位以上		} 総計128単位以上	
	専門教育科目				
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 経営学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	社会科学	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	西洋教育史	2
		法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
		地理学A	2	地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2
自然科学	文化人類学A	2	文化人類学B	2					
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
	地球環境	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
総合系列科目	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
	自然科学と人間	2							
学修基盤科目	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2			
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
	学修基盤科目	2	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	
		2		2		2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
育外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
第2	第2	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
				海外英語研修	2				
		ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2				
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2				
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2				
		ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2				
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2						
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2						
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2						
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2						
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2						
保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2				
		※生涯スポーツ演習Ⅱ	1						
単位互換科目		他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目							
専門教育科目		[経営基礎ゼミナール]	2	○●2年基礎ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6
		○[会計基礎ゼミナール]	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅡ	2	○キャリア研修X	4
				●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	○キャリア研修Y	4
					●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2	○キャリア研修Z	4	
					●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2			
		商学のための数学・統計学Ⅰ	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2
		商学のための数学・統計学Ⅱ	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2
		情報表現技術	2	情報処理入門	2	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2
		情報倫理	2	情報処理基礎	2	[外書講読CⅡ]	2		
				海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2		
				[特別寄付講座A]	2	外書講読上級B	2		
				[特別寄付講座B]	2	[外書講読上級C]	2		
				[インターンシップ]	2	情報システム論	2		
		※経営入門	2	△[経営管理各論]	2	△[中小企業経営論]	2	[比較経営史]	2
		※経営学総論	2	経営戦略論	2	企業戦略論	2	マーケティング戦略論	2
	△経営管理論	2	経営組織論	2	企業行動論	2	経営労務論	2	
	△中小企業論	2	ヒューマンリソースマネジメント	2	国際経営論	2	[国際企業論]	2	
	△経営史概論	2	[工業経営論]	2	[工業経営各論]	2	経営財務論A	2	
	クリエイティブ社会論	2	[経営財務論B]	2	オペレーションズリサーチ	2	[経営シミュレーション]	2	
			経営心理学	2	[経営心理学各論]	2	[経営診断論]	2	
			[応用経営診断論]	2	九州の経済・経営A	2	[九州の経済・経営B]	2	
			[アジアの経済・経営A]	2	[アジアの経済・経営B]	2	情報社会論	2	
			情報産業論	2					
	※簿記原理	4	△財務会計論	2	国際会計論	2	会計学特論	2	
	△会計学総論	2	税と生活	2	税務会計論	2	監査論	2	
	△会社簿記	4	経営分析論	2	管理会計論	2	意思決定会計論	2	
	△原価計算論	4	会計情報システム論	2					
	特別講義A	2	特別講義C	2	特別講義D	2			
	特別講義B	2	[経営特別講義A]	4	[経営特別講義B]	4			
関連教育科目		憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	経済統計論	4
		憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	財政学	4
		民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	国際経済学	4
		民法総則	2			労働法	4	産業組織論A	2
						税法Ⅰ	4	産業組織論B	2
						会社法	4	経済学のための情報技術	2
					企業取引法	2			
					企業取引決済法	2			
					国際法総論	4			
			他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目						
			他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目						

(注) (1) 選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生のみが履修することができる。
 (4) ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生のみが履修することができる。
 (5) []内は今年度休講。

平成30年度入学生（18台） 卒業要件単位

4 商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	第2外国語…………… 4単位以上	計72単位以上		
					保健体育科目…………… 4単位
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上			
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上			
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位					
(3)自由履修単位	共通教育科目	計20単位以上		} 総計128単位以上	
	専門教育科目				
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（52単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 経営学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次									
		授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位	
共通教育科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2	
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2	
			日本史A	2	日本史B	2	日本史通論A	2	日本史通論B	2	
			東洋史A	2	東洋史B	2	西洋史A	2	西洋史B	2	
			外国史通論A	2	外国史通論B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
	中国文学A	2	中国文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2			
	人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2			
	西洋教育史	2									
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	法学概論	2		
		政治学A	2	政治学B	2	政治学概論A	2	政治学概論B	2		
経済学A		2	経済学B	2	経済学概論A	2	経済学概論B	2			
社会学A		2	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2			
教育原論		2	地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2			
心理学A	2	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2				
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2			
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2			
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2			
総合系列科目	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2			
学修基盤科目	[文化と教育]	2	現代を生きる	2							
	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ福岡大学でいかに学ぶか	2			
専攻科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1				
	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1							
	※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1							
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2						
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2						
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2						
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2						
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2						
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2						
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2							
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2							
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2								
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2								
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2								
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2								
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2							
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1									
単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										
専門教育科目	[経営基礎ゼミナール]	2	○●2年基礎ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6			
	○[会計基礎ゼミナール]	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅡ	2	○キャリア研修X	4			
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅰ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅲ	2	○キャリア研修Y	4			
			●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅱ	2	●クリエイティブ・マネジメント演習Ⅳ	2	○キャリア研修Z	4			
	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2			
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2			
	情報表現技術	2	情報処理入門	2	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2			
	情報倫理	2	情報処理基礎	2	[外書講読CⅡ]	2					
			海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2					
			[特別寄付講座A]	2	外書講読上級B	2					
			[特別寄付講座B]	2	[外書講読上級C]	2					
			[インターンシップ]	2	情報システム論	2					
	※経営入門	2	△[経営管理各論]	2	△[中小企業経営論]	2	[比較経営史]	2			
	※経営学総論	2	経営戦略論	2	企業戦略論	2	マーケティング戦略論	2			
	△経営管理論	2	経営組織論	2	企業行動論	2	経営労務論	2			
△中小企業論	2	ヒューマンリソースマネジメント	2	国際経営論	2	[国際企業論]	2				
△経営史概論	2	[工業経営論]	2	[工業経営各論]	2	経営財務論A	2				
クリエイティブ社会論	2	[経営財務論B]	2	オペレーションリサーチ	2	[経営シミュレーション]	2				
		経営心理学	2	[経営心理学各論]	2	[経営診断論]	2				
		[応用経営診断論]	2	九州の経済・経営A	2	[九州の経済・経営B]	2				
		[アジアの経済・経営A]	2	[アジアの経済・経営B]	2	情報社会論	2				
		情報産業論	2								
※簿記原理	4	△財務会計論	2	国際会計論	2	会計学特論	2				
△会計学総論	2	税と生活	2	税務会計論	2	監査論	2				
△会社簿記	4	経営分析論	2	管理会計論	2	意思決定会計論	2				
△原価計算論	4	会計情報システム論	2								
特別講義A	2	特別講義C	2	特別講義D	2						
特別講義B	2	[経営特別講義A]	4	[経営特別講義B]	4						
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	経済統計論	4			
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	財政学	4			
	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	国際経済学	4			
	民法総則	2			労働法	4	産業組織論A	2			
					税法Ⅰ	4	産業組織論B	2			
				会社法	4	経済学のための情報技術	2				
				企業取引法	2						
				企業取引決済法	2						
				国際法総論	4						
		他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) 選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（52単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生のみが履修することができる。
 (4) ●印の科目は、クリエイティブ・マネジメント・プログラムの学生のみが履修することができる。
 (5) [] 内は今年度休講。

平成29年度入学生 (17台) 卒業要件単位

4 商学部 (商学科、経営学科、貿易学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上			
	第2外国語…………… 4単位以上				
保健体育科目…………… 4単位					
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上			
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上			
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位					
(3)自由履修単位	共通教育科目	計20単位以上		} 総計128単位以上	
	専門教育科目				
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 経営学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次							
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		日本史A	2	日本史B	2	日本史通論A	2	日本史通論B	2
		東洋史A	2	東洋史B	2	西洋史A	2	西洋史B	2
		外国史通論A	2	外国史通論B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
	中国文学A	2	中国文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
	人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	
	西洋教育史	2							
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	法律学概論	2
		政治学A	2	政治学B	2	政治学概論A	2	政治学概論B	2
経済学A		2	経済学B	2	経済学概論A	2	経済学概論B	2	
社会学A		2	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	
教育原論		2	地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2	
心理学A	2	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2		
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2	
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2	
総合系列科目	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2	
学修基盤科目	[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ福岡大学でいかに学ぶか	2	
専攻科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
	※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
	第2	〔ドイツ語ⅠA〕	2	ドイツ語ⅡA	2				
		〔ドイツ語ⅠB〕	2	ドイツ語ⅡB	2				
		〔フランス語ⅠA〕	2	フランス語ⅡA	2				
		〔フランス語ⅠB〕	2	フランス語ⅡB	2				
		〔中国語ⅠA〕	2	中国語ⅡA	2				
〔中国語ⅠB〕		2	中国語ⅡB	2					
〔ロシア語ⅠA〕		2	ロシア語ⅡA	2					
〔ロシア語ⅠB〕		2	ロシア語ⅡB	2					
〔スペイン語ⅠA〕	2	スペイン語ⅡA	2						
〔スペイン語ⅠB〕	2	スペイン語ⅡB	2						
〔朝鮮語ⅠA〕	2	朝鮮語ⅡA	2						
〔朝鮮語ⅠB〕	2	朝鮮語ⅡB	2						
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	〔経営基礎ゼミナール〕	2	○2年基礎ゼミナール	2	〔3年専門ゼミナール〕	4	論文ゼミナール	6	
	○〔会計基礎ゼミナール〕	2	2年専門ゼミナール	2			○キャリア研修X	4	
			外書講読AⅠ	2			○キャリア研修Y	4	
			外書講読AⅡ	2			○キャリア研修Z	4	
	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	情報処理入門	2	外書講読BⅠ	2	〔外書講読上級C〕	2	
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	情報処理基礎	2	外書講読BⅡ	2	情報システム論	2	
	情報表現技術	2	海外交流ゼミナール	4	〔外書講読CⅠ〕	2	特別講義E	2	
	情報倫理	2	〔特別寄付講座A〕	2	〔外書講読CⅡ〕	2	特別講義F	2	
			〔特別寄付講座B〕	2	外書講読上級A	2	マルチメディア概論	2	
			〔インターンシップ〕	2	外書講読上級B	2			
	※経営入門	2	△〔経営管理各論〕	2	△〔中小企業経営論〕	2	〔比較経営史〕	2	
	※経営学総論	2	経営戦略論	2	企業戦略論	2	マーケティング戦略論	2	
	△経営管理論	2	経営組織論	2	企業行動論	2	経営労務論	2	
	△中小企業論	2	ヒューマンリソースマネジメント	2	国際経営論	2	〔国際企業論〕	2	
	△経営史概論	2	〔工業経営論〕	2	〔工業経営各論〕	2	経営財務論A	2	
		〔経営財務論B〕	2	オペレーションズリサーチ	2	〔経営シミュレーション〕	2		
		経営心理学	2	〔経営心理学各論〕	2	〔経営診断論〕	2		
※簿記原理	4	〔応用経営診断論〕	2	九州の経済・経営A	2	〔九州の経済・経営B〕	2		
△会計学総論	2	〔アジアの経済・経営A〕	2	〔アジアの経済・経営B〕	2				
△会社簿記	4	△財務会計論	2	国際会計論	2	会計学特論	2		
△原価計算論	4	税と生活	2	税務会計論	2	監査論	2		
		経営分析論	2	管理会計論	2	意思決定会計論	2		
		会計情報システム論	2						
		特別講義C	2	特別講義D	2				
		〔経営特別講義A〕	4	〔経営特別講義B〕	4				
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	マクロ経済学	4	行政法Ⅰ	4	経済統計論	4	
	憲法Ⅱ	2	ミクロ経済学	4	知的財産法	4	財政学	4	
	民法入門	2	経済政策	4	経済法	4	国際経済学	4	
	民法総則	2			労働法	4	産業組織論A	2	
					税法Ⅰ	4	産業組織論B	2	
					会社法	4	経済学のための情報技術	2	
				企業取引法	2				
				企業取引決済法	2				
				国際法総論	4				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) 選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) ○印の科目は、会計専門職プログラムの学生のみが履修することができる。
 (4) []内は今年度休講。

令和6年度入学生(24台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
	学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語 8単位以上 第2外国語 4単位以上			
	保健体育科目 4単位			
	単位互換科目			
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目		計20単位以上	

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 貿易学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通教育科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
		倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2	
	社会科学	日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2	
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
	自然科学	アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
		人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	
	総合系科目	社会学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
		社会学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2	
	学修基礎科目	社会学C	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2	
		社会学D	2	地理学A	2	地誌学	2	心理学A	2	
学修基礎科目	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	文化人類学C	2		
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2		
学修基礎科目	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
学修基礎科目	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2						
	福岡大学で考える現代社会	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2		
学修基礎科目	福大生のためのキャリアデザイン	2								
	データサイエンス・AI入門	2								
専門教育科目	選択必修科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
専門教育科目	選択必修科目	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
専門教育科目	選択必修科目	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
専門教育科目	選択必修科目	海外英語研修	2							
専門教育科目	選択必修科目	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
専門教育科目	選択必修科目	フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
専門教育科目	選択必修科目	中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2					
専門教育科目	選択必修科目	ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2					
		ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2					
専門教育科目	選択必修科目	スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2					
		スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2					
専門教育科目	選択必修科目	朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2					
		朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2					
専門教育科目	選択必修科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2					
		※生涯スポーツ演習Ⅱ	1							
専門教育科目	選択必修科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	選択必修科目	貿易入門A	2	貿易商務論A	2					
		貿易入門B	2	貿易商務論B	2					
専門教育科目	選択必修科目	簿記原理	4							
専門教育科目	選択必修科目	貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
		ステップアップゼミナール	2			3年専門ゼミナールⅡ	2			
専門教育科目	選択必修科目	特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
						外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
専門教育科目	選択必修科目	情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
		情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
専門教育科目	選択必修科目	商学のための数学	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
		商学のための統計学	2	情報処理基礎	2	ビジネス英会話上級Ⅰ	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2	
専門教育科目	選択必修科目	海外交流ゼミナール	2	海外交流ゼミナール	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2	
		流通・マーケティング入門	2	国際物流論A	2	国際物流論B	2	海上保険論A	2	
専門教育科目	選択必修科目	金融入門	2	海上保険論B	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2	
		経営入門	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2	国際貿易論Ⅰ	2	
専門教育科目	選択必修科目	経営学総論	2	国際貿易論Ⅱ	2	国際金融論Ⅰ	2	国際金融論Ⅱ	2	
		ビジネス英会話初級	4	貿易政策	2	国際政治経済学	2	世界経済論	2	
専門教育科目	選択必修科目	会社簿記	4	貿易史	2	国際協力論A	2	国際協力論B	2	
		原価計算論	4	開発経済論A	2	国際協力論B	2	日本経済論A	2	
専門教育科目	選択必修科目	キャリアデザイン	2	日本経済論B	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2	
						アメリカ経済論Ⅰ	2	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	
専門教育科目	選択必修科目	特別講義A	2	アメリカ経済論Ⅱ	2	海外直接投資論	2	グローバル企業論	2	
		特別講義B	2	ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	国際マーケティング論A	2	国際マーケティング論B	2	
専門教育科目	選択必修科目			市場分析論	2	財務会計論	2	国際会計論	2	
				会計学総論	2	貿易特別講義A	2	貿易特別講義B	2	
専門教育科目	選択必修科目			貿易特別講義A	2	貿易特別講義B	2	貿易特別講義C	2	
				貿易特別講義D	2	特別講義D	2			
専門教育科目	選択必修科目			特別講義C	2	概説外国史	2	概説法律学	2	
				概説日本史	2	概説社会学	2			
専門教育科目	選択必修科目			概説政治学	2					
専門教育科目	選択必修科目	憲法Ⅰ	2	英米法	2	知的財産法	4	経済法	4	
		憲法Ⅱ	2	国際関係論	4	国際私法	4	会社法Ⅰ	2	
専門教育科目	選択必修科目	民法入門	2	マクロ経済学	4	会社法Ⅱ	2	企業取引法	2	
		民法総則	2	ミクロ経済学	4	企業取引決済法	2	国際法総論	4	
専門教育科目	選択必修科目			経済政策	4	財政学	4	ストックの経済学	2	
				概説哲学	2	経済学のための情報技術	2			
専門教育科目	選択必修科目	他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目								
		他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								

令和5年度入学生(23台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
	学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語 8単位以上 第2外国語 4単位以上			
	保健体育科目 4単位			
	単位互換科目			
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目		計20単位以上	

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 貿易学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
			日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
			アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
	人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2		
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2	
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2	
		地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2	心理学A	2	
心理学B		2	文化人類学A	2	文化人類学B	2				
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2		
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2						
総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2								
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2		
	データサイエンス・AI入門	2								
教育科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2					
ロシア語ⅠA		2	ロシア語ⅡA	2						
ロシア語ⅠB		2	ロシア語ⅡB	2						
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	選択必修科目	貿易入門A	2	貿易商務論A	2					
		貿易入門B	2	貿易商務論B	2					
		簿記原理	4							
	選択科目	貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
		ステップアップゼミナール	2			3年専門ゼミナールⅡ	2			
		特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2	
				外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2	
		情報表現技術	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2	
		情報倫理	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2	
		商学のための数学	2	情報処理基礎	2	ビジネス英会話上級Ⅰ	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2	
商学のための統計学		2	海外交流ゼミナール	4	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2		
流通・マーケティング入門		2	[インターンシップ]	2						
金融入門		2	国際物流論A	2	国際物流論B	2	海上保険論A	2		
経営入門		2	海上保険論B	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2		
経営学総論		2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2	国際貿易論Ⅰ	2		
ビジネス英会話初級		4	国際貿易論Ⅱ	2	国際金融論Ⅰ	2	国際金融論Ⅱ	2		
会社簿記		4	貿易政策	2	国際政治経済学	2	世界経済論	2		
原価計算論		4	貿易史	2	国際協力論A	2	国際協力論B	2		
特別講義A		2	開発経済論A	2	国際協賛論A	2	日本経済論A	2		
特別講義B	2	日本経済論B	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2			
		アメリカ経済論Ⅰ	2	アメリカ経済論Ⅱ	2	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2			
		ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	海外直接投資論	2	グローバル企業論	2			
		市場分析論	2	国際マーケティング論A	2	国際マーケティング論B	2			
		会計学総論	2	財務会計論	2	国際会計論	2			
		貿易特別講義A	2	貿易特別講義B	2	貿易特別講義C	2			
		[貿易特別講義D]	2							
		特別講義C	2	特別講義D	2					
		概説日本史	2	概説外国史	2	概説法律学	2			
		概説政治学	2	概説社会学	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	英米法	2	知的財産法	4	経済法	4		
	憲法Ⅱ	2	国際関係論	4	国際私法	4	会社法Ⅰ	2		
	民法入門	2	マクロ経済学	4	会社法Ⅱ	2	企業取引法	2		
	民法総則	2	ミクロ経済学	4	企業取引決済法	2	国際法総論	4		
			経済政策	4	財政学	4	[ストックの経済学]	2		
			概説哲学	2	経済学のための情報技術	2				
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

(注) []内は今年度休講。

令和4年度入学生(22台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

共通教育科目	総合教養科目	人文科学 4単位以上	計20単位以上	総計128単位以上
		社会科学 4単位以上		
		自然科学 4単位以上		
		総合系列科目		
	学修基盤科目			
外国語科目	第1外国語 8単位以上 第2外国語 4単位以上			
	保健体育科目 4単位			
	単位互換科目			
専門教育科目	商学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
	経営学科	必修科目 8単位以上 選択必修科目 12単位以上 選択科目 52単位以上	計72単位以上	
	貿易学科	選択必修科目 6単位以上 選択科目 66単位以上	計72単位以上	
自由履修単位	共通教育科目 専門教育科目 関連教育科目		計20単位以上	

(注)

- 1 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 2 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 3 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
- 4 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 5 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 6 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
- 7 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
- 8 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
- 9 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 貿易学科

※印は必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
	教養	社会科学	日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
		人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	
		西洋教育史	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2	
	科目	自然科学	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
			社会学A	2	地理学B	2	地誌学	2	心理学A	2
心理学B		2	文化人類学A	2	文化人類学B	2				
数学入門		2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2		
総合系列科目	物理学の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
学修基盤科目	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2						
	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2		
		[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
		福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ福岡大学でいかに学ぶか	2	
		データサイエンス・AI入門	2							
専門教育科目	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
	第2	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
		海外英語研修	2							
		ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2							
ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2							
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2							
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
選択必修科目	選択必修科目	貿易入門A	2	貿易商務論A	2					
		貿易入門B	2	貿易商務論B	2					
	筆記原理	4								
	貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6		
	ステップアップゼミナール	2			3年専門ゼミナールⅡ	2				
	特別ゼミナールA	2	特別ゼミナールB	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2		
	情報表現技術	2	外書講読ⅠA	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2		
	情報倫理	2	外書講読ⅠB	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2		
	商学のための数学	2	情報処理入門	2	特別講義E	2	特別講義F	2		
	商学のための統計学	2	情報処理基礎	2	ビジネス英会話上級Ⅰ	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2		
流通・マーケティング入門	2	海外交流ゼミナール	4	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2			
金融入門	2	[インターンシップ]	2							
経営入門	2	国際物流論A	2	国際物流論B	2	海上保険論A	2			
経営学総論	2	海上保険論B	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2			
ビジネス英会話初級	4	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2	国際貿易論Ⅰ	2			
会社簿記	4	国際貿易論Ⅱ	2	国際金融論Ⅰ	2	国際金融論Ⅱ	2			
原価計算論	4	貿易政策	2	国際政治経済学	2	世界経済論	2			
		貿易史	2	国際協力論A	2	国際協力論B	2			
		開発経済論A	2	開発経済論B	2	日本経済論A	2			
		日本経済論B	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2			
		アメリカ経済論Ⅰ	2	アメリカ経済論Ⅱ	2	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2			
		ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	海外直接投資論	2	グローバル企業論	2			
		市場分析論	2	国際マーケティング論A	2	国際マーケティング論B	2			
		会計学総論	2	財務会計論	2	国際会計論	2			
		貿易特別講義A	2	貿易特別講義B	2	[貿易特別講義C]	2			
		[貿易特別講義D]	2							
		特別講義C	2	特別講義D	2					
		概説日本史	2	概説外国史	2	概説法律学	2			
		概説政治学	2	概説社会学	2					
関連教育科目	関連教育科目	憲法Ⅰ	2	英米法	2	知的財産法	4	経済法	4	
		憲法Ⅱ	2	国際関係論	4	国際私法	4	会社法Ⅰ	2	
		民法入門	2	マクロ経済学	4	会社法Ⅱ	2	企業取引法	2	
		民法総則	2	ミクロ経済学	4	企業取引決済法	2	国際法総論	4	
				経済政策	4	財政学	4	[経済循環論]	2	
		概説哲学	2	[ストックの経済学]	2	経済学のための情報技術	2			
		他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目								
		他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								

(注) []内は今年度休講。

令和3年度入学生(21台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上			
	第2外国語…………… 4単位以上				
保健体育科目…………… 4単位					
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上			
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上			
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位					
(3)自由履修単位	共通教育科目	計20単位以上		} 総計128単位以上	
	専門教育科目				
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 貿易学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位
共通教育科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
	社会科学	日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2	
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
		人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	
	自然科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2	
		社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2	
		地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2	心理学A	2	
総合系列科目	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2		
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
学修基盤科目	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2		
	地球環境 [文化と教育]	2	[生命・健康と医療] 現代を生きる	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ福岡大学でいかに学ぶか	2		
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
	第2	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
		海外英語研修	2							
		ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2							
ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2							
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2							
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目	貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6		
	ステップアップゼミナール	2		3年専門ゼミナールⅡ	2					
	商学のための数学	2	外書講読ⅠA	2	外書講読ⅡA	2	外書講読ⅡB	2		
	商学のための統計学	2	外書講読ⅠB	2	外書講読上級A	2	外書講読上級B	2		
	情報表現技術	2	情報処理入門	2	情報システム論	2	マルチメディア概論	2		
	情報倫理	2	情報処理基礎	2	特別講義E	2	特別講義F	2		
	△貿易入門A	2	海外交流ゼミナール	4	ビジネス英会話上級Ⅰ	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2		
	△貿易入門B	2	[特別寄付講座A]	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2		
	△簿記原理	4	[特別寄付講座B]	2	[インターンシップ]	2				
	流通・マーケティング入門	2	△貿易商務論A	2	△貿易商務論B	2	国際物流論A	2		
	金融入門	2	国際物流論B	2	海上保険論A	2	海上保険論B	2		
	経営入門	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2		
	経営学総論	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2	国際貿易論Ⅰ	2	国際貿易論Ⅱ	2		
	ビジネス英会話初級	4	国際金融論Ⅰ	2	国際金融論Ⅱ	2	貿易政策	2		
	会社簿記	4	国際政治経済学	2	世界経済論	2	貿易史	2		
	原価計算論	4	国際協力論A	2	国際協力論B	2	開発経済論A	2		
	特別講義A	2	開発経済論B	2	日本経済論A	2	日本経済論B	2		
	特別講義B	2	アジア経済論A	2	アジア経済論B	2	アメリカ経済論Ⅰ	2		
			アメリカ経済論Ⅱ	2	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	ヨーロッパ経済論Ⅱ	2		
			海外直接投資論	2	グローバル企業論	2	市場分析論	2		
		国際マーケティング論A	2	国際マーケティング論B	2	会計学総論	2			
		財務会計論	2	国際会計論	2	貿易特別講義A	2			
		貿易特別講義B	2	[貿易特別講義C]	2	[貿易特別講義D]	2			
		特別講義C	2	特別講義D	2					
		概説日本史	2	概説外国史	2	概説法律学	2			
		概説政治学	2	概説社会学	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	国際関係論	4	知的財産法	4	国際法総論	4		
	憲法Ⅱ	2	英米法	2	経済法	4	[経済循環論]	2		
	民法入門	2	マクロ経済学	4	国際私法	4	[ストックの経済学]	2		
	民法総則	2	ミクロ経済学	4	会社法Ⅰ	2	財政学	4		
			経済政策	4	会社法Ⅱ	2	経済学のための情報技術	2		
		概説哲学	2	企業取引法	2					
				企業取引決済法	2					
		他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目								
		他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) []内は今年度休講。

令和2年度入学生(20台) 卒業要件単位

4 商学部(商学科、経営学科、貿易学科)の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上				
		社会科学…………… 4単位以上						
		自然科学…………… 4単位以上						
		総合系列科目						
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上						
	第2外国語…………… 4単位以上							
保健体育科目…………… 4単位								
単位互換科目								
(2)専門教育科目								
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上					
	選 択 科 目…………… 66単位以上							
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上						
	選択必修科目…………… 12単位以上							
	選 択 科 目…………… 52単位以上							
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上						
	選 択 科 目…………… 66単位以上							
(3)自由履修単位	<table border="0"> <tr> <td>(共通教育科目)</td> <td rowspan="3">計20単位以上</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> </tr> <tr> <td>関連教育科目</td> </tr> </table>	(共通教育科目)		計20単位以上	専門教育科目	関連教育科目		
(共通教育科目)	計20単位以上							
専門教育科目								
関連教育科目								

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 貿易学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位
共通教育科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
	社会科学	日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2	
		西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
		アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
		人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	
		西洋教育史	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2	
		政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2	
	自然科学	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2	
		社会学A	2	地理学B	2	地誌学	2	心理学A	2	
心理学A		2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	数学入門	2		
心理学B		2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	基礎数学	2		
総合系列科目	物理学の世界	2	自然界と物質の化学	2	統計入門	2	物理科学入門	2		
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
学修基盤科目	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2		
		[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
		福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ福岡大学でいかに学ぶか	2	
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
	第2	※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
				海外英語研修	2					
		ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2							
ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2							
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2							
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専門教育科目		貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
		ステップアップゼミナール	2			3年専門ゼミナールⅡ	2			
		商学のための数学・統計学Ⅰ	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2	
		商学のための数学・統計学Ⅱ	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2	
		情報表現技術	2	情報処理入門	2	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2	
		情報倫理	2	情報処理基礎	2	[外書講読CⅡ]	2	ビジネス英会話上級Ⅰ	2	
		△貿易入門A	2	海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2	
		△貿易入門B	2	[特別寄付講座A]	2	外書講読上級B	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2	
		△簿記原理	4	[特別寄付講座B]	2	[外書講読上級C]	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2	
		流通・マーケティング入門	2	[インターンシップ]	2	情報システム論	2			
		金融入門	2	△貿易商務論A	2	開発経済論A	2	[貿易特別講義C]	2	
		経営入門	2	△貿易商務論B	2	開発経済論B	2	[貿易特別講義D]	2	
		経営学総論	2	国際貿易論Ⅰ	2	アジア経済論A	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2	
		ビジネス英会話初級	4	国際貿易論Ⅱ	2	アジア経済論B	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2	
		会社簿記	4	国際金融論Ⅰ	2	国際物流論A	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2	
		原価計算論	4	国際金融論Ⅱ	2	国際物流論B	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2	
		特別講義A	2	日本経済論A	2	貿易政策	2	特別講義C	2	
		特別講義B	2	日本経済論B	2	海上保険論A	2	特別講義D	2	
				ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	海上保険論B	2	概説日本史	2	
				ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	世界経済論	2	概説外国史	2	
			国際政治経済学	2	海外直接投資論	2	概説法理学	2		
			貿易史	2	グローバル企業論	2	概説政治学	2		
			国際協力論A	2	市場分析論	2	概説社会学	2		
			国際協力論B	2	会計学総論	2				
			国際マーケティング論A	2	財務会計論	2				
			国際マーケティング論B	2	国際会計論	2				
			アメリカ経済論Ⅰ	2	貿易特別講義A	2				
			アメリカ経済論Ⅱ	2	貿易特別講義B	2				
関連教育科目		憲法Ⅰ	2	知的財産法	4	国際法総論	4			
		憲法Ⅱ	2	経済法	4	[経済循環論]	2			
		民法入門	2	国際私法	4	[ストックの経済学]	2			
		民法総則	2	会社法Ⅰ	2	財政学	4			
				会社法Ⅱ	2	経済学のための情報技術	2			
				企業取引法	2					
			企業取引決済法	2						
	他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目									
	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) []内は今年度休講。

平成31年度入学生 (19台) 卒業要件単位

4 商学部 (商学科、経営学科、貿易学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上			
	第2外国語…………… 4単位以上				
保健体育科目…………… 4単位					
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上			
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上			
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位					
(3)自由履修単位	共通教育科目	計20単位以上		} 総計128単位以上	
	専門教育科目				
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 貿易学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目		単位	授業科目		単位	授業科目		単位
共通	教養	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
		社会科学	日本史A	2	日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2	日本文学B	2
			アジアの文学A	2	アジアの文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2
			人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2
		自然科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	政治学A	2
			政治学B	2	経済学A	2	経済学B	2	社会学A	2
			社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	教育の原理・課程論	2
			地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2	心理学A	2
総合系列科目	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2				
	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2		
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2		
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
学修基盤科目	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2						
	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2		
		[文化と教育]	2	現代を生きる	2					
		福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	
育	外国語科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
専	門	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1		
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1				
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1				
		第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2				
			ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2				
			フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2				
			フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2				
			中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2				
			中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2				
ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2							
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2							
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2							
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2							
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2							
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2							
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目									
専	門	貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6	
		ステップアップゼミナール	2			3年専門ゼミナールⅡ	2			
		商学のための数学・統計学Ⅰ	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2	
		商学のための数学・統計学Ⅱ	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2	
		情報表現技術	2	情報処理入門	2	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2	
		情報倫理	2	情報処理基礎	2	[外書講読CⅡ]	2	ビジネス英会話上級Ⅰ	2	
				海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2	
				[特別寄付講座A]	2	外書講読上級B	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2	
				[特別寄付講座B]	2	[外書講読上級C]	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2	
				[インターンシップ]	2	情報システム論	2			
		△貿易入門A	2	△貿易商務論A	2	開発経済論A	2	[貿易特別講義C]	2	
		△貿易入門B	2	△貿易商務論B	2	開発経済論B	2	[貿易特別講義D]	2	
		△簿記原理	4	国際貿易論Ⅰ	2	アジア経済論A	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2	
		流通・マーケティング入門	2	国際貿易論Ⅱ	2	アジア経済論B	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2	
		金融入門	2	国際金融論Ⅰ	2	国際物流論A	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2	
		経営入門	2	国際金融論Ⅱ	2	国際物流論B	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2	
		経営学総論	2	日本経済論A	2	貿易政策	2	特別講義C	2	
		ビジネス英会話初級	4	日本経済論B	2	海上保険論A	2	特別講義D	2	
		会社簿記	4	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	海上保険論B	2	概説日本史	2	
		原価計算論	4	ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	世界経済論	2	概説外国史	2	
特別講義A	2	国際政治経済学	2	海外直接投資論	2	概説法理学	2			
特別講義B	2	貿易史	2	グローバル企業論	2	概説政治学	2			
		国際協力論A	2	市場分析論	2	概説社会学	2			
		国際協力論B	2	会計学総論	2					
		国際マーケティング論A	2	財務会計論	2					
		国際マーケティング論B	2	国際会計論	2					
		アメリカ経済論Ⅰ	2	貿易特別講義A	2					
		アメリカ経済論Ⅱ	2	貿易特別講義B	2					
関	連	憲法Ⅰ	2	国際関係論	4	知的財産法	4	[経済循環論]	2	
		憲法Ⅱ	2	英米法	2	経済法	4	[ストックの経済学]	2	
		民法入門	2	マクロ経済学	4	国際私法	4	財政学	4	
		民法総則	2	ミクロ経済学	4	会社法	4	経済学のための情報技術	2	
				経済政策	4	企業取引法	2			
		概説哲学	2	企業取引決済法	2					
				国際法総論	4					
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) []内は今年度休講。

平成30年度入学生 (18台) 卒業要件単位

4 商学部 (商学科、経営学科、貿易学科) の学生は、次の単位を修得しなければならない。(学則第34条参照)

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	計72単位以上			
	第2外国語…………… 4単位以上				
保健体育科目…………… 4単位					
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	} 総計128単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上			
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上			
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位					
(3)自由履修単位	共通教育科目	計20単位以上		} 総計128単位以上	
	専門教育科目				
	関連教育科目				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(52単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 貿易学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次								
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
共通教育科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2
			日本史A	2	日本史B	2	日本史通論A	2	日本史通論B	2
			東洋史A	2	東洋史B	2	西洋史A	2	西洋史B	2
	社会科学	外国史通論A	2	外国史通論B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
		中国文学A	2	中国文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2	
		人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2	
		西洋教育史	2							
	自然科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	法理学概論	2	
		政治学A	2	政治学B	2	政治学概論A	2	政治学概論B	2	
		経済学A	2	経済学B	2	経済学概論A	2	経済学概論B	2	
		社会学A	2	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2	
	総合系列科目	教育原論	2	地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2	
		心理学A	2	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2	
		数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理科学入門	2	
		物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球科学入門	2	
学修基盤科目	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2		
	自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2						
	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2		
	[文化と教育]	2	現代を生きる	2						
学修基盤科目	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ福岡大学でいかに学ぶか	2		
育	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1			
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1					
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1					
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2					
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2					
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2					
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2					
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2					
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2					
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2						
	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
	単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
	単位互換科目	他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目								
専門教育科目	貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	3年専門ゼミナールⅠ	2	論文ゼミナール	6		
	ステップアップゼミナール	2			3年専門ゼミナールⅡ	2				
	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	外書講読AⅠ	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2		
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	外書講読AⅡ	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2		
	情報表現技術	2	情報処理入門	2	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2		
	情報倫理	2	情報処理基礎	2	[外書講読CⅡ]	2	ビジネス英会話上級Ⅰ	2		
			海外交流ゼミナール	4	外書講読上級A	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2		
			[特別寄付講座A]	2	外書講読上級B	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2		
			[特別寄付講座B]	2	[外書講読上級C]	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2		
			[インターンシップ]	2	情報システム論	2				
	△貿易入門A	2	△貿易商務論A	2	アメリカ経済論Ⅰ	2	財務会計論	2		
	△貿易入門B	2	△貿易商務論B	2	アメリカ経済論Ⅱ	2	国際会計論	2		
	△簿記原理	4	国際貿易論Ⅰ	2	開発経済論A	2	貿易特別講義A	2		
	流通・マーケティング入門	2	国際貿易論Ⅱ	2	開発経済論B	2	貿易特別講義B	2		
	金融入門	2	国際金融論Ⅰ	2	アジア経済論A	2	[貿易特別講義C]	2		
	経営入門	2	国際金融論Ⅱ	2	アジア経済論B	2	[貿易特別講義D]	2		
経営学総論	2	日本経済論A	2	国際物流論A	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2			
ビジネス英会話初級	4	日本経済論B	2	国際物流論B	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2			
会社簿記	4	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	貿易政策	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2			
原価計算論	4	ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	海上保険論A	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2			
		国際政治経済学	2	海上保険論B	2	特別講義C	2			
特別講義A	2	貿易史	2	世界経済論	2	特別講義D	2			
特別講義B	2	国際協力論A	2	海外直接投資論	2					
		国際協力論B	2	グローバル企業論	2					
		国際マーケティング論A	2	市場分析論	2					
		国際マーケティング論B	2	会計学総論	2					
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	国際関係論	4	知的財産法	4	[経済循環論]	2		
	憲法Ⅱ	2	英米法	2	経済法	4	[ストックの経済学]	2		
	民法入門	2	マクロ経済学	4	国際私法	4	財政学	4		
	民法総則	2	ミクロ経済学	4	会社法	4	経済学のための情報技術	2		
			経済政策	4	企業取引法	2				
					企業取引決済法	2				
				国際法総論	4					
他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) [] 内は今年度休講。

平成29年度入学生（17台） 卒業要件単位

4 商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

【商学部共通】

(1)共通教育科目	総合教養科目	人文科学…………… 4単位以上	計20単位以上	} 総計128単位以上	
		社会科学…………… 4単位以上			
		自然科学…………… 4単位以上			
		総合系列科目			
外国語科目	第1外国語…………… 8単位以上	第2外国語…………… 4単位以上	計72単位以上		
					保健体育科目…………… 4単位
単位互換科目					
(2)専門教育科目					
商 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	計72単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
経 営 学 科	必 修 科 目…………… 8単位	計72単位以上	計72単位以上		
	選択必修科目…………… 12単位以上				
	選 択 科 目…………… 52単位以上				
貿 易 学 科	選択必修科目…………… 6単位以上	計72単位以上	計72単位以上		
	選 択 科 目…………… 66単位以上				
(3)自由履修単位	(共通教育科目) 専門教育科目…………… 計20単位以上 (関連教育科目)				

- (注) 1. 商学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
2. 経営学科の学生は、選択必修科目を12単位以上修得した場合、12単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
3. 貿易学科の学生は、選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については選択科目に振り替えることができる。
4. 商学科の専門教育科目として開講されていない経営学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
5. 経営学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び貿易学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（52単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
6. 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数（66単位）に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
7. 同一外国語について、第2外国語4単位以上を修得しない場合は、総合教養科目、専門教育科目、関連教育科目のうちから4単位以上を修得しなければならない。
8. 第2外国語を2単位のみ修得した場合は、各外国語について自由履修単位に算入する。
9. 単位互換科目の修得単位は、自由履修単位に算入する。

商学部 貿易学科

※印は必修
△印は選択必修

		第1・2・3・4年次									
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
共通教育科目	総合	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2	論理学B	2	
			倫理学A	2	倫理学B	2	宗教学A	2	宗教学B	2	
			日本史A	2	日本史B	2	日本史通論A	2	日本史通論B	2	
			東洋史A	2	東洋史B	2	西洋史A	2	西洋史B	2	
			外国史通論A	2	外国史通論B	2	日本文学A	2	日本文学B	2	
	中国文学A	2	中国文学B	2	西洋文学A	2	西洋文学B	2			
	人文地理学	2	芸術A	2	芸術B	2	日本教育史	2			
	西洋教育史	2									
	社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2	法学概論	2		
		政治学A	2	政治学B	2	政治学概論A	2	政治学概論B	2		
経済学A		2	経済学B	2	経済学概論A	2	経済学概論B	2			
社会学A		2	社会学B	2	教育論A	2	教育論B	2			
教育原論		2	地理学A	2	地理学B	2	地誌学	2			
心理学A	2	心理学B	2	文化人類学A	2	文化人類学B	2				
自然科学	数学入門	2	基礎数学	2	統計入門	2	物理学入門	2			
	物理の世界	2	自然界と物質の化学	2	生活と環境の化学	2	地球圏科学入門	2			
	新しい地球観	2	ミクロの生物科学	2	マクロの生物科学	2	自然科学入門	2			
自然科学と人間	2	自然地理学(第3年次配当)	2								
総合系列科目	地球環境	2	[生命・健康と医療]	2	国際化と日本	2	[科学・技術・情報と社会]	2			
学修基盤科目	[文化と教育]	2	現代を生きる	2							
	福大生のためのキャリアデザイン	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2	アカデミックスキルズゼミⅡ	2	福岡大学を学ぶ福岡大学でいかに学ぶか	2			
育	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位			
外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1				
		※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅢ	1						
		※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターメディアイト・イングリッシュⅣ	1						
	第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2						
		ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2						
		フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2						
		フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2						
		中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2						
		中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2						
ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2								
ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2								
スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2								
スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2								
朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2								
朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2								
保健体育科目	※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ論	2							
単位互換科目	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										
専門教育科目	貿易基礎ゼミナール	2	2年専門ゼミナール	2	[3年専門ゼミナール]	4	論文ゼミナール	6			
	ステップアップゼミナール	2	外書講読AⅠ	2							
			外書講読AⅡ	2							
	商学のための数学・統計学Ⅰ	2	情報処理入門	2	外書講読BⅠ	2	マルチメディア概論	2			
	商学のための数学・統計学Ⅱ	2	情報処理基礎	2	外書講読BⅡ	2	特別講義E	2			
	情報表現技術	2	海外交渉ゼミナール	4	[外書講読CⅠ]	2	特別講義F	2			
	情報倫理	2	[特別寄付講座A]	2	[外書講読CⅡ]	2	ビジネス英会話上級Ⅰ	2			
			[特別寄付講座B]	2	外書講読上級A	2	ビジネス英会話上級Ⅱ	2			
			[インターナショナルシップ]	2	外書講読上級B	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅰ	2			
			△貿易商務論A	2	外書講読上級C	2	ビジネスコミュニケーション実務上級Ⅱ	2			
	△貿易入門A	2	△貿易商務論B	2	情報システム論	2					
	△貿易入門B	2	国際貿易論Ⅰ	2	国際経営論	2	市場分析論	2			
	△簿記原理	4	国際貿易論Ⅱ	2	[国際企業論]	2	会計学総論	2			
	流通・マーケティング入門	2	国際金融論Ⅰ	2	アメリカ経済論Ⅰ	2	財務会計論	2			
	金融入門	2	国際金融論Ⅱ	2	アメリカ経済論Ⅱ	2	国際会計論	2			
	経営入門	2	日本経済論A	2	開発経済論A	2	貿易特別講義A	2			
	経営学総論	2	日本経済論B	2	開発経済論B	2	貿易特別講義B	2			
	ビジネス英会話初級	4	ヨーロッパ経済論Ⅰ	2	アジア経済論A	2	[貿易特別講義C]	2			
	会社簿記	4	ヨーロッパ経済論Ⅱ	2	アジア経済論B	2	[貿易特別講義D]	2			
	原価計算論	4	[外国為替論]	2	国際物流論A	2	ビジネス英会話中級Ⅰ	2			
		国際政治経済学	2	国際物流論B	2	ビジネス英会話中級Ⅱ	2				
特別講義A	2	貿易史	2	[貿易政策Ⅰ]	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅰ	2				
特別講義B	2	国際協力論A	2	貿易政策Ⅱ	2	ビジネスコミュニケーション実務初級Ⅱ	2				
		国際協力論B	2	海上保険論A	2	特別講義C	2				
		国際マーケティング論A	2	海上保険論B	2	特別講義D	2				
		国際マーケティング論B	2	世界経済論	2						
				[ペイメントシステム論]	2						
関連教育科目	憲法Ⅰ	2	国際関係論	4	知的財産法	4	[経済循環論]	2			
	憲法Ⅱ	2	英米法	2	経済法	4	[ストックの経済学]	2			
	民法入門	2	マクロ経済学	4	国際私法	4	財政学	4			
	民法総則	2	ミクロ経済学	4	会社法	4	経済学のための情報技術	2			
			経済政策	4	企業取引法	2					
					企業取引決済法	2					
					国際法総論	4					
	他学部の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める授業科目										
	他大学(短期大学を含む。)の授業科目のうち商学部教授会が適当と認める科目										

(注) (1) 選択必修科目を6単位以上修得した場合、6単位を超えた単位については、選択科目に振り替えることができる。
 (2) 貿易学科の専門教育科目として開講されていない商学科及び経営学科の専門教育科目を修得した場合、16単位を限度として卒業に必要な専門教育科目の選択科目単位数(66単位)に含めることができる。また、16単位を超えた単位については自由履修単位に算入する。
 (3) []内は今年度休講。

令和6年度入学生(24台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
 - 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
 - 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次49単位、第4年次38単位、第5年次37単位、第6年次29単位を超えてはならない。
 - 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
 - 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語ⅠA及びドイツ語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語ⅠA及びフランス語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
- 2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科の学生は、多言語強化プログラムを履修することができる。
 - 3 多言語強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。多言語強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
- 2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
 - 3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 4 商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
- (2) 物理科学科の学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理科学研究の2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (3) 化学科の学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から6単位以上、自然科学から6単位以上、計12単位以上、必修の外国語科目8単位、保健体育科目2単位、合計34単位以上、専門教育科目については18単位、総計52単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、50単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の8単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、第3年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の1単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の1単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の1単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計20単位以上、専門教育科目について、1年次の必修科目1単位、1年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から9単位以上、臨床薬学から3単位以上を含め計15単位以上、合計36単位以上を修得していなければならない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目16単位以上、2年次の必修科目5単位、2年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から16単位以上、衛生薬学から2単位以上、医療薬学から4単位以上、臨床薬学から1単位以上を含め計27単位以上、合計48単位以上、総計74単位以

上を修得していなければならない。

- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目16単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から4単位以上、衛生薬学から4単位以上、医療薬学から10単位以上、臨床薬学から3単位以上を含め計25単位以上、合計80単位以上、総計108単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目16単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目32単位以上、4年次の必修科目13単位、4年次の選択必修科目のうち、衛生薬学から2単位以上、医療薬学から8単位以上、臨床薬学から2単位以上を含め計14単位以上、合計107単位以上、総計135単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目16単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目32単位以上、4年次科目27単位以上、5年次の必修科目32単位、計139単位以上、合計167単位以上を修得していなければならない。

2 薬学部のクリニカルファーマシスト養成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第9項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

令和5年度入学生 (23台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
 - 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
 - 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
 - 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
 - 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語ⅠA及びドイツ語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語ⅠA及びフランス語ⅠBの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
- 2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科の学生は、多言語強化プログラムを履修することができる。
 - 3 多言語強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。多言語強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
- 2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
 - 3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 4 商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理科学研究の2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目16単位及び選択必修実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目20単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

- 2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

- 3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。
(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。
(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から6単位以上、自然科学から7単位以上、計13単位以上、必修の外国語科目8単位、保健体育科目2単位、合計35単位以上、専門教育科目については18単位、総計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

- 2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の8単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。
(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。
(3) 第3年次前期終了時において、第3年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の1単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の1単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。
(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の1単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計

20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

令和4年度入学生(22台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
 - 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
 - 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
 - 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
 - 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A及びドイツ語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A及びフランス語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
- 2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
 - 3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
- 2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
 - 3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 4 商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目16単位及び選択必修実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目20単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から6単位以上、自然科学から7単位以上、計13単位以上、必修の外国語科目8単位、保健体育科目2単位、合計35単位以上、専門教育科目については18単位、総計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の8単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、第3年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の1単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の1単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目8単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の1単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計

20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

令和3年度入学生 (21台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
 - 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
 - (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
 - 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
 - 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
 - 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。
- 第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。
- 第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
- 2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
- 第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A及びドイツ語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A及びフランス語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
 - (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
- 2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
 - 3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
- 2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
 - 3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

- 2 商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 4 商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
 - (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
 - (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
- 2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。
- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
 - (2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
 - (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単

位及び共通教育科目の外国語科目 8 単位を含む100単位以上を修得していなければ、第 4 年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目） 8 単位及び共通教育科目の外国語科目 8 単位を含む100単位以上を修得していなければ、第 4 年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第 6 条の 6 工学部の学生は、2 年以上在学し、60 単位以上を修得していなければ、第 3 年次開講科目の登録をすることはできない。

- 2 工学部の学生は、3 年以上在学し、第 1・2 年次必修の第 1 外国語科目 6 単位、選択必修の第 2 外国語科目 4 単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第 4 年次開講科目の登録をすることはできない。

- 3 第 1 項の60単位・第 2 項の100単位に算入する総合教養科目、第 1 外国語科目、第 2 外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12 単位までとする。
(2) 第 1 項の60単位に算入するのは、第 1 外国語科目の必修科目 6 単位、第 2 外国語科目の選択必修科目 4 単位までとする。また、第 2 項の100単位に算入するのは、第 1 外国語科目の必修科目 8 単位、第 2 外国語科目の選択必修科目 4 単位までとする。
(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第 6 条の 7 医学部医学科の学生は、第 1 学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より 6 単位以上、自然科学より 15 単位以上、計 21 単位以上、外国語科目の第 1 外国語 8 単位、第 2 外国語 4 単位以上、計 12 単位以上、保健体育科目の 2 単位、専門教育科目については 18 単位、合計 53 単位以上を修得しなければ、第 2 学年に進級することができない。ただし、51 単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第 2 学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第 2 学年で修得しなければならない。

- 2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は 3 年次後期の実習科目を履修することができない。

- (1) 第 1 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より 10 単位以上、自然科学より 2 単位以上、必修の外国語科目 4 単位、必修の保健体育科目 2 単位、計 18 単位以上、専門基礎科目について必修科目の 17 単位、専門教育科目について必修科目の 8 単位、合計 43 単位以上を修得していなければ第 2 年次に進級することができない。

- (2) 第 2 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より 12 単位以上、自然科学より 4 単位以上、必修の外国語科目 8 単位、選択必修の外国語科目より 2 単位以上、必修の保健体育科目 2 単位、計 28 単位以上、専門基礎科目について必修科目の 26 単位、専門教育科目について必修科目の 34 単位、合計 88 単位以上を修得していなければ第 3 年次に進級することができない。

- (3) 第 3 年次前期終了時において、第 3 年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の 1 単位、専門教育科目について必修科目の 13 単位及び選択必修科目の 1 単位を修得していなければ、第 3 年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第 3 年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

- (4) 第 3 年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より 12 単位以上、自然科学より 4 単位以上、必修の外国語科目 8 単位、選択必修の外国語科目より 2 単位以上、必修の保健体育科目 2 単位、計 28 単位以上、専門基礎科目について必修科目の 27 単位、専門教育科目について必修科目の 60 単位及び選択必修科目の 1 単位、合計 116 単位以上を修得していなければ第 4 年次に進級することができない。

第 6 条の 8 薬学部の学生は、第 1 年次から第 5 年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

- (1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。
- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

令和2年度入学生(20台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

VI. 諸 規 程

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計

20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

- (2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。
- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成31年度入学生 (19台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含

め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。

- (3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。
- (4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。
- (5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成30年度入学生 (18台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 医学科の学生は原則として、第1学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。
 - (2) 看護学科の学生は原則として、第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A 及びドイツ語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A 及びフランス語 I B の計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

2 商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

(3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

(4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

(1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。

(2) 物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

(4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

(1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科

目 4 単位、2 年次の選択科目のうち、物理分野から 4 単位以上、化学分野から 4 単位以上、生物分野から 4 単位以上、衛生分野から 2 単位以上、薬理分野から 2 単位以上、薬剤分野から 2 単位以上を含め計 28 単位以上、合計 52 単位以上、総計 78 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 26 単位以上の修得をもって足りる。

- (3) 第 3 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次の必修科目 7 単位、3 年次の選択科目のうち、物理分野から 3 単位以上、化学分野から 1 単位以上、生物分野から 1 単位以上、衛生分野から 1 単位以上、薬理分野から 2 単位以上、薬剤分野から 4 単位以上、実務分野から 1 単位以上を含め計 19 単位以上、合計 78 単位以上、総計 106 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。
- (4) 第 4 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次科目 26 単位以上、4 年次の必修科目 12 単位、4 年次の選択科目のうち、化学分野から 1 単位以上、生物分野から 1 単位以上、薬理分野から 1 単位以上、薬剤分野から 1 単位以上、実務分野から 1 単位以上を含め計 9 単位以上、合計 99 単位以上、総計 127 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。
- (5) 第 5 年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から 12 単位以上、必修の外国語科目 8 単位を含め計 28 単位以上、専門教育科目について、1 年次科目 20 単位以上、2 年次科目 32 単位以上、3 年次科目 26 単位以上、4 年次科目 21 単位以上、5 年次の必修科目 32 単位、計 131 単位以上、合計 159 単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計 28 単位以上の修得をもって足りる。

第 7 条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第 8 条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第 9 条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

- (1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2 科目かつ 8 単位以内で登録の撤回をする場合
- (2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第 3 章 受 講

第 10 条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第 11 条 講義は、その開講期間によって、次の 5 種類とする。

- (1) 通年講義（1 年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第 12 条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が 10 人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第 13 条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第 14 条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員

は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

平成29年度入学生 (17台)

第2条の2 学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第3条 各授業科目の単位数は、次の基準による。(学則第32条参照)

- (1) 講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第4条 各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第5条 人文学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

2 法学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各40単位、第4年次48単位を超えてはならない。ただし、第2年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について4単位を限度として40単位を超えることができ、第3年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について8単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が2年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3 経済学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。

4 商学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各42単位、第4年次46単位を超えてはならない。
- (2) 商学部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次46単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5 商学部第二部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

- (1) 商学部第二部の学生(会計専門職プログラムの学生を除く。)は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を8単位を限度に履修することができる。
- (2) 商学部第二部の会計専門職プログラム(以下この号において「プログラム」という。)の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次、第4年次各48単位を超えてはならない。また、第3年次については、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第1年次にプログラムの学生でなくなった者が第2年次に履修する単位数は、第1年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第2年次にプログラムの学生でなくなった者が第3年次に履修する単位数は、第2年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

- 6 理学部の学生が1年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
- (1) 応用数学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各46単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第1号又は第6条の5第2項第1号に該当する者は、46単位まで履修することができる。
 - (2) 物理科学科及び化学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各48単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第2号・3号又は第6条の5第2項第2号・3号に該当する者は、48単位まで履修することができる。
 - (3) 地球圏科学科の学生は、原則として第1年次、第2年次、第3年次各49単位、第4年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第6条の5第1項第4号又は第6条の5第2項第4号に該当する者は、49単位まで履修することができる。
- 7 工学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。
- 8 医学部看護学科の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次、第2年次各48単位、第3年次37単位、第4年次30単位を超えてはならない。
- 9 薬学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として第1年次49単位、第2年次49単位、第3年次40単位、第4年次36単位、第5年次34単位、第6年次37単位を超えてはならない。
- 10 スポーツ科学部の学生が1年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。
- 11 外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第5条の2 医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第5条の3 薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第5条第9項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2 薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

第6条 人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

- (1) ドイツ語学科の学生は、2年以上在学し、ドイツ語 I A及びドイツ語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (2) フランス語学科の学生は、2年以上在学し、フランス語 I A及びフランス語 I Bの計4単位を修得していなければ、第3・4年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
- (3) ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、1年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。

2 人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。

3 語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の2 法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。

2 前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。

3 第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の3 経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

- 2 起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
- 3 地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の4 商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この条において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第6条の5 理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目11単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
- (2) 物理数学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
- (3) 化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第2年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
- (4) 地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。

2 理学部の学生は、3年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第4年次開講科目の登録をすることができない。

- (1) 応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第3年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第4年次開講の全科目の登録をすることができない。
- (2) 物理数学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各2単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (3) 化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第3年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目4単位並びに共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
- (4) 地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（A・B・C群のうちのいずれかの科目群の全科目）8単位及び共通教育科目の外国語科目8単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第6条の6 工学部の学生は、2年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることはできない。

2 工学部の学生は、3年以上在学し、第1・2年次必修の第1外国語科目6単位、選択必修の第2外国語科目4単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第4年次開講科目の登録をすることはできない。

3 第1項の60単位・第2項の100単位に算入する総合教養科目、第1外国語科目、第2外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

- (1) 総合教養科目は、12単位までとする。

(2) 第1項の60単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目6単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。また、第2項の100単位に算入するのは、第1外国語科目の必修科目8単位、第2外国語科目の選択必修科目4単位までとする。

(3) 工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第6条の7 医学部医学科の学生は、第1学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より6単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第1外国語8単位、第2外国語4単位以上、計12単位以上、保健体育科目の2単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第2学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第2学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第2学年で修得しなければならない。

2 医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は3年次後期の実習科目を履修することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より8単位以上、自然科学より2単位以上、必修の外国語科目4単位、必修の保健体育科目2単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目9単位、合計43単位以上を修得していなければ第2年次に進級することができない。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、必修の保健体育科目2単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第3年次に進級することができない。

(3) 第3年次前期終了時において、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、並びに第3年次前期に開講する必修の専門基礎科目1単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第3年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第3年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

(4) 第3年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より4単位以上、必修の外国語科目6単位、選択必修の外国語科目より2単位以上、必修の保健体育科目2単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第4年次に進級することができない。

第6条の8 薬学部の学生は、第1年次から第5年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

(1) 第1年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から2単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、1年次の選択科目のうち、物理分野から2単位以上、化学分野から6単位以上、生物分野から4単位以上、総合分野から1単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第2項第1号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

(2) 第2年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から6単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次の必修科目4単位、2年次の選択科目のうち、物理分野から4単位以上、化学分野から4単位以上、生物分野から4単位以上、衛生分野から2単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から2単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

(3) 第3年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、

3年次の必修科目7単位、3年次の選択科目のうち、物理分野から3単位以上、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、衛生分野から1単位以上、薬理分野から2単位以上、薬剤分野から4単位以上、実務分野から1単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(4) 第4年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次の必修科目12単位、4年次の選択科目のうち、化学分野から1単位以上、生物分野から1単位以上、薬理分野から1単位以上、薬剤分野から1単位以上、実務分野から1単位以上を含め計9単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

(5) 第5年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目8単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、1年次科目20単位以上、2年次科目32単位以上、3年次科目26単位以上、4年次科目21単位以上、5年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第7条 同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第8条 学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第9条 登録日以後の登録は、一切認めない。

2 登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

(1) 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、2科目かつ8単位以内で登録の撤回をする場合

(2) 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第3章 受 講

第10条 学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条 講義は、その開講期間によって、次の5種類とする。

- (1) 通年講義（1年間の継続講義）
- (2) 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
- (3) 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
- (4) 集中講義（休暇中の講義）
- (5) 臨時講義

第12条 選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条 各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条 演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の4年次生（5年次以上も含む）及び薬学部の6年次生（7年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

“既得単位数と学科履修規程第5条（理学部は第5条と第6条の5、工学部は第5条と第6条の6、薬学部は第5条と第6条の8）”により登録した単位数との和が学科履修規程第2条を満足している者を卒業見込者という。

福岡大学成績考査規程

第1条 福岡大学学則（以下「学則」という。）に定める試験の実施及び成績考査については、学則第35条から第39条までに定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

第2条 試験は、次の各号のいずれかの方法によるものとする。

- (1) 試験時に筆記により行うもの
- (2) 教務委員会が認めた方法により行うもの

第2条の2 各授業科目の成績の評価は、試験により行う。ただし、平素の学習状況を考慮することができる。

2 前項本文の規定にかかわらず、教授会等において、演習、演習及び論文、実習、実験、実技その他これに準ずるものと認められた授業科目又はその開講期間内に適正な成績評価を行うことが可能であると認められた授業科目の成績については、試験によらず、これを評価することができる。

3 開講期間が通年の授業科目の成績評価を行うときは、各学期の成績を考慮する。

4 授業科目を履修し、合格の成績評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。ただし、各学期の授業料等納入金又は各授業科目の受講料を納入していないときは、当該各学期又は当該各授業科目についての成績評価を行わない。

第3条 次の各号のいずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

- (1) 試験を受けようとする授業科目をその学年において登録していないとき。
- (2) 受験中に学生証を所持していないとき。
- (3) 試験開始後20分以上遅刻したとき。

2 前項の規定により、試験を受けなかった授業科目は無効とする。

第3条の2 医学部医学科の時間制の授業科目については、出席時間数が授業を行った時間数の3分の2に満たない場合、原則として試験を受けることができない。

2 医学部看護学科の専門基礎科目及び専門教育科目の講義・演習科目については、出席回数が実施授業回数の3分の2に満たない場合、原則として試験を受けることができない。その場合、当該授業科目の成績評語は放棄とし、追試験の対象としない。また、専門教育科目の実習科目については、出席回数が実施授業回数の4分の3に満たない場合、原則として成績評価を受けることができない。その場合も当該科目の成績評語は放棄とする。

第4条 成績評価は評点をもって行い、成績通知は評点又は秀(A)、優(B)、良(C)、可(D)、不可(F)、放棄(H)の成績評語をもって行う。ただし、教務委員会が認める授業科目（評点による成績評価を行わない授業科目に限る。）については、評点及び成績評語によらず、合否のみにより成績評価及び成績通知を行うことができる。

2 次の各号に掲げる成績評語は、当該各号に定める評点等を基準に区分する。

- (1) 秀(A) 100点から90点まで
- (2) 優(B) 89点から80点まで
- (3) 良(C) 79点から70点まで
- (4) 可(D) 69点から60点まで
- (5) 不可(F) 59点以下
- (6) 放棄(H) 試験放棄又は成績評価不能

3 第1項本文の規定により成績評価を行う授業科目は、前項の成績標語が秀(A)、優(B)、良(C)及び可(D)であるものを合格とし、不可(F)であるものを不合格とする。

4 履修した授業科目のうち、第1項本文の規定により成績評価を行うものについては、評点等に応じ、次に掲げる GP 評点を与える。

- (1) 100点から90点まで=4.0
- (2) 89点から80点まで=3.0
- (3) 79点から70点まで=2.0

(4) 69点から60点まで=1.0

(5) 59点以下及び試験放棄又は成績評価不能=0.0

5 履修した評点により成績評価を行う各授業科目のGP評点に当該各授業科目の単位数を乗じて算出した値の総和を履修登録した授業科目の総単位数で除した値を、GPA評価とする。ただし、福岡大学(以下「本学」という。)における授業科目の履修により修得したものとみなして単位を認定した授業科目及び合否のみにより成績評価を行う授業科目については、GPA評価の対象としない。

第5条 受験中に不正行為を行った者に対しては、当該期間(前期又は後期)に完結する全授業科目及び通年で実施する全授業科目を放棄とみなす。

2 前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第5条の2 受験中に答案を持ち出した者に対しては、その受験科目を放棄とみなす。

2 前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第6条 病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受験することができなかった者に対しては、本人の願出により追試験を行うことがある。

2 追試験の願出は、所定の書式により、病気の場合には医師の診断書を、病気以外のやむを得ない理由の場合には証明書を添え、定期試験終了後5日以内に学生課に提出しなければならない。

第7条 追試験は、定期試験終了後本学が定める日に1回だけ行う。

第8条 追試験を受験した者の評価は、80点を限度とする。ただし、情状によりこの制限を免除し、又は緩和することがある。

第9条 合格点の成績評価を得た授業科目は、再履修することができない。

第10条 授業科目の再履修により合格点を得た場合は、その合格点をもって以前の不合格点に代える。

第11条 追試験の受験料は1科目につき2,000円とする。ただし、情状によりこれを減額又は免除することがある。

2 いったん納めた受験料は、これを返還しない。

第12条 次の者に対しては、本人の願出により当該年度に受験した定期試験の授業科目について、学年末に再試験を行うことがある。

(1) 第4年次以上(薬学部は第6年次以上)の卒業見込者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が卒業に必要な単位数に達し、かつ、その必要単位数のうち8単位以内の不合格点を得た者(後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。)

(2) 教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程及び日本語教員課程資格取得を目的とする場合、第4年次以上の卒業見込者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が各課程の資格取得に必要な単位数に達し、かつ、その必要単位数のうち各課程につき4単位以内の不合格点を得た者。(当該学科の卒業に必要な単位数に算入しない科目に限る。)ただし、後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。

(3) 理学部の第2年次生にして、不合格の成績評価を得た者(後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。)

(4) 医学部医学科の学生にして、不合格の成績評価を得た者。ただし、単位制の授業科目については、15単位以内とする。第3学年及び第4学年の専門教育科目については、その学年の授業科目数の60パーセント以内とする。(追試験の結果、不合格点を得た授業科目を含む。)

(5) 医学部看護学科の第1年次生から第3年次生については、次のとおりとする。

ア 第1年次生及び第2年次生にして、不合格の成績評価を得た者で、再試験により、進級の見込みのある者。ただし、各年次8単位以内とする。(各年次の後期の追試験の結果、不合格点を得た授業科目を除く。)

イ 第3年次生にして、前期に開講する専門基礎科目及び専門教育科目について不合格の成績評価を得た者で、再試験により、第3年次後期に開講する看護学実習科目の履修見込みのある者。ただし、8単位以内(前期の追試験の結果、不合格点を得た授業科目を除く。)とし、本項柱書きの規定にかかわらず再試験は前期末に実施する。

(6) 薬学部の第1年次生から第5年次生にして不合格の成績評価を得た者で、再試験により、進級の見

VI. 諸 規 程

込みのある者（後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。）

- 第13条 再試験の願出は、前条第1号については、卒業に必要な最小限度の単位数（8単位以内）、同条第2号については、各課程の資格取得に必要な最小限度の単位数（4単位以内）とし、成績発表後所定の期日までに、願書を各学部等の教務担当事務課（室）に提出しなければならない。
- 2 理学部学生の再試験の願出は、前条第3号については、8単位以内とし、成績発表後所定の期日までに願書を教務三課に提出しなければならない。
- 3 医学部医学科学生の再試験の願出は、成績発表後所定の期日までに、願書を医学部事務課に提出しなければならない。
- 4 医学部看護学科学生の再試験の願出は、前条第5号アについては、成績発表後所定の期日までに、同号イについては、別途定める日までに願書を看護学科事務室に提出しなければならない。
- 5 薬学部学生の再試験の願出は、前条第1号については、卒業に必要な最小限度の単位数（8単位以内）、同条第6号については、進級に必要な最小限度の単位数（8単位以内かつ4科目以内）とし、成績発表後所定の期日までに願書を教務三課に提出しなければならない。ただし、同号の第3年次生については、共通教育科目の再試験は行わない。また、専門教育科目については、再試験の結果、上位年次に進級できない者は、その再試験を無効とする。

第14条 再試験の得点は、60点を限度とする。

第15条 再試験の受験料は1単位につき1,000円とする。ただし、医学部医学科の時間制の専門教育科目は、1科目につき4,000円とする。

- 2 いったん納めた受験料は、これを返還しない。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

福岡大学における既修得単位等の取扱いに関する規程

第1条 福岡大学学則（以下「学則」という。）第34条の3第1項又は第34条の4第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により修得したものとみなすことのできる単位及び学則第34条の3の2第1項又は第34条の4第2項（学則第34条の3の2第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により認定することのできる単位の取扱いについては、学則第34条の3から第34条の4の2までに定めるほか、この規程による。

2 この規程は、学則第33条第2項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、これを準用する。

第2条 学則第34条の3の2の規定により、本学において単位を認定することのできる学修は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 大学の専攻科における学修

(2) 高等専門学校課程における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(3) 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(4) 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第6条別表第三備考第4号の規定により文部科学大臣の認定を受けて大学、短期大学等が行う講習又は公開講座における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(5) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第9条の5の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学、短期大学その他の教育機関が行う社会教育主事の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(6) 図書館法（昭和25年法律第118号）第6条の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書及び司書補の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(7) 学校図書館法（昭和28年法律第185号）第5条第3項の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書教諭の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(8) 青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則（平成12年文部省令第25号）又は技能審査の認定に関する規則（昭和42年文部省告示第237号）による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

(9) アメリカ合衆国の営利を目的としない法人であるエデュケーション・テスト・サービスが英語の能力を判定するために実施するトフル及びトイック又は次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査であってこれらと同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認められたもの

ア 審査を行うものが国又は民法（明治29年法律第89号）第34条の規定による法人その他の団体であること。

イ 審査の内容が、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に規定する大学の目的に照らし適切なものであること。

ウ 審査が全国的な規模において、毎年1回以上行われるものであること。

エ 審査の実施方法が、適切かつ公正であること。

2 前項に基づいて当該学修をもって単位を認定する授業科目が共通教育科目である場合については、教授会に先立って、教務委員会の議を経るものとする。

第3条 学則第34条の3第1項又は第34条の3の2第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の3の2第4項により準用される場合を含む。）の規定に基づく単位の取扱いを受けようとする者は、各年度にお

いて1月20日までに単位修得申請書（所定書式）に学業成績証明書（高等専門学校、専修学校専門課程等にあつては授業科目等の内容を明記したものを添付すること。）等を添えて、教務部長に提出すべきものとする。ただし、本学との協定等により学生が他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなす場合及び本学との協定等により学生が外国の大学又は短期大学において行った学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する場合については、この限りではない。

2 学則第34条の4第1項又は第2項（学則第34条の4第6項により準用される場合を含む。）の規定に基づく単位の取扱いを受けようとする者は、入学した年度の4月20日までに単位修得申請書（所定書式）に学業成績証明書（高等専門学校、専修学校専門課程等にあつては授業科目等の内容を明記したものを添付すること。）等を添えて、教務部長に提出すべきものとする。

第4条 教務部長は、学則第34条の3第3項、第34条の3の2第3項及び第34条の4第5項に定める場合（学則第34条の3第4項、第34条の3の2第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）には教務委員会の議を経たうえで、前条に基づく申請書を申請者である学生が所属する学部の教授会に回付するものとする。

第5条 学則第34条の3第1項又は第34条の4第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなす場合及び学則第34条の3の2第1項又は第34条の4第2項（学則第34条の3の2第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を認定する場合に、教授会は、本学におけるいずれの授業科目について単位を取得したものとみなし、又は認定するのかを特定しなければならない。ただし、他の大学又は短期大学（以下この条において「他大学等」という。）との協定に基づき、学生が他大学等で開講された授業科目（本学及び他大学等において共同で開講する授業科目を含む。）の修得単位の取扱いについては、この限りでない。

2 前項に基づいて本学におけるいずれの授業科目について単位を修得したものとみなし、又は認定するのかを特定するにあつては、学生が他の大学若しくは短期大学において修得した授業科目の授業時間数又は学生が行った短期大学若しくは高等専門学校の専攻科における学修又はその他別に定める学修（学則第34条の3の2第4項により準用される場合にあつては、本学との協定等により学生が外国の大学又は短期大学において行った学修）の時間数を考慮すべきものとする。

第6条 学科履修規程第5条によって定められた当該年度において履修できる単位数を超えて、学則第34条の3第1項及び第34条の3の2第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の3の2第4項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなし、又は単位を認定することはできないものとする。

第7条 学則第34条の4第2項（学則第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位の認定を受けようとする者は、その対象となる学修が学則第34条の4第1項（学則第34条の4第6項により準用される場合を含む。）に規定する本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位として認定されていないことの証明書等を提出しなければならない。

第8条 編入学及び転入学の場合に、学則第34条の4第1項及び第2項（学則第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなし、又は認定することのできる単位数については、教務委員会の申合せによって定めるものとする。

第9条 学則第34条の3第1項又は第34条の4第1項（学則第34条の3第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなされた本学における授業科目及び学則第34条の3の2第1項又は第34条の4第2項（学則第34条の3の2第4項又は第34条の4第6項により準用される場合を含む。）により単位を認定された本学における授業科目は、特待生の選考にあつて考慮しない。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程

(趣 旨)

第1条 福岡大学学則（以下「学則」という。）第34条の3に基づき、本学が他の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）との協定により、本学及び他大学等で開講し、履修ができると認められた授業科目（本学及び他大学等において共同で開講する授業科目を含む。以下「単位互換科目等」という。）を履修し、修得した単位を学生が所属する本学の学部及び他大学等において認定する単位互換の取扱い、並びに学則第53条に定める特別聴講学生の取扱いその他必要な事項について、別に定めある場合を除き、この規程による。

(定 義)

第2条 この規程における用語の定義は、次の各号に定める。

- (1) 単位互換科目履修生とは、本学に在籍する2年次以上の学部学生で、単位互換科目等の履修を志願し、他大学等においてその履修が許可された者をいう。
- (2) 特別聴講学生とは、他大学等に在籍する学生で、本学における単位互換科目等の履修を志願し、本学がその履修を許可した者をいう。

(他大学等における単位互換科目等の決定)

第3条 単位互換科目履修生が受講できる単位互換科目等は、教務委員会が適当と認める授業科目とする。

- 2 前項の授業科目が単位互換科目履修生が所属する学部において共通教育科目以外の科目である場合は、当該学部教授会で審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定するものとする。
- 3 第1項の授業科目が単位互換科目履修生が所属する学部において共通教育科目である場合は、当該学部教授会のほか、教務委員会においても審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定するものとする。

(履修登録単位数)

第4条 単位互換科目履修生の履修登録単位数については、各年度8単位以内、合計20単位（共通教育科目8単位、共通教育科目以外の科目12単位）以内を限度とし、別に定める。

- 2 前項の履修登録単位数は、1年間に履修する単位数に含めるものとする。

(手 続)

第5条 単位互換科目履修生として単位互換科目等の履修を志願する学生は、所定の期日までに科目履修願を教務部長に提出しなければならない。

(許 可)

第6条 教務部長は、前条の学生を他大学等に通知し、履修の許可を得なければならない。

- 2 学長は、他大学等から履修を許可された学生を単位互換科目履修生として許可する。

(履修の時期及び期間)

第7条 単位互換科目履修生として履修する時期及び期間は、協定で定めた時期及び期間とする。

(授 業 料)

第8条 単位互換科目履修生は協定に基づき、他大学等における授業料を免除する。

(単位の認定)

第9条 単位互換科目履修生が履修した単位互換科目等の単位については、教務委員会の議を経て、当該学部教授会で認定する。

- 2 前項の認定は、前期集中講義科目及び前期完結科目については後期に、後期集中講義科目、後期完結科目及び通年科目については翌年度の前期に行う。ただし、卒業する学期において履修した科目の単位は認定しない。
- 3 単位互換科目履修生が履修できる単位互換科目等の認定を実施する学部、学科その他必要な事項については、別に定める。

(単位互換科目履修生の責務)

第10条 単位互換科目履修生は、この規程のほか、履修が許可された他大学等の諸規則を遵守しなければならない。

ならない。

(履修許可の取消)

第11条 学長は、単位互換科目履修生が次の各号のいずれかに該当するときは、他大学等と協議した上で、教授会の議を経てその許可を取り消すことができる。

(1) 成績不振等で成業の見込みがないと認められるとき。

(2) 単位互換科目履修生としてふさわしくない行為があると認められるとき。

(受入の時期)

第12条 特別聴講学生として受入れる時期及び期間は、協定で定めた学期又は学年の始めとする。

(本学における単位互換科目等の決定)

第13条 特別聴講学生が受講できる単位互換科目等は、これを開講する学部の教授会で審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定した科目とする。ただし、本学における共通教育科目を単位互換科目等とする場合は、教務委員会において審議し、決定する。

2 前項の単位互換科目等は、原則として講義科目に限るものとする。ただし、特別な事情がある場合は、この限りでない。

(受入の手続)

第14条 特別聴講学生として単位互換科目等の履修を志願する学生は、所定の期日までに在籍する他大学等を通じて所定の事項を記載した書類を教務部長に提出しなければならない。

(受講の許可)

第15条 前条の学生については、受講を希望する単位互換科目等の担当者及び開講する学部の教授会が了承し、本学の教育に支障のない範囲において、学長が特別聴講学生として許可し、学生が在籍する他大学等へ通知する。

(成績評価)

第16条 特別聴講学生の成績評価は、福岡大学の成績考査規程の定めるところにより行う。

(選考料等)

第17条 特別聴講学生は協定に基づき、本学における選考料及び授業料を免除する。ただし、本学の定めるところにより、教材費その他必要な費用は徴収することができる。

(特別聴講学生証)

第18条 特別聴講学生には、特別聴講学生証を交付する。

2 特別聴講学生が登校するときは、特別聴講学生証を常に携帯しなければならない。

(取 消)

第19条 特別聴講学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、履修の許可を取り消す。

(1) 他大学等に在籍しなくなったとき。

(2) 本学の学則等に違反したとき。

(規程の準用)

第20条 この規程に定めるもののほか、特別聴講学生の取扱いについて必要な場合は、学則その他学内規程を準用する。

(そ の 他)

第21条 この規程に定めのない事項については、本学と他大学等との協定に基づき協議する。

附 則

この規程は、令和3年12月1日から施行する。

福岡大学転部・転科に関する規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、福岡大学学則第23条の2第3項の規定に基づき、転部・転科に関して必要な事項を定める。

(転部・転科年次及び在学期間)

第2条 転部・転科は、原則として当該学部の第2年次又は第3年次として許可し、その時期は学年の始めとする。

2 転部・転科をした学生の在学期間は、本学入学後、原則として通算8年を超えることはできない。ただし、医学部医学科及び薬学部については、原則として通算12年を超えることはできない。

(選 考)

第3条 転部・転科は、選考の上、決定する。

2 選考の方法は、別に定める。

(志願手続)

第4条 転部・転科を志願する者は、所定の期日までに必要な書類を学長に提出しなければならない。

(合否判定及び単位認定)

第5条 選考試験の合否の判定及び既に修得した授業科目の単位の認定は、教授会の議を経て、学長がこれを行う。

(許 可)

第6条 選考試験に合格した者は、別に定める納付金を予定の期日までに納付しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に転部・転科を許可する。

3 転部・転科を許可された者の授業料等納入金は、別に定める。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

福岡大学授業料その他諸納入金規程

第1条 福岡大学（以下「本学」という。）の学生から徴収する授業料等納入金及び受講料並びに本学の科目等履修生及び研究生から徴収する受講料等については、特に定めがある場合を除き、この規程による。

第2条 授業料等納入金の額は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによる。

2 前項の授業料等納入金の納入は、分割して行うものとし、納入期日は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める日とする。ただし、第1期分納入時に全納することを妨げない。

(1) 第1期分 毎年5月31日まで（新入生は、別に定める。）

(2) 第2期分 毎年10月31日まで

第3条 教職課程科目、博物館学芸員課程科目、社会教育主事課程科目、日本語教員課程科目であって、その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目の受講料は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによりこれを徴収する。

2 科目等履修生及び研究生の受講料等は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによりこれを徴収する。

3 実習又は研修など特別の費用を必要とする授業科目などの実習・研修費等は、別表第1の定めるところによりこれを徴収する。

第4条 学生が退学届を受理され、又は退学を命じられたときは、その納期分の授業料等納入金について、これを徴収する。

2 停学を命ぜられたときは、停学中の授業料等納入金について、これを徴収する。

第5条 休学する場合は、別表第2に定めるところにより在籍料を徴収する。ただし、学長が特に必要と認めるときは、減額することがある。

2 前項ただし書に規定する在籍料の減額は、別に定めるところにより、所定の手続を経て、学長がこれを決定する。

3 休学する場合の授業料及び教育充実費については、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 通年休学の場合は、授業料及び教育充実費の全額を徴収しない。

(2) 前期又は後期のみ休学の場合は、授業料及び教育充実費の年額の2分の1を徴収することとし、過納の場合は、その額を返還する。

（削 除）

第6条 前条に定めるもののほか、休学が学資の負担者の罹患、罹災その他やむを得ない事情による学資の調達困難を理由とするときは、在籍料、授業料及び教育充実費の額を減免することができる。

2 前項の減免を受けようとする者は、必要な証明書等を添えて、所定の減免願を学生課に提出しなければならない。

3 第1項の減免の許否は、学生部委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第7条 再入学の場合は、再入学年度の入学金を納入しなければならない。

第8条 除籍を受けた者が再入学を願い出るときは、除籍を受けた納期分の授業料等納入金等で未払いの分はこれを納入しなければならない。

第9条 学生が他の学部への転部、他の学科への転科又は他の研究科への転研究科により異動する場合の授業料等納入金については、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 入学金は、入学年度における異動先の学部、学科又は研究科の当該金額から入学時の学部、学科又は研究科の当該金額を減じた額を徴収する。ただし、過納の場合は、これを返還しない。

(2) 授業料及び教育充実費は、入学年度における異動先の学部、学科又は研究科の当該金額を徴収する。

第10条 諸証明書の発行を受ける者は、領収書を各所管課（室）に提出しなければならない。

第11条 諸証明書の発行手数料等は、別表第3の定めるところによりこれを徴収する。

2 追試験、再試験及び補助試験の手数料は、別表第4の定めるところによりこれを徴収する。

第12条 授業料等納入金、受講料、在籍料、手数料等の金額及び納入期日は、経済情勢その他の変動により改めることがある。

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1 実習・研修費等（第3条第3項）

種 別	金 額 (単位 円)	納 期
海 外 研 修 費	実 費	指 定 期 間 内
学 外 実 習 費	実 費	
病 院 実 習 費	40,000	
教育実習費・養護実習費	実 費	
博 物 館 実 習 費	6,000	
社 会 教 育 実 習 費	6,000	
介 護 等 体 験 費	10,000	
考 古 学 実 習 費	30,000	
臨 床 心 理 学 実 習 費	30,000	

別表第2 在籍料（第5条第1項）

(単位 円)

学 部		区 分	通年休学	前期又は後期休学
人 文 学 部	法 学 部		240,000	120,000
経 済 学 部	商 学 部			
商 学 部 第 二 部		60,000		
理 学 部	工 学 部		360,000	180,000
医 学 部	医 学 科		1,200,000	600,000
	看 護 学 科		360,000	180,000
薬 学 部			480,000	240,000
ス ポ ー ツ 科 学 部			300,000	150,000

VI. 諸規程

別表第3 諸証明書発行手数料等（第11条第1項）

種 別	発行手数料（円）	発行課（室）
単 位 修 得 証 明 書 （一般・教職・学芸員・社教主事） 成 績 証 明 書 卒 業 見 込 証 明 書 成 績 ・ 卒 業 見 込 証 明 書 （ 就 職 用 ） 卒 業 証 明 書 在 学 証 明 書 教 員 免 許 取 得 見 込 証 明 書 学 芸 員 資 格 取 得 証 明 書 在 籍 証 明 書 科 目 等 履 修 生 証 明 書 研 究 生 証 明 書 健 康 診 断 証 明 書 その他本学所定様式の証明書	1枚につき 200	教 務 一 課 各学部等の教務担当事務課(室) 健康管理センター事務室
学 生 証 再 発 行	1枚につき 2,000	学 生 課

(注) 1 英文の証明書は、1枚につき300円とする。

2 本学所定様式以外の証明書の発行手数料は、種別にかかわらず1枚につき500円とする。

別表第4 追試験料・再試験料及び補助試験料（第11条第2項）（一部抜粋）

種 別	金 額（単位 円）	納 期
追 試 験 料	1科目につき 2,000	指 定 期 間 内
再 試 験 料	1単位につき 1,000	
	（ただし、医学部医学科の時間 制の専門教育科目については 1科目につき4,000円）	

令和6年度 学費等納入金表

人文・法・経済・商学部

納入期限	第1期	5月27日
	第2期	10月27日

学費等納入金一覧表

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

区分	合計	学生納付金			委託徴収金						小計		
		入学金	授業料	教充費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金		学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代
6年度入学(1年)	1,126,710	190,000	730,000	180,000	1,100,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	671,710	190,000	365,000	90,000	645,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度入学(2年)	935,610		730,000	180,000	910,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	480,610		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度入学(3年)	935,610		730,000	180,000	910,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	480,610		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度入学(4年)	936,110		730,000	180,000	910,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	481,110		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
6年度編・転学士入学(3年)	1,135,210	190,000	730,000	180,000	1,100,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	680,210	190,000	365,000	90,000	645,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
5年度編・転学士入学(4年)	944,610		730,000	180,000	910,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	489,610		365,000	90,000	455,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。
 3. 転部および学士入学(本学卒)の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入期限	第1期	5月27日
	第2期	10月27日

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

商学部第二部

区分	合計	学生納付金			委託徴収金						小計		
		入学金	授業料	教育充実費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金		学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代
6年度入学(1年)	472,370	60,000	310,000	80,000	450,000	7,500	7,500	300	2,970	100	3,000	1,000	22,370
	277,370	60,000	155,000	40,000	255,000	7,500	7,500	300	2,970	100	3,000	1,000	22,370
5年度入学(2年)	411,970		310,000	80,000	390,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
	216,970		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
4年度入学(3年)	411,970		310,000	80,000	390,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
	216,970		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
3年度入学(4年)	412,470		310,000	80,000	390,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,500	22,470
	217,470		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,500	22,470
6年度編・転学士入学(3年)	480,870	60,000	310,000	80,000	450,000	7,500	15,000	300	2,970	100	3,000	2,000	30,870
	285,870	60,000	155,000	40,000	255,000	7,500	15,000	300	2,970	100	3,000	2,000	30,870
5年度編・転学士入学(4年)	420,970		310,000	80,000	390,000	7,500	15,000		2,970		3,000	2,500	30,970
	225,970		155,000	40,000	195,000	7,500	15,000		2,970		3,000	2,500	30,970

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。
 3. 転部および学士入学(本学卒)の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入	第1期	5月27日
期限	第2期	10月27日

- (注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

理・工学部

区分	合計	学生納付金			委託徴収金						小計		
		入学金	授業料	教養充実費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金		学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代
6年度 入学 (1年)	年額	240,000	1,000,000	380,000	1,620,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	240,000	500,000	190,000	930,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度 入学 (2年)	年額		1,000,000	380,000	1,380,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度 入学 (3年)	年額		1,000,000	380,000	1,380,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度 入学 (4年)	年額		1,000,000	380,000	1,380,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
6年度 編・転 学士入学 (3年)	年額	240,000	1,000,000	380,000	1,620,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	第1期	240,000	500,000	190,000	930,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
5年度 編・転 学士入学 (4年)	年額		1,000,000	380,000	1,380,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	第1期		500,000	190,000	690,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。
 3. 転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入	第1期	5月27日
期限	第2期	10月27日

(注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。(単位 円)

医学部医学科

区分	合計	学生納付金				委託徴収金						小計	
		入学金	特別教育 充実費	授業料	教育 充実費	小計	父 母 後援会費	有 信 会 費	学 友 会 入 会 金	学 友 会 費	学 生 健 康 保 険 互 助 組 合 入 会 金		学 生 健 康 保 険 互 助 組 合 費
6年度 入学 (1年)	年額	1,000,000	3,000,000	3,912,000	688,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	1,000,000	3,000,000	1,956,000	344,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第2期			1,956,000	344,000								
5年度 入学 (2年)	年額		3,000,000	3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		3,000,000	1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第2期			1,956,000	344,000								
4年度 入学 (3年)	年額		3,000,000	3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		3,000,000	1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第2期			1,956,000	344,000								
3年度 入学 (4年)	年額			3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期			1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第2期			1,956,000	344,000								
2年度 入学 (5年)	年額			3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第1期			1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第2期			1,956,000	344,000								
元年度 入学 (6年)	年額			3,912,000	688,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第1期			1,956,000	344,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第2期			1,956,000	344,000								

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 7年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入期限	第1期	5月27日
納入期限	第2期	10月27日

- (注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

医学部看護学科

区分	合計	学生納付金			委託徴収金						小計		
		入学金	授業料	教育充実費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金		学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代
6年度 入学 (1年)	年額	270,000	1,040,000	470,000	1,780,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	270,000	520,000	235,000	1,025,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度 入学 (2年)	年額		1,040,000	470,000	1,510,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度 入学 (3年)	年額		1,040,000	470,000	1,510,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度 入学 (4年)	年額		1,040,000	470,000	1,510,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
 2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入期限	第1期	5月27日
	第2期	10月27日

- (注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

薬学部

区分	合計	学生納付金			委託徴収金					小計		
		入学金	授業料	教育充実費	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金		学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代
6年度入学(1年)	年額	400,000	1,350,000	290,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	400,000	675,000	145,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度入学(2年)	年額		1,350,000	720,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		675,000	360,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度入学(3年)	年額		1,350,000	720,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		675,000	360,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度入学(4年)	年額		1,350,000	720,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		675,000	360,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
2年度入学(5年)	年額		1,350,000	720,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第1期		675,000	360,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
元年度入学(6年)	年額		1,350,000	720,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第1期		675,000	360,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110
	第2期		675,000	360,000	8,500	7,500		5,610		3,000		17,110

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
2. 7年次以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。
3. 転部および学士入学(本学卒)の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口で照会して下さい。

令和6年度 学費等納入金表

納入	第1期	5月27日
期限	第2期	10月27日

- (注) 1. 金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
 2. 新入生の第1期分は、入学時に納入していただきます。
 (単位 円)

スポーツ科学部

区分	合計	学生納付金			委託徴収金						小計		
		入学金	授業料	教養充実費	小計	父後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金		学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代
6年度 入学 (1年)	年額	300,000	800,000	350,000	1,450,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第1期	300,000	400,000	175,000	875,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
5年度 入学 (2年)	年額		800,000	350,000	1,150,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
4年度 入学 (3年)	年額		800,000	350,000	1,150,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第1期		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
3年度 入学 (4年)	年額		800,000	350,000	1,150,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第1期		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
6年度 編・転 学士入学 (3年)	年額	300,000	800,000	350,000	1,450,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	第1期	300,000	400,000	175,000	875,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
5年度 編・転 学士入学 (4年)	年額		800,000	350,000	1,150,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	第1期		400,000	175,000	575,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610

1. 学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
2. 5年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。
3. 転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口にて照会して下さい。

VIII

学籍について

- 学籍について

学籍について

1 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得するものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味します。また、卒業・退学・除籍となった場合は、離籍となります。

2 休学

病気、その他やむを得ない事情で長期にわたり欠席しようとする場合は、下の【休学届出期間】内に届け出ることにより1年単位（通年）または各学期単位（前期・後期）で休学することができます（医学部医学科および薬学部は原則1年単位）。

休学を届け出る場合は、「休学に必要な費用」の納入、および本学所定の「休学届」の提出が必要です。（学則第25条）

【休学届提出までの流れ】

- ① 所属学部の事務部署に申し出て、休学の理由等を説明してください。必要に応じて、面談を行います。
- ② 面談後に、「休学届」を教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）で受け取り、記入してください。「休学に必要な費用」の納入、保証人（父母等）の署名が必要です。
- ③ 「休学届」を下の【休学届出期間】内に、教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）へ提出してください。

【休学届出期間】

学部(学科)	制度	休学期間	休学届出期間 (※1)	休学に必要な費用 (※2)
人文 法 経済 商 商二部 理 工 医(看護) スポーツ科	通年休学	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	2024年2月1日 ～	在籍料 委託徴収金
	前期休学	2024年4月1日 ～ 2024年9月13日	2024年5月31日	在籍料（半期分） 委託徴収金
	後期休学	2024年9月14日 ～ 2025年3月31日	2024年7月1日 ～ 2024年10月31日	在籍料（半期分）
医(医)	通年休学	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	2024年2月1日 ～	在籍料 委託徴収金 医学部医学科における特別教育充実費
薬			2024年10月31日	在籍料 委託徴収金

※1 休学届出期間の最終日が土日祝にあたる場合は、その直前の事務窓口対応日までに提出してください。

※2 「休学に必要な費用」に関しては、p. 276～277、p. 279を参照。
入学年度で異なりますが、およそ学費の1/3程度の金額となります。

【注意事項】

- ・提出した「休学届」は撤回できません。
- ・入学年度の前期については原則として休学をすることができません。
- ・休学できる期間は、学部に関係なく通算して4年を超えることができません。

休学期間は、在学期間への算入、単位の認定や卒業はできません。大学を卒業するには休学期間以外に4年以上の在学期間が必要となります（医学部医学科および薬学部は6年以上）。なお、半期休学期間終了後において、卒業をするために必要な科目が履修できない場合は、半期以上卒業が延期される可能性があります。（学則第25条、第38条）

3 復学

休学期間終了に際し、休学の理由が解消された場合または引き続き休学する場合は、下の【復学届出期間】内に、教務一課に「復学届」または「休学届」を提出してください。「復学届」、「休学届」は下の【復学届出期間】内に保証人（父母）宛に郵送します。万が一、届かない場合は早急に教務一課に連絡してください。

休学後に退学する場合は、まず所属学部の事務部署に申し出てください。面談後、教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）で「退学届」をお渡しします。

なお、下の【復学届出期間】内に「復学届」「休学届」「退学届」のいずれも提出しない場合は除籍になりますので注意してください。（学則第27条、第28条、第29条）

【復学届出期間】

学部(学科)	制度	休学期間	復学届出期間	復学日
人文 法 経済 商 商二部 理 工 医(看護) スポーツ科	通年休学	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日	2025年2月1日 ～ 2025年2月下旬	2025年4月1日
	前期休学	2024年4月1日 ～ 2024年9月13日	2024年7月下旬 ～ 2024年8月下旬	
	後期休学	2024年9月14日 ～ 2025年3月31日	2025年2月1日 ～ 2025年2月下旬	2025年4月1日
医(医) 薬	2024年4月1日 ～ 2025年3月31日			

4 退学

諸事情で大学を退学する場合は、本学所定の「退学届」の提出が必要です。(学則第28条)

【退学届提出までの流れ】

- ① 所属学部の事務部署に申し出て、退学の理由等を説明してください。必要に応じて、面談を行います。
- ② 面談後に、「退学届」を教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）で受け取り、記入してください。保証人（父母等）の署名が必要です。
- ③ 「退学届」を教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）へ提出してください。

【注意事項】

- ・提出した「退学届」は撤回できません。
- ・退学時の学期の学費または休学に必要な費用が未納の場合は、退学できません。

【退学届出期間】

退学届出期間	納入が必要な学費		退学日
	第1期(前期)	第2期(後期)	
4月1日～4月下旬(※)	× (新生は必要)	×	前年度後期末日付（前年度3月31日付） *新生は、前期末日付（9月13日付） または受理月末付
5月1日～8月31日	必要	×	前期末日付（9月13日付）または受理月末付
9月1日～9月下旬(※)	必要	×	前期末日付（9月13日付）
10月1日～翌年3月31日	必要	必要	後期末日付（3月31日付）または受理月末付

※退学届出期間は年度によって異なりますので、早めに教務一課にお問い合わせください。

退学を考えるその前に

- 学費を支払うことができない
⇒学生課で奨学金や提携教育ローンについての相談ができます。
- 学部、学科を変更したい⇒転部・転科の制度があります。p.324「転部・転科」を参照してください。
- 退学か休学か迷っている
⇒所属学部の事務部署や学生課、学生心理相談室など、あなたが話しやすい窓口へ相談してください。休学や退学を回避するためのサポートができるかもしれません。

ひとりで悩まず相談を！

5 除籍

除籍とは、本人の意思にかかわらず離籍することです。次に該当する者に対して除籍を行います。(学則第29条)

- ・授業料等納入金を納入しない者
- ・成績不振等で成業の見込みがないと認められる者
- ・休学期間満了時に、正当な理由がなく復学、休学又は退学のいずれの手續も行わない者

6 再入学

本学を退学した、または除籍となった学生が再び本学で学業を継続することができるように、「再入学」の制度を設けています。入学時から起算して8年（医学部医学科および薬学部は12年）を超えない限り、退学した、または除籍となった時点において所属していた学部学科に再入学を願い出ることができます。

再入学の可否は、必要に応じて、学力検査および面接を行い決定します。

出願資格など詳細については、教務一課にお問い合わせください。

7 転部・転科

本学の学生が、学生生活を通して、自分の進路に変化が生じた場合、ある一定の条件を満たせば、進路変更の機会が与えられる制度です。

所属している学部から別の学部へ転部を希望する、あるいは同学部内で別の学科へ転科を希望する場合、欠員のあるときに限り、希望する学部学科が提示する条件を満たした上で、毎年3月初旬に行われる転部・転科試験において、在学中の成績や試験の結果を総合的に選考し、これを許可することがあります。

なお、第2年次以上の法学部内の転科、医学部医学科・看護学科、薬学部への転部・転科制度はありません。

出願資格や選考方法等については、11月中旬に転部・転科試験説明会を開催しますので、希望する学生は必ず出席してください（9月上旬からオンデマンド配信型の事前説明会も実施します）。

説明会の開催については、FUポータルにてお知らせします。詳細については、教務一課にお問い合わせください。

8 氏名・性別・国籍等の学籍情報変更

学籍情報（氏名・性別・国籍等）の変更には、本学所定の「学籍情報変更届」の提出が必要です。

「学籍情報変更届」は、教務一課で配付します。提出する際には、変更の事実が確認できる公的書類（運転免許証、戸籍抄本、住民票等）を添付してください。

学生証の氏名変更は、教務一課で「学籍情報変更届」の写しを受け取り、学生課で手続をしてください。

9 住所変更・保証人変更

本人および父母や保証人（学費負担者）の住所などの情報に変更が生じた場合は、速やかに学生本人がFUポータルのカテゴリ「共通」にある「プロフィール情報修正」で修正してください。事務室での変更はできませんので注意してください。

Webプロフィールは、大学から皆さんに連絡をとる際や、郵送物を送る際に使用する情報です。常に最新の情報を登録してください。

2024

履修登録の手引

FUKUOKA UNIVERSITY

〔履修登録を行う前に必ず実施すること〕

大学から学生一人ひとりに割り当てるメールアドレスは、履修登録の確認、修正等の連絡手段の一つとなっています。履修登録を行う前に必ず設定を確認しましょう。

〔メールについて〕

大学から次のようなメールアドレスが付与されます。メールアドレスの一部となる学籍番号の部分は、福大 ID のアカウント名と同様に、学部や学科名称を表すアルファベットは小文字となります。

アカウント名 @cis.fukuoka-u.ac.jp

学籍番号(小文字): 例 ee240001

◆ 「共通」メニューに「Web メール」が表示されているので、こちらでメール確認ができます。



Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンに入れ、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインすることなく、メールを確認することができます。

休講・補講の通知メールは担当教員からの連絡事項がある場合がありますので、必ず確認してください。

Microsoft Outlook



目 次

1	履修登録について	1
1-1	履修登録スケジュール表	2
1-2	履修登録用紙(下書き用)	3
1-3	Web プロフィール(下書き用)	4
2	履修登録の流れ	5
3	「FU ポータル」にログイン	6
4	履修登録の開始	8
5	履修登録の画面説明	10
6	制限科目(抽選・先着順)の申請	12
7	履修科目の選択	14
7-1	曜日・時限から履修科目を選択	14
7-2	科目群から履修科目を選択	15
7-3	集中講義科目等を選択	16
8	履修科目の申請	17
9	その他の操作	18
10	登録科目の詳細の表示	19
11	卒業(進級)見込予測チェックの実行・結果参照	20
12	授業科目確認表作成・印刷	22
13	時間割表(教室割)照会	25
	付録① 履修申請時エラー一覧表	27
	付録② Web プロフィールを事前登録する方法	28
	付録③ シラバスの閲覧方法について	30
	付録④ 休講・補講情報の確認方法	32
	付録⑤ よくある質問Q&A	34

1 履修登録について

(1) 履修登録

履修登録は、FUポータルで行いますが、これには以下のような利点があります。

- ・インターネット環境があれば、自宅など学外からも登録手続きを行うことができます。
- ・登録しながら、卒業(進級)見込予測、登録エラーを確認することができます。
- ・シラバスで授業内容を参照、またスタートアップ授業を視聴してから履修登録が行えます。

(2) 履修登録の期間

履修登録は、学部学科(年台)別に履修登録できる日時が決められています。必ずP.2の「履修登録スケジュール表」を確認してください。

(3) 制限科目の申請

制限科目の申請期間は、科目毎に異なります。『学修ガイド』(Ⅳ.履修の手引)を確認の上、申請してください。選考結果は履修画面に表示されます(一部の制限科目を除く)。

(4) 事前準備について

必修科目・選択必修科目をP.3の「履修登録用紙(下書き用)」に記入し、時間割上で埋めた後、授業時間割とシラバスを参照して自分が受講する科目を決めてください。科目区分等の説明やシラバスを見るポイントなどは、別冊「福大生のための学習ナビ」を参照してください。

(5) FUプラスアップ授業について

FUプラスアップ授業には、「スタートアップ授業」と「中間フォローアップ授業」の2種類があり、授業は、オンデマンドの動画形式で実施されます。その授業のFUプラスアップ授業が「スタートアップ授業」なのか、「中間フォローアップ授業」なのかは、シラバスの「授業計画」の欄で確認できます。

「スタートアップ授業」は、第1回目の授業となり、履修登録期間前の3月上旬から1年間、いつでも視聴可能で、履修登録をしていない授業でも閲覧できます。また、その授業がどのような授業なのかについての説明も含んだ内容になっているので、履修科目を選ぶ際に、自分が受けたい授業の内容について深く知るために活用することができます。

(6) 課程科目の履修登録

教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程は、別冊『教職課程・博物館学芸員課程・社会教育主事課程履修の手引』を参照の上、履修登録を行ってください。日本語教員課程についてはFUポータルのお知らせで登録方法を確認してください。

(7) アカウントとパスワード

「FUポータル」にログインするには、『福大ID』と呼ばれる「アカウント名」と「パスワード」が必要です。

(8) 漢字の表示について

履修登録における氏名等の漢字表記について、JIS第1水準・第2水準文字が適用されます。

1-1 履修登録スケジュール表(学部・学科別)

毎年、20:00以降の夜間利用、特に最終日前日や前々日に履修登録アクセスが集中し、サーバ負荷により「スムーズな履修登録ができない」、「履修登録画面に繋がらない」状況が多数発生しています。最終日は指定学部以外は履修登録を行うことができません。
 ※卒業や進級に関わる重要科目の登録忘れや履修登録エラーのままで終了しているケースが発生しています。
 ※上記の日程以外の登録は、原則認められません。
 登録アクセスが集中しない昼間の指定時間を有効に活用し、早めの申請を心がけてください。

時限	在 学 生										新 入 生																
	3/21(木)・22(金)・23(土)		3/24(日)	3/25(月)	3/26(火)		3/27(水)		3/28(木)		3/29(金)		4/3(水)		4/4(木)		4/5(金)										
					学部	年台	学部	年台	学部	年台	学部	年台	学部	年台	学部	年台	学部	年台									
【1限】 9:00 開始	制限科目登録 ※詳細は学修ガイド参照 履修登録はできません 全学部利用可能										開始時間: 9:00								開始時間: 9:00								
											E 23台以前		J 23台以前		L 23台以前		L 23台以前		EI 24	TM 24	PP 24		TE 24	TL 24		TK 24	
											C 23台以前		S 23台以前		MN 23台以前		J 23台以前		(対象者473人)(対象者528人)				終了時間: 10:30				
【2限】 10:40 開始											終了時間: 12:10								開始時間: 10:40								
											T 23台以前		G 23台以前		P 23台以前				EE 24	TC 24	LA 24		TA 24	SM 24		SP 24	
																			(対象者578人)(対象者452人)				終了時間: 12:10				
【3限】 13:00 開始											開始時間: 13:00								開始時間: 13:00								
											J 23台以前		L 23台以前		E 23台以前		MN 23台以前		LC 24	SE 24	LH 24		JJ 24	LJ 24			
											S 23台以前		MN 23台以前		C 23台以前		MN 23台以前		(対象者506人)(対象者539人)				終了時間: 14:30				
【4限】 14:40 開始											終了時間: 16:10								開始時間: 14:40								
											G 23台以前		P 23台以前		T 23台以前				LG 24	GH 24	CF 24		MM 24	LE 24		JB 24	
																			(対象者517人)(対象者545人)				終了時間: 16:10				
【5限】 16:20 開始											開始時間: 16:20								開始時間: 16:20								
											L 23台以前		E 23台以前		J 23台以前				CC 24	CB 24	MN 23台以前		C 23台以前	S 23台以前		全学部 利用可能	
											MN 23台以前		C 23台以前		S 23台以前		G 23台以前		(対象者534人)				終了時間: 17:50				
【6限】 18:00 開始											終了時間: 19:30								開始時間: 18:00								
											P 23台以前		T 23台以前		G 23台以前				BB 24	全学部 利用可能		BB 24		S 23台以前		T 23台以前	
																			(対象者182人)				終了時間: 19:30				
20:00 ~ 25:00											開始時間: 20:00								開始時間: 20:00								
											L J E C BB T P		C BB S T MN P G		L J E BB S MN G		E C BB S T P G		全学部 利用可能				終了時間: 25:00				

の時間帯は、アクセスが集中した場合、スムーズな履修登録ができない可能性があります。

の時間帯は登録不可。

※指定された学部学科のみ履修登録メニューが表示されます。

●20:00~25:00の学部回数は、3/29の1~4限の人文、法、医学部看護学科を含めて各学部3回とした(商学部二部は4回)。

●新入生の対象者数は定員数の1.10倍で記載。

授業科目履修表

※あらかじめ記入して履修登録に臨んでください。

1-2

履修登録用紙(下書き用)

事前準備

重要

①既得単位数	
②今年度登録単位数	
①+② 合計	

※課程科目・随意科目の単位は除く

	月		火		水		木		金	
	授業科目		授業科目		授業科目		授業科目		授業科目	
1 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
2 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
3 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
4 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
5 限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
6 二部1限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
二部2限	前期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
	後期	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
集中講義	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()
	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()
その他	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()	期別()
	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()	担当者 ()

※履修登録は、「Webプロフィール」の入力を完了しなければ、履修科目の登録ができません。

あらかじめ、下記のWebプロフィール下書き用紙を作成し、事前に入力をしてください。あなたの住所や電話番号の登録にあたっては、あなたが提出した志願情報を利用して登録することができます。

プロフィール情報入力項目(下書き用)

- ◆ 必須項目(※)は必ず入力してください。未記入の項目を残した場合は、後日必ず訂正してください。
- ◆ この他に、本人の生活情報(課外活動、技能、資格など)や就労に関する情報を入力する画面があります。

【緊急連絡先】

連絡先 ※

電話番号(携帯電話) ※ - (内線)

【学生本人に関する情報】

郵便番号 ※ 〒

都道府県 ※

市区町村 ※

町名番地 ※

マンション・アパート名

電話番号 } ※ - (内線)

携帯電話 } いずれか -

通学手段 ※

※「父母・保証人情報」、「学費負担者に関する情報」は大学からの案内・連絡等に使用しますので正確に記載し入力してください。

【父母・保証人に関する情報】

※留学生は入学時に提出した日本の保証人を記入してください。

氏名 ※ 姓 名

郵便番号 ※ 〒

都道府県 ※

市区町村 ※

町名番地 ※

マンション・アパート名

電話番号 } ※ - (内線)

携帯電話 } いずれか -

【学費負担者に関する情報】

※「父母・保証人」「本人情報」と同じ場合は入力不要

氏名 姓 名

郵便番号 ※ 〒

都道府県 ※

市区町村 ※

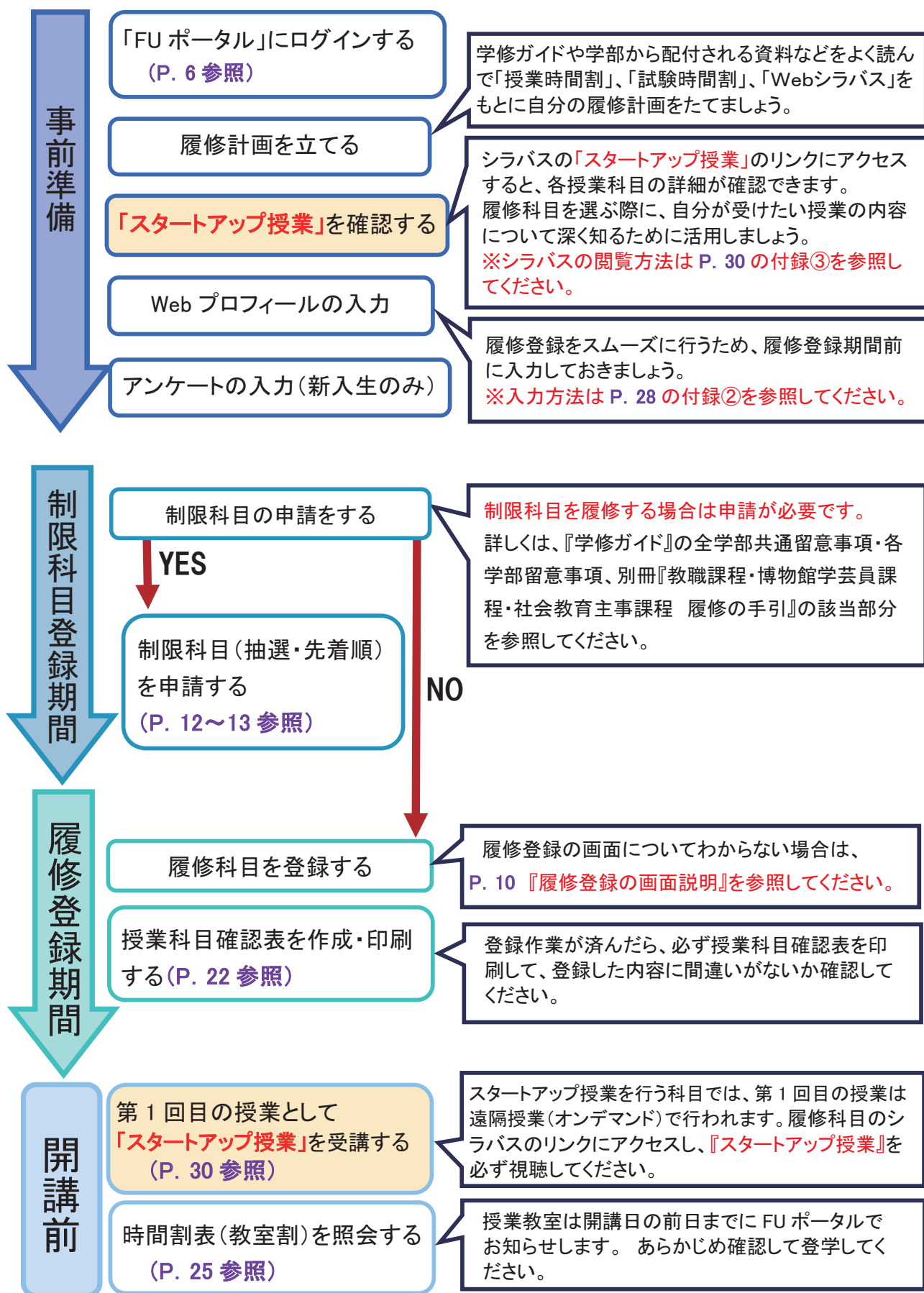
町名番地 ※

マンション・アパート名

電話番号 } ※ - (内線)

携帯電話 } いずれか -

2 履修登録の流れ



3 「FU ポータル」にログイン

履修登録申請をするには、まず福岡大学「FUポータル」システムにログインします。「FUポータル」は、福岡大学がWeb上で提供している様々なサービスを受ける入口となるページです。インターネットブラウザを起動し、「アドレス」欄に、次のアドレスを入力して接続してください。

<https://portal.fukuoka-u.ac.jp/>

アカウント名:学籍番号(小文字)
(例:ee220001)

入学時(4月)に配付される仮パスワードの有効期限は、その年の5月末です。直ちにパスワードの変更を行ってください。

【重要!】

学外から福岡大学の情報システム『FU ポータル』および『FU_box』にアクセスする際は、アカウント名とパスワードの入力に加えて「ワンタイムパスワード」の入力が求められます。

入学式後に履修関係書類と一緒に配付される情報基盤センター発行の「福岡大学情報処理システム USERS' GUIDE 利用の心得 編」にパスワードの変更方法やワンタイムパスワードの設定方法が記載されていますので、履修登録が始まる前までに、必ず確認してください。

ワンタイムパスワードの発行は「メール認証」と「トークン」の2種類があります。



ワンタイムパスワード入力画面です。発行されるワンタイムパスワードは6桁の数字となっています。

「FUポータル」画面にある「履修登録」を選択するとメニューに「Web履修登録」が表示されます。



項目	概要
履修申請	<p>Web プロフィールの入力およびアンケートの回答後、履修登録ができます。 (アンケートは新入生と3年生のみ表示されます。)</p> <p>※制限科目申請期間は、「Web プロフィール」入力画面は表示されません。 ※登録したら、即座に卒業(進級)見込予測のチェックが可能です。 (卒業・進級の判定が必要ない人には、予測ボタンは表示されません。)</p>
授業科目確認表作成	<p>授業科目確認表(PDF 形式)のダウンロードと印刷ができます。</p>
時間割表(教室割)照会	<p>自分が登録した時間割表(教室割)の表示とPDF 形式でのダウンロード・印刷ができます。</p>

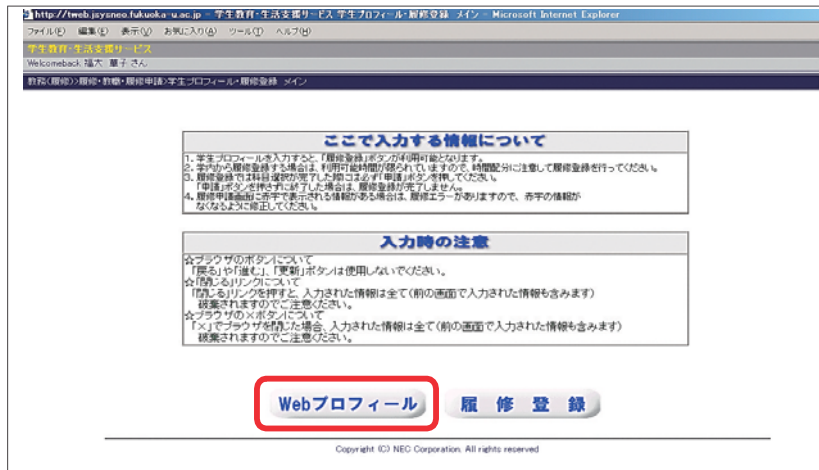
4 履修登録の開始

重要

必ずP.3、4の事前準備を行ったうえで、履修登録に臨んでください。

Webプロフィールの入力をしなければ、履修登録を行うことができません。

履修登録に十分な時間を確保するため、あらかじめWebプロフィールの入力およびアンケート（新入生のみ）の回答を完了させてください。（P.28参照）



Webプロフィールを入力してください。

※ここで入力する情報は、大学からの連絡や資料発送、事件・事故発生時の緊急連絡などに利用しますので、正確に登録してください。

※住所や電話番号の登録にあたっては、あなたが提出した志願情報を利用して登録することもできます。

※住居区分の「自宅（親と同居）」を選択すると、保証人の住所など自動的に入力されます。

※メールアドレスは、確認用も入力が必要です。

連絡先(必須)	学校法人 福岡大学 福大 一部 (父)	例：〇〇株式会社〇〇支店 福大入部 (父)
電話番号(必須)	010-1234-5678	例：090-1234-5678
あなたの住居区分を選択してください。		
住居区分(必須)	自宅(親と同居)	「自宅(親と同居)」を選択した場合は、父母・保証人情報の住所を入力する必要はありません。
居住する寮	選択する	居住する寮(通寮寮・指定寮)を選択した場合、居住所欄に寮の住所が表示されます。
現在地	あなたの生活に関する情報を入力してください。	
郵便番号(必須)	816-0807	例：814-0133 住所変換 「住所変換」ボタンを押すと、入力した郵便番号から住所変換を行います。
郵便行番(必須)	福岡県	
市区町村(必須)	春日市	
住所をクリア	〒	
町名番地(必須)	七層6-8-8	
マンション名		
連絡先(必須)	電話番号	092-888-1234
どちらかの番号を入力	携帯番号	020-1234-5678
通学手段(必須)	地下鉄	福岡大学までの主な通学手段を選択してください。
車(バイク)の車種	例：トヨタクラウン、ヤマハジョグ	通学手段で車またはバイクを選択した場合、必須の入力項目です。
車(バイク)のナンバー	例：福岡333号1234、博多区55U15678	通学手段で車またはバイクを選択した場合、必須の入力項目です。
メールアドレス		メールアドレス(携帯またはPC)(確認)
課外活動(字内)		課外活動(字外)
技能及び資格(必須)		資格一覧
特技・趣味		本学で親しい友人 例：L3999088福岡 花子

確認用のメールアドレスも忘れずに入力してください。

「Webプロフィール」の画面は、表示された項目の登録が終わると、確認画面へ進みますので、入力内容の確認を行ってください。全て完了したら最後に「登録する」ボタンをクリックしてください。

[新入生のみ]

Webプロフィールの入力終了後、アンケート画面（新入生のみ）に進みます。

アンケートは後日回答することもできます。その場合は「回答しない」ボタンを押して履修登録に進んでください。

プロフィール情報更新完了

Welcomeback 福大 太郎さん 閉じる

プロフィール情報更新完了

プロフィール情報の更新が完了しました。
連絡を取る際に必要な情報なので、定期的に確認・更新を行うようにしてください。
引き続き、アンケートの入力にご協力ください。

アンケートの入力はこちら

Copyright (C) NEC Corporation. All rights reserved

表示されたアンケートに回答し、全て完了したら最後に「提出する」ボタンをクリックしてください。

〇〇年度の新入生を対象として、本学に対する印象や姿勢、大学教育や将来に対する学生のニーズなどを把握し、本学の教育プログラムの改善・検討を行うことを目的にアンケートを実施します。
回答いただいた内容は、統計的に処理をします。個人としての回答が公表されることはありません。
また、本学での履修関係に不利益を被ることはありません。
調査結果は、上記の目的以外に使用することはありませんので、ご協力お願いします。

※この活動には、教学上の意思決定、情報共有、教育改善、学修支援、広報活動、学術活用
その他教育に関する活動を含みます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下のとおりです。
【実施主体】 福岡大学 教育開発支援機構 教学IR室
【問い合わせ先】 e-mail: kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

後で回答する、または回答しない場合はこちら

問.01
入学までに、自分が所属する学部もしくは学科の「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」を知っていましたか。
 1. 知っていた 2. 知らなかった

問.02
大学に入学するまでの生活もしくは大学入学前を振り返って見たとき、全般的に充実した生活を送っていたと思いますか。以下の項目の中から、あてはまる番号1つにチェックしてください。
 1. 充実していた 2. やや充実していた 3. あまり充実していなかった 4. 充実していなかった

以下の項目は、大学で学んでいくうえで身につけてほしい能力です。現時点で、自身には、どの程度あてはまりますか。

問.10
1. とてもよくあてはまる
2. ややあてはまる
3. どちらかというとあてはまる
4. どちらかというとあてはまらない
5. あまりあてはまらない
6. まったくあてはまらない

大学4年間で（6年間）の学習を支える基礎を身につけている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
困難な課題にもチャレンジでき、簡単にはあきらめない志の強さを発揮できる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の関をつないで成長に貢献することができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>


提出する

後で回答する、または回答しない場合はこちら

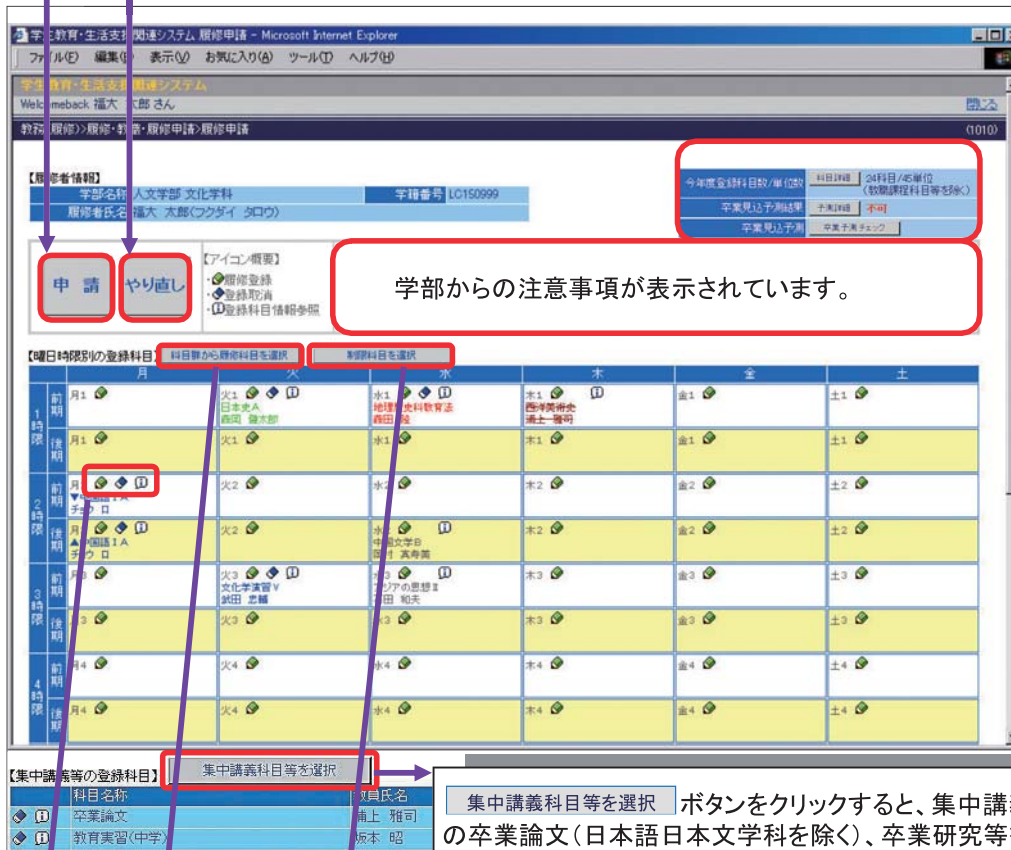
次に履修登録を進めてください。

5 履修登録の画面説明

「Web履修登録」メニューの「履修申請」をクリックします。P.8の画面が表示されますので「履修登録」をクリックします。履修登録の初期画面の詳細は次のとおりです。

申請 ボタンをクリックすると選択(緑色で表示)した科目が登録され青色で表示されます。また、 で取消をした科目(茶色く取消線付き)は再度 **申請** ボタンをクリックすることで完全に取消されます。

やり直し ボタンをクリックすると、前回「申請」ボタンをクリックした直後の状態に戻ります。










学部からの注意事項が表示されています。

集中講義科目等を選択 ボタンをクリックすると、集中講義科目・人文学部の卒業論文(日本語日本文学科を除く)、卒業研究等を申請することができます。(P. 16 参照)

制限科目を選択 ボタンをクリックすると制限科目を申請することができます。(P. 12 参照)

科目群から履修科目を選択 ボタンをクリックすると曜日時限に限らず科目一覧から科目を選択できます。(P. 15 参照)

アイコン	説明
 履修登録(鉛筆)	曜日時限から履修科目を選択します。  をクリックすると、その曜日時限での履修登録ができます。
 登録取消(消しゴム)	選択(緑色で表示)状態で  をクリックすると削除されます。申請(青色で表示)状態で  をクリックすると(茶色く取消線付き)で表示されます。その場合、 申請 ボタンをクリックしないと削除は完了できませんので注意してください。
 登録科目情報参照	 をクリックすると、科目の科目区分(分野)名、単位、曜日時限、担当者を表示します。

画面説明の続き（前ページ画面右上の説明です）

通常の場合（登録科目数／単位数） **科目詳細** ボタンのみ表示されます。

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	25科目/44単位 (教職課程科目等を除く)
--------------	-------------	---------------------------

卒業見込判定対象者の場合

進級見込判定対象者の場合

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	16科目/40単位 (教職課程科目等を除く)
卒業見込予測結果	予測詳細	
卒業見込予測	卒業予測チェック	

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	25科目/48単位 (教職課程科目等を除く)
進級見込予測結果	予測詳細	
進級見込予測	進級予測チェック	

ボタン等の説明

ボタン等	説明
今年度登録科目数/単位数	申請科目（画面上に表示している科目）の科目数/単位数を表示します。（教職課程科目等を除く）
科目詳細	「既得科目一覧」および「単位集計一覧」を表示します。 (P. 19参照)
卒業予測チェック 進級予測チェック	卒業（進級）見込予測チェックを実行します。(P. 20参照)
予測詳細	卒業（進級）見込予測チェックの結果を見ることができます。 「卒業見込予測」もしくは「進級見込予測」が「可」の場合は「見込」とボタンの横に表示されます。（予測実行後クリック可能となります）「不可」の場合は「不可」と表示されます。(P. 20参照)

科目の画面上の表示について

登録状態により、科目名称および担当者の文字色がかわります。

文字色	登録科目の状態	
青	申請中	履修申請が完了しています。制限科目の場合は、抽選結果によって文字色が変わります。(P. 13参照)
赤	登録エラー	登録に何らかの問題があります。やり直してください。
茶(取消線付き)	取消	登録を一時取り消した状態です。(まだ削除されていません) ⇒「申請」ボタンをクリックすると完全に削除します。
緑	選択中	科目を選択した状態です。(まだ決定ではありません) ⇒「申請」ボタンをクリックすると申請(決定)します。
灰	登録確定	履修申請期間が終了しているか、事前登録されています。 登録科目は履修取消できません。

〔注意〕 申請画面において、画面を複数立ち上げたり、ブラウザの「戻る」ボタンで操作しないでください。

6

制限科目(抽選・先着順)の申請

制限科目受講者の選考

抽選、先着順の取り扱いや選考結果の発表等は科目によって異なりますので、必ず学修ガイドの「IV. 履修の手引」を参照してください。

- 先着順: 定員になり次第締め切ります。登録エラーの表示(赤色で表示)が出なければ、登録は完了となります。
- 抽選: 結果発表日は学修ガイドの「IV. 履修の手引」を参照して必ず結果を確認してください。抽選が外れた場合は、その科目を削除する必要があります。

「Web履修登録」メニューの **履修申請** をクリックします。

※登録制限を実施する科目については、決められた期間に登録画面で申請をする必要があります。各学部の履修可能な制限科目については、学修ガイドの「IV.履修の手引」を参照してください。

制限科目を選択する場合

画面の **制限科目を選択** をクリックすると、申請可能な科目の一覧が表示されます。

		申請		やり直し		【アイコン概要】		申請処理を実行しました。	
						<ul style="list-style-type: none"> ● 履修登録 ● 登録取消 ① 登録科目情報参照 			
【曜日時限別の登録科目】		科目群から履修科目を選択		制限科目を選択					
		月	火	水	木	金	土		
1時限	前期	月1	火1	水1	木1	金1	土1		
	後期	月1	火1	水1	木1	金1	土1		
2時限	前期	月2	火2	水2	木2	金2	土2		
	後期	月2	火2	水2	木2	金2	土2		
3時限	前期	月3	火3	水3	木3	金3	土3		
	後期	月3	火3	水3	木3	金3	土3		
4時限	前期	月4	火4	水4	木4	金4	土4		
	後期	月4	火4	水4	木4	金4	土4		
5時限	前期	月5	火5	水5	木5	金5	土5		
	後期	月5	火5	水5	木5	金5	土5		

科目一覧より履修を希望する科目の「チェックボックス」(「選択」の枠)をクリックし、▼選択 ボタンをクリックすると元の画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中(緑色で表示)となります。その後、申請 ボタンをクリックすると、科目名称・担当者名が申請中(青色で表示)、またはエラー(赤色で表示)となります。

教務(履修)>履修・教職・履修申請>履修申請>制限科目選択

戻る 選択せよに戻る場合は[戻る]ボタンを押下して下さい。

▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下して下さい。

選択	科目名称	学期	曜日(時限)	担当教員氏名	定員	選考方法	申込期間
<input checked="" type="checkbox"/>	外書講読ⅡA(英語)	後期	火(5時限) 水(5時限)	永江 真夫	20	抽選	2018-01-31 00:00:00~ 2018-01-31 22:40:00
<input type="checkbox"/>	経済史概論	後期	火(3時限) 金(2時限)	松原 建彦	223	抽選	2018-01-31 00:00:00~ 2018-01-31 23:00:00

全2件中 1件目~2件目を表示

申請 やり直し

【アイコン概要】
履修登録
登録取消
登録科目情報参照

申請処理を実行しました。

【曜日時限別の登録科目】 科目群から履修科目を選択 制限科目を選択

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
	後期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
3時限	前期 月3	火3	水3	木3	金3	土3
	後期 月3	火3	水3	木3	金3	土3
4時限	前期 月4	火4	水4	木4	金4	土4
	後期 月4	火4	水4	木4	金4	土4
5時限	前期 月5	火5	水5	木5	金5	土5
	後期 月5	火5 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫	水5 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫	木5	金5	土5

制限科目の選考結果を確認する場合

科目毎に指定された結果発表期間に応募した科目の ⓘ をクリックしてください。当選した場合「当選しました。」と表示されます。抽選が外れた場合「抽選が外れました。」と赤字で表示されます。

【当選の場合】

5時限	前期 月5	火5	水5
	後期 月5	火5 ⓘ 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫	水5 ⓘ 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫

当選しました。

【履修科目の詳細情報】

履修科目名	外書講読ⅡA(英語)
科目区分名称	専門教育科目
単位数	4
学期-曜日(時限)	後期-火(5時限) 後期-水(5時限)
担当教員名	永江 真夫
履修登録	新規履修 抽選登録

【現在の状態】
当選しました。

【抽選が外れた場合】

5時限	前期 月5	火5	水5
	後期 月5	火5 ⓘ 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫	水5 ⓘ 外書講読ⅡA(英語) 永江 真夫

落選しましたので、❖ をクリックし科目を削除してください。


【履修科目の詳細情報】

履修科目名	外書講読ⅡA(英語)
科目区分名称	専門教育科目
単位数	4
学期-曜日(時限)	後期-火(5時限) 後期-水(5時限)
担当教員名	永江 真夫
履修登録	新規履修 抽選登録

【現在の状態】
抽選が外れました。

7 履修科目の選択

7-1 曜日・時限から履修科目を選択

曜日・時限から履修科目を選択する場合は、受講したい曜日・時限枠内の  をクリックします。
 ※この例では月曜日、1時限の「東洋史A」を登録します



【履修者情報】

学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC150999

履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 科目区別 0 科目/0 単位 (教職課程科目等を除く)

卒業見込予測結果 予測詳細

卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 やり直し

【アイコン概要】

- 履修登録
- 登録取消
- ①登録科目情報参照

【曜日時限別の登録科目】

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1 <input checked="" type="checkbox"/>	火1 <input checked="" type="checkbox"/>	水1 <input checked="" type="checkbox"/>	木1 <input checked="" type="checkbox"/>	金1 <input checked="" type="checkbox"/>	土1 <input checked="" type="checkbox"/>
	後期 月1 <input checked="" type="checkbox"/>	火1 <input checked="" type="checkbox"/>	水1 <input checked="" type="checkbox"/>	木1 <input checked="" type="checkbox"/>	金1 <input checked="" type="checkbox"/>	土1 <input checked="" type="checkbox"/>
2時限	前期 月2 <input checked="" type="checkbox"/>	火2 <input checked="" type="checkbox"/>	水2 <input checked="" type="checkbox"/>	木2 <input checked="" type="checkbox"/>	金2 <input checked="" type="checkbox"/>	土2 <input checked="" type="checkbox"/>
	後期 月2 <input checked="" type="checkbox"/>	火2 <input checked="" type="checkbox"/>	水2 <input checked="" type="checkbox"/>	木2 <input checked="" type="checkbox"/>	金2 <input checked="" type="checkbox"/>	土2 <input checked="" type="checkbox"/>
3時限	前期 月3 <input checked="" type="checkbox"/>	火3 <input checked="" type="checkbox"/>	水3 <input checked="" type="checkbox"/>	木3 <input checked="" type="checkbox"/>	金3 <input checked="" type="checkbox"/>	土3 <input checked="" type="checkbox"/>

履修可能な科目の一覧が画面に表示されます。履修を希望する科目の「チェックボックス」(「選択」の枠)をクリックし、**▼選択** ボタンをクリックします。クリックするとその画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中 (緑色で表示) となります。

教務(履修)・履修・教職・履修申請・履修申請)曜日時限別科目選択

戻る 選択せずに戻る場合は[戻る]ボタンを選択してください。

学期 前期 曜日 月曜日 時限 1時限

▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下してください。

選択	科目名称	学期	曜日(時限)	担当教員氏名	科目区分名称	単位
<input checked="" type="checkbox"/>	東洋史A	前期	月(1時限)	福大 花子	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	西洋史A	前期	月(1時限)	丹後 亨	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	日本文学A	前期	月(1時限)	山縣 浩	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	心理学A	前期	月(1時限)	佐藤 基治	共通教育科目	2




【履修者情報】

学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC150999

履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 科目区別 0 科目/0 単位 (教職課程科目等を除く)

卒業見込予測結果 予測詳細

卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 やり直し

【アイコン概要】

- 履修登録
- 登録取消
- ①登録科目情報参照

【曜日時限別の登録科目】

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1 <input checked="" type="checkbox"/> 東洋史A 福大 花子	火1 <input checked="" type="checkbox"/>	水1 <input checked="" type="checkbox"/>	木1 <input checked="" type="checkbox"/>	金1 <input checked="" type="checkbox"/>	土1 <input checked="" type="checkbox"/>
	後期 月1 <input checked="" type="checkbox"/>	火1 <input checked="" type="checkbox"/>	水1 <input checked="" type="checkbox"/>	木1 <input checked="" type="checkbox"/>	金1 <input checked="" type="checkbox"/>	土1 <input checked="" type="checkbox"/>
2時限	前期 月2 <input checked="" type="checkbox"/>	火2 <input checked="" type="checkbox"/>	水2 <input checked="" type="checkbox"/>	木2 <input checked="" type="checkbox"/>	金2 <input checked="" type="checkbox"/>	土2 <input checked="" type="checkbox"/>
	後期 月2 <input checked="" type="checkbox"/>	火2 <input checked="" type="checkbox"/>	水2 <input checked="" type="checkbox"/>	木2 <input checked="" type="checkbox"/>	金2 <input checked="" type="checkbox"/>	土2 <input checked="" type="checkbox"/>

7-2 科目群から履修科目を選択

画面の **科目群から履修科目を選択** ボタンをクリックします。

教務(履修)>履修・教職・履修申請>履修申請

【履修者情報】
 学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC150999
 履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 **科目/O単位** (教職課程科目等を除く)
 卒業見込予測結果 予測詳細
 卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 やり直し 【アイコン/概要】
 ・履修登録
 ・登録取消
 ・登録科目情報参照

【曜日時限別の登録科目】 **科目群から履修科目を選択** 制限科目を選択

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
	後期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期 月2	火2	水2	木2	金2	土2

次の画面が表示されますので、左上の「検索指示」画面に検索条件を入力し「検索」ボタンをクリックします。「科目名」は必ず入力してください(あいまい検索可能)。検索条件にあった科目の一覧が表示されます。履修を希望する科目の「チェックボックス」(「選択」の枠)をクリックし、**▼選択** ボタンをクリックします。クリックするとその画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中(緑色で表示)となります。

教務(履修)・履修・教職・履修申請>履修申請>曜日時限別科目選択

検索指示
 【科目群】 専門教育科目
 【科目名】 基礎
 検索

戻る 選択せずに戻る場合は[戻る]ボタンを選択してください。
▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下してください。

選択	学期	曜日(時限)	科目名称	科目区分名称	単位	担当教員氏名
<input checked="" type="checkbox"/>	前期	水(3)	文化学基礎論	専門教育科目	2	福大 花子
<input type="checkbox"/>	前期	水(4)	基礎演習Ⅰ	専門教育科目	2	丹後 亨
<input type="checkbox"/>	前期	水(4)	基礎演習Ⅰ	専門教育科目	2	山縣 浩
<input type="checkbox"/>	前期	水(4)	基礎演習Ⅰ	専門教育科目	2	佐藤 基治



教務(履修)>履修・教職・履修申請>履修申請

【履修者情報】
 学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC150999
 履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 **科目/O単位** (教職課程科目等を除く)
 卒業見込予測結果 予測詳細
 卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 やり直し 【アイコン/概要】
 ・履修登録
 ・登録取消
 ・登録科目情報参照

【曜日時限別の登録科目】 科目群から履修科目を選択 制限科目を選択

	月	火	水	木	金	土
1時限	前期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
	後期 月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期 月2	火2	水2	木2	金2	土2
3時限	前期 月3	火3	水3	木3	金3	土3
	後期 月3	火3	水3	木3	金3	土3

東洋史A
福大 花子

文化学基礎論
福大 花子

7-3 集中講義科目等を選択

画面の最下部にある「【集中講義等の登録科目】」の **集中講義科目等を選択** ボタンをクリックします。
 ※この例では「教育実習（中学）」を登録します。

6 時限	前期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
	後期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
7 時限	前期	月7	火7	水7	木7	金7	土7
	後期	月7	火7	水7	木7	金7	土7

【集中講義等の登録科目】 **集中講義科目等を選択**

科目名称	教員氏名
その他の登録科目はありません	

履修を希望する科目の「チェックボックス」（「選択」の枠）をクリックし、 **▼選択** ボタンをクリックします。クリックするともとの画面に戻り、科目名称・担当者が選択中（**緑色**で表示）となります。

教務<履修>>履修・教職・履修申請>履修申請>その他科目選択

戻る 選択せずに戻る場合は[戻る]ボタンを押下して下さい。

▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下して下さい。

選択	科目名称	学期	曜日(時限)	担当教員氏名	科目区分名称	単位
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	関口 浩喜	専門教育科目	4
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	高下 保幸	専門教育科目	4
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	平井 靖史	専門教育科目	4
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	平谷 元章	専門教育科目	4
<input type="checkbox"/>	卒業論文	集中通年	集(その他・集中屋)	藤田 隆	専門教育科目	4
<input checked="" type="checkbox"/>	教育実習(中学)	集中前期	集(その他・集中屋)	坂本 昭	教職課程科目	4
<input type="checkbox"/>	教育実習(高校)	集中前期	集(その他・集中屋)	坂本 昭	教職課程科目	2

全22件中 16件目～22件目を表示
前の15件



6 時限	前期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
	後期	月6	火6	水6	木6	金6	土6
7 時限	前期	月7	火7	水7	木7	金7	土7
	後期	月7	火7	水7	木7	金7	土7

【集中講義等の登録科目】 **集中講義科目等を選択**

科目名称	教員氏名
教育実習(中学)	坂本 昭

「データサイエンス・AI 入門」について
 学修基盤科目「データサイエンス・AI 入門」は、集中講義科目と同様の方法で登録してください。

人文学部の科目について
 人文学部の卒業論文(日本語日文学科を除く)、卒業研究は、集中講義科目と同様の方法で登録してください。

8 履修科目の申請

選択した科目は**緑色**で表示となり、科目を登録するには **申請** ボタンをクリックします。
エラーがなければ、科目名称・担当者名が申請中（**青色**で表示）で表示となります。

曜日時限別の登録科目		科目群から履修科目を選択		制限科目を選択			
	月	火	水	木	金	土	
1時限	前期	月1 東洋史A 福大 花子	火1	水1	木1	金1	土1
	後期	月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
3時限	前期	月3	火3	水3 文化学基礎論 福大 花子	木3	金3	土3
	後期	月3	火3	水3	木3	金3	土3



曜日時限別の登録科目		科目群から履修科目を選択		制限科目を選択			
	月	火	水	木	金	土	
1時限	前期	月1 東洋史A 福大 花子	火1	水1	木1	金1	土1
	後期	月1	火1	水1	木1	金1	土1
2時限	前期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
	後期	月2	火2	水2	木2	金2	土2
3時限	前期	月3	火3	水3 文化学基礎論 福大 花子	木3	金3	土3
	後期	月3	火3	水3	木3	金3	土3

全ての科目の選択が終わったら！

必ず **申請** ボタンをクリックしてください。

申請 ボタンをクリックすることで登録科目のチェックが自動的に行われます。

- エラーがない場合 選択中(**緑色**で表示)から申請中(**青色**で表示)に変わります。
- エラーがある場合 選択中(**緑色**で表示)からエラー(**赤色**で表示)に変わります。

一度登録した後、修正して何度でもクリックすることが可能です。

※履修申請時のエラーの内容はP. 27付録①の「履修申請時エラー一覧表」に説明がありますので参照してください。

※エラーが出た場合は科目の選択をやり直し、再度「申請」ボタンをクリックしてください。
全てのエラー(赤色)がなくなるまで繰り返してください。

9 その他の操作

科目のシラバスを見る時

科目選択の画面で **▼選択** ボタンをクリックする前に「科目名称」をクリックするとシラバスが表示されます。

教務(履修)・履修・教職・履修申請) 履修申請) 曜日時限別科目選択

戻る 選択せずに戻る場合は[戻る]ボタンを選択してください。

学期 前期 曜日 月曜日 時限 1時限

▼選択 下記の科目一覧より科目を選択し[選択]ボタンを押下してください。

選択	科目名称	学期	曜日(時限)	担当教員氏名	科目区分名称	単位
<input checked="" type="checkbox"/>	東洋史A	前期	月(1時限)	福大 花子	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	西洋史A	前期	月(1時限)	丹後 亨	共通教育科目	2
<input type="checkbox"/>	日本文学A	前期	月(1時限)	山縣 浩	共通教育科目	2

授業シラバス

詳細情報

科目名「クラス名」(サブタイトル)	授業形態	期別	単位数	開講年次
東洋史A	講義	前期	2	1
担当教員	福大 花子	科目水準	入門	試験実施 有り
実務経験	無し	授業の種類	対面授業科目	
授業時間割	前期:月・1時限	試験時間割	2020/07/30 4時限	

概要 テキスト

2019年における世界の人口は、およそ77億1500万人で、最も人口の テキストは使用しない。講義に際しては、資料プ

申請した科目の詳細を見る時

① をクリックすると次の画面が表示され、選択中または申請中の科目の詳細を見ることができます。この画面からシラバスを参照するには、「履修科目名」をクリックします。

【曜日時限別の登録科目】	科目別から履修科目を選択	登録科目を選択
月1 東洋史A 福大 花子	火1	水1
月2	火2	水2
月2	火2	水2

【履修科目の詳細情報】

履修科目名	東洋史A
科目区分名称	共通教育科目
単位数	2
学期一曜日(時限)	前期一月(1時限)
担当教員名	福大 花子
履修登録	新規履修 前期・通年科目履修登録

【現在の状態】
申請中です。

表示上で注意すること

履修科目の表示

- ・通年科目は、前期枠の科目名の前に「▼」、後期枠に「▲」を付けて前・後期とも表示します。
- ・週2コマの科目は、いずれかの1コマ選択すると2コマとも選択されます。

申請した科目を削除する時

② をクリックすると、科目名称・担当者名が茶色(取消線付き)で表示されます。

申請 ボタンを押して、科目が削除されたことを確認してください。

10 登録科目の詳細の表示

【履修者情報】

学部名称 人文学部 文化学科 学籍番号 LC170001

履修者氏名 福大 太郎(フクダイ タロウ)

今年度登録科目数/単位数 **科目詳細** 14科目/30単位
(教職課程科目等を除く)

卒業見込予測結果 予測詳細

卒業見込予測 卒業予測チェック

申請
決定

やり直し

【アイコン(概要)】

- 履修登録
- 登録取消
- ① 登録科目情報参照

制限科目は登録が確定すると取り消しできません。必修科目等との授業 期間割、試験科目等の重複には十分注意してください。

履修登録をする際は、学修ガイドの学部留意事項等を確認し、登録漏れや登録不備がないよう注意してください。

履修申請を終了する前に、右上の「卒業予測チェック」をクリックし、履修登録状況を再度確認してください。

【曜日(時限別)の登録科目】 科目群から履修科目を選択 制限科目を選択

	科目群から履修科目を選択							
	月	火	水	木	金	土		
1時限	前期	月1	火1	水1	木1	金1	土1	
	後期	月1	火1	水1	木1	金1	土1	
2時限	前期	月2	火2	水2 社会心理学 縄田 健悟	木2	金2	土2	
	後期	月2	火2	水2	木2	金2	土2	
前期	月3	火3 文化学実習V	水3 文化人類学特講	木3	金3	土3		

今年度登録科目数/単位数 **科目詳細** 14科目/30単位
(教職課程科目等を除く)

卒業見込予測結果 予測詳細

卒業見込予測 卒業予測チェック

申請 ボタンをクリックする毎に、「科目数/単位数」が再計算されます。

画面右上の「科目詳細」ボタンをクリックすると、下図のとおり、左側に「既得科目一覧」、右側に「単位集計一覧」が表示されます。

【既得科目一覧】		【単位集計一覧】						
科目区分名称	科目名称	単位数	分野	要件	合計	卒業	不足	履修
共通教育科目	倫理学B	2	総合教養科目	24	26	26		
	日本史A	2	人文科学	4	16	16		
	日本史通論A	2	社会科学	4	12	12		
	日本史通論B	2	自然科学	4	6	6		
	外国史通論A	2	総合科目	0	2	2		
	外国史通論B	2	外国語科目	0	16	16		
	日本教育史	2	第1外国語	8	8	8		
	西洋教育史	2	第2外国語	8	8	8		
	日本国憲法	2	保健体育科目	4	4	4		
	法律学概論	2	専門教育科目	28	22	22	-6	4
	政治学B	2	必修	44	30	30	-14	26
	社会学A	2	選択	16	14	14	-2	10
	社会学B	2	思想史	16	12	12	-4	12
	教育原論	2	比較文化	4	4	4		4
	地球科学入門	2	文化学共通	0	22	22		
	新しい地球観	2	関連教育科目	128	130	130		30
	ミクロの生物科学	2	卒業要件単位	0	0	0		
	基礎的植物学	2	日本語教員*	0	0	0		
	フレッシュマン・イングリッシュ I	1	社会教育主事*	0	4	0		2
	フレッシュマン・イングリッシュ II	1	博物館学主事*	0	24	0		8
	フレッシュマン・イングリッシュ III	1	教職課程科目*	0	0	0		
	フレッシュマン・イングリッシュ IV	1	随意科目	0	0	0		
	インターミディエイト・イングリッシュ I	1						
	インターミディエイト・イングリッシュ II	1						
インターミディエイト・イングリッシュ III	1							
インターミディエイト・イングリッシュ IV	1							
フランス語 I A	2							
フランス語 I B	2							
フランス語 II A	2							
フランス語 II B	2							
生涯スポーツ実習 I	1							
生涯スポーツ実習 II	1							
生涯スポーツ論	2							
専門教育科目	文化学基礎論	2						

*合計「履修」欄は単純集計単位数です。
*各種課程科目の要件単位数は学修ガイドの履修の手引で確認してください。

※履修方法に条件のある科目区分は、条件を満たしていない場合、「卒業」欄と「不足」欄には必ずしも修得した単位数および差し引いた不足単位数が表示されるとは限りません。

「既得科目一覧」

科目区分(分野)毎に、前年度までに単位を取得した科目名および単位数が表示されます。

「単位集計一覧」

科目区分(分野)毎の単位集計を表示します。卒業(進級)における「必要単位数(要件)」、「既得単位数(卒業)」、「不足単位数(不足)」および「今年度登録申請する単位数(履修)」を表示します。

11 卒業(進級)見込予測チェックの実行・結果参照

(※対象学部・学科・年台のみ)

科目申請が完了したら、次に、卒業（進級）見込予測チェックを行います。

卒業対象年次の場合、 卒業予測チェック ボタンが表示されます。

進級対象年次の場合、 進級予測チェック ボタンが表示されます。

この例では、卒業見込予測チェックを実行します。

【曜日時限別の登録科目】		科目群から履修科目を選択		制限科目を選択			
		月	火	水	木	金	土
1時限	前期	月1	火1	水1	木1	金1	土1
	後期	月1	火1	水1	木1 西洋美術講 講上 猶可	金1	土1
前	月2	火2	水2	木2	金2	土2	

画面右上の 卒業予測チェック または 進級予測チェック ボタンをクリックすると、今回登録した科目の単位を全て取得したと仮定した卒業（進級）見込予測を行います。

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	16科目/40単位 (教職課程科目等を除く)
卒業見込予測結果	予測詳細	
卒業見込予測	卒業予測チェック	

《例1》卒業見込予測が「可」の場合

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	7科目/14単位 (教職課程科目等を除く)
卒業見込予測結果	予測詳細	可
卒業見込予測	卒業予測チェック	

《例1》卒業見込予測が「不可」の場合

今年度登録科目数/単位数	科目詳細	24科目/45単位 (教職課程科目等を除く)
卒業見込予測結果	予測詳細	不可
卒業見込予測	卒業予測チェック	

①卒業見込予測で卒業不可となりました。

卒業見込予測を実行すると 予測詳細 ボタンをクリック可能になります。クリックすると「卒業見込予測結果・不足科目情報」が表示されます。

【卒業見込予測結果・不足科目情報】

科目区分名称	単位数		
	必要	修得	不足
総合教養科目	24	40	
人文科学	4	22	
社会科学	4	12	
自然科学	4	4	
外国語科目	16	16	
第1外国語	8	8	
第1外必修	8	8	
第2外国語	8	8	
保健体育科目	4	4	
必修	28	26	-2
選択	44	44	
思想史	16	22	
比較文化	16	16	
文化学共通	4	6	
卒業見込必要単位	128	132	
科目縛条件(第2外国語 同一言語で8単位)	1	1	

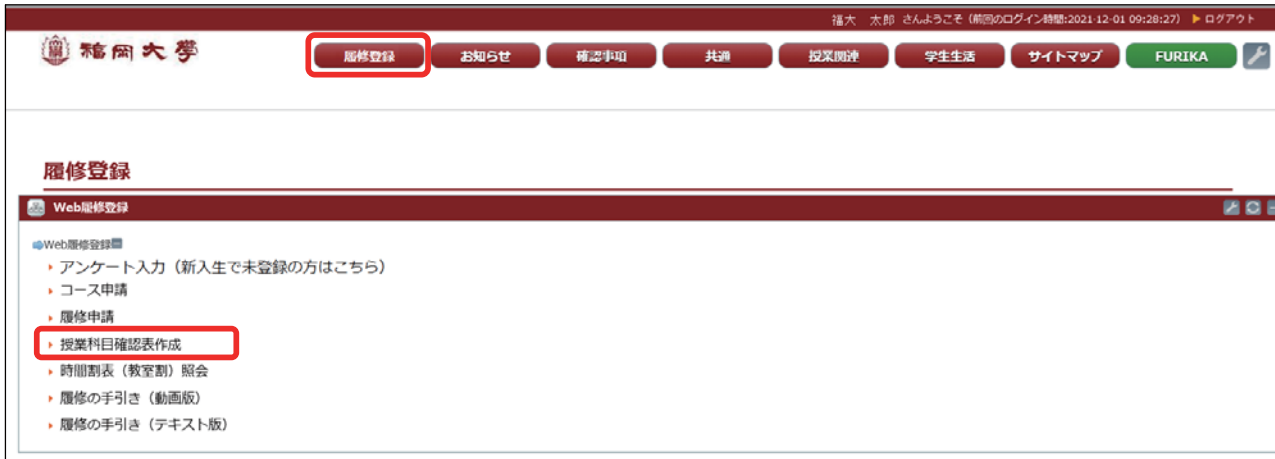
Copyright (C) NEC Corporation. All rights reserved

科目区分（分野）毎に卒業（進級）見込予測チェック後の、必要単位数、修得予定単位数、不足している単位数を表示します。不足している科目区分（分野）を確認した上で、履修申請をやり直してください。
 ※履修方法に条件のある科目区分は、条件を満たしていない場合、「修得」欄と「不足」欄には必ずしも修得した単位数および差し引いた不足単位数が表示されとは限りません。

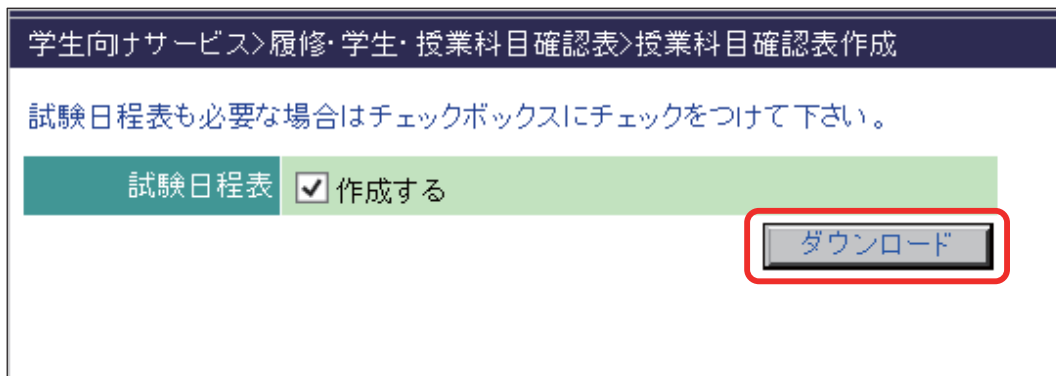
12 授業科目確認表作成・印刷

「履修申請」で登録した科目の授業科目確認表（PDF形式）を表示・印刷します。

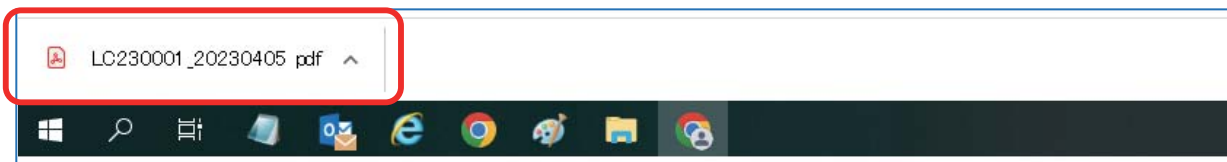
「Web履修登録」メニューより、「授業科目確認表作成」をクリックします。



次の画面が表示されますので、試験日程表も必要な場合はチェックボックスをクリックしてダウンロードボタンを押してください。



授業科目確認表が画面左下にダウンロードされますので、表示する時は、クリックしてください。

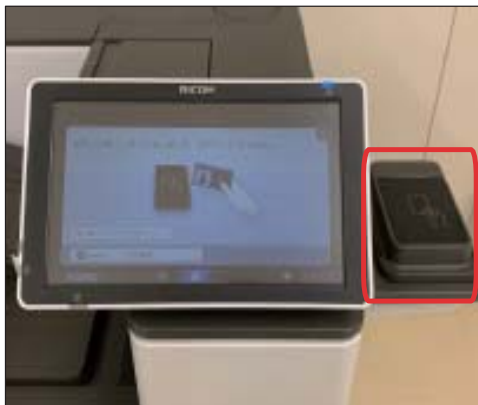


授業科目確認表を印刷する場合はプリンターのアイコンをクリックしてください。



		月	火	水	木	金	土
1	前期	西洋史A 【共通教育科目 単位:2】 福元 健之 前期・過年科目履修登録 S00000941401		プレジデント・イングリッシュⅠ(L(E除く)R&L-2 【共通教育科目 単位:1】 齋藤 恵菜子 事前登録 S00000960105	生進スポーツ演習Ⅰフィット A 【共通教育科目 単位:1】 村川 誠 事前登録 S00000935165	文化学科で学ぶⅠ 【専門教育科目 単位:2】 中村 未幸 前期・過年科目履修登録 101000043801	
	後期			プレジデント・イングリッシュⅡ(L(E除く)R&L-2 【共通教育科目 単位:1】 豊嶋 崇 事前登録 S00000960205	芸術B 【共通教育科目 単位:2】 植野 健造 後期科目履修登録 S00000943401	文化学科で学ぶⅡ 【専門教育科目 単位:2】 中村 秀 事前登録 101000043901	
2	前期	科学思想史A 【関連教育科目 単位:2】 岡崎 道貴 前期・過年科目履修登録 101000070001	基礎演習Ⅰ 【専門教育科目 単位:2】 森合 穂子 前期・過年科目履修登録 101000043402		ミクロの生物科学 【共通教育科目 単位:2】 中川 裕之 抽選登録 S00000951306	日本国憲法 【共通教育科目 単位:2】 守谷 賢輔 抽選登録 S00000945307	
	後期		基礎演習Ⅱ 【専門教育科目 単位:2】 本多 康生 事前登録 101000043506	西洋史B 教養ゼミ 【共通教育科目 単位:2】 森 丈夫 抽選登録 S00000942008	日本文学B 【共通教育科目 単位:2】 大木 穂子 後期科目履修登録 S00000942805		
3	前期	政治学A 【共通教育科目 単位:2】 廣澤 孝之 抽選登録 S00000945404	ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 ヴェラ ヤクボバ 前期・過年科目履修登録 S00000978201			プレジデント・イングリッシュⅢ(L(E除く)A-1 【共通教育科目 単位:1】 ケイトン トマス H 事前登録 S00000960308	
	後期		ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 ヴェラ ヤクボバ 前期・過年科目履修登録 S00000978201		日本史B 【共通教育科目 単位:2】 柳嶋 花輔 後期科目履修登録 S00000941605	プレジデント・イングリッシュⅣ(L(E除く)ESP-5 【共通教育科目 単位:1】 鶴田 学 事前登録 S00000960404	
前期						社会学A 【共通教育科目 単位:2】 花野 裕康 前期・過年科目履修登録	

教室または廊下などに設置されているプリンターの端末横のリーダーに学生証をかざします。
オンデマンド端末画面に印刷ジョブの一覧が表示されますので、印刷したいジョブのチェックボックスを
チェックして「印刷」ボタンをタッチしてください。



【授業科目確認表の説明】

右上部分に最終履修登録の日付と確認表出力の日付を表示します。

		月	火	水	木	金	土
1	前期	西洋史A 【共通教育科目 単位:2】 福元 健之 前期・過年科目履修登録 S00000941401		フレッシュマン・イングリッシュⅠ【(LE除く)R&L-2】 【共通教育科目 単位:1】 鎌倉 悠実子 事前登録 SJ0000960105	生涯スポーツ演習ⅠフィットA 【共通教育科目 単位:1】 村川 誠 事前登録 S00000935165	文化学科で学ぶⅠ 【専門教育科目 単位:2】 中村 未実 前期・過年科目履修登録 101000043801	
	後期			フレッシュマン・イングリッシュⅡ【(LE除く)R&L-2】 【共通教育科目 単位:1】 菅崎 帆 事前登録 SJ0000960205	芸術B 【共通教育科目 単位:2】 植野 徳彦 後期科目履修登録 S00000943401	文化学科で学ぶⅡ 【専門教育科目 単位:2】 中村 亮 事前登録 101000043901	
2	前期	科学思想史A 【関連教育科目 単位:2】 園越 浩貴 前期・過年科目履修登録 101000070001	基礎演習Ⅰ 【専門教育科目 単位:2】 落合 悠子 前期・過年科目履修登録 101000043402		ミクロの生物科学 【共通教育科目 単位:2】 中川 裕之 抽選登録 S00000951306	日本国憲法 【共通教育科目 単位:2】 守谷 賢輔 抽選登録 S00000945307	
	後期		基礎演習Ⅱ 【専門教育科目 単位:2】 本多 康生 事前登録 101000043506	西洋史B 教養ゼミ 【共通教育科目 単位:2】 森 文夫 抽選登録 S00000942008	日本文学B 【共通教育科目 単位:2】 大木 裕子 後期科目履修登録 S00000942805		
3	前期	政治学A 【共通教育科目 単位:2】 藤澤 孝之 抽選登録 S00000945404	ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 グエラ ヤゴボバ 前期・過年科目履修登録 SJ0000978201			フレッシュマン・イングリッシュⅢ【(LE除く)IA-1】 【共通教育科目 単位:1】 ケイトン トマス H 事前登録 SJ0000960308	
	後期		ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 グエラ ヤゴボバ 前期・過年科目履修登録 SJ0000978201		日本史B 【共通教育科目 単位:2】 徳邊 花緒 後期科目履修登録 S00000941605	フレッシュマン・イングリッシュⅣ【(LE除く)ESP-5】 【共通教育科目 単位:1】 關田 学 事前登録 SJ0000960404	
前期						社会学A 【共通教育科目 単位:2】 花数 知康 前期・過年科目履修登録	

今年度履修科目の登録状況を表示します。

科目名称	【科目区分名称 単位】教員氏名	登録種別	提出科目キー	登録科目キー	本年度履修科目登録状況			
					科目数	単位数	算入単位数	
集中講義等の登録科目	教育実習(中学) 【教職課程科目 4】高妻 紳二郎	事前登録	SW0000Y20901					
履修	前期	11	19	19				
	後期	11	19	19				
	過年	2	4	4				
	合計	24	42	42				

登録状況・エラー内容	学期	曜	時間	科目名称	届出科目キー	登録状況・エラー内容	学期	曜	時間	科目名称	届出科目キー
登録エラー状況											

集中講義等の登録科目の表示

集中講義科目・人文学部の卒業論文(日本語日本文学科を除く)、卒業研究を履修登録している場合にその情報を表示します。

登録エラーの状況

登録エラー科目のエラー内容と履修科目情報を表示します。

13 時間割表(教室割)照会

開講日の前日以降、「Web履修登録」メニューの「時間割表(教室割)照会」をクリックすると、今年度の時間割表(教室割)を画面で参照・印刷することができます。

なお、その際は通年科目、前期完結科目の教室のみ表示します。後期完結科目の教室については、後期開講前に再度、確認してください。

Web履修登録

- ▶ Web履修登録
- ▶ アンケート入力 (新生で未登録の方はこちら)
- ▶ コース申請
- ▶ 履修申請
- ▶ 授業科目確認表作成
- ▶ 時間割表(教室割)照会
- ▶ 履修の手引き

時間割表の作成

[出力]ボタンをクリックすると、「時間割表(教室割)を作成しました。ダウンロードはこちらから。」とメッセージが表示され、時間割表(教室割)(PDF形式)が作成されます。

時間割表(教室割)のダウンロード

[こちら]リンクをクリックすると、時間割表(教室割)をダウンロードできます。

教務(履修)履修・教職・時間割表(教室割)照会>時間割表(教室割)照会								
学部名称 人文学部 文化学科		出力 下記時間割情報を印刷用に出力します。						
学籍番号 LD180999		時間割表(教室割)を作成しました。ダウンロード こちら から。						
氏名 福大 大朗								
【曜日時間別】								
	月	火	水	木	金	土	日	
1時限	前期	月1	火1	水1 文化地理学 鶴川 武文 1033	木1	金1	土1	
	後期	月1	火1	水1	木1 西洋美術論 浦上 雅司	金1	土1	
2時限	前期	月2 比較文化論 片多 順 832	火2	水2 教育実習事前・事後指導 地歴 藤田 隆	木2	金2	土2	
	後期	月2 異文化理解 片多 順	火2	水2	木2	金2 応用社会学 小林 淳一	土2	
3時限	前期	月3	火3 文化学特講II 岩隈 敏 ゼ6A	水3 文化学演習V 柏田 康史 ゼ6B	木3 社会原論 小林 信行 1013	金3 社会調査入門 平田 暢 815	土3	
	後期	月3	火3 行為の理論 岩隈 敏	水3 文化学演習VI 柏田 康史	木3 集団心理学 武田 忠輔	金3	土3	
4時限	前期	月4 文化学演習III 藤田 隆 ゼ6B	火4	水4	木4 教育演習 田村 隆一	金4	土4	
	後期	月4	火4	水4 社会人類学 白川 琢磨	木4	金4	土4	
5時限	前期	月5 博物館実習II 高岡 美央子	火5 近代ヨーロッパ思想 平井 謙史 1032	水5	木5 20世紀の哲学 関口 浩孝 1034	金5	土5	
	後期	月5	火5	水5	木5 現代思想 関口 浩孝	金5	土5	
6時限	前期	月6	火6	水6	木6	金6	土6	
	後期	月6	火6	水6	木6	金6	土6	
7時限	前期	月7	火7	水7	木7	金7	土7	
	後期	月7	火7	水7	木7	金7	土7	
【集中講義等】								
学期・曜日・時限	科目名称			教員氏名				
前期・集・その他	教育実習(中学)			坂本 昭				

集中講義等の登録科目の表示

集中講義・人文学部の卒業論文(日本語日本文学科を除く)、卒業研究の履修科目を表示します。

時間割表（教室割）（PDF形式）を確認します。

時間割表（教室割）						
学部名称：人文学部 文化学科		2024年度			2024/03/25	
学籍番号：LC231001					1	
氏名：福大 太郎						
	月	火	水	木	金	土
1限	前期	自然科学入門 林 辰弥 A203		フレッシュマン・イングリッ シュI L(LE除<)R&L-2 西村 恵 A711		文化学科で学ぶI 浦上 雅司 A101
	後期			フレッシュマン・イングリッ シュII L(LE除<)R&L-2 石井 和仁 A717		文化学科で学ぶII 縄田 健悟 AB02
2限	前期		基礎演習I 本多 康生 24L			
	後期		基礎演習II 落合 桃子 1015	社会学B 開田 奈穂美 A402	心理学B 教養ゼミ 縄田 健悟 A711	
3限	前期		朝鮮語I A LC1・LJ1・LH 申 鎬 821			フレッシュマン・イングリッ シュIII L(LE除<)IA-1 ダタール、ニティン A616
	後期	数学入門 臼比野 雄嗣 A202	朝鮮語I A LC1・LJ1・LH 申 鎬 821	生活と環境の化学 中津 可道 845		フレッシュマン・イングリッ シュIV L(LE除<)ESP-5 ペヴァン、グレッグ A616
4限	前期		社会学A 本多 康生 823		生涯スポーツ演習I フィット A 築山 泰典	
	後期	統計入門 臼比野 雄嗣 A202	西洋史B 山本 達夫 A403		生涯スポーツ演習II バド/卓 球 川面 剛	自然科学と人間 柴田 智郎 A203
5限	前期		西洋文学A 野田 康文		哲学A 大西 克智 A201	朝鮮語I B LC1・LJ1・LH 姜 姫銀 A610
	後期					朝鮮語I B LC1・LJ1・LH 姜 姫銀 A610
6限 ・ 夜間 1	前期					
	後期					
7限 ・ 夜間 2	前期					
	後期					
集中講義等		学期 曜日 時限 科目名 前期 集 その他 データサイエンス・AI入門		教員氏名 瀬川 波子		教室

※授業教室の公開は、開講日の前日以降を予定しています。

FU ポータルでお知らせしますので、事前に授業教室を確認したうえで
登学してください。

FU ポータル <https://portal.fukuoka-u.ac.jp/>



付録① 履修申請時エラー一覧表

- ・登録内容にエラーがあった場合に表示されるエラーメッセージとその説明です。
- ・登録科目を変更し、[申請] ボタンを押して、登録エラーが無い状態にしてください。

No.	メッセージ	説明
1	同一科目クラス違いを申請しているエラー	登録した科目と同一科目のクラス違いを履修登録している為、登録できません。 クラス違いの同一科目を削除してください。
2	登録科目が修得済または登録済	登録した科目は既に修得済または登録済です。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。
3	登録科目において曜日・時限で重複しているエラー	登録した科目の曜日・時限が重複しています。 重複している科目を削除してください。
4	登録科目において試験日・時限間で重複しているエラー	登録した科目の試験日程が重複しています。 重複している科目を削除してください。
5	登録科目において前提科目が未履修もしくは未修得であるエラー	前提科目を履修もしくは修得していません。 『学修ガイド』（履修の手引）で、前提科目を確認して、科目を登録または削除してください。
6	登録科目において前提科目が履修済もしくは修得済であるエラー	前提科目を履修もしくは修得しています。 『学修ガイド』（履修の手引）で、履修条件を確認して、科目を削除してください。
7	登録科目において並行履修不可であるエラー	同時に履修できない科目を履修登録しています。 科目を削除してください。
8	登録制限単位数超過エラー	制限単位数を超えて履修登録しています。 『学修ガイド』（履修の手引）で、制限単位数を確認して超過分を削除してください。
9	登録制限単位数不足エラー	登録単位数が制限単位数を満たしていません。 『学修ガイド』（履修の手引）で、最低単位数を確認して不足分を登録してください。
10	必修科目未履修エラー	必修科目（外国語科目等）が未登録です。 『学修ガイド』（履修の手引）で、必修科目を確認して登録してください。
11	抽選が外れました。	制限科目が抽選で外れました。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。
12	定員オーバーのため、登録できません。	制限科目（先着順）が定員オーバーとなりました。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。

制限科目のエラーについて

制限科目がエラーになった時は、制限科目の申請期間内に削除してください。制限科目の申請期間を過ぎると削除や修正ができません。申請期間が過ぎて削除等ができなくなった時は、所属学部の事務部署へ申し出てください。

付録② Webプロフィールを事前登録する方法

履修登録は、Webプロフィールの入力をしなければ、履修科目の登録ができません。在学中に住所等に変更があれば修正してください。

履修登録に十分な時間を確保するため、あらかじめWebプロフィールの入力およびアンケート（新入生のみ）の回答を完了させてください。

〔履修申請メニュー以外から、Webプロフィールを登録・修正する方法〕

履修申請メニューは、あなたの所属する学部学科の時間帯しか表示されませんので、履修登録時以外に事前に「Webプロフィール」を登録・修正する場合、以下の方法で実施してください。

「FUポータル」の「共通」メニューを選択すると、左下に「Webプロフィール」が表示されます。

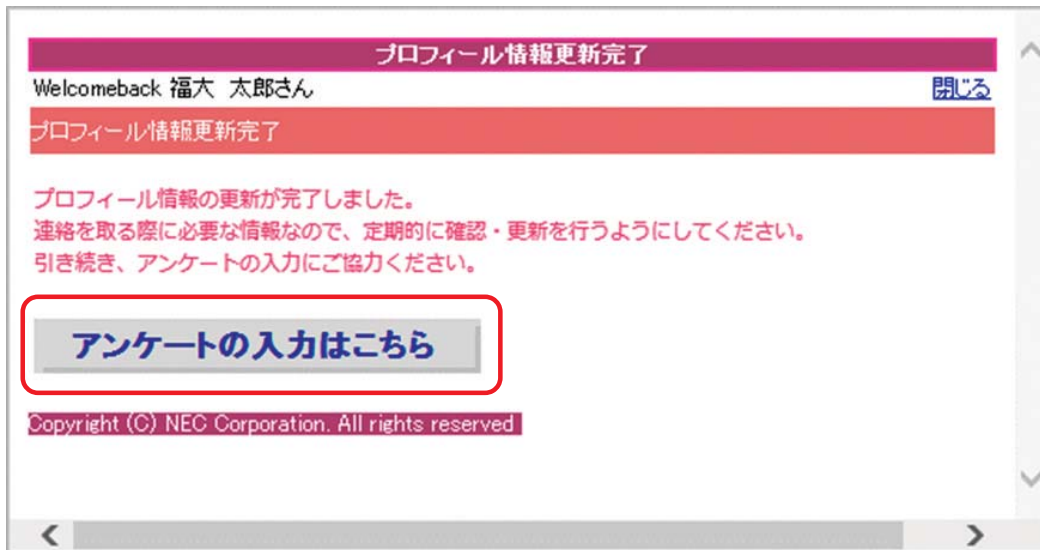


「プロフィール情報修正」を選択すると、履修登録時以外にも「Webプロフィール」を登録・修正することができます。※プロフィールに変更があった場合は、必ずプロフィール情報修正を行ってください。



※Webプロフィール情報の入力方法の詳細は入力マニュアルで確認してください。

Web プロフィール終了後、アンケート画面（新入生のみ）に進みます。



表示されたアンケートに回答してください。

〇〇年度の新入生を対象として、本学に対する印象や姿勢、大学教育や将来に対する学生のニーズなどを把握し、本学の教育プログラムの改善・検討を行うことを目的にアンケートを実施します。回答いただいた内容は、統計的に処理をします。個人としての回答が公表されることはありません。また、本学での履修関係に不利益を被ることはございません。調査結果は、上記の目的以外に使用することはありませんので、ご協力をお願いします。

※この活動には、教学上の意思決定、情報共有、教育改善、学修支援、広報活動、学術活用
その他教育に関する活動を含みます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下のとおりです。
【実施主体】 福岡大学 教育開発支援機構 教学IR室
【問い合わせ先】 e-mail: kyokiko@adm.fukuoka-u.ac.jp

後で回答する、または回答しない場合はこちら

問.01
入学までに、自分が所属する学部もしくは学科の「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」を知っていましたか。 1. 知っていた 2. 知らなかった

問.02
大学に入学するまでの生活もしくは大学入学前を振り返って見たとき、全般的に充実した生活を送っていたと思いますか。以下の項目の中から、あてはまる番号1つにのをつけて 1. 充実していた 2. やや充実していた 3. あまり充実していなかった 4. 充実していなかった

以下の項目は、大学で学んでいくうえで身につけてほしい能力です。現時点で、自身には、どの程度あてはまりますか。

1. とてもよくあてはまる
2. ややあてはまる
3. どちらかというとはまる
4. どちらかというとはまらない
5. あまりあてはまらない
6. まったくあてはまらない

問.10

大学4年間（6年間）の学習を支える基礎を身につけている	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
さまざまな他者の考え方や価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
困難な課題にもチャレンジでき、簡単にはあきらめない志の強さを発揮できる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6
チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の糧をつないで成長に貢献することができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6

提出する

後で回答する、または回答しない場合はこちら

全て完了したら最後に「提出する」ボタンをクリックしてください。

以上で事前登録は終了です。

付録③ シラバスの閲覧方法について

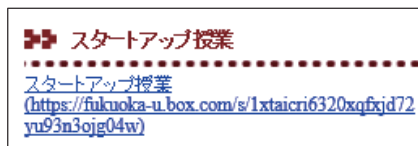
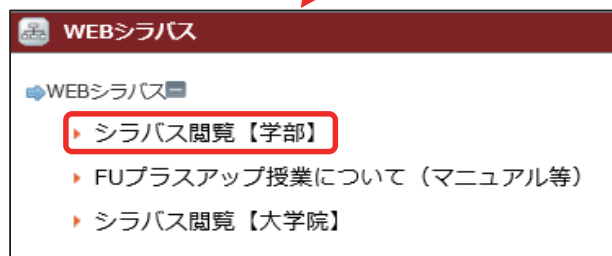
シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。シラバスには、科目名だけではわからない詳細な情報が記載されています。活用方法等については、本書「第IV章 履修の手引」の「シラバス」の項目を参照してください。

〔閲覧方法〕

「授業関連」メニュー から「WEB シラバス」の「シラバス閲覧(学部)」をクリックすると、シラバスの検索画面が表示されます。検索画面から教員名、科目名、学科等から検索し、閲覧することができます。



シラバス検索で科目を選択後、このように表示されます。



スタートアップ授業について

URLをクリックすると、スタートアップ授業の動画を閲覧することができます。

スタートアップ授業とは、第1回目に行われるシラバスの丁寧な説明を含んだ授業です。

本学の学生は全てのスタートアップ授業を3月上旬から1年間、いつでも閲覧することができるため、履修登録前に視聴することで、より主体的な履修選択ができます。

※スタートアップ授業を行う科目では、第1回目の授業はスタートアップ授業で行われます。

必ず第1週目の授業開始までに視聴してください。

〔シラバス閲覧検索画面〕

授業シラバス

検索方法を選択してください ①

2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 **2024**
 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度 年度

その他の項目で検索

+ **教員名で検索** ②
※苗字、もしくは名前の一部でも検索可。

+ **科目名で検索** ③
※科目名の一部でも検索可。

+ **キーワード検索** ④

+ **時間割コードで検索**
※時間割コードを半角英数字で入力。

+ **科目水準** - ⑤

+ **実務経験** ⑥

+ **検索実行**

学部・学科で検索

+ **学部または学科を選択してください** ⑦

■ **共通教育科目** >> 人文科学 >> 社会科学 >> 自然科学
■ **(外国語科目を除く)** >> 総合系列科目 >> 学修基盤科目 >> 保健体育科目

■ **外国語** >> 英語 >> ドイツ語 >> フランス語
 >> 中国語 >> スペイン語 >> 朝鮮語
 >> ロシア語 >> 日本語

① 閲覧したい年度をクリックしてください。

② 教員名で検索 ▶ 苗字、または名前の一部でも検索が可能です。

③ 科目名で検索 ▶ 科目名の一部でも検索が可能です。

④ キーワードで検索 ▶ 入力したキーワードを元に検索します。

⑤ 科目水準で検索 ▶ 科目水準(1: 入門、2: 初級、3: 中級、4: 上級)ごとに検索します。

⑥ 実務経験で検索 ▶ 実務経験を有する教員による、実務経験を活かした授業科目を検索することができます。

⑦ 学部・学科で検索 ▶ 選択した学部・学科に開講している科目が表示されます。

付録④ 休講・補講情報の確認方法

休講や補講は、FUポータルで確認できます。なお、補講については原則として、補講日の一週間前にFUポータルで、日時・教室等をお知らせします。また、休講・補講の情報は大学から入学時に付与されたメールアドレスにお知らせが届きます。

〔休講・補講情報の確認〕

- ◆ 「FUポータル」画面にある「授業関連」メニューを選択すると「休講・補講」が表示されます。休講および補講の情報はこちらのメニューから確認することができます。

福大 太郎 さんようこそ (前回のログイン)

福岡大学

コロナ対策 お知らせ 履修登録 共通 **授業関連** 学生生活

授業関連

授業アンケート

画面右上の「FURIKA」ボタンからご利用ください

休講・補講

- 休講・補講 (学生)
 - 休講情報照会
 - 補講情報照会
 - 操作マニュアル (学生用)

授業支援

授業支援 (学生)

- 授業管理 (学生)

小テスト回答・確認および課題提出については、「授業管理 (学生)」メニューをクリックし、画面上部の

教務

- 教務 (学生メニュー)
 - 定期試験日程表WEB掲示
 - 成績発表
 - 卒業予定生アンケート (12月1日より開始)
 - (令和4年3月に卒業予定の皆さんは、卒業前に必ずアンケート回答をお願いします。)
 - 学年属について (令和3年5月13日付)
 - 学年属【前期・後期】 (令和3年5月13日付)

教員プロフィール

- 教員プロフィール検索

オフィスアワー

◆ 休講情報照会

学生向けサービス>休講・学生>休講情報照会>休講情報照会

学部 指定無し

期間 2020年04月23日 ~ 2021年01月13日

検索

表示したい休講期間を入力

全学部での休講情報です。

ヘルプ(日本語) HELP(English)

休講日付	曜日	休講時限	科目	期別	教員	連絡
2020/04/28	火	2時限	倫理学A	前期	広川 明	—

◆ 補講情報照会

学生向けサービス>休講・学生>補講情報照会>補講情報照会

区分 指定無し

期間 2020年07月14日 ~ 2020年07月14日

検索

表示したい補講期間を入力

全補講箇所区分の補講情報です。

ヘルプ(日本語) HELP(English)

補講日付	曜日	補講時限	補講教室	科目	教員	連絡
2020/07/14	火	6時限	遠隔授業を行います。	倫理学A前期・火2時限	広川 明	FUポータルの授業管理等で授業実施方法を必ず確認してください。

Copyright (C) NEC Corporation. All rights reserved

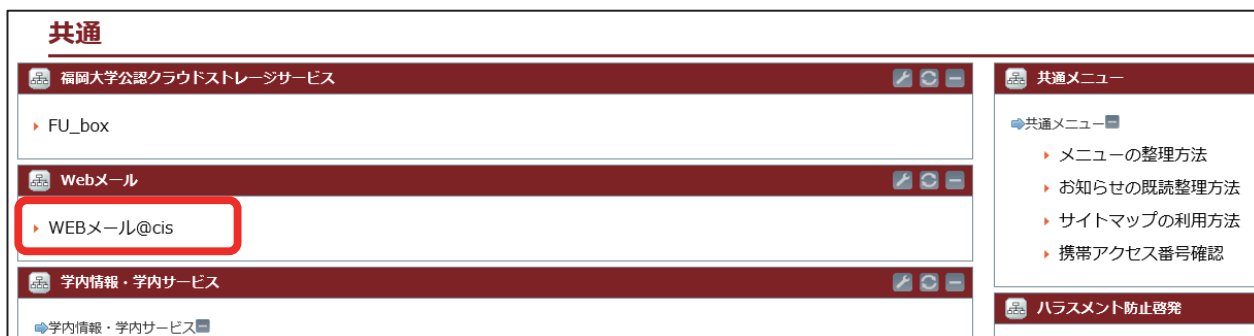
【メールについて】

大学から次のようなメールアドレスが付与されます。メールアドレスの一部となる学籍番号の部分は、福大IDのアカウント名と同様に、学部や学科名称を表すアルファベットは小文字となります。

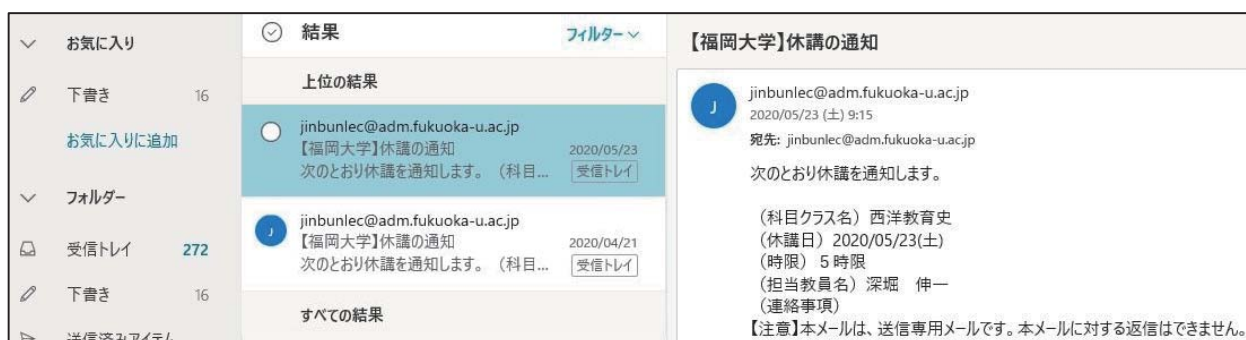
アカウント名 @cis.fukuoka-u.ac.jp

学籍番号(小文字): 例 ee210001

◆ 「共通」メニューに「Web メール」が表示されているので、こちらでメール確認ができます。



【休講の通知メール】



【補講の通知メール】



Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンに入れ、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインすることなく、メールを確認することができます。

休講・補講の通知メールは担当教員からの連絡事項がある場合がありますので、必ず確認してください。

Microsoft Outlook



個人情報の取扱いについて

本学では「個人情報の保護に関する法律」に基づき、「学校法人福岡大学個人情報保護規程」を定め個人情報の保護に努めています。「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づく、「個人番号」および「特定個人情報」に関しても同様です。本学学生の個人情報に関する基本的な姿勢と取扱いについてご説明いたします。

1. 法令の遵守と学内規程の整備

本学は、「個人情報の保護に関する法律」その他法令の規定を遵守すると共に、個人情報の取得、保管、利用など取扱いに関する必要な事項を定め、個人情報の適切な保護に努めます。

2. 個人情報の取得

本学は、本学の学生から個人情報を取得する際には、あらかじめ利用目的を特定し、その利用目的の達成に必要な範囲内において、公正な手段により取得します。また、思想、信条及び宗教に関する個人情報は取得しません。

〈主な利用目的〉

- 学生募集、入学試験に関する業務
- 履修・成績管理に関する業務
- 入学、卒業、退学、休学等の学籍管理に関する業務
- 課外活動、健康管理に関する業務
- 奨学金に関する業務
- 授業料その他納付金等の収納・督促に関する業務
- 就職・進路支援に関する業務
- 教育改善のための教学情報の活用に関する業務
- 個人番号関係業務
- 一般社団法人福岡大学同窓会有信会の運営に関する業務
- 福岡大学父母後援会の運営に関する業務
- その他学生生活、修学指導に関する業務

※詳しくは、大学ホームページに掲載している「学校法人福岡大学個人情報保護規程別表」等をご覧ください。

3. 個人情報の利用

本学が保有する個人情報を本人の同意を得ないで、定められた利用目的以外の利用や、第三者への提供は行いません。ただし、法令等に基づくもののほか、次の場合は当該個人データを提供するものとします。

- ①在学生の父母及び学費負担者に対して学籍情報、履修・成績情報、出席情報、課外活動情報の提供
- ②一般社団法人福岡大学同窓会有信会に対して卒業後の住所、進路・就職先情報の提供
- ③福岡大学父母後援会に対して学籍情報、履修・成績情報、出席情報、家族情報の提供

4. 個人情報の管理

本学は、個人情報の管理体制を整備し、個人データについては利用目的の達成に必要な範囲内において正確かつ最新の内容に保ち、漏えい、滅失又は毀損の防止など安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。

なお、個人情報の取扱いを外部に委託する場合は、委託先が個人情報の安全管理のために適切な措置を講じるよう監督し、その内容を委託契約に明記します。

5. 個人情報の開示等

本学は、本人からの当該保有個人データの開示、訂正（追加、削除含む）、利用停止の請求を受け付けます。

6. 個人情報に関する問合せ先

本学の個人情報に関する苦情やご質問は、個人情報の内容によって受付窓口が異なります。大学公式ホームページの個人情報関連のページをご覧ください。下記あてにお問い合わせください。

【問合せ先】 福岡大学 総務課



Faculty of Commerce